宜野湾市文化財調査報告書　第49集

大山前門原第一遺跡

二〇一二年（平成二四年）三月　沖縄県　宜野湾市教育委員会

宜野湾市文化財調査報告書　第49集

大山前門原第一遺跡

平成21・22年度

個人住宅建設に係る第２次～第４次緊急発掘調査

２０１２年（平成24年）３月
沖縄県 宜野湾市教育委員会

宜野湾市文化財調査報告書　第49集

大山前門原第一遺跡

平成21・22年度

個人住宅建設に係る第２次～第４次緊急発掘調査

２０１２年（平成24年）３月

沖縄県 宜野湾市教育委員会

序

本報告書は、周知の遺跡である大山前門原第一遺跡の埋蔵文化財包蔵地内で、平成21年度から平成22年度にかけて宜野湾市教育委員会が実施した、個人住宅建設に係る緊急発掘調査の成果をまとめたものであります。

大山集落は宜野湾市の西海岸沿いにあり、北西側は有名な「大山田圃」が広がり、多くの湧泉が豊富な水を湛えております。また、集落南東麓にはミスクヤマと称される拝所があり、国の指定史跡である「大山貝塚」が所在しております。このほかにも市指定史跡大山御嶽碑など数多くの文化財がみられ、こちらも地域の財産として大切に保存継承されております。

大山前門原第一遺跡は、旧集落が位置した場所であり、グスク時代から近世ないしは近代に跨る遺構が多数検出されております。平成19年度に実施された範囲確認調査（第1次発掘調査）では、200基余りの柱穴が確認され、その覆土からは当時の生活を物語る多くの遺物が出土しました。今回報告する調査でも、多くの遺構が検出されており、その概要については宜野湾市文化財保護資料第69集にてまとめた通りであります。この調査成果が、広く市民の歴史的教材ないしは文化財の保護・活用資料として活かされ、歴史学等の学術資料として御検討いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた地権者であります、金大範氏、下地晶氏、宮城孝太郎氏に対しまして厚く御礼申し上げます。また、多大なご指導を賜りました文化庁文化財部、沖縄県教育庁文化財課、並びに市文化財保護審議会の先生方や、その他関係各位に対しまして、心から感謝申し上げます。

平成24（2012）年3月

沖縄県　宜野湾市教育委員会
教育長　宮　城　茂　雄

巻頭図版１　報告書所収遺跡位置

巻頭図版２　調査区遠景（南東より）

巻頭図版３　上具志川の御嶽と綱の神（南西より）

巻頭図版４　試掘調査 TP ７撹乱坑の略西壁における柱穴検出状況（南東より）

巻頭図版５　試掘調査 TP ７南側トレンチにおける柱穴検出状況（南東より）

巻頭図版６　第２次調査終了状況（南西より）

巻頭図版７　滑石混入土器の出土状況（② No.94　西より）

巻頭図版８　第３次調査終了状況（南西より）

巻頭図版９　第３次調査拡張トレンチ２の略北壁（南西より）

巻頭図版 10　第 4 次調査終了状況（南西より）

巻頭図版 11　青磁の出土状況（④ No. 8　南西より）

巻頭図版 12　11 ～ 13 世紀頃の遺物

巻頭図版 13　脊椎動物遺体

例　言

1　本報告書は、宜野湾市教育委員会が国の補助を受けて、平成 21・22 年度に実施した個人住宅建設に係る大山前門原第一遺跡の試掘調査及び緊急発掘調査の成果を収録したものである。

2　発掘調査並びに本文中における遺跡の基準方位は、国土座標系（旧座標系）第ＸＶ座標系の座標北を用い、層位・遺構は海抜高（那覇）を基準とした高さである。

3　本書に掲載した地図は、基本的に宜野湾市都市計画課発行の都市計画図（１：2,500）を使用しており、他の情報図については、宜野湾市教育委員会が管理・運営している GIS データを主に使用している。

4　本書で使用した土色は、農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。

5　陶磁器は新垣力氏へ、石器や石製品、石材の石質は大城逸朗氏へ、動物遺体については菅原広史氏へそれぞれ同定を依頼した。

6　本書の執筆は伊藤圭、山田浩久、長濱健起、菅原広史、パリノ・サーヴェイ（株）があたり、執筆分担は以下に記した。なお、本書のデジタル編集は杉村千重美、古謝和美の協力を得て、伊藤圭、山田浩久、長濱健起が行った。

第Ⅰ章、第Ⅱ章、第Ⅲ章 第１節、第Ⅳ章（共）……伊藤　　圭

第Ⅲ章 第２節・第３節 15、第Ⅳ章（共）……山田　浩久

第Ⅲ章 第３節１～ 13、第Ⅳ章（共）……長濱　健起

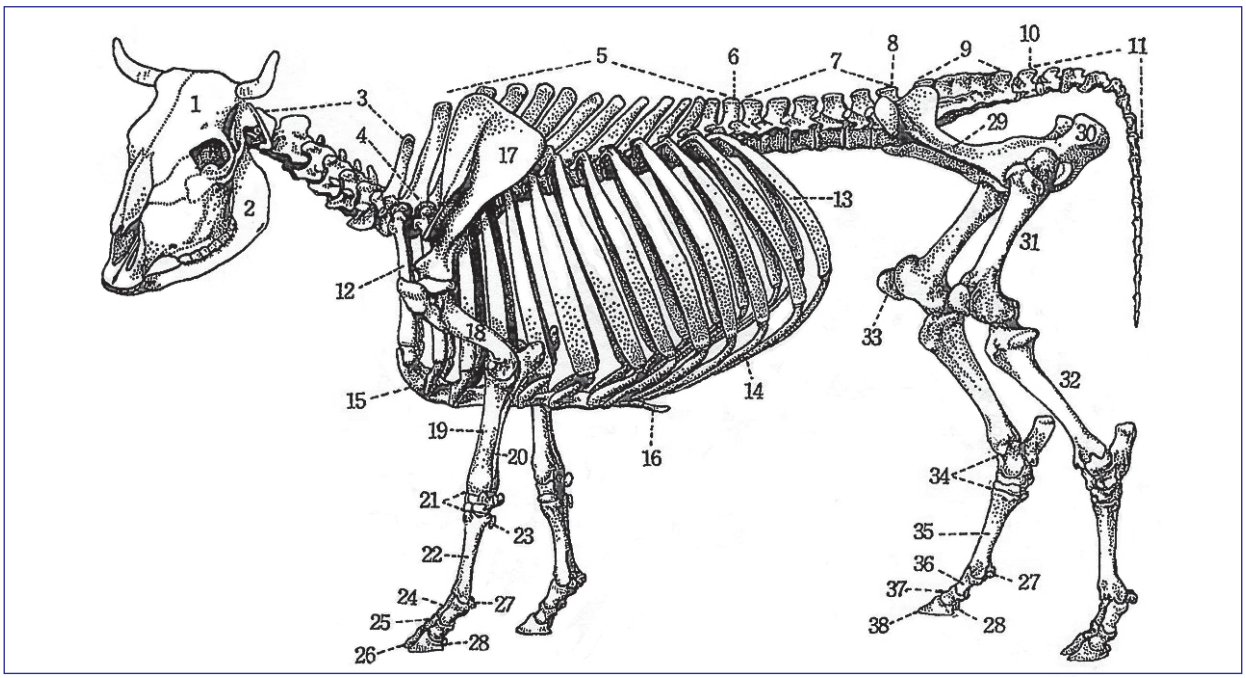
第Ⅲ章 第３節 14……菅原　広史

第Ⅲ章 第４節 ……パリノ・サーヴェイ（株）

7　現地調査で得られた実測図・写真・画像デジタルデータ・地形測量図等の各種調査記録類および出土遺物はすべて宜野湾市教育委員会文化課に保管している 。

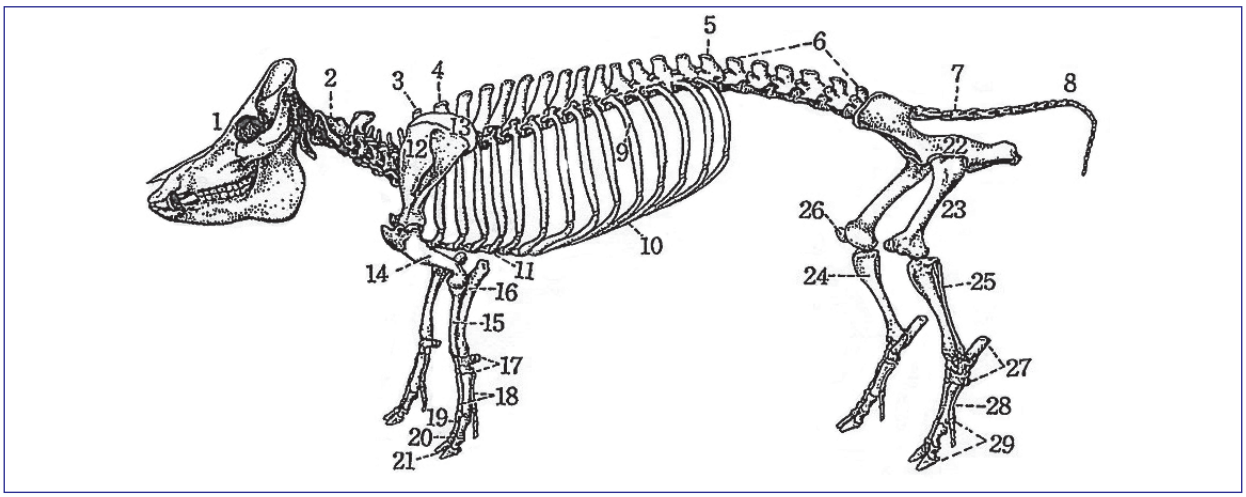
凡　例　1

・ウシ、イノシシ・ブタ類（凡例１）およびトリ（凡例２）の部位・名称は以下のとおりであるが、ウマやヤギなどはウシと部位・名称が概ね一致することから、骨格図などは割愛した。



ウシ骨格の部位・名称

1. 頭骸　2. 下顎骨（頭骸の中）　3. 頚椎　4. 第一胸椎　5. 胸椎　6. 最後位胸椎　7. 腰椎
8. 最後位腰椎　9. 仙骨　10. 第一尾椎　11. 尾椎　12. 第一肋骨　13. 最後位肋骨　14. 肋軟骨
15. 胸骨　16. 剣状軟骨　17. 肩甲骨　18. 上腕骨　19. 橈骨　20. 尺骨　21. 手根骨　22. 中手骨
23. 第五中手骨　24. 指の基節骨　25. 指の中節骨　26. 指の末節骨（蹄骨）　27. 基節骨種子骨
28. 末節骨種子骨　29. 腸骨（寛骨の中）　30. 坐骨（寛骨の中）　31. 大腿骨　32. 脛骨（下腿骨格の中）
33. 膝蓋骨　34. 足根骨　35. 中足骨　36. 趾の基節骨　37. 趾の中節骨　38. 趾の末節骨

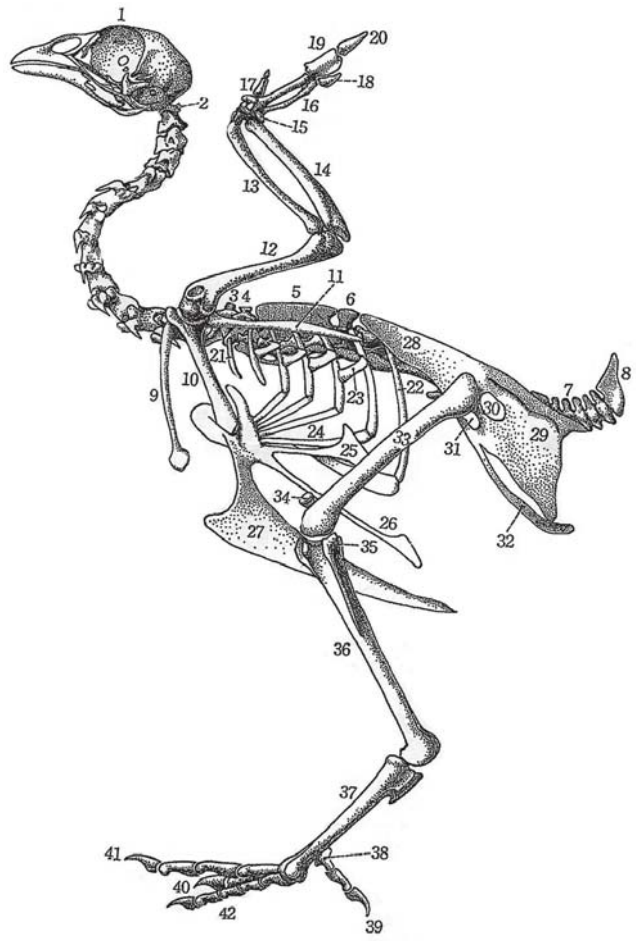


イノシシ・ブタ骨格の部位・名称

1. 頭骸（下顎骨を含む）　2. 環椎　3. 第七頚椎　4. 第一胸椎　5. 最後位胸椎　6. 腰椎　7. 仙骨
8. 尾椎　9. 肋骨　10. 肋軟骨　11. 胸骨　12. 肩甲骨　13. 肩甲軟骨　14. 上腕骨　15. 橈骨
16. 尺骨　17. 手根骨　18. 中手骨　19. 指の基節骨　20. 指の中節骨　21. 指の末節骨　22. 寛骨
23. 大腿骨　24. 脛骨　25. 腓骨　26. 膝蓋骨　27. 足根骨　28. 中足骨　29. 趾骨

※Angela Von Den Driesch 1976より転載。

凡　例　2



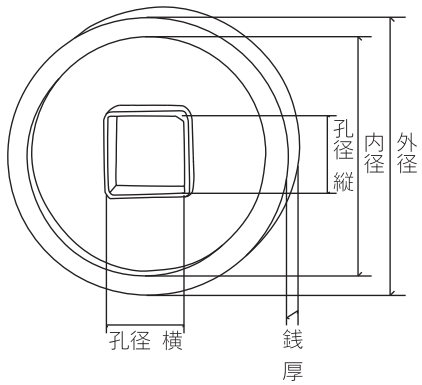
※Angela Von Den Driesch 1976より転載。

トリ骨格の部位・名称

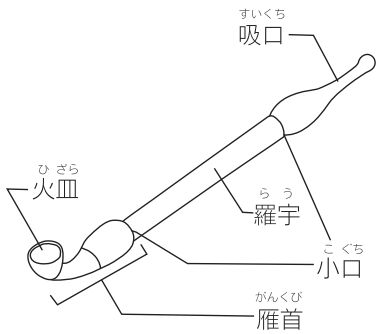
1. 頭骸
2. 環椎
3. 第十四頚椎
4. 第一胸椎
5. 第二～五胸椎
6. 第六胸椎
7. 尾椎
8. 尾端骨
9. 癒合鎖骨
10. 烏口骨
11. 肩甲骨
12. 上腕骨
13. 橈骨
14. 尺骨
15. 尺側手根骨
16. 中手骨
17. 第二指
18. 第四指
19. 20. 第三指
21. 第一肋骨
22. 第七肋骨脊椎部
23. 鈎状突起
24. 第五肋骨胸骨部
25. 胸骨後外側突起の外側枝
26. 胸骨後外側突起の内側枝
27. 胸骨稜
28. 腸骨
29. 坐骨
30. 坐骨孔
31. 恥坐骨切痕
32. 恥骨
33. 大腿骨
34. 膝蓋骨
35. 腓骨
36. 脛骨
37. 中足骨
38. 第一趾の中足骨
39. 第一趾
40. 第二趾
41. 第三趾
42. 第四趾

・銭貨および煙管の部位・名称は下記のとおりである。
・煙管の部位・名称は基本的に田中冨吉（1988）に倣った。

＜銭貨の名称＞



＜キセルの名称＞



目　次

序
巻頭図版
例言
凡例

第Ⅰ章　宜野湾市の位置と環境 …… 1
　第１節　地理的環境 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 3
　第３節　大山集落の概要 …… 8
第Ⅱ章　事業概要 …… 13
　第１節　調査に至る経緯 …… 13
　第２節　調査体制 …… 14
　第３節　調査経過 …… 16
　　１．試掘調査 …… 16
　　２．第２次調査 …… 17
　　３．第３次調査・第４次調査 …… 18
第Ⅲ章　発掘調査の成果 …… 23
　第１節　調査区の設定と層序 …… 23
　　１．調査区の設定 …… 23
　　２．基本層序 …… 25
　第２節　遺構 …… 29
　　１．遺構の種類 …… 29
　　２．Ⅱ層（近現代層）内より検出された遺構 …… 29
　　３．地山面で検出された遺構 …… 30
　　４．屋敷の推測復元 …… 53
　　５．遺構の年代測定結果 …… 54
　第３節　遺物 …… 55
　　１．土器 …… 62
　　２．類須恵器 …… 67
　　３．白磁 …… 67
　　４．青磁 …… 71
　　５．青花 …… 77
　　６．外国産陶磁器 …… 83
　　７．本土産陶磁器 …… 87
　　８．沖縄産無釉陶器 …… 89
　　９．沖縄産施釉陶器 …… 97
　　10．アカムヌー …… 105
　　11．瓦 …… 115
　　12．石器・石製品 …… 116
　　13．その他の遺物 …… 122
　　14．脊椎動物遺体 …… 126
　　15．貝類遺体 …… 136
　第４節　自然科学分析調査の成果 …… 140
第Ⅳ章　結語 …… 149
参考・引用文献 …… 152
報告書抄録

巻頭図版

巻頭図版１　報告書所収遺跡位置
巻頭図版２　調査区遠景（南東より）
巻頭図版３　上具志川の御嶽と綱の神（南西より）
巻頭図版４　試掘調査 TP ７撹乱坑の略西壁における柱穴検出状況（南東より）
巻頭図版５　試掘調査 TP ７南側トレンチにおける柱穴検出状況（南東より）
巻頭図版６　第２次調査終了状況（南西より）
巻頭図版 ７　滑石混入土器の出土状況（② No.94　西より）
巻頭図版 ８　第３次調査終了状況（南西より）
巻頭図版 ９　第３次調査拡張トレンチ２の略北壁（南西より）
巻頭図版 10　第４次調査終了状況（南西より）
巻頭図版 11　青磁の出土状況（④ No. ８　南西より）
巻頭図版 12　11 ～ 13 世紀頃の遺物
巻頭図版 13　脊椎動物遺体

挿図目次

第Ⅰ - １ 図　宜野湾市と大山の位置 …… 1
第Ⅰ - ２ 図　宜野湾市地形分類図 …… 2
第Ⅰ - ３ 図　ぢゃな地域の遺跡分布図 …… 7
第Ⅰ - ４ 図　昭和 20 年の大山とその周辺 …… 8
第Ⅰ - ５ 図　昭和 20 年の大山集落 …… 9
第Ⅰ - ６ 図　昭和 19 年の大山集落略図 …… 11
第Ⅰ - ７ 図　昭和 20 年頃における大掟屋の推定される屋敷範囲 …… 12
第Ⅱ - １ 図　調査地概略図 …… 13
第Ⅱ - ２ 図　試掘坑配置図 …… 16
第Ⅱ - ３ 図　ピット集中部模式平面図 …… 17
第Ⅱ - ４ 図　拡張トレンチ３模式図 …… 20
第Ⅱ - ５ 図　拡張トレンチ３掘削経過模式図 …… 21
第Ⅲ - １ 図　グリッド設定図 …… 23
第Ⅲ - ２ 図　発掘調査区位置図と周辺の文化財 …… 23
第Ⅲ - ３ 図　各トレンチ配置図 …… 24
第Ⅲ - ４ 図　拡張トレンチ３の調査区模式図 …… 24
第Ⅲ - ５ 図　土色イメージ図 …… 25
第Ⅲ - ６ 図　調査区断面図１ …… 26
第Ⅲ - ７ 図　調査区断面図２ …… 27
第Ⅲ - ８ 図　調査区断面図３ …… 28
第Ⅲ - ９ 図　遺構第１検出平面図 …… 31
第Ⅲ -10 図　遺構第２検出平面図・拡張トレンチ３- ２北壁面図 …… 32
第Ⅲ -11 図　遺構第３検出面の平面図及び断面図 …… 33
第Ⅲ -12 図　遺構第４検出平面図 …… 34
第Ⅲ -13 図　遺構完掘平面図 …… 35
第Ⅲ -14 図　主な遺構半掘ライン（第２次調査区）…… 38
第Ⅲ -15 図　主な遺構断面図（第２次調査区）…… 38
第Ⅲ -16 図　主な遺構断面図（第２次調査区）…… 39
第Ⅲ -17 図　主な遺構半掘ライン（第３次調査区）…… 40
第Ⅲ -18 図　主な遺構断面図（第３次調査区）…… 40
第Ⅲ -19 図　主な遺構半掘ライン（第４次調査区）…… 42
第Ⅲ -20 図　主な遺構断面図（第４次調査区）…… 42
第Ⅲ -21 図　主な遺構断面図（第４次調査区）…… 43
第Ⅲ -22 図　調査区縦横断面図（第４次調査区）…… 43
第Ⅲ -23 図　遺構（柱穴跡）の底面レベル分類分布図 50
第Ⅲ -24 図　掘立柱建物跡プラン図 …… 51
第Ⅲ -25 図　母屋及び門の推測位置図 …… 52
第Ⅲ -26 図　大掟屋敷地周辺の地形図 …… 54
第Ⅲ -27 図　出土地別の割合および遺物別の割合 …… 55
第Ⅲ -28 図　土器時代別割合・鍋分類別割合 …… 65
第Ⅲ -29 図　土器 …… 66
第Ⅲ -30 図　類須恵器 …… 67
第Ⅲ -31 図　白磁 …… 70
第Ⅲ -32 図　青磁１ …… 75
第Ⅲ -33 図　青磁２ …… 76
第Ⅲ -34 図　青花１ …… 81
第Ⅲ -35 図　青花２ …… 82
第Ⅲ -36 図　外国産陶磁器 …… 86
第Ⅲ -37 図　本土産陶器 …… 87
第Ⅲ -38 図　沖縄産無釉陶器１ …… 94
第Ⅲ -39 図　沖縄産無釉陶器２ …… 95
第Ⅲ -40 図　沖縄産無釉陶器３ …… 96
第Ⅲ -41 図　沖縄産施釉陶器１ …… 103
第Ⅲ -42 図　沖縄産施釉陶器２ …… 104
第Ⅲ -43 図　アカムヌー１ …… 108
第Ⅲ -44 図　アカムヌー２ …… 110
第Ⅲ -45 図　アカムヌー３ …… 112
第Ⅲ -46 図　アカムヌー４ …… 114
第Ⅲ -47 図　石器・石製品１ …… 118
第Ⅲ -48 図　石器・石製品２ …… 120
第Ⅲ -49 図　その他の遺物 …… 125
第Ⅲ -50 図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度 (%) …… 145
第Ⅲ -51 図　粒径組成 …… 145
第Ⅲ -52 図　粉屑物・基質・孔隙の割合 …… 145
第Ⅳ - １ 図　主要遺物の出土割合 …… 151

図版目次

図版Ⅰ-1　喜友名東原ヌバタキ遺跡（左）、真志喜石川第一遺跡（右）…… 3
図版Ⅰ-2　昭和20年　宜野湾市全景 …… 6
図版Ⅰ-3　平成14年　宜野湾市全景 …… 6
図版Ⅰ-4　大山集落の文化財 …… 10
図版Ⅰ-5　調査地略西側の筋道 …… 12
図版Ⅱ-1　試掘調査作業状況 …… 16
図版Ⅱ-2　第２次調査作業状況 …… 17
図版Ⅱ-3　第３次調査作業状況１ …… 18
図版Ⅱ-4　第３次調査作業状況２ …… 19
図版Ⅱ-5　第４次調査作業状況１ …… 20
図版Ⅱ-6　第４次調査作業状況２ …… 21
図版Ⅱ-7　第４次調査作業状況３ …… 22
図版Ⅲ-1　第４検出面遺構 …… 30
図版Ⅲ-2　主な遺構断面（第３次調査区）…… 41
図版Ⅲ-3　調査区東側の筋道（北西より）…… 54
図版Ⅲ-4　調査区北側の筋道（北東より）…… 54
図版Ⅲ-5　土器 …… 66
図版Ⅲ-6　類須恵器 …… 67
図版Ⅲ-7　白磁 …… 70
図版Ⅲ-8　青磁１ …… 75
図版Ⅲ-9　青磁２ …… 76
図版Ⅲ-10　青花１ …… 81
図版Ⅲ-11　青花２ …… 82
図版Ⅲ-12　外国産陶磁器 …… 86
図版Ⅲ-13　本土産陶器 …… 87
図版Ⅲ-14　沖縄産無釉陶器１ …… 94
図版Ⅲ-15　沖縄産無釉陶器２ …… 95
図版Ⅲ-16　沖縄産無釉陶器３ …… 96
図版Ⅲ-17　沖縄産施釉陶器１ …… 103
図版Ⅲ-18　沖縄産施釉陶器２ …… 104
図版Ⅲ-19　アカムヌー１ …… 109
図版Ⅲ-20　アカムヌー２ …… 111
図版Ⅲ-21　アカムヌー３ …… 113
図版Ⅲ-22　アカムヌー４ …… 114
図版Ⅲ-23　灰釉碗口縁部片混入の瓦片 …… 115
図版Ⅲ-24　石器・石製品１ …… 119
図版Ⅲ-25　石器・石製品２ …… 121
図版Ⅲ-26　焼土塊 …… 123
図版Ⅲ-27　その他の遺物 …… 125
図版Ⅲ-28　脊椎動物遺体１ …… 133
図版Ⅲ-29　脊椎動物遺体２ …… 134
図版Ⅲ-30　脊椎動物遺体３ …… 135
図版Ⅲ-31　貝類遺体：巻貝・陸産貝 …… 136
図版Ⅲ-32　貝類遺体：巻貝・二枚貝 …… 137
図版Ⅲ-33　第２次調査区北壁サンプル採取状況 …… 140
図版Ⅲ-34　種実遺体 …… 147
図版Ⅲ-35　胎土・岩石薄片 …… 148

挿表目次

第Ⅰ-1表　文献史料にみる宜野湾の村名 …… 5
第Ⅰ-2表　ぢゃな地域の文化財一覧 …… 7
第Ⅰ-3表　地方行政組織からみた旧大山村の歩み …… 8
第Ⅲ-1表　遺構の断面形状分類 …… 37
第Ⅲ-2表　遺構の底面レベル分類 …… 37
第Ⅲ-3表　遺構の覆土色調分類 …… 37
第Ⅲ-4-1表　第２次調査区遺構観察一覧 …… 44
第Ⅲ-4-2表　第２次調査区遺構観察一覧 …… 45
第Ⅲ-5-1表　第３次調査区遺構観察一覧 …… 46
第Ⅲ-5-2表　第３次調査区遺構観察一覧 …… 47
第Ⅲ-6-1表　第４次調査区遺構観察一覧 …… 48
第Ⅲ-6-2表　第４次調査区遺構観察一覧 …… 49
第Ⅲ-7-1表　主要遺物集計表 …… 56
第Ⅲ-7-2表　主要遺物集計表 …… 57
第Ⅲ-7-3表　主要遺物集計表 …… 58
第Ⅲ-7-4表　主要遺物集計表 …… 59
第Ⅲ-7-5表　主要遺物集計表 …… 60
第Ⅲ-7-6表　主要遺物集計表 …… 61
第Ⅲ-8表　土器集計表 …… 63
第Ⅲ-9表　土器観察表 …… 65
第Ⅲ-10表　白磁集計表 …… 68
第Ⅲ-11表　白磁観察表 …… 69
第Ⅲ-12表　青磁集計表（遺構外）…… 72
第Ⅲ-13表　青磁集計表（遺構内）…… 73
第Ⅲ-14表　青磁観察表 …… 74
第Ⅲ-15-1表　青花集計表 …… 78
第Ⅲ-15-2表　青花集計表 …… 79
第Ⅲ-16表　青花観察表 …… 80
第Ⅲ-17表　外国産陶磁器集計表（遺構外）…… 83
第Ⅲ-18表　外国産陶磁器集計表（遺構内）…… 84
第Ⅲ-19表　外国産陶磁器観察表 …… 85
第Ⅲ-20表　本土産陶器集計表 …… 87

第Ⅲ-21-1 表　本土産磁器集計表 …… 88
第Ⅲ-21-2 表　本土産磁器集計表 …… 89
第Ⅲ-22 表　沖縄産無釉陶器一覧 …… 90
第Ⅲ-23 表　沖縄産無釉陶器集計表 …… 91
第Ⅲ-24 表　沖縄産無釉陶器観察表 …… 93
第Ⅲ-25-1 表　沖縄産施釉陶器集計表 …… 100
第Ⅲ-25-2 表　沖縄産施釉陶器集計表 …… 101
第Ⅲ-26 表　沖縄産施釉陶器観察表 …… 102
第Ⅲ-27 表　アカムヌー集計表 …… 106
第Ⅲ-28 表　アカムヌー分類一覧 …… 107
第Ⅲ-29 表　アカムヌー観察表 …… 107
第Ⅲ-30 表　瓦集計表 …… 115
第Ⅲ-31 表　石器・石製品集計表 …… 117
第Ⅲ-32 表　石器・石製品の石質相関表 …… 117
第Ⅲ-33-1 表　その他の遺物集計表 …… 123
第Ⅲ-33-2 表　その他の遺物集計表 …… 124
第Ⅲ-34 表　その他の遺物観察表 …… 124
第Ⅲ-35 表　出土脊椎動物の分類群一覧 …… 127
第Ⅲ-36-1 表　魚類・鳥類・哺乳類遺体出土一覧 1 …… 128
第Ⅲ-36-2 表　魚類・鳥類・哺乳類遺体出土一覧 2 …… 129
第Ⅲ-37 表　鳥類及び哺乳類の計測値一覧 …… 130
第Ⅲ-38 表　哺乳類の顎骨の詳細および計測値 …… 131
第Ⅲ-39 表　同定標本数及び最小個体数 …… 131
第Ⅲ-40 表　大山前門原第一遺跡出土の獣骨類
計測一覧 …… 132
第Ⅲ-41 表　貝類遺体集計表 …… 138
第Ⅲ-42 表　放射性炭素年代測定結果 …… 142
第Ⅲ-43 表　暦年較正結果 …… 142
第Ⅲ-44 表　微細物分析結果 …… 143
第Ⅲ-45 表　炭化種実同定結果 …… 143
第Ⅲ-46 表　薄片観察結果 …… 144
第Ⅲ-47 表　主要化学組成 …… 144
第Ⅳ-1 表　遺跡などの年代相関表 …… 151

第Ⅰ章　宜野湾市の位置と環境

第１節　地理的環境

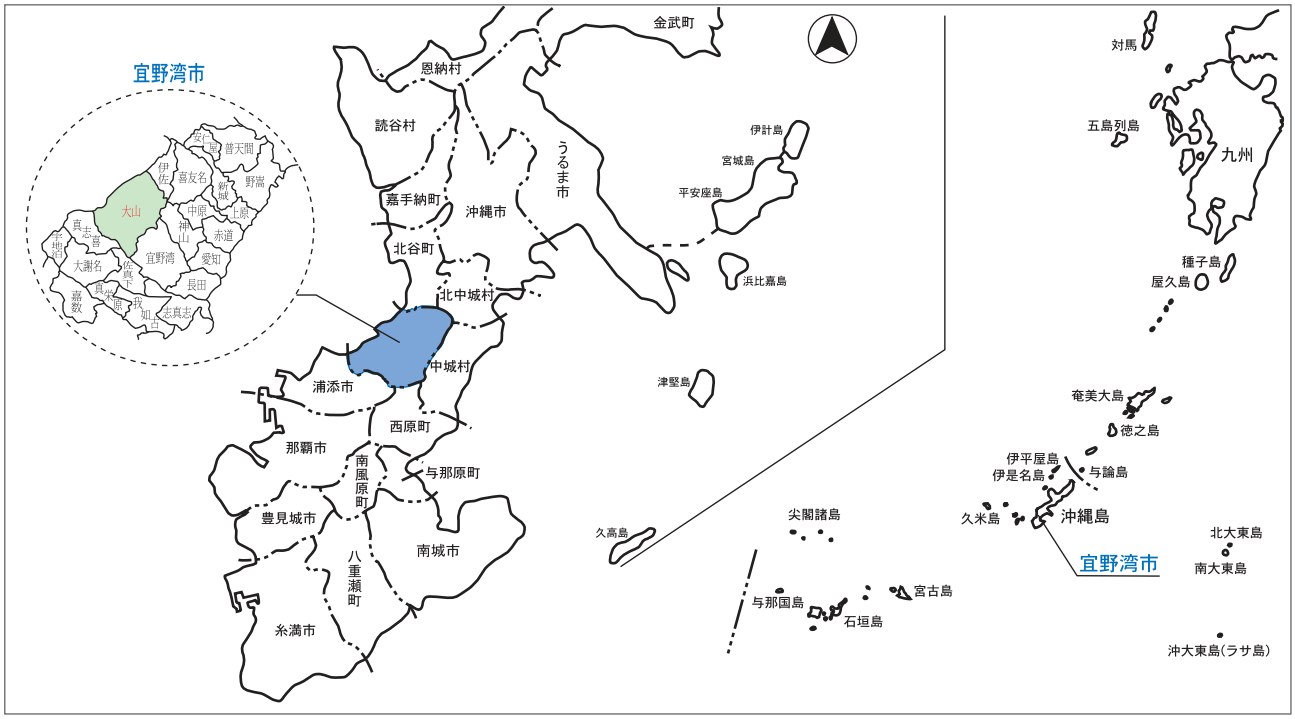
宜野湾市は、沖縄本島中部の西海岸にあって、東シナ海に面し、北谷町・北中城村・中城村・西原町・浦添市に隣接する。総面積は 19.37 ㎢を測り、略東西 6.1 ㎞・略南北 5.2 ㎞の略長方形を成す。市域北西にはキャンプ瑞慶覧、中央には普天間飛行場基地が占有し、市民は飛行場基地を廻る外縁を居住域とする。基地は、本市における地目の 33.3％を占める（1992 年現在）。これは、本市地目の 36.3％にあたる民間の宅地に次ぐ広さである。

本市の地形は、起伏の小さい丘陵と琉球石灰岩で構成される台地や低地から成り、台地にはカルスト地形が発達する。特に、平地面を形成する台地が最も発達しており、埋立地を除く市域面積の３分の２を占める。市域の台地は海岸段丘地形であり、海岸から内陸に向かって雛壇状を呈する４つの段丘から成るが、市域西側と東側で様相が異なり、西側は西海岸へと緩やかに傾斜する３つの段丘面から成り立つ海岸段丘と、それに連続する海岸低地が広がり、東側はこれとは対照的に開折の進んだ丘陵地が展開する（第Ⅰ - ２図）。

沖縄県の海岸段丘は、高位段丘・中位段丘・低位段丘に区分されており、市域の段丘は中位段丘と低位段丘で構成される。『宜野湾市史』第９巻では、さらにこれらを下位面と上位面で区別している。

低位段丘下位面（第１面）は、比屋良川の河口右岸から宇地泊・真志喜・大山・伊佐に連なる標高３～30 mの海岸低地である。低位段丘上位面（第２面）は、標高 30 ～ 40 mの石灰岩段丘で、大山・真志喜・宇地泊・伊佐の住宅地が密集する。中位段丘下位面（第３面）は、キャンプ瑞慶覧から普天間飛行場基地へと延びる標高 50 ～ 90 mの石灰岩段丘である。中位段丘上位面(第４面)は、標高 90 m以上の高位置にあり、我如古から野嵩に至る国道 330 号線の西方から東へ分布する。赤道から宜野湾にかけて展開する緑地帯がその代表である。

内陸側の３つの段丘面（第２面～第４面）は、大半が琉球石灰岩部層で成り立つ。この琉球石灰岩部層の段丘縁には洞穴と湧泉が点在し、本市の自然及び文化的景観の特徴となっている。河川は、浦添市・西原町との境に比屋良川、北谷町・北中城村・中城村との境に普天間川が流れる。



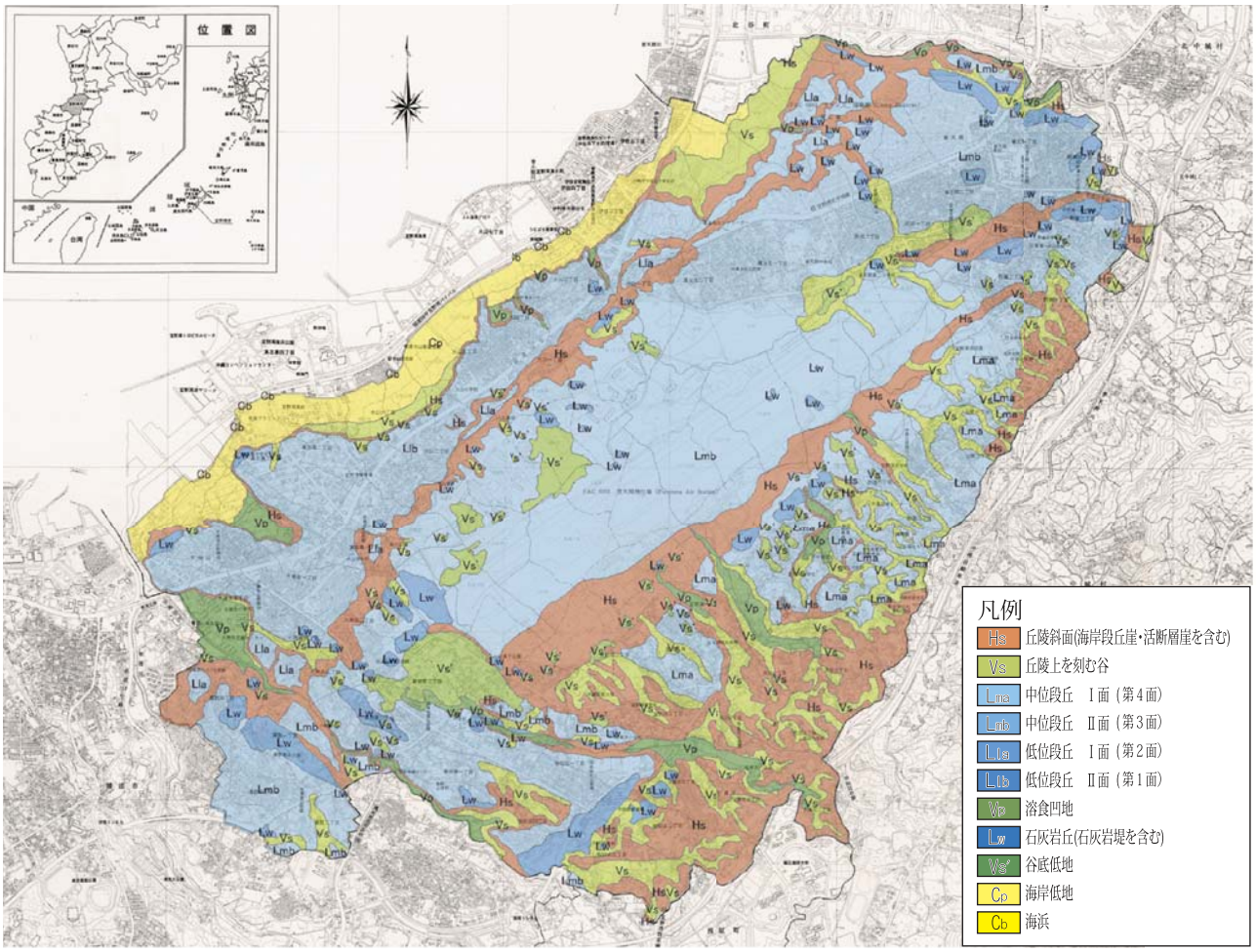
第Ⅰ - １図　宜野湾市と大山の位置

大山前門原第一遺跡が所在する大山は、宜野湾市の西側中央に位置し、西海岸に面している。地形分類上は、海岸低地の第１面（低位段丘下位面）から第３面（中位段丘下位面）にあたり、その中央には高低差の大きい丘陵斜面が走る。小字は 18 ヶ所で、前門原は大山の南西端にあたり、海岸段丘第２面の丘陵上に位置する。南北は、それぞれ段丘境の斜地に挟まれており、特に富盛原との小字境に接する南東側の丘陵斜面は、ミスクヤマと呼ばれ古くから信仰の対象となっている。

ところで、市域西側の海岸段丘面は、琉球石灰岩から成るため、ドリーネないしは多くの洞穴が存在する。これらの洞穴は地表水を取り入れて、地下水源の一部を形成しており、低位段丘崖下に形成される島尻層群が露出した緩斜面には、水量の多い湧水が数多く分布する。

一般に、大山のような海岸に面した土地は、地下水系に海水の流入があるため、農地に適さないとされるが、ここでは海水の流入を抑えるだけの淡水が豊富に存在するため、戦前は集落の大半が農家を営んでいたという。そして、他の集落と同様にサトウキビが主要な作物として収穫されていたが、特に海岸低地では戦前から水稲や田芋の栽培が盛んであった。戦後になると広大な農耕地であった集落東側の段丘が普天間飛行場基地に接収され、耕地面積が大幅に激減したため、多くの農作物が収穫量を減らしたが、大山の田芋は現在でも宜野湾市の特産となっている。

大山は、以上のような地理的特性から安定した水源を確保することができ、古代から人が生活していた痕跡が窺える。それは、貝塚時代から近世にかけて、多くの遺跡が安定して残ることからも言えよう。



第Ⅰ－２図　宜野湾市地形分類図

第２節　歴史的環境

沖縄諸島に人類が住み着いたのは現在から約３万年前とされ、本市の大山洞穴からは、更新世の化石人骨と推測される 20 歳前後の男性の下顎骨片が発見されている（高宮ほか 1975、鈴木 1975）。この他にも、普天満宮洞穴遺跡などにおいてリュウキュウジカやムカシキョンなどの更新世に比定される化石動物が発見されているが、この時期は遺物や遺構が見付かっておらず、当時の人々の生活文化については窺い知れない。

沖縄諸島において、土器などの道具の使用が明確に確認されている時期は、約 6,000 ～ 7,000 年前（貝塚時代早期）からである。新城下原第二遺跡のⅨ層は、当該期の文化層であり、ヤブチ式土器など様々な種類の遺物が出土している（沖縄県立埋蔵文化財センター編 2006）。近年、この時期の遺跡は増えつつあるが、明確な遺構が検出された例は極めて少ない。竪穴住居などの生活址が増え始めるのは貝塚時代前期（縄文時代後期並行）からである。本市では、大山富盛原第二遺跡や喜友名貝塚、喜友名東原ヌバタキ遺跡などで竪穴住居が検出されている。特に、喜友名東原ヌバタキ遺跡では、大型の竪穴住居も検出されており、この時期から定住化が顕著になると考えられる。

貝塚時代後期（弥生時代～平安時代）に入ると人々は海岸砂丘に生活の場を移す。真志喜安座間原第一・第二遺跡では竪穴住居跡など多様な遺構が検出されており、平地住居跡（掘立柱建物跡）も僅かに確認されている。これは、ナガラ原西貝塚やアカジャンガー貝塚、古座間味貝塚などでも検出されており、当該期の住居は竪穴式と平地式（掘立柱建物）が共存することが知られる。なお、当該期の集落址からは稲作や農耕の痕跡は確認されておらず、この時期もまだ採取社会であった可能性が指摘されている（高宮 2005 など）。そのため、当時の人々が本土の弥生文化を享受したとは言い切れず、読谷村木綿原遺跡において検出された、箱式石棺墓についても南島独自の特徴を有しているとする見解もある（時津 2000）。

グスク時代（12 ～ 15 世紀）に入ると、農耕を基礎とする社会が形成される。各地に按司が割拠して、九州（博多）・中国との貿易が行われ、滑石製石鍋や類須恵器、中国産陶磁器の移入が始まった。真志喜石川（イシチャー）第一遺跡では、石鍋模倣土器や類須恵器を伴う９本柱造りの掘立柱建物跡が検出されたほか、同遺跡西域からは、滑石製石鍋や類須恵器、白磁玉縁碗などが共伴する建物跡も検出されている（宜野湾市教育委員会編 1989）。13 世紀後半になると、居住域は丘陵斜面に移動し、14 世紀末には首長の根拠地としてのグスクが築かれ、これを後背にして自然集落が形成されるようになる。真志喜森川原第一遺跡や伊佐前原第一遺跡は、当該期の掘立柱建物跡などが確認されている集落址である。中でも、真志喜森川原第一遺跡は、察度ゆかりの奥間家が所在したとされる。奥間家後背地の調査では、14 世紀後半～ 15 世紀前半頃の掘立柱建物跡が検出された（宜野湾市教育委員会編 1994）。市域におけるグスク時代の遺跡は、迫地や河川流域の谷底低地を控える平地・丘陵斜面・段丘縁に立地しており、伝統的集落である近世の「村」の形態は、この時期に端緒が求められる。

図版Ⅰ - 1　喜友名東原ヌバタキ遺跡（左）、真志喜石川第一遺跡（右）

15 世紀に入ると、佐敷按司尚巴志が中山の王となって第一尚氏王統が誕生する。巴志は、その後山南・山北をも抑えて、統一政権を樹立した。15 世紀の終わりには尚円が実権を握り、第二尚氏王統が成立する。そして、3 代目の尚真の時に国力が増大して、古琉球期の最盛期となった。尚真は中央集権化を推し進めて、各地の有力按司を首里に住まわせ、首里城および城下を整備するとともに、王国の版図を定めて地方の行政区画の整備も行った。また、真珠道などの幹線道路や真玉橋を建造するなど、大規模な土木工事も営まれた。

17 世紀になると、島津氏の侵攻を境に王府の財政は逼迫する。琉球は奄美諸島を割譲され、中国貿易の利潤も抑えられることになった。これに加えて、多額な米・砂糖・布などの貢租が課せられるようになる。これら貢租は農民の負担となり、従来以上の奴隷的境遇に成り下がったと言われる。このような社会情勢の中、「 羽地仕置 」が布達された。近世王府の政治・行政改革は、羽地朝秀によって着手され、蔡温の時代に完成したとされる（安良城 1980）。この時期に王府による土地利用の統制が行われ、碁盤型集落が発生したと考えられる。また、この羽地仕置と前後して大規模な間切再編が行われ、8 つの新間切が誕生している。この 1 つが宜野湾間切である。宜野湾間切は、浦添間切から「かよく・宜湾・かミ山・加数・志ゃな・大志ゃな・内ミな・喜友名・あら城・いさ」の 10 村、中城間切から「前ふてま・寺ふてま」の 2 村、北谷間切から「あきな」の 1 村を分割し、さらに「真志喜」村を新たに設けて 1671 年に新設された。このような間切の分割・再編は、薩摩の租税徴収および知行給賜への対処を目的としていたと考えられ、宜野湾間切については、尚弘善（尚質の第七王子）に与えるため、大規模間切である浦添を一部割くことによって同間切両総地頭の勢力を削ることなどを目的に設置したとされる（宜野湾市史編集委員会編 1994）。

18 世紀に入っても農民に対する過重な税負担や地方役人による不法な搾取は続いており、加えて相次ぐ異常気象によって農村の窮乏は深刻となった。これは、有毒植物であるソテツを食糧としていたことからも窺える。この状況は 19 世紀になっても続き、王府の財政は慢性的に悪化した。このような内政問題を抱えていた琉球に、異国船がしばしば来航し始め、琉球を足がかりとして日本の開国・通商を要求するようになった。

1854 年、日本はペリー艦隊の前に開国を余儀なくされ、1867 年には新政府が樹立されて幕府が滅亡する。このような変革を経て、琉球は 1872 年に琉球藩となり、1879 年（明治 12 年）には廃藩置県が通達されて沖縄県の設置が強行され、王国は崩壊した。これ以後、琉球は正式に日本の領土となる。

19 世紀末から政府の主導によって、沖縄県における地方制度の改革が始まる。中でも、1899 年から 1903 年にかけて土地整理が行われ、農民に土地の所有権が認められた。これによって村共同体としての屋敷造成が無くなったことから、碁盤型集落の展開は終焉を迎えた。

1908 年（明治 41 年）になると、「沖縄県及島惧町村制」の施行により、間切は町・村に、村は字に改められ、宜野湾間切は宜野湾村となる。1939 年（昭和 14 年）には、志真志・長田・愛知・赤道・中原・上原・真栄原の屋取集落が新たな字として設置された。また、1943 年には真栄原から佐真下が分離する。

先の大戦では、本市域も壊滅的な打撃を被り、野嵩以外の集落は廃墟となった。辛うじて焼失を免れた野嵩には市域住民をはじめ、市域南における戦闘地域住民の収用所が設置された。1946 年 9 月以降、故地またはその近傍に帰住が許され、社会基盤の復活が果たされると、米軍基地関連産業の活性によって、村域の人口も急増した。そして、1962 年 7 月 1 日には市に昇格し、1964 年 2 月には対人的行政区の地域を明確にした現在の 20 行政区に分割統合された。一方、1945 年に建設が始まった普天間飛行場基地では、当該地域に所在した宜野湾旧集落や神山旧集落、新城旧集落、そして各屋取集落が収用されるなど、住民は居住区の移転を強制された。また、1950 年代になると、朝鮮戦争を背景として沖縄の戦略的重要性が認識され、基地強化の政策が執られて大規模な土地造成が繰り返されるようになり、市域の景観は大きく変貌した。

第Ⅰ-1表　文献史料にみる宜野湾の村名 [1]（宜野湾市教育委員会編 1999）

時代　古琉球 ──▶ 1609 ◀── 近　世 ──▶ 1879年 ◀── 近　代 ──▶ 1945年 ◀── 現　代 ──

文献名	絵図郷村帳 1649年	琉球国高究帳 1635～1664年		琉球国由来記 [2] 1713年 [各処祭祀]	中山伝信録 1721年	琉球国旧記 1731年 [神殿・郡邑]	琉球一件帳 1821年頃	琉球藩雑記 1873年 [職分・戸籍]	統計概表 1880年 [間切村]	郡区々画 1896年	各間切村原名 1903年	(仲村春勝氏談) 1939年	町村区画 1940年	村談編纂資料 1955年	市政要覧 [3] 1993年
浦添間切	宜湾	宜湾		宜野湾	宜野湾	宜野湾	宜野湾	宜野湾	宜野湾	宜野湾	宜野湾	宜野湾	宜野湾	宜野湾	宜野湾
浦添間切	かミ山			神山	城田	神山	神山	神山	神山	神山	神山	神山	神山	神山	
浦添間切	かよく	かよく		我如古	我如古	我如古	我如古	我如古	我如古	我如古	我如古	我如古	我如古	我如古	我如古
浦添間切	加数	加数		嘉数	嘉数	嘉数	嘉数	嘉数	嘉数	嘉数	嘉数	嘉数	嘉数	嘉数	嘉数
浦添間切	大志ゃな	謝名		大謝名	謝名	大謝名(謝名)	大謝名	大謝名	大謝名	大謝名	大謝名	大謝名	大謝名	大謝名	大謝名
浦添間切				真志喜 [4]		真志喜	真志喜	大川	真志喜	真志喜	真志喜	真志喜	真志喜	真志喜	真志喜
浦添間切	志ゃな			大山	具志川	大山・具志川	謝名具志川	謝名具志川	大山	大山	大山	大山	大山	大山	大山
浦添間切	内ミな			宇地泊		内港(宇地泊)	内湊	宇地泊	宇地泊	宇地泊	宇地泊	宇地泊	宇地泊	宇地泊	宇地泊
浦添間切	喜友名	喜友名	1671 宜野湾間切新設	喜友名	喜友名	喜友名	喜友名	喜友名	喜友名	喜友名	喜友名	喜友名	喜友名	喜友名	喜友名
浦添間切	いさ	いさ		伊佐	伊佐	伊佐	伊佐	伊佐	伊佐	伊佐	伊佐	伊佐	伊佐	伊佐	伊佐
浦添間切	あら城			新城	新城	新城	新城	新城	新城	新城	新城	新城	新城	新城	新城
北谷	あきな	あきな		安仁屋	安仁屋	安仁屋	安仁屋	安仁屋	安仁屋	安仁屋	安仁屋	安仁屋	安仁屋	安仁屋	
中城	前ふてま	前普天間		野嵩	野嵩	野嵩	野嵩	野嵩	野嵩	野嵩	野嵩	野嵩	野嵩	野嵩	野嵩一～三
中城	寺ふてま	寺ふてま		普天間	普天間	普天間	普天間	普天間	普天間	普天間	普天間	普天間	普天間	普天間一～二	普天間一～三
												真栄原		真栄原	真栄原
												志真志		志真志	
														佐真下	
												長田		長田	長田
												愛知		愛知	一九区
												赤道		赤道	
												中原		中原	中原
												上原		上原	(計20行政区)

年代	関連事項
1546	しゃなの里主：添継御門の南のひのもん
1546	奢那主司：添継御門之北之碑文
1559	中くすくまきりふてま：今帰仁掟宛辞令書
尚元王代	浦添間切謝名地頭職：葛氏多嘉山家々譜
1500年代中頃	謝名具志川地頭職：益氏久場家々譜
万歴年間	浦添間切加賀寿地頭職：兪氏根路銘家々譜
1604	浦添間切喜友名地頭職：阿氏前川家々譜
1613	中城間切普天間村：摩文仁親方安恒宛知行目録
1621	浦添間切謝那村・儀野湾村・我仁横村・加賀寿村：浦添王子朝良宛知行目録
1623	ぎのわん・かかす・ちゃな・きとむなわ [5]・いさ：おもろさうし
1626	中城間切普天間地頭職：蒙氏糸数家々譜
1652	浦添間切喜友名地頭職：蔡氏儀間家々譜
1668	謝名地頭・謝名姓から高良姓に改名：牧氏翁長家々譜
1672	中城間切普天間地頭職：毛氏太工廻家々
1674	宜野湾間切高良地頭職：蔡氏具志家々譜
1674	宜野湾間切謝名村・喜友名村：琉球評定所僉議
1675	宜野湾間切大山地頭職：戴氏
1681	宜野湾郡謝名邑有真志喜者：球陽
1690	宜野湾間切謝名高良地頭職：蔡氏具志家々譜
1710	宜野湾間切大山村：おもろさうし
1714	宜野湾間切城田地頭職：楊氏長堂家々譜
1716	宜 [6] 野湾間切仲松地頭職：向氏真壁家々譜
1747	宜野湾間切大山地頭職：毛氏座喜味家々譜
1749	宜野湾間切城田地頭職：毛氏与世山家々譜
1761	大山：大山御嶽碑
1779	宜野湾間切大山地頭職：毛氏座喜味家々譜
1784	宜 [7] 野湾県謝名具志川：中山世譜

注1．本表は『宜野湾市史』第4巻所収「家譜史料にみる宜野湾」、「宜野湾間切の村落変遷」（田名 1985）を基に加筆作成した。

2．『琉球国由来記』巻14に記される宜野湾間切の25ヶ所の殿に、「大ヒヤ殿」が11ヶ所ある。真志喜村に「大川・奥間・石川・呉屋・小国」の5ヶ所、大山村に「中間・新里・上具志川・大山」の4ヶ所、宜野湾同村に「キチラセ・大里」の2ヶ所である。

3．現在、宜野湾市は本20行政区と嘉数ハイツ・大謝名団地・上大謝名を合わせた23自治会により編成される。

4．東恩納寛惇氏の資料「ノート9」に筆写される『乾隆二年帳　新間切の部』に、「新間切　宜野湾間切」とされ、「新村改帳二大川村　真志喜村」とある。それからすると、真志喜村は宜野湾間切の新設時（1671年）に設置され、当時「大川村」と称されたことが知られる。

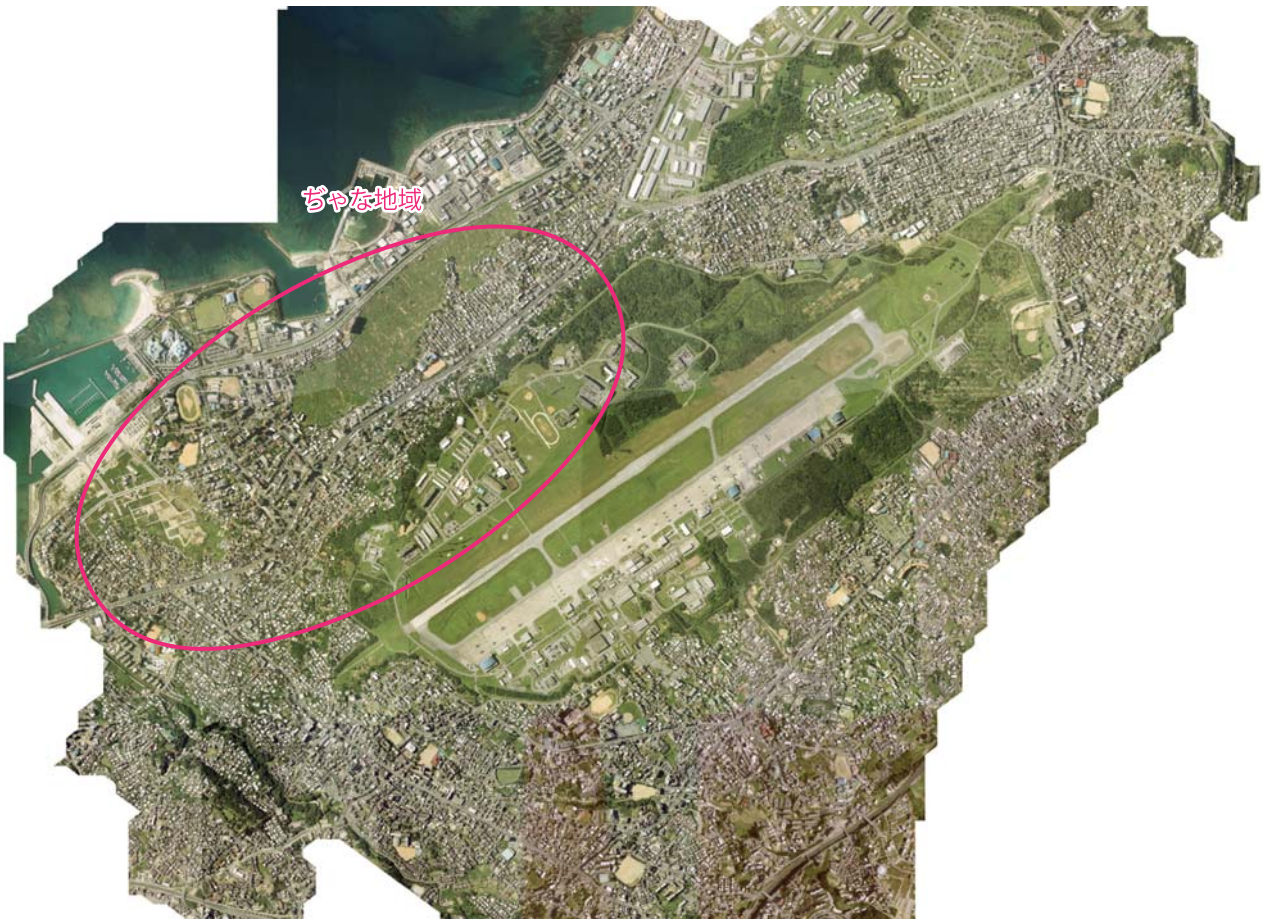
　また、『おもろ主取家元祖由来記』に、「此元祖、成化年中に伊平屋島より被罷渡、真志喜村石川村に屋敷取仕（中略）、元祖謝名具志川親雲上は、最前は真志喜村之内石川と申村地頭職被成下、後謝名具志川之地頭所被成下候。其の時此元屋敷取仕、引移申候。」と記される。文中の留意点として、①真志喜村内に「石川村」の存在が記されていること。②成化年中（1465～87年）に伊平屋島から来られた謝名具志川親雲上は「石川村」の「地頭職」となり、後に「謝名具志川之地頭」になったとされる。しかし、成化年中の年代観は、本文献に別記される謝名具志川親雲上の死（1655年）などと符号しないとされる（池宮 1985）。

5．喜友名区在の呉屋盛春氏宅に、「き　きとも奈良」銘の印部土手石が保管される。出所はキャンプ瑞慶覧のパシガー湧泉の前庭とされる。

6．1700年代の家譜史料に「宜野湾間切仲松地頭職」が記されるが、設置“村”は不明である。

7．『中山世譜』巻4の乾隆49年（1784）12月の条に「宜野湾県謝名具志川洋面。有華人四名。坐落水櫃一個漂来。内三人已死。一人気息未絶。急扶上岸。調養無効即死。皆移葬于泊村地方。樹石為記。」と記される。

図版Ⅰ - 2　昭和 20 年　宜野湾市全景

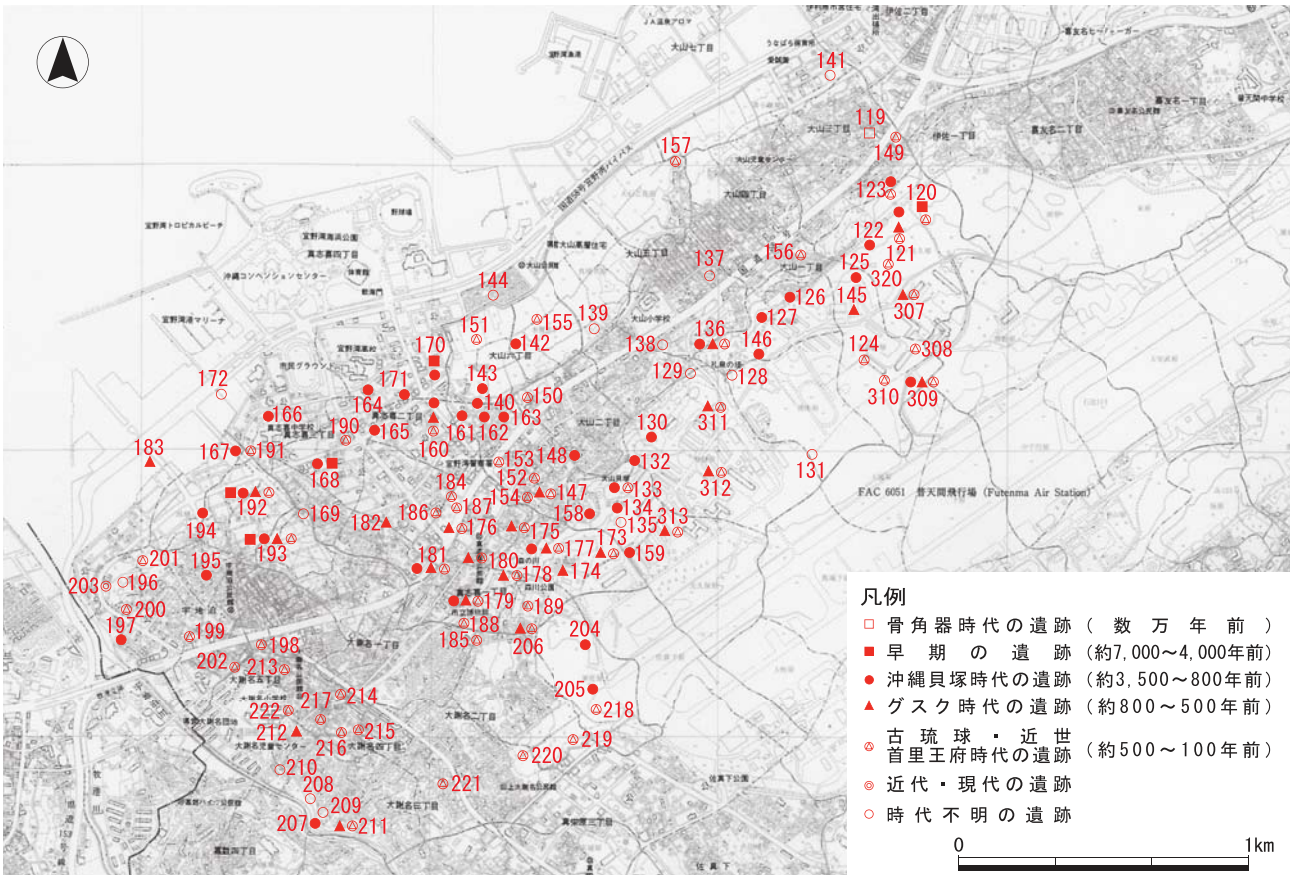


図版Ⅰ - 3　平成 14 年　宜野湾市全景

第Ⅰ-２表　ぢゃな地域の文化財一覧

大字	遺跡名	大字	遺跡名	大字	遺跡名	大字	遺跡名
大山	119 大山洞穴	大山	147 前門原第一遺跡	真志喜	167 グスクヌハナ南遺跡（旧称西遺跡）	宇地泊	195 東原遺跡
	120 岳之佐久原第一洞穴遺跡		148 前門原第二遺跡		168 グスクヌハナ東遺跡		196 ヒートゥモー遺跡
	121 岳之佐久原第一遺跡（旧称北方遺跡）		149 フルチンガー古湧泉		169 白台原遺跡		197 宇地泊遺物散布地
	122 岳之佐久原第二遺跡（旧称南方遺跡）		150 カンジャーガー古湧泉		170 安座間原第一遺跡		198 クンカー古湧泉
	123 岳之佐久原第三遺跡		151 ウフチヤーヌトゥン祭祀遺跡		171 安座間原第二遺跡		199 ウガンシーヤマ祭祀遺跡
	124 加良当原第一遺跡（旧称南方遺物散布地）		152 メームトゥブヌトゥン祭祀遺跡		172 真志喜地先石器散布地		200 ヒートゥジー祭祀遺跡
	125 加良当原第二遺跡（仮称）		153 メーフヌトゥン祭祀遺跡		173 マヤーアブ洞穴遺跡		201 西原丘陵古墓群
	126 ウフォーアブ遺物散布地		154 カンサギモー祭祀遺跡		174 製立原遺跡（旧称蔵当原遺跡）		202 ハンタヌシチャ古墓群（奥間ノロ墓含）
	127 苧久保原第一遺跡		155 カニクモー祭祀遺跡		175 森川原第一遺跡		203 西原トーチカ戦跡※
	128 苧久保原第三遺跡		156 大山東方丘陵古墓群		176 森川原第二遺跡	大謝名	204 軍花原遺跡
	129 勢頭原第一遺跡		157 クンジャンアブシ古道		177 ウンサクモー遺跡		205 久永地原遺物散布地
	130 勢頭原第二遺跡（旧称大山第三洞穴遺跡）		307 岳之佐久原第四遺跡		178 富盛原第二遺跡（旧称蔵当原遺跡）		206 軍花原第二遺跡
	131 勢頭原第三遺跡		308 大山加良当原第三遺跡		179 蔵当原遺跡		207 大謝名洞穴遺跡
	132 富盛原第一遺跡（旧称北方遺跡）		309 大山加良当原第四遺跡		180 ノロ殿内祭祀遺跡		208 前原第一遺物散布地
	133 大山貝塚		310 大山加良当原第五遺跡		181 石川第一遺跡		209 前原第二遺物散布地（旧称比屋良川沿い①地点）
	134 富盛原第二遺跡（旧称南方遺跡）		311 勢頭原第四遺跡		182 石川第二遺跡		210 港田原遺物散布地
	135 富盛原第三遺跡		312 勢頭原第五遺跡		183 真志喜地先外来陶磁器散布地		211 黄金森グスク遺跡
	136 マヤーガマ洞穴遺跡		313 大山大久保原遺跡		184 奉行屋跡		212 大謝名原古瓦散布地
	137 大山掘割貝塚		320 岳之佐久原古墓群		185 カンガー洞穴古湧泉		213 ヤマトゥガー古湧泉
	138 一里原遺物散布地	真志喜	158 真志喜遺跡		186 ムラヌヒヌカン祭祀遺跡		214 クシヌカー古湧泉
	139 後原遺物散布地		159 富盛原第一遺跡		187 カンシガモー祭祀遺跡		215 ウィーヌヤマ祭祀遺跡
	140 前門原第三遺跡		160 大川原第一遺跡		188 カンガー祭祀遺跡		216 ウカマ祭祀遺跡
	141 名利瀬原遺物散布地		161 大川原第二遺跡		189 製立原古墓群		217 ジトゥーヒヌカン祭祀遺跡
	142 水賀志原遺跡		162 大川原第三遺跡		190 荒地原古墓群		218 軍花原古墓群
	143 樋川原遺物散布地		163 大川原第四遺跡		191 グスクヌハナ古墓群		219 久永地原第一古墓群
	144 二重海岸石器散布地		164 荒地原第一遺跡	宇地泊	192 兼久原遺跡		220 久永地原第二古墓群
	145 苧久保原第二遺跡		165 荒地原第二遺跡		193 兼久原第二遺跡		221 東原古墓群
	146 チャシグスク遺跡		166 グスクヌハナ遺跡（旧称真志喜遺物散布地）		194 兼久原第三遺跡		222 カンジャーガマ岩陰遺跡

※平成17年度に行った分布調査の結果、監視哨を目的として掘られたと考えられる壕であることを確認した。そのため、遺跡の名称はもちろん、その評価についても再考の必要がある。



第Ⅰ-３図　ぢゃな地域の遺跡分布図

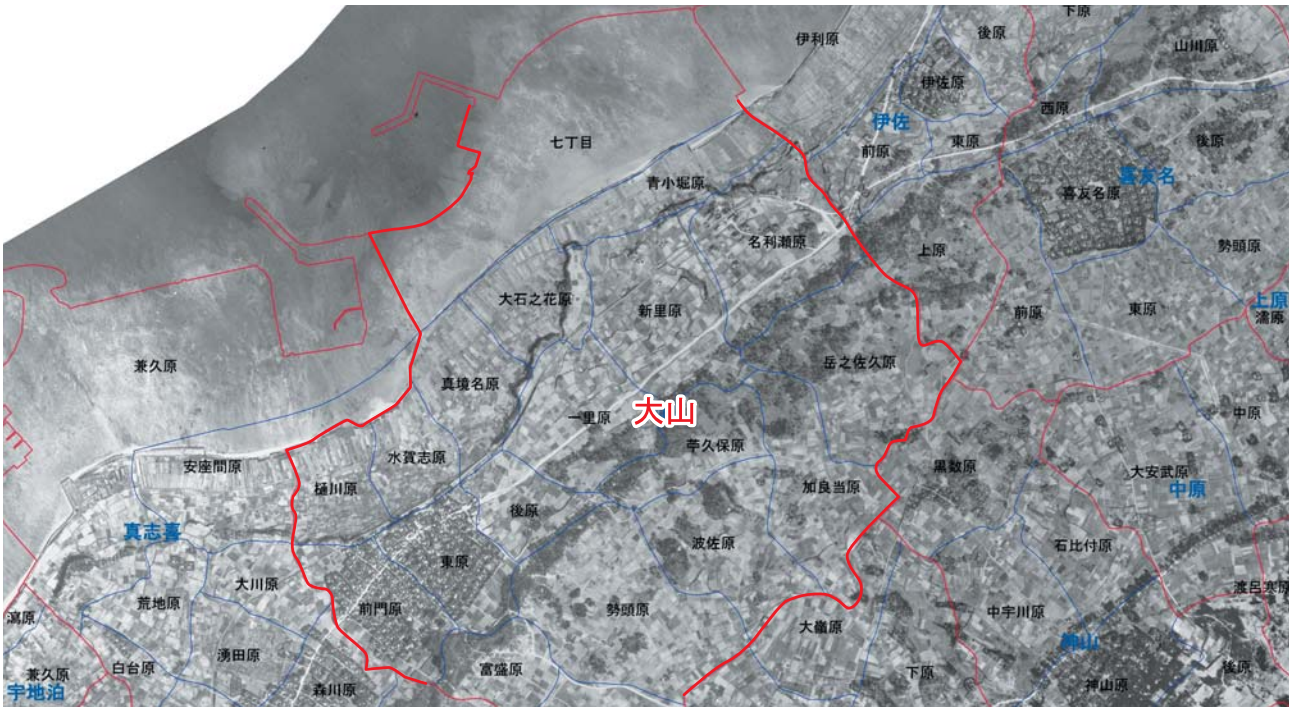
第３節　大山集落の概要

「ぢゃな」と大山　大山・真志喜・大謝名・宇地泊を結ぶ一帯は、『琉球国高究帳』では「謝名村」と記載されている（第Ⅰ - １表）。この謝名村に記載される高頭は、佐敷や知念などの一間切全体のそれを凌ぎ、『琉球国高究帳』所収の村のうちで唯一千石を超すことから、かなり肥沃な地域だったと考えられる。これは、段丘縁に多く点在する湧泉の発達に因るところが大きい。中位段丘の湧泉は、海岸低地の耕作地帯をそれぞれ灌水し、1960 年初期までは水稲を耕作する広大な水田が広がっていた。現在でも、大山周辺には湧水が十数ヶ所存在しており、田芋の栽培が宜野湾市の特産となっていることは前節で述べた通りである。この地域は「ぢゃな」と呼称され、市内でも遺跡の数が多いことが指摘されている（宜野湾市教育委員会編 1991 ほか）。そして、この「ぢゃな」地域の遺跡の大半が先史時代から古琉球ないし近世初頭に至るまで継続することが知られる。

大山は、慶長検地（1609 ～ 1611 年）の頃には浦添間切における謝名村の一集落で、間切新設の際に他の村と区別されて「謝名具志川村」と称された。これ以降の文献史料では、謝名具志川や具志川、大山と村名が概ね時系列で変遷していることが窺える（第Ⅰ - １表）。

第Ⅰ - ３表　地方行政組織からみた旧大山村の歩み（宜野湾市教育委員会編　1999）

時代区分	近世 大山村		近代 大山村			戦後 大山村	
	首里王府→1872←琉球藩→1879←		沖縄県		→1945←	琉球政府	→1972←沖縄県
統治国家	琉球王国		日本国			アメリカ合衆国	日本国
年　代	?～1671	1671～1897	1897～1908	1908～1945		1946～1962	1962～現在
地方行政区画単位 地方行政執行機関 （所在地） 地方行政責任者	浦添間切 番　所 （浦添仲間村） 地頭代	宜野湾間切 番　所 （宜野湾同村） 地頭所	宜野湾間切 役　場 （宜野湾同村） 間切長	宜野湾村 役　場 （宜野湾同村） 村　長	沖縄戦	宜野湾村 役　所 （字野嵩→字普天間） 村　長	宜野湾市 役　所 （字普天間→字野嵩） 市　長
地方行政基本単位	謝名村 （志ゃな・大志ゃな）	謝名具志川・具志川村 大　山　村	大山村	字大山		字大山	1964　大　山　区
地方行政執行支所	村　屋	村　屋	村　屋	字事務所		字事務所	区事務所 区公民館
地方行政担当者	村　掟	村　掟	村　頭	字区長		区　長	1964　区自治会長

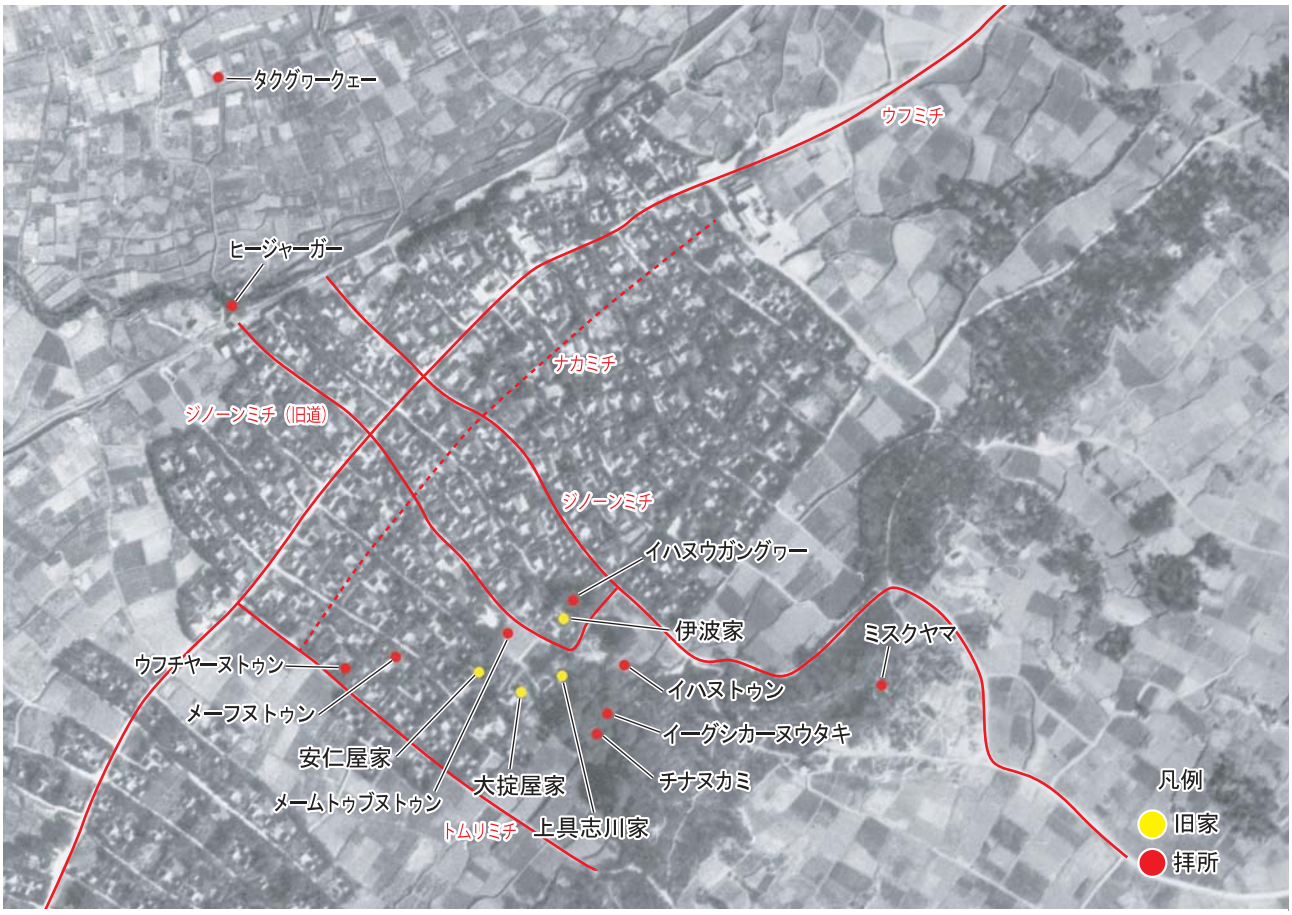


第Ⅰ - ４図　昭和 20 年の大山とその周辺 (S=1/10000)

旧大山村の発祥と旧家群　字大山における旧集落は前門原（メージョウバル）と東原（アガリバル）に位置しており、部落は美底山（ミスクヤマ）や上具志川（ウィーグシカー）の御嶽（ヌ ウタキ）のある辺りからつくられたのではないかという（宜野湾市史編集委員会編 1985b）。また、大山区在住の故石川栄鎌氏（1907 年生）によれば、はじめ、上具志川（ウィーグシカー）の比屋（ヌヒャ）がクニダチ（村立て）し、安仁屋（アンナ）・大掟屋（ウフチャー）・伊波（イファ）を呼んだという（呉屋 2002）。これら 4 家が旧大山村の草分けとされ、近世には根屋（宗家）である上具志川家の屋敷地を高位に伊波・安仁屋・大掟屋などの旧家群の屋敷地を下位として碁盤型集落が形成されている。

上具志川家は、首里王府に縁のある家筋でもある。同家は、県指定文化財で沖縄最古の平仮名銘文「弘治七年　おろく大やくもい　六月吉日」が浮き彫りされた「小禄墓内石厨子」が安置される小禄墓を管掌するほか、前述の上具志川の御嶽をも管掌する。なお、上具志川家の東側の後背に広がる美底山は聖地の一つとして信仰の対象となっており、その山中には学史に名高い国指定史跡の大山貝塚が立地する。

伊波家もまた、字大山を代表する旧家である。同家は、18 世紀中頃には宜野湾間切の中でも有力な一族だったと考えられ、伊波（イハ）の御願小（ヌ ウガングヮー）（大山御嶽）や伊波（イハヌ）の殿（トゥン）を管掌するほか、1761 年に一門の発祥を記した大山御嶽碑（市指定史跡）を建立した。これによれば、同碑建立の 200 年前に、一門の祖先が南風原間切宮城村（現在の南風原町宮城区）から豊かな土地を求めてこの村に移り住んだという。そして、その住居を「屋敷大山」と呼んだことが村名の由来ともされており、村名改称の背景には伊波家の係わりがあったと推測される（宜野湾市史編集委員会編 1985）。また、同碑文から 16 世紀中頃には既に自然集落が成立していたことが窺えるが、平成 19 年度に実施した第 1 次調査では、概ね 15 世紀頃～近世の遺物が主体的に出土しており、検出された遺構の覆土の放射性炭素年代測定の結果とも概ね対応する。このことから、集落の発祥は少なくとも 15 世紀に求められる可能性が考えられる。



第Ⅰ - 5 図　昭和 20 年の大山集落

なお、大山御嶽碑の裏面に記されている佐喜真親雲上や宮城掟親雲上の名は、現在市内最古の亀甲墓として知られる「上江家古墓」の墓室内に安置されている石碑にも刻まれる (宜野湾市史編集委員会編 2011)。上江家は伊波家の分家筋とされており、このこと等から、当該古墓は大山御嶽碑を建立した伊波家一門が造営したと考えられている。

安仁屋家は、廃藩置県まで代々続いた首里王府の「おもろ主取」職である。王府の儀礼の場に出ておもろを歌う、あるいは踊ることを職能としていた特殊な家で、おもろ歌唱を保護管理するだけでなく、近世でも珍しく、百姓でありながら禄をたまわる世襲の職であったという (宜野湾市史編集委員会編 1985a)。同家は、『おもろ主取家元祖由来記』の記載から、当初は真志喜石川第一遺跡の地所に屋敷地があったことが窺える。また、大掟屋家の元屋敷も同遺跡内にあったと言い伝えられている。

なお、第２～４次調査の対象となった場所は、大掟屋家の屋敷地であると考えられる（第Ⅰ - ６図)。

旧集落内の交通路　集落のほぼ中央には、北東から南西方向に走るナカミチがあり、スージと呼ばれる筋道が縦横に走る。また、その北西側にはウフミチと呼ばれる国頭街道（県道；現国道 58 号線）が通り、これらに直交して旧宜野湾集落まで南南東に延びるジノーンミチが横切る(第１-5 図)。なお、1922 年には那覇から嘉手納に至る県営鉄道嘉手納線（軽便鉄道）が開通し、集落北東側に大山駅が設置された後、翌年その西側に真志喜駅が設置されたが、先の大戦により破壊され、現在では残っていない。

現在の調査区周辺の様子　1950 年代後半、旧集落内には米軍人・軍属向けの賃貸住宅が造られるようになり、現在でも調査区周辺には多くの外人住宅が見られ、付近には戦前の屋敷はみられない。一方、幅員の狭い筋道による区画や福木等の屋敷林は所々に残り、碁盤型集落の面影は現在も残る(図版Ⅰ - ５)。

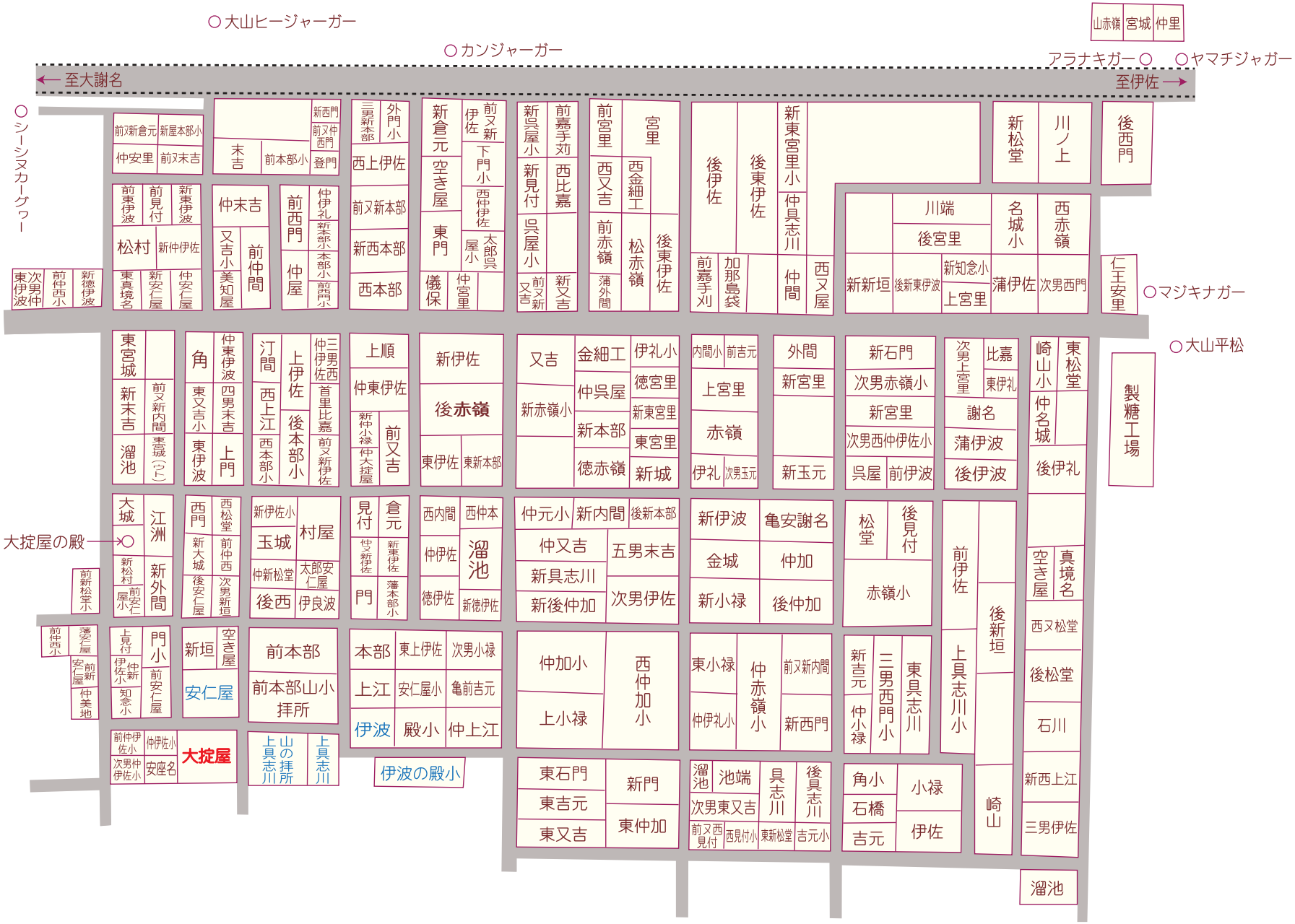
上具志川の御嶽（左）・綱の神（右）

美底山の祠

大山御嶽碑（左）・伊波の御願小（右）

大山上江家古墓

図版Ⅰ - ４　大山集落の文化財



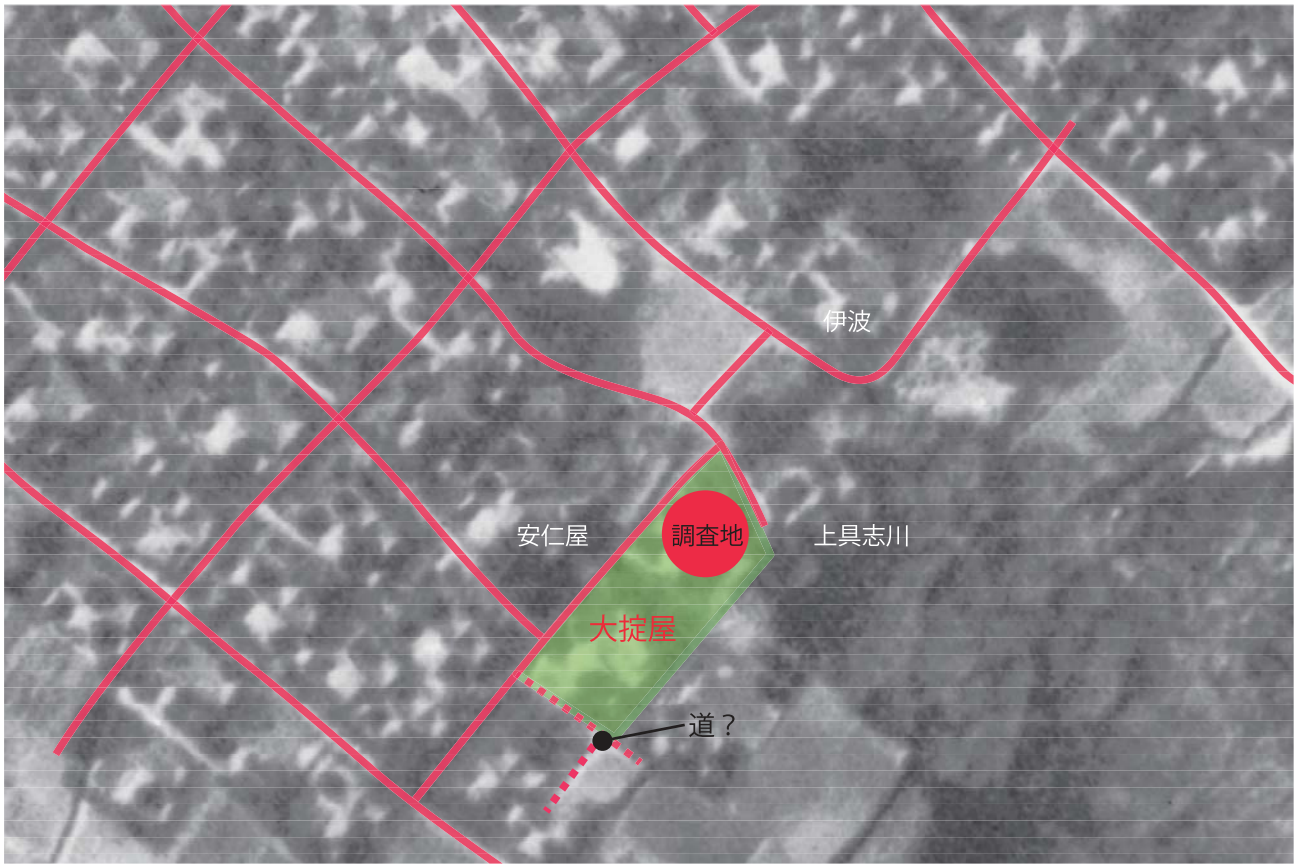
第Ⅰ-6図　昭和19年の大山集落略図（宜野湾市教育委員会文化課編　2005）

碁盤型集落としての特徴　前述したように、「ぢゃな」地域に所在する遺跡の多くは先史時代から古琉球あるいは近世初頭まで継続することから、謝名村は複数の遺跡（自然集落）が集まって一“村”を構成したと推測される（宜野湾市教育委員会編 1994）。大山の集落遺跡である、大山前門原第一遺跡と同第二遺跡は隣接して拡がっており、当初同一の遺跡と考えられたが地形的な特徴などから両者を分離している。同第一遺跡には根屋である上具志川家があり、同第二遺跡には村名に由来するとも考えられる伊波家が敷地を構える。『琉球国由来記』には、上具志川や大山（伊波家由来）などを冠する大ヒヤ殿の記載がみられることから、２つの遺跡はかつて別の自然集落を形成した可能性が考えられる。大山における碁盤型集落は、このような自然集落を母体として形成されたと考えられ、小字前門原と東原にその形成が見られる。

碁盤型集落を「南島式村落」と仮称した高原三郎は、その特徴として道路網や屋敷地が均一である点や密集度の高い集村であることを挙げている（高原 1939）。大山集落はいわゆる集居集落で、各小字は微地形を利用して略北西‐南東方向に走る用水路や里道などによって細分され、集落内もこの方向に従って道路網が格子状に直交する。ただし、上具志川家・安仁屋家・大掟屋家周辺の筋道は比較的不規則に配されており（第Ⅰ‐７図・第Ⅲ-27 図）、碁盤型集落の成立以前の様相が窺える。

宅地割については、昭和 19 年の略図を参考にする限りでは著しい均一性は認められないものの、概ね坂本盤雄分類における縦二列型あるいは横二列型が見てとれる（坂本 1989）。

図版Ⅰ‐５　調査地略西側の筋道（向かって左は安仁屋家）



第Ⅰ‐７図　昭和 20 年頃における大掟屋の推定される屋敷範囲（第Ⅰ‐６図を参考に作成）

第Ⅱ章　事業概要

第１節　調査に至る経緯

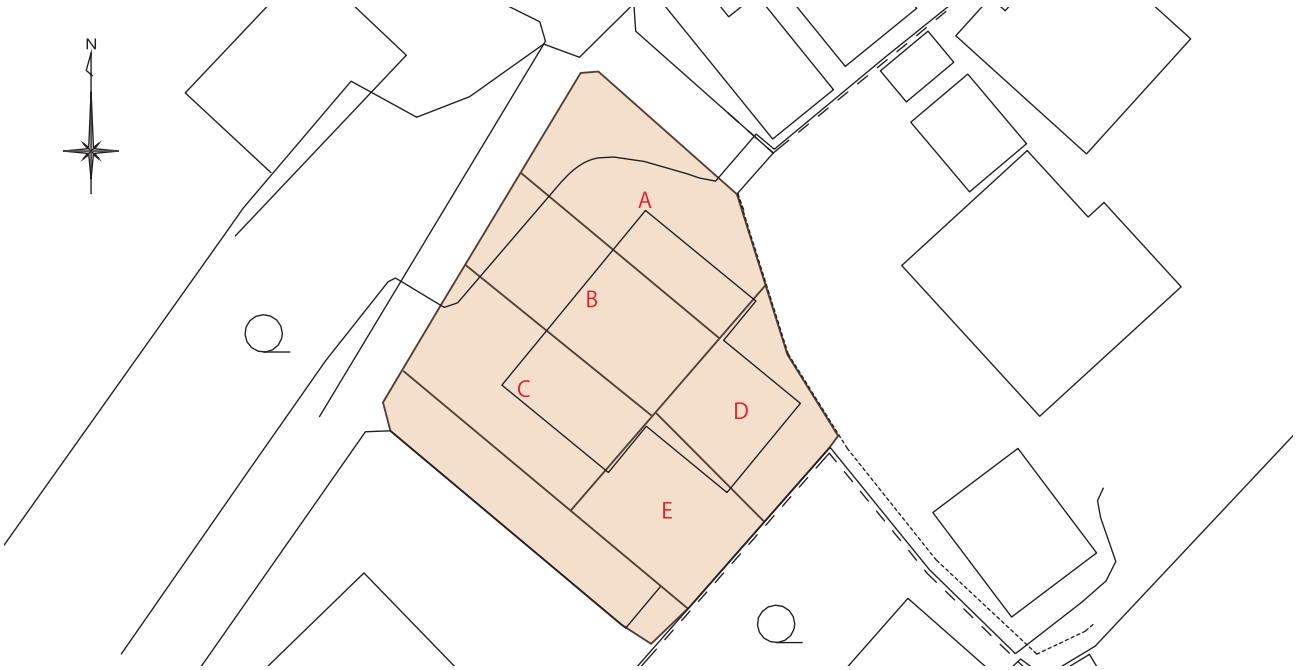
調査の目的　大山前門原第一遺跡は、『土に埋もれた宜野湾』（宜野湾市教育委員会編 1989）や『宜野湾市文化財情報図』（宜野湾市教育委員会文化課編 2009）などで報告している「周知の遺跡」である。同遺跡は、大山集落が発祥した前門原に位置しており、集落の発生や展開を考察する上で重要な遺跡である。前門原は、現在でも随所に碁盤型集落の様相を残しているものの、戦後は多くの屋敷が取り壊されて、いわゆる外人住宅が造築された。また、最近では緑が多く沖縄らしい街並みが残ることから人気があり、住宅の建築が進んで旧来の姿を失いつつある。地域の歴史や文化を正しく伝えるため、工事によって破壊される埋蔵文化財の記録保存を目的として、調査を行った。

試掘調査の経緯　平成 21 年６月 17 日、大山２丁目において個人住宅建築に係る文化財有無の照会があった（第Ⅱ - １図Ａ～Ｅ号地 当時は一筆）。当該地は、大山前門原第一遺跡が所在する範囲に位置していたため、同日付の文書にて試掘調査を行う必要がある旨を回答した。その後、９月 30 日に地権者から提出された調査の依頼を受けて、10 月８日から 10 日までの間に埋蔵文化財の有無を確認するために試掘調査を実施した。

第２次調査の経緯（B 号地）　試掘調査の結果、遺跡が所在することを確認したことから、10 月 16 日付で地権者にその旨を回答した。その後の調整で、工事による掘削が遺構面に及ぶことが分かったことから、文化財保護法第 99 条１項に基づき、平成 22 年３月４日付け宜教文第８-55 号文書により、発掘調査通知を県教育委員会に提出して、緊急発掘調査に向けた手続きを終了した。

第３次調査の経緯（C 号地）　平成 22 年４月５日に、個人住宅建築についての問い合わせがあり、B 号地同様に調整を行なった。工事による掘削は 75 ㎝のため、調査を行う際には基礎のラインに十分注意して掘削することを確認した。そして、６月１日付けで埋蔵文化財発掘の届出を、６月３日付けで地権者から発掘調査の承諾書を受理した後、同日付宜教文第１- ５号文書によって県教育委員会へ発掘調査の通知を行った。

第４次調査の経緯（A 号地）　平成 22 年６月４日に、個人住宅建築についての問い合わせを受けた。B 号地・C 号地同様に調整を重ね、６月 14 日付けで埋蔵文化財発掘の届出を、７月１日付けで発掘調査の承諾書を得て、翌日付けで宜教文第１-14 号文書によって県教育委員会へ発掘調査の通知を行った。



第Ⅱ - １図　調査地概略図　※図のＡ～Ｅは、正確な範囲を表していない。

第２節　調査体制

大山前門原第一遺跡の試掘調査と第２次発掘調査は平成 21 年度に、第３・４次発掘調査は平成 22 年度に実施し、資料整理および報告書作成に係る整理業務は、平成 22・23 年度に実施した。その調査体制は下記のとおりである。

事業主体	沖縄県宜野湾市教育委員会		
事業責任者	教育長		宮城　茂雄
事業総括	教育部	教育部長	伊佐　友孝（平成 21 年度）
			宮平　良和（平成 22 年度）
			宮里　幸子（平成 23 年度）
		教育次長	新城　正一（平成 21・22 年度）
			宮里　幸子（平成 22 年度）
			宮城　光徳（平成 23 年度）
	文化課	課長	和田　敬悟（平成 21 年度）
			呉屋　義勝（平成 22・23 年度）
事業事務		文化財保護係長	豊里　友哉
		文化財保護係主任主事	仲村　　健（平成 21 年度）
			森田　直哉（平成 23 年度）
		主事	伊藤　　圭
調査業務		文化財保護係主任主事	仲村　　健（平成 21 年度）
		主事	伊藤　　圭
		嘱託職員	山田　浩久
			縄田　　愛（平成 21 年度）
			長濱　健起（平成 22 年度）
		臨時職員	伊佐　美樹、伊佐　美幸、石川　正人、伊波　晴美
			浦添　純一、岸本　静子、金城　鮎美、米須　　恵
			砂辺　恒志、友利久美子、松本　義光、宮城　常正
			宮国さおり、諸見里和子、吉田智恵美
資料整理業務	文化課	文化財保護係主任主事	森田　直哉
		主事	伊藤　　圭
		嘱託職員	山田　浩久
			長濱　健起
			杉村千重美
			古謝　和美
			伊禮さおり（平成 22 年度）
			許田　栄美（平成 22 年度）
		臨時職員	安里さやか、池田　一美、伊佐　美樹、伊佐　美幸、
			石川　正人、伊波　晴美、浦添　純一、翁長和佳子、

岸本　静子、金城　鮎美、米須　　恵、砂辺　恒志、
田盛　謹代、友利久美子、比嘉　美香、松本　義光、
宮城　常正、宮国さおり、諸見里和子

委託業務	画像解析業務等	㈱シン技術コンサル沖縄営業所
		㈱パスコ沖縄支店
		㈱文化財サービス沖縄営業所
	磁気探査業務	㈱ニーズ・エンジニアリング
	資料整理業務	㈱パスコ沖縄支店

調査指導および調査協力

調査指導および調査協力者として、以下の方々に指導を仰いだ。

禰宜田佳男	文化庁文化財部記念物課	主任文化財調査官	
島袋　　洋	沖縄県教育庁文化財課	副参事	
久髙　　健	沖縄県教育庁文化財課	記念物班　指導主事（平成 22 年）	
山本　正昭	沖縄県立埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	調査課　主任	
中山　　晋	沖縄県立埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	調査課　主任専門員	
新垣　　力	沖縄県立埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	調査課　主任	
金城　貴子	沖縄県立埋蔵文化財ｾﾝﾀｰ	調査課　専門員	
金　　大範	地権者		
下地　　晶	地権者		
宮城孝太郎	地権者		
嵩元　政秀	宜野湾市文化財保護審議会	会　長	
宮城　邦治	沖縄国際大学総合文化学部	教　授	（宜野湾市文化財保護審議会　副会長）
赤嶺　政信	琉球大学法文学部	教　授	（宜野湾市文化財保護審議会　委員）
新垣　義夫	普天満宮	宮　司	（宜野湾市文化財保護審議会　委員）
池田　榮史	琉球大学法文学部	教　授	（宜野湾市文化財保護審議会　委員）
大城　逸朗	おきなわ石の会	会　長	（宜野湾市文化財保護審議会　委員）
恩河　　尚	沖縄市役所総務課市史編集担当	主　幹	（宜野湾市文化財保護審議会　委員）
崎浜　　靖	沖縄国際大学南島文化研究所	准教授	（宜野湾市文化財保護審議会　委員）
比嘉　悦子	沖縄県立芸術大学	非常勤講師	（宜野湾市文化財保護審議会　委員）
福島　駿介	琉球大学工学部	名誉教授	（宜野湾市文化財保護審議会　委員）
菅原　広史	浦添市教育委員会	主　事	
瑞慶覧長順	浦添市教育委員会	主　事	
玉榮　飛道	浦添市教育委員会		
伊波　直樹	㈱島田組　沖縄支店		
石川　眞正	大山区		
〈撮影協力〉	沖縄そば屋　いしぐふー善		

第３節　調査経過

１．試掘調査

10月８日（木）　試掘調査の依頼のあった土地において、２ｍ×２ｍの試掘坑を北東隅から反時計回りに６つ、中央に１つ設定して、これらを重機によって掘削した（第Ⅱ－２図）。TP1は、約150㎝掘削した時点で床面全面にマージ（地山）を検出したため掘削を中止し、包含層や遺構が確認できなかったため、撮影のみを行って埋め戻した。

TP2は、約50㎝掘削した時点で現代の造成土の下から褐色土を検出したため、一度この面で清掃を行った。沖縄産陶器が多数検出されたことから、試掘坑の半分のみをマージ面まで掘削したところ、ﾋﾟｯﾄを数基検出したため、図面を作成した。

TP3は、約60㎝掘削した時点で溝状の遺構を検出したため、重機による掘削を止めた。清掃を行ったところ、赤瓦を並べた暗渠を検出したため、撮影を行った。図面は明日以降に作成予定。

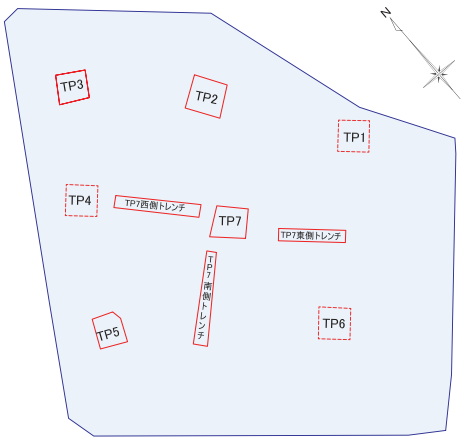
TP4からは、約20㎝掘り下げた時点で大きなコンクリートの基礎が出たため、これ以上掘り下げることができず即日埋め戻した。

TP6は、約30㎝掘削した時点でマージ（地山）を検出した。

TP7は、戦後における家屋の造成によって大きく撹乱を受けており、造成土は地表下約130㎝にまで及んでいた。しかし、撹乱坑の壁には、深さ約60～80㎝の明確な柱穴が確認された。

10月９日（金）　前日掘削したTP2・3・6・7の清掃や分層、撮影および実測を行ったほか、TP5の掘削を行った。TP5も大きく撹乱を受けているものの、マージ上面で５基のﾋﾟｯﾄを検出した。このうち、壁面にかかる２基を掘削して根痕などの落ち込みではないことを確認した。また、遺構の拡がりを更に明確にするために、TP7を中心にして第Ⅱ－２図のように横長のﾄﾚﾝﾁを３本設定して掘削した。その結果、TP7東側ﾄﾚﾝﾁ以外で遺構を検出した。

10月10日（土）　拡ﾄﾚﾝﾁの壁面や遺構の検出状況を実測した後、作業の終わったﾄﾚﾝﾁから埋め戻して調査を終了した。



第Ⅱ－２図　試掘坑配置図

図版Ⅱ－１　試掘調査作業状況

2．第２次調査

３月８日（月） 調査を開始し、表土と造成土を重機で掘削した。

３月９日（火） 雨天のため作業中止。

３月 10 日（水） 引き続き表土と造成土の掘削作業を行い、ｸﾞﾘｯﾄﾞH～I-２～３から、戦前のものと思われる石畳の一部を検出した。午後からこの石畳の清掃を行い、撮影などの記録作業の後に重機によって取り除き、調査範囲を概ねマージ（地山）面まで掘り下げた。

３月 11 日（木） 撹乱土坑の掘削と遺構の検出作業を行った。

３月 12 日（金） 前日に引き続き、午前は遺構の検出・清掃作業を行い、午後から遺構検出状況の撮影を行った。撮影後は、ﾄﾚﾝﾁ西側を中心に遺構の半掘作業を開始した。

３月 15 日（月） 遺構の掘削作業を行った。遺構は基本的に半掘し、覆土の分層を行って堆積状況の確認後、撮影・実測・所見の記載を行い、層序に従って覆土の一部を採取しながら完掘した。

３月 16・17 日（火・水） 引き続き遺構の掘削作業を行った。

３月 18 日（木） 遺構の掘削を行い、② No.100 を中心とするﾋﾟｯﾄ集中部は、a - a′ ラインと、b - b′ を設定して掘削した。

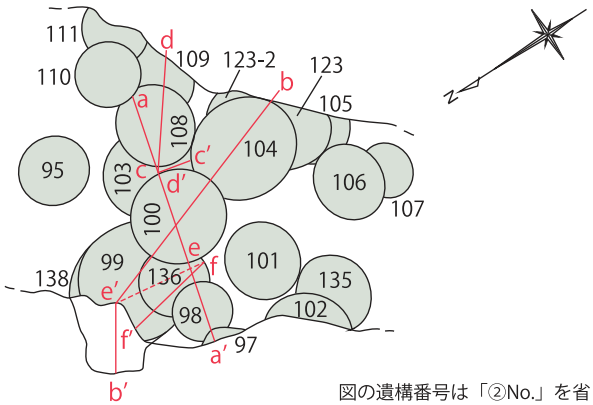
３月 19・23 日（金・火） 遺構の掘削を行い、ﾋﾟｯﾄ集中部では、b - b′、C - C′ラインを新たに設定・掘削し、土層の再確認を行った。

３月 24 日（水） 遺構の掘削を行い、ﾋﾟｯﾄの集中部については、② No.99 と 136、138 との切り合い関係を明らかにするため、e - e′ ラインを設定したものの、切り合いが不明瞭であったため、新たに f - f′ラインを設定してこれらの切り合いを確認した。

３月 25 日（木） 残りの遺構を完掘し、全ての図面を作成してﾄﾚﾝﾁの清掃を行った。

３月 26 日（金） 午前中、ﾄﾚﾝﾁ全面の清掃を行って完掘状況の撮影を行った。その後、壁面の作図作業も併せて行った。

３月 29・30 日（月・火） 分析試料の採取を行った後、埋め戻しや周辺の環境整備を行って調査を終了した。



第Ⅱ - ３図　ピット集中部模式平面図

図版Ⅱ - ２　第２次調査作業状況

３．第３次調査・第４次調査

第３次調査は平成 22 年７月７日から、第４次調査は７月 12 日から開始した。

７月７日（水） 午前は表面探査の後、異常点の確認を行ない、午後から重機による表土・造成層の掘削を行なった。ﾄﾚﾝﾁ全体を -30 ㎝まで掘り下げた後、再度磁気探査を行い、その後略西側の一部を -60 ㎝まで掘削して作業を終了した。

７月８日（木） ﾄﾚﾝﾁ全体を -60 ㎝まで掘り下げ、経層探査を行った。この面で、近代以降の造成土はほぼ取り除かれて、遺構が検出され始めたことから、重機による掘削は終了した。そして、異常点の確認後、壁面の清掃を開始して作業を終了した。

７月９日（金） 略西壁・南壁の清掃及び分層を行い、床面の清掃を開始した。また、午後からｸﾞﾘｯﾄﾞの設定を行うと共に、来週から始まる第４次調査のﾄﾚﾝﾁの設定を行なった。

７月 12 日（月） 午前中にﾄﾚﾝﾁの全面清掃を行なって、午後から遺構検出状況の撮影を行なった。第４次調査は、午前 10 時過ぎより表面探査を行い、危険物がないことを確認してから重機による表土・造成層の掘削を開始した。昼過ぎまでに -50 ㎝を掘削し、このレベルで再度経層探査を行ない、ﾄﾚﾝﾁ内の清掃を行なった。なお、作業終了後、第３次調査については、建物のベタ基礎のラインの掘削を避けるため水糸を設定すること、工事範囲である駐車場部分の確認を目的として道路に向かって拡張ﾄﾚﾝﾁを設定することが課内で調整された。

７月 13 日（火） 第３次調査は、略西壁のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ（道路方向への拡張ﾄﾚﾝﾁ）設定部分を実測した後、拡張ﾄﾚﾝﾁ１・２を掘削した。また、並行して建物のベタ基礎ラインの水糸設定を行なった。

第４次調査は、重機による掘削を終了し、経層探査を行なった後、遺構検出作業および略西壁・南壁の分層を行なった。遺構は 100 基程になることが確認され、今後の調査方針を見直す必要が出てきた。

７月 14 日（水） 第３次調査は、拡張ﾄﾚﾝﾁ２の壁面・床面の清掃を行なった後、略南側に幅 50 ㎝のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁを設定してこの掘削を開始した。また、遺構の半掘作業を開始した。

第４次調査は、午前中にﾄﾚﾝﾁの全面清掃を行い、午後から遺構検出状況の撮影を行なった。調査のボリュームが把握できたため、第４次調査は遅くとも７月 27 日から調査を再開することを目標とした。

７月 15 日（木） 現場の作業中止。調査方針を整理。

７月 16 日（金） 現場の作業中止。調査方針を整理。

７月 19 日（月） 雨天のため作業中止。

図版Ⅱ - ３　第３次調査作業状況１

7月20日（火） 遺構半掘作業及び覆土の観察のほか、拡張ﾄﾚﾝﾁ２のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ並びに③溝状遺構１のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ１の掘削を行なった。また、略西壁の実測を行なった。

7月21日（水） 前日と同様に、遺構半掘作業及び覆土の観察のほか、拡張ﾄﾚﾝﾁ２のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ並びに③溝状遺構１のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ１の掘削を行なった。また、略南壁の実測を行なった。

7月22日（木） 遺構の半掘作業、拡張ﾄﾚﾝﾁ２のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁや③溝状遺構１のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ２の掘削を主に行なったほか、略南壁の実測を行なった。

7月23日（金） 前日に引き続き、遺構の半掘作業、拡張ﾄﾚﾝﾁ２のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁや③溝状遺構１のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ２の掘削を主に行なったほか、略南壁の実測を行なった。拡張ﾄﾚﾝﾁ２のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁはマージ（地山）を検出し、掘削を終了した。

7月24日（土） 遺構の半掘・完掘作業や、拡張ﾄﾚﾝﾁ２の略南壁及び③溝状遺構１のｻﾌﾞﾄﾚの分層を主に行なった。

7月25日（日） 遺構の半掘・完掘作業や、拡張ﾄﾚﾝﾁ平面のオルソ撮影、拡張ﾄﾚﾝﾁ１の略南壁・西壁の実測を主に行なった。

7月26日（月） 遺構の半掘・完掘作業や、拡張ﾄﾚﾝﾁ２のｻﾌﾞﾄﾚ外を掘削し、検出した遺構の完掘状況のオルソ撮影を行なった。

7月27日（火） 遺構の半掘・完掘作業や、拡張ﾄﾚﾝﾁ２の略南壁、③溝状遺構１のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ１・２の断面をそれぞれ実測した。また、拡張ﾄﾚﾝﾁ２を完掘し、略北壁の分層を行なった。

7月28日（水） 掘れる遺構の半掘・完掘作業を行い、建物の基礎に影響しない範囲、及びベタ基礎ラインの中央部における遺構の掘削を午前までに終了した。これに並行してﾄﾚﾝﾁ全面の清掃を行ない、午後２時過ぎより調査終了状況（完掘ではない）のオルソ画像の撮影を行なった。

7月29日（木） 雨のため、午前中は作業を中止した。午後より、拡張ﾄﾚﾝﾁ２を清掃し、略北壁の実測を行なった。

7月30日（金） 前日降った雨のため、埋め戻しできず。第３次・４次調査のﾄﾚﾝﾁの水汲みや、第３次調査の後片付けなどを行なった。

7月31日（土） 第３次調査は、③溝状遺構１の拡がりを確認するために拡張ﾄﾚﾝﾁ１・２の間を掘削し、略南側から埋め戻しを開始した。当該確認ﾄﾚﾝﾁは、略南側を除いた大部分が多量の赤瓦が充填しており、崩落する危険があったことから作図せずに、記録は撮影と所見のみにとどめて、直ちに埋め戻した。その後、ﾄﾚﾝﾁ全面を20㎝毎に填圧しながら埋め戻し、４時頃に作業を終了した。

第４次調査は、駐車場部分の遺構の拡がりを確認するため、２×1.5m四方のﾄﾚﾝﾁを設定して重機により当該土層の上位まで掘削した（拡張ﾄﾚﾝﾁ３-１；第Ⅱ-４図）。

図版Ⅱ-４　第３次調査作業状況２

8月2日（月） 朝方に降った雨水の汲み出し後、第４次調査を本格的に開始した。作業は、遺構の半掘・完掘、略西側に設けた拡張ﾄﾚﾝﾁ 3-1 の清掃および掘削と並行して、層序の確認を行なった。

8月3日（火） 遺構の半掘・完掘作業や、拡張ﾄﾚﾝﾁ 3-1 における暗褐色土の検出作業を行なった。また､略南壁･西壁の実測を行なった。

8月4日（水） 午前は、第３次調査区において地鎮祭があったため、調査中止。午後から遺構の半掘・完掘作業を行なった。拡張ﾄﾚﾝﾁ 3-1 では、略南側に堆積する石灰岩の礫混じりの黒褐色土層と調査対象としている暗褐色土層との前後完形を明確にするため、略南壁・西壁に沿ってｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁを設定した。

8月5日（木） 遺構の半掘・完掘作業のほか、拡張ﾄﾚﾝﾁ 3-1 ではｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁを掘削し、堆積状況を確認した。その結果、拡張ﾄﾚﾝﾁ 2-1 南側に堆積する石灰礫混じりの黒褐色土層（Ⅱｆ層）は、暗褐色土層（Ⅱｃ層）の下層と判明した。当該褐色土層からは、沖縄産陶器が出土したことから、暗褐色土層の時期についても試掘の調査成果通り、グスク時代までは遡らないことが確認された。

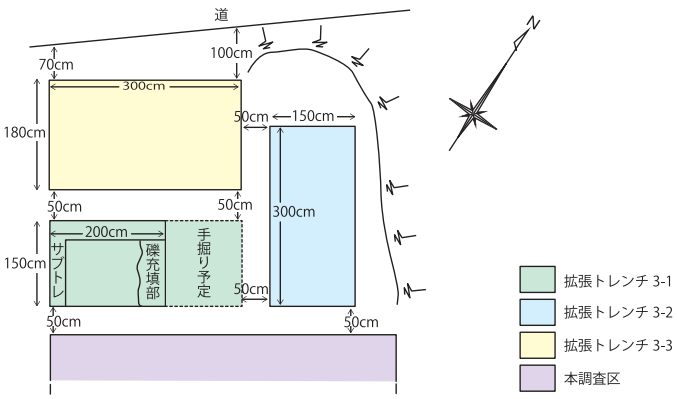
8月6日（金） 遺構の半掘・完掘作業のほか、拡張ﾄﾚﾝﾁ 3-1 のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁはマージ（地山）を検出して掘削を終了した。

8月9日（月） 台風４号接近に伴う雨天のため、作業中止。

拡張ﾄﾚﾝﾁ３-１では、略南壁で石敷遺構が、略北側で礫充填部が確認できる。これらは、戦前の屋敷跡と考えられる。当初、駐車場部分における遺構の拡がりを確認する目的で当該ﾄﾚﾝﾁを設定したが、調査の結果、グスク時代の古い包含層が残る可能性は低いものの、字大山において記録の少ない碁盤型集落の終末期における遺構が残る可能性が考えられた。そのため、これらが地域において重要な文化財になり得ると考え、ﾄﾚﾝﾁをさらに拡張することにした。

8月10日（火） 午前は、台風の影響による雨天のため現場中止。午後はﾄﾚﾝﾁを拡張する準備として、仮設トイレの移動などを行なった。

8月11日（水） 台風後の環境整備などを行なった後､調査再開。午後から、主に遺構の半掘・完掘作業を行なった。



第Ⅱ - ４図　拡張トレンチ３模式図

図版Ⅱ - ５　第４次調査作業状況１

8月12日（木） 主に、遺構の半掘・完掘作業を行なった。また、10時過ぎより、拡張ﾄﾚﾝﾁ3-2・3-3を重機によって掘削した。

8月13日（金） 遺構の半掘・完掘作業は一時中断し、拡張ﾄﾚﾝﾁ3の掘削作業を行なった。拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1は、北側を手掘りで拡張し、礫充填部の一部を検出した。拡張ﾄﾚﾝﾁ3-2は、略西壁・北壁に沿ってL字状にｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁを設定し、掘削を行なった。拡張ﾄﾚﾝﾁ3-3では、石敷き遺構を検出したため、清掃して検出状況の撮影を行なった。

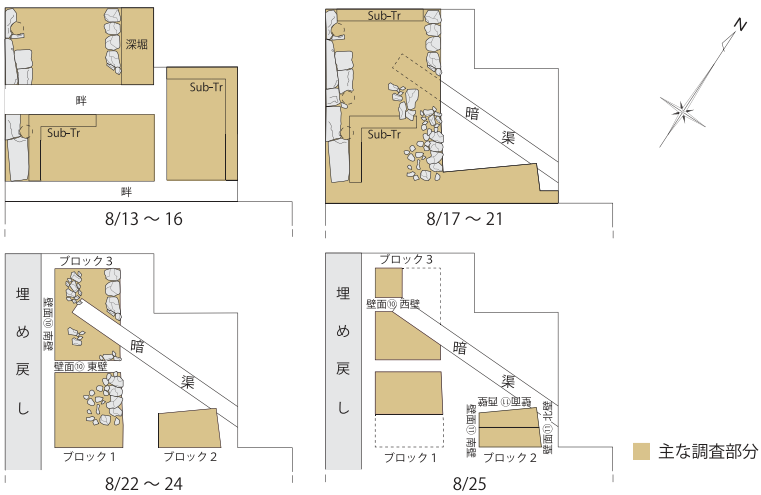
8月16日（月） 拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1・3-2の間の畔を除去し、TP3の埋土を掘削して暗渠を確認した。拡張ﾄﾚﾝﾁ3-3は、略西壁に沿ってｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁを設定し、堆積状況の確認を行なった。そして、石積遺構の立面図と石敷遺構の平面図の作図を行なった。

8月17日（火） 拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1では、礫充填部の検出作業を行った。拡張ﾄﾚﾝﾁ3-3では、石敷遺構における抉り箇所の検出作業や、西側および北側ｻﾌﾞﾄﾚの掘削を行った。また、拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1・3-3間北側の畔を掘削したほか、遺構の半掘・完掘作業を再開した。

8月18日（水） 前日に続いて、遺構の半掘・完掘作業を行ったほか、拡張ﾄﾚﾝﾁ3-3の西側および北側ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁを掘削し、当該ﾄﾚﾝﾁ北側ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ西壁の分層を行ったほか、拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1・3-3間の残りの畔の掘削を開始した。また、拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1の西壁や拡張ﾄﾚﾝﾁ3-2の北壁などの実測を行った。

8月19日（木） 遺構の半掘・完掘作業と、拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1・3-3間の畔掘削を行った。

8月20日（金） 第2次調査区において、来週から住宅の建設を着工する旨の連絡があり、急遽、隣地境界際を埋め戻すこととなった。そのため、拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1・3-3略南側における石敷遺構の検出状況のオルソ撮影を行ったほか、埋め戻される拡張ﾄﾚﾝﾁ3-3の西側ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁ略南側の図面を作成した。午後1時より重機により調査区の略南側を約0.6 m幅で埋め戻した。調査は、遺構の半掘・完掘作業を行ったほか、本調査区・拡張ﾄﾚﾝﾁ間の畔をⅡg層まで掘り下げた。



第Ⅱ-5図　拡張トレンチ3掘削経過模式図

図版Ⅱ-6　第4次調査作業状況2

8月21日（土） 前日に引き続き、遺構の半掘・完掘作業を行ったほか、本調査区・拡張ﾄﾚﾝﾁ３間の畔をⅡｇ層まで掘り下げた。

8月22日（日） 遺構の半掘・完掘作業のほか、拡張ﾄﾚﾝﾁ３南側（拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1・3-3）の清掃および掘り下げを行った。また、調査区を東西に切るｴﾚﾍﾞｰｼｮﾝ図や、拡張ﾄﾚﾝﾁ3-3の石積遺構平面図などの図面を作成した。

8月23日（月） 遺構の半掘・完掘作業のほか、拡張ﾄﾚﾝﾁ３南側において暗渠１層を掘削し、暗渠の起点を確認した。また、拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1の南側にｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁを設定した。

8月24日（火） 午前中、拡張ﾄﾚﾝﾁ３における遺構（石積遺構・石列遺構･暗渠）検出状況のオルソ撮影を行った。また､遺構の半掘･完掘作業を行ったほか、午後から拡張ﾄﾚﾝﾁ3-1・3-2と本調査区を繋ぐｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁをそれぞれ掘削し、堆積状況の確認を行った。

8月25日（水） 本調査区における遺構の完掘作業を終了した。拡張ﾄﾚﾝﾁ３は、第Ⅱ-５図のように掘削して堆積状況を確認しながら掘削を進めた。図面は、遺構の断面図のほか、拡張ﾄﾚﾝﾁ３南側のｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁや、ﾌﾞﾛｯｸ１・２の壁面などの実測を行なった。

8月26日（木） ﾌﾞﾛｯｸ１は、Ⅱｂ層と礫層（Ⅱｆ層）との堆積関係を確認するため、中央にｻﾌﾞﾄﾚﾝを設定して掘削し、マージ上面で遺構を検出した。ﾌﾞﾛｯｸ２は､撹乱･Ⅱｄ層･Ⅱｇ層を掘り下げた後、Ⅳ層上面に遺構（④土坑２）を検出した。当該遺構の覆土が第３次調査における土坑（N0.210）に近似すること、工事掘削範囲に隣接することから、ｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁを設定して覆土の一部を掘削した。ﾌﾞﾛｯｸ３では、礫層（Ⅱｆ層）中の赤色土層（Ⅱｅ層）の層順を確認するため、略南北方向にｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁを設定した。また、最終的な堆積状況の確認を行い、基本層序を決定した。図面は、拡張ﾄﾚﾝﾁ3-3北壁、ﾌﾞﾛｯｸ３西側東壁、ﾌﾞﾛｯｸ３東壁、本調査区横軸（東西方向）のエレベーション図の作成などを行なった。

8月27日（金） 雨のため、作業中止。

8月28日（土） 本調査区の床面を全面清掃し、午前中に本調査区の完掘状況を撮影した。午後からは、拡張ﾄﾚﾝﾁ３の掘削作業を行い、ﾌﾞﾛｯｸ１では、最後に残ったⅡｇ層を完掘して、マージ上面で遺構を検出した。ﾌﾞﾛｯｸ２は、④土坑２にｻﾌﾞﾄﾚﾝﾁを設定して掘削した。ﾌﾞﾛｯｸ３では、Ⅱｆ層の掘削後、Ⅱｇ層を掘り下げてﾋﾟｯﾄを検出した。なお、暗渠については時間の関係で完掘することが難しく、２ｄ層で止めている。

8月29日（日） 午前中は、拡張ﾄﾚﾝﾁ３の清掃及びﾋﾟｯﾄの検出を行い、午後から調査区全景の撮影及び記録作業を行なった。その後、道具の搬出を行い、明日予定している埋め戻しの準備を行なった。

8月30日（月） 朝から埋め戻しを行い、午後４時頃原状回復して調査を終了した。

図版Ⅱ-７　第４次調査作業状況３

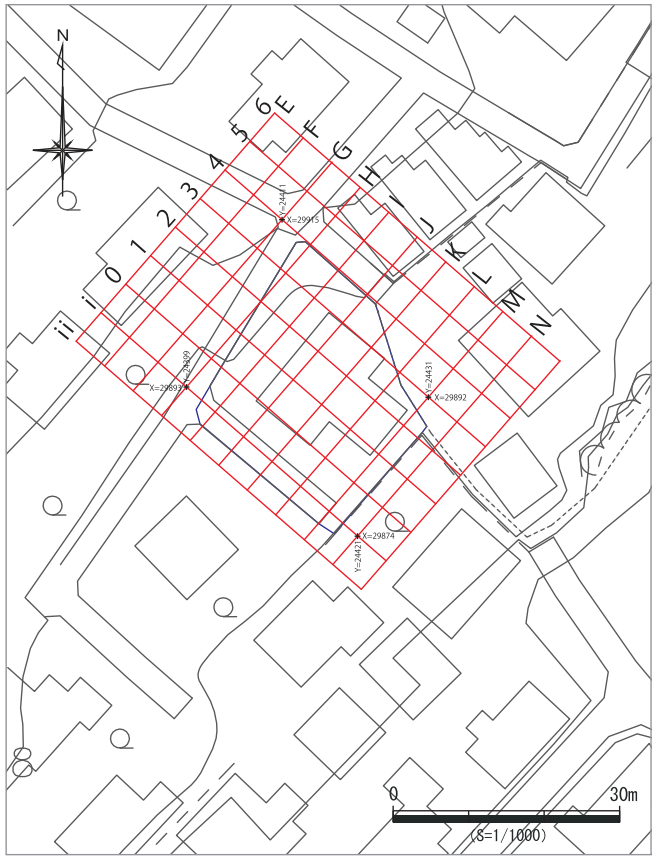
第Ⅲ章　発掘調査の成果

第１節　調査区の設定と層序

１．調査区の設定

調査区は、1997 年に実施した大山前門原第二遺跡の第１次緊急発掘調査で設定されたグリッドを利用した（宜野湾市教育委員会編 1999）。従って、座標北から東方に 41 度振る軸線を基軸として、南西から北東方向に算用数字を（「０」より南西方向にはローマ数字の小文字を充てた）、それに直交する北西から南東方向にアルファベットを５ｍ毎に付して任意の作業軸を設定した。ただし、グリッド番号は近年の調査に合わせて北隅の交点に指示している。

当初の調査範囲（試掘調査）はグリッドＧ～Ｍ-ｉ～４に及び、全体で約 500 ㎡を測ったが、調査の結果、南東側には遺構が拡がらないことが確認されたことから、本調査の範囲は概ねグリッドＨ～Ｋ-ｉ～４となった。当該範囲を３次に亘って調査し、その概要は以下の通りとなる。



第Ⅲ - １図　グリッド設定図

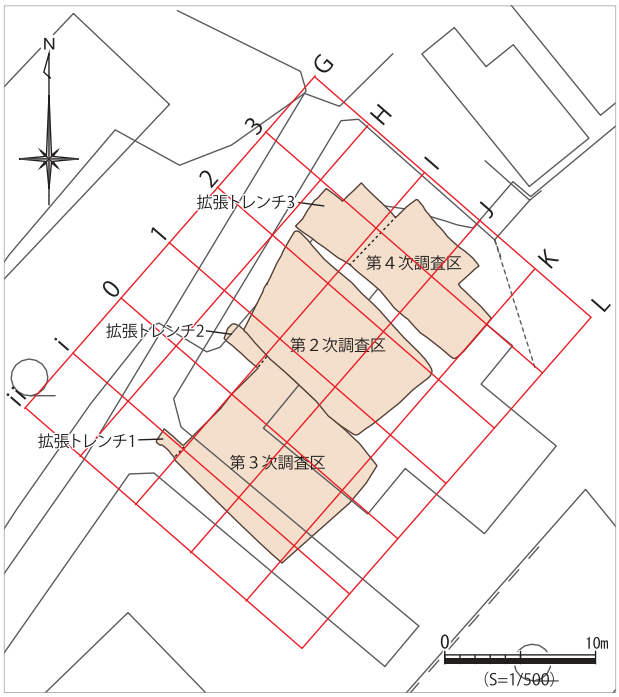
第Ⅲ - ２図　発掘調査区位置図と周辺の文化財

第２次調査　調査区はグリッドＨ～Ｊ-１～３の範囲で、第Ⅲ-３図のように設定した。トレンチは平面が台形状で、北西-南東軸（長軸）の北東側が約 13 m、南西側が約 10 mで、北東-南西軸（短軸）の北西側が約 7.5 m、南東側が約７mを測り、面積は約 96 ㎡である。

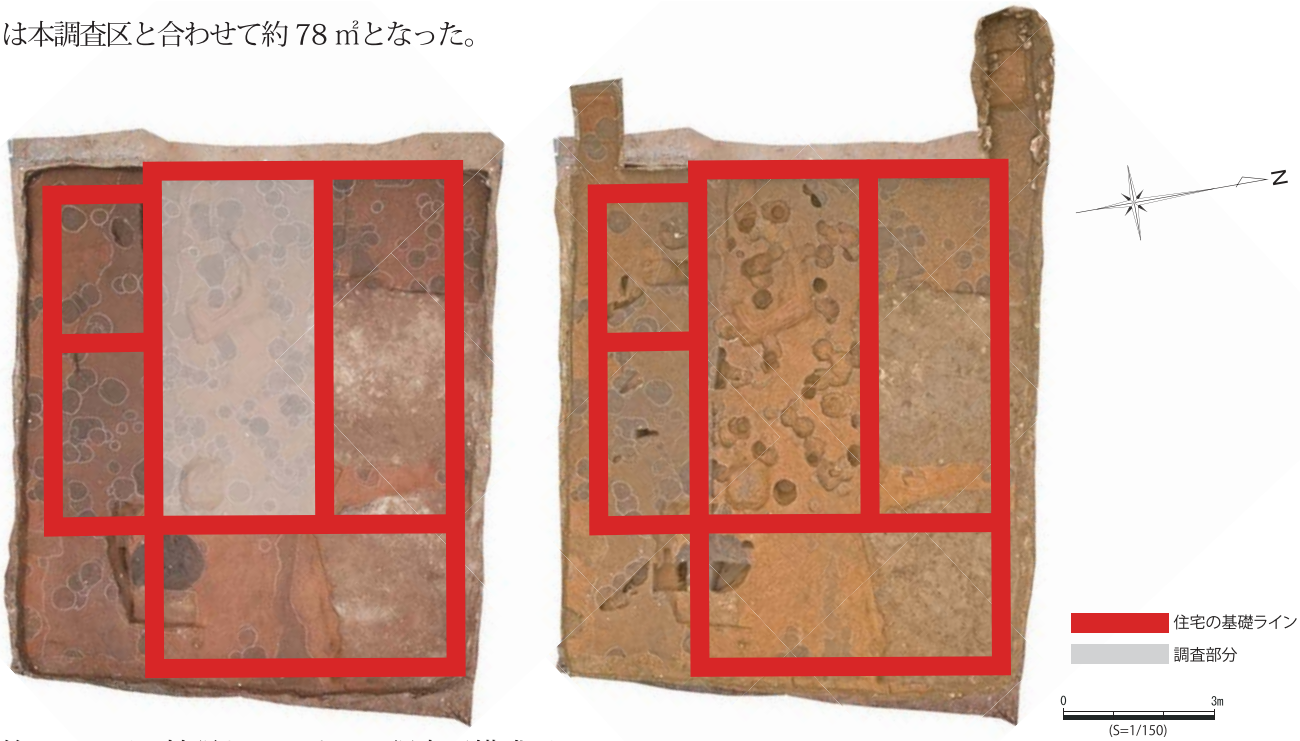
第３次調査　調査区はグリッドＩ～Ｋ-ｉ～１の範囲で、第Ⅲ-３図のように設定した。トレンチは平面が方形状で、北西-南東軸（長軸）が約 10 m、北東-南西軸（短軸）が約９mを測る。これを本調査区として、工事掘削が予定されている駐車場部分における遺構の拡がりを確認することを目的とし、北西側の両端に第Ⅲ-３図のような拡張トレンチを設けた。拡張トレンチ１は約 0.8 m × 約 1.6 m、拡張トレンチ２は約 1.0 m×約 3.2 mで、面積は本調査区と合わせて約 104 ㎡となった。

本調査区では、地権者及び不動産会社との事前の調整によって、建築が予定されている住宅の基礎部分を指定深度以上掘削しないことが求められたため、第Ⅲ-４図における赤線部分の掘削を避けた。また、時間的な制約から、遺構を全面的に掘削することも難しかったため、主な調査対象を図の網掛け部分に絞ることにした。

第４次調査　調査区はグリッドＩ～Ｋ-２～４の範囲で、第Ⅲ-３図のように設定した。トレンチは平面が鉤状で、北西-南東軸（長軸）が約 10 m、北東-南西軸(短軸)が約６mを測る。これを本調査区として、工事掘削が予定されている駐車場部分における遺構の拡がりを確認することを目的とし、北西側に約 1.5 m ×約 2.0 mの拡張トレンチ３-１を設定した。当該トレンチの調査によって、本調査区北西側には近世～近代の屋敷跡が残る可能性を考えて、第Ⅱ-４図のように拡張トレンチ３-２～３を設定したため、調査面積は本調査区と合わせて約 78 ㎡となった。



第Ⅲ-３図　各トレンチ配置図



第Ⅲ-４図　拡張トレンチ３の調査区模式図

2. 基本層序

大山前門原第一遺跡における第２次～第４次緊急発掘調査では、以下の通り、地山であるマージを含めて大きく５枚の層序（Ⅰ～Ⅴ層）を確認した。

Ⅰ層は、表土および現在の造成層である。

Ⅱ層は近代ないしは戦前（外人住宅より前）の造成層で、大きくａ～ｇの７層に分けられ、Ⅱｄ層はさらに３層に細分した。Ⅲ層は、自然科学分析では年代がやや古くでているが、出土遺物から近世の造成層で、グスク時代までは遡らないと判断した。

Ⅱａ層：褐色（10YR4/4）で、砂質のシルト層。石灰質砂粒を多く混入し、拳大の石灰礫や獣骨片、場所によってはコンクリート片や赤瓦を含む。

Ⅱｂ層：明褐～褐色（7.5YR5/6 ～ 4/6）で、締りのあるシルト層。マージ主体の造成層で、石灰質砂粒が混じる。第４次調査のトレンチに堆積する。

Ⅱｃ層：暗褐色（10YR3/3）で、締りのあるシルト層。石灰質砂粒・マージ粒・炭化粒・焼土粒が混じる。Ⅱｇ層に似るが、色調はⅡｇ層より暗い。第４次調査のトレンチに堆積する。

Ⅱd_1層：黒褐色（10YR3/2）で、粘質のあるシルト層。締まりは悪い。石灰礫・獣骨片・陶片・ガラス片を混入する。コンクリートは入らない。礫の混入は、Ⅱａ層やⅡｅ層、Ⅱｆ層より少ない。

Ⅱd_2層：黒褐色（10YR3/2）で、粘質のあるシルト層。Ⅱd_1層にマージブロックが混入する。

Ⅱd_3層：明褐色（10YR3/3）で、締りのあるシルト層。マージ主体で、礫や石灰質砂粒が少量混じる。

Ⅱｅ層：明褐～褐色（7.5YR5/6 ～ 4/6）で、締りのあるシルト層。色調はⅡｂ層に似るが、石灰質砂粒や石灰礫を混入する。また、場所によっては下層に黒色土粒（7.5YR3/2）が混じる。Ⅱd_2・Ⅱd_3層との前後関係は不明。

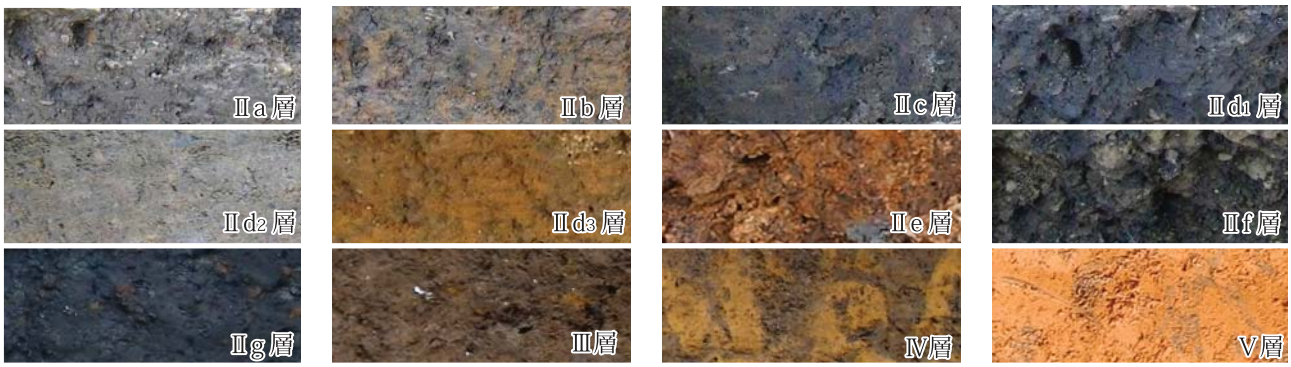
Ⅱｆ層：黒褐色（7.5YR3/1 ～ 3/2）で、締りの弱いシルト層。石灰礫が充填しマージ粒・炭化粒が混じる。

Ⅱｇ層：暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）、黒褐～暗褐色（10YR3/2 ～ 3/3）で、締りのあるシルト層。焼土粒や炭化粒が見られ、マージ粒も若干混じる。第３次調査の拡張トレンチ２では、獣骨片や貝が多く検出され、第４次調査で検出した同層とは様相が異なっていたことから、当初この２つを区別したが、人工遺物の出土状況や土色・土質などから同じ層と判断した。

Ⅲ　層：褐灰色（10YR4/1）で、粘質のあるシルト層。締まりは弱い。獣骨の小片を多く含む。第３次調査の拡張トレンチ２掘削の際に確認した堆積層で、当該トレンチを中心に一部残る。第２次調査では識別することができなかったが、少なくともトレンチ西隅に残っていた可能性が考えられる。

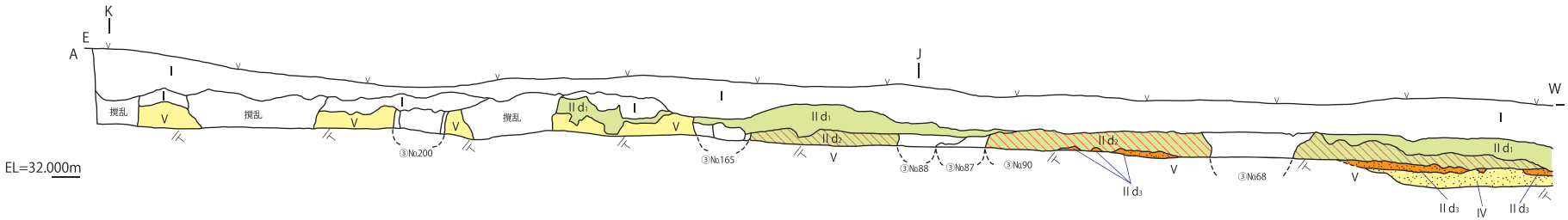
Ⅳ層はマージの二次堆積層で、上層の土が混じる。無遺物層で、この上面から遺構が検出された。自然科学分析の結果から、地山と判断して良いと思われる（本章第４節参照）。

Ⅴ層はいわゆるマージで、地山である。土質から普天間飛行場基地内のⅥ層に近似すると思われる。

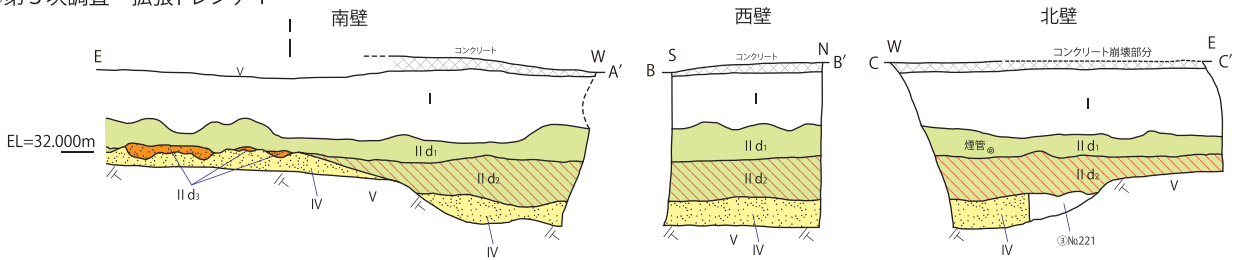


第Ⅲ - ５図　土色イメージ図

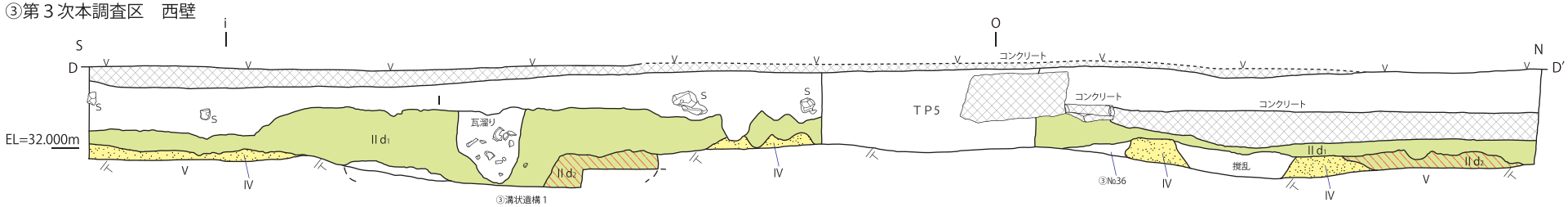
①第３次本調査区　南壁



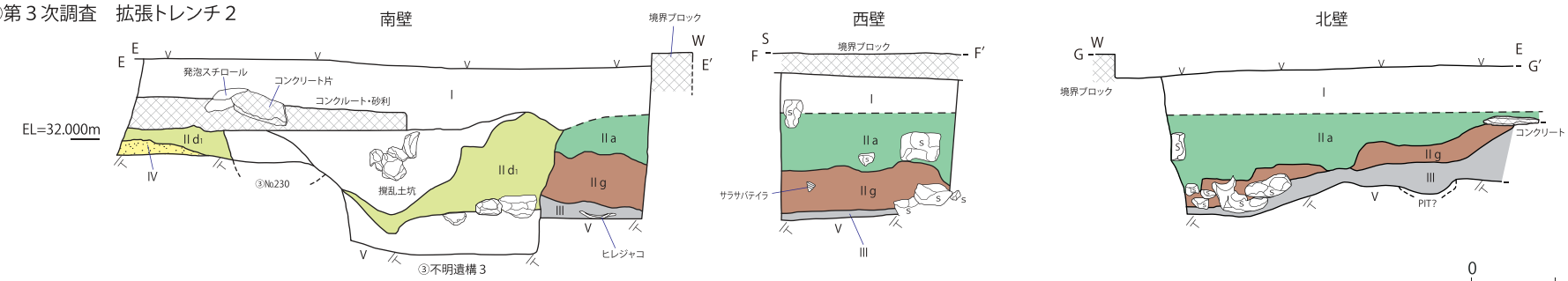
②第３次調査　拡張トレンチ１



③第３次本調査区　西壁



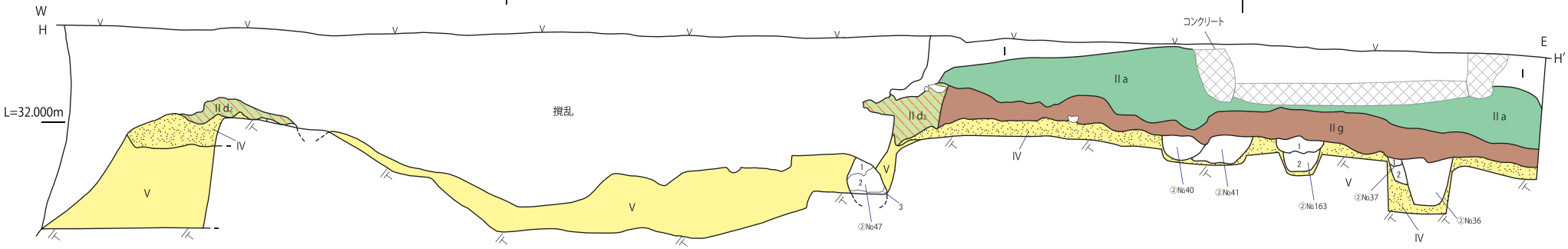
④第３次調査　拡張トレンチ２



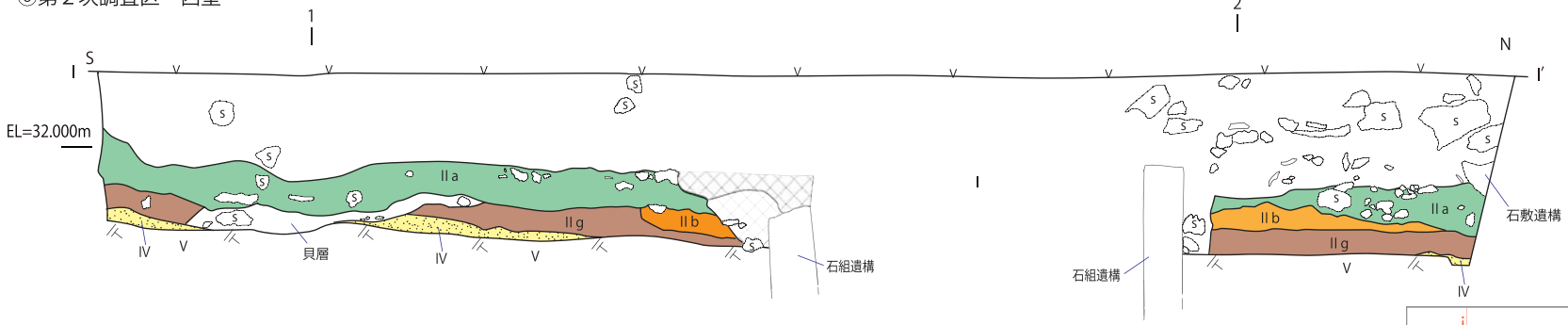
第Ⅲ - ６図　調査区断面図１

0　1m
(S=1/40)

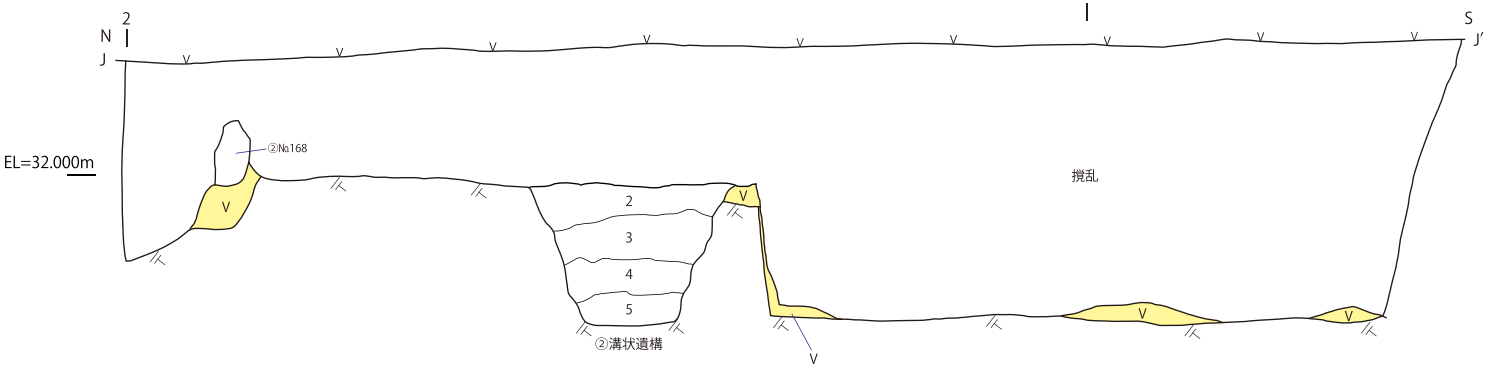
⑤第２次調査区　南壁

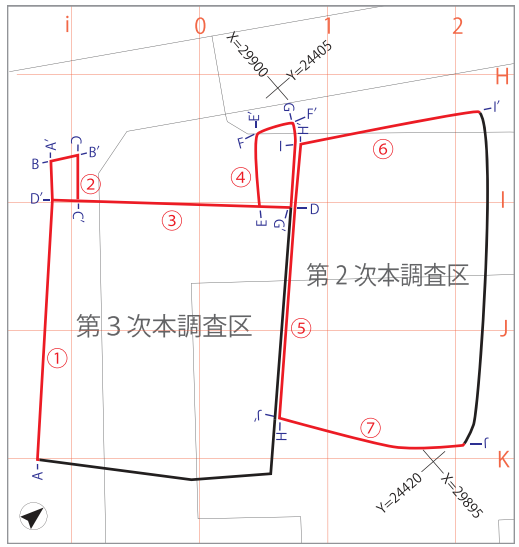


⑥第２次調査区　西壁



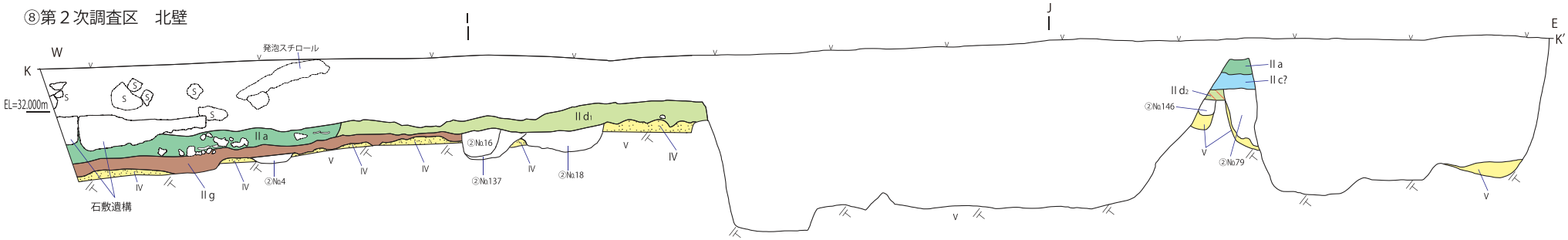
⑦第２次調査区　東壁



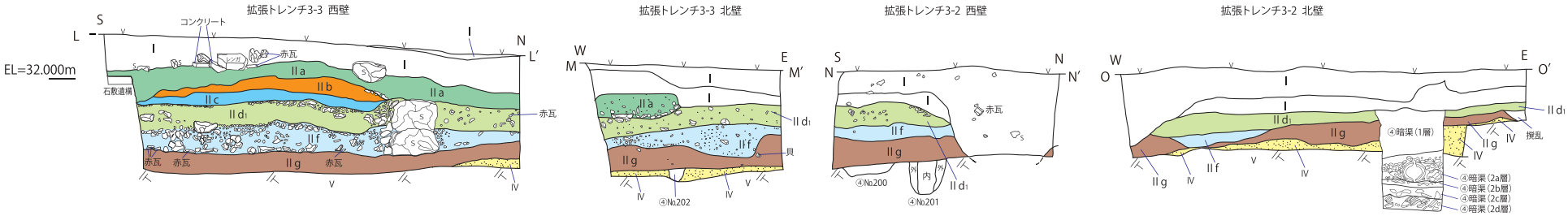


第Ⅲ－７図　調査区断面図２

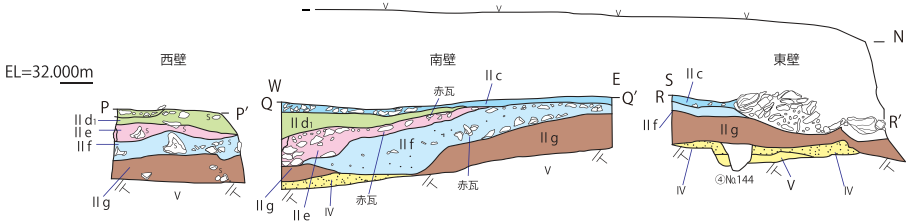
⑧第２次調査区　北壁



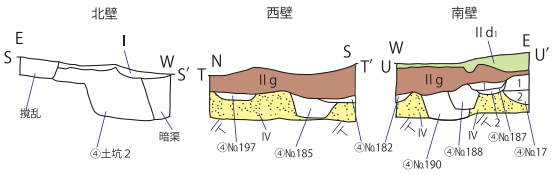
⑨第４次調査　拡張トレンチ３　西壁・北壁



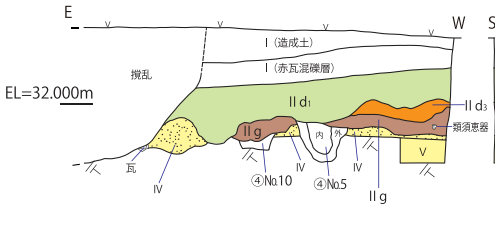
⑩第４次調査　拡張トレンチ３　ブロック３



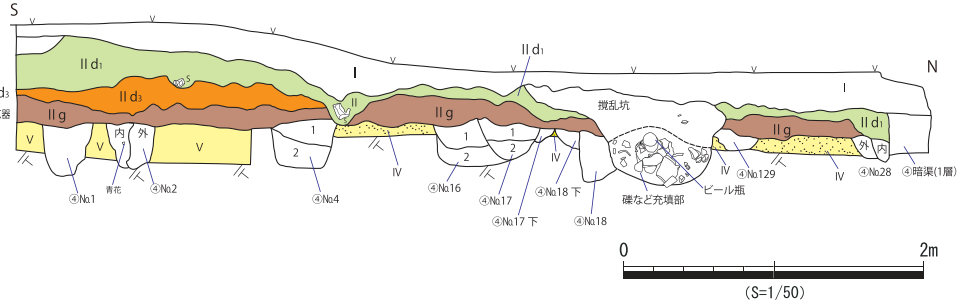
⑪第４次調査区　拡張トレンチ３　ブロック２

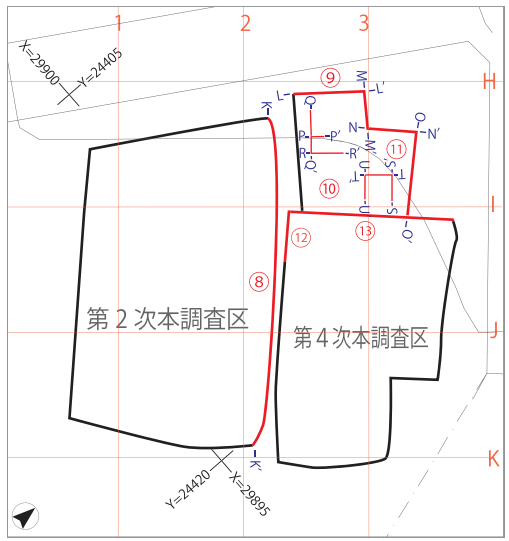


⑫第４次本調査区 南壁（西側）



⑬第４次本調査区 西壁





0　2m
(S=1/50)

第Ⅲ－８図　調査区断面図３

第２節　遺構

本遺跡の第２次～４次調査区では、総数 644 基（未掘削のものも便宜的に含めた）の遺構が確認された。調査区北側の一角では、Ⅱａ層（近現代層）中から石組遺構、石畳、石敷遺構、暗渠、石積遺構、石列遺構が確認された。これらの遺構下に堆積している造成層を掘削すると、浅い所（調査区南側）では地表面から約 10 ㎝、深い所（調査区北側）では約 90 ㎝で地山が確認された。地山面全体には、バックホーによる深い掘削箇所（撹乱部）を除き、主に黒褐色、褐色などの色調をした円形状の遺構が検出された。これについては、掘立柱建物の柱穴跡と仮定し、調査区毎で任意に番号を振った。

しかしながら、番号を振ったものの中には、木の根等の有機物が腐食した痕と思われるものや、円形状の撹乱も確認されたことから、欠番にしたものが多数存在する。また、遺構半掘後の断面観察で、新たに確認された遺構については、遺構番号に上、下、－２などを付加した※。

※以下、遺構番号及び遺構名称の頭に付く②～④の表記は、それぞれ調査区を表す。

１．遺構の種類

今回の調査では、11 種類の遺構が確認された。種別は、石組遺構（第２次）、石畳（第２次）、石敷遺構（第４次：２基）、暗渠（第４次）、石積遺構（第４次）、石列遺構（第４次）、柱穴跡（第２次：156 基、第３次：143 基、第４次：162 基）、溝状遺構（第２次：１基、第３次：２基、第４次：１基）、土坑（第２次：１基、第３次：１基、第４次：２基）、土坑状遺構（第３次）、不明遺構（第３次：３基、第４次：２基）である。

２．Ⅱ層（近現代層）内より検出された遺構

2-1．第１検出面（第Ⅲ - ９図）

②石組遺構、②石畳、④石敷遺構１・２は、同一層より検出されたこと、切石面の軸向きや、レベルが概ね合うことから、同時期に並存した遺構と推測される。②石組遺構は、北西側で検出された遺構で、石灰岩の板状切石を方形状に組んだものであるが、遺構の性格は不明である。②石畳は、切石面を持つ床石や切石で構築された縁石が北西側に向いて配置されている。④石敷遺構１は、ウヮフール（豚小屋兼便所）などの家畜小屋の一部と推測される。当遺構は南西方向に下方傾斜することから、当施設の正面が南西向きに構築されていた可能性がある。また、④石敷遺構２はこの家畜小屋に伴う遺構と考えられる。

2-2．第２検出面（第Ⅲ -10 図）

④暗渠は、④石積遺構・④石列遺構を一部壊す形で確認された。当該遺構は、暗渠廃棄時の埋土または暗渠の上部構造として利用されていた埋土（暗渠１層）と、排水施設（暗渠２ａ～２ｄ層）の２つに分けられる。２ｄ層は瓦片と砂を充填。２ｃ層は石灰岩小礫と砂を充填。２ｂ層は２ｄ層と同様な構成だが、２ｄ層と比べると、主に砂が充填された層であった。２ａ層は、丸瓦２枚を合わせた面が上を向くよう筒状に組み、縦列配置されている。また、これらの周辺には瓦片、石灰岩小礫、砂が敷き詰めた構造となっている。前述のことから、④暗渠は排水効果を高めるための設備を備えていたことが窺える。なお、当遺構は西側に向けて緩やかに下方傾斜しており、拡張トレンチ３- ２北壁から、東側（調査区外）に続くことが確認された。

2-3．第３検出面（第Ⅲ -11 図）

④石積遺構・④石列遺構は、検出状況から同時期に並存していた可能性が考えられる。なお、これらの遺構は、何らかの施設の一部と想定されるが、性格は不明である。当遺構は、その後に構築される④暗渠によって部分的に破壊を受ける。

2-1 ～３で紹介した遺構は、Ⅱ層（近現代層）内で確認されたものであることから、第２次調査区北側～拡張トレンチ３側では、近現代期において短期間での改築または増築等が行われたことが推測される。

３．地山面で検出された遺構

3-1．溝状遺構

今回、溝状遺構は４基確認されており、いずれも北西ー南東軸方向に延びる形で確認された。②溝状遺構は、Ｊラインに向かって立ち上がり、南東側では調査区外に続くことが確認された。断面観察では５層に細分される。③溝状遺構１は、南東から北西に向けて下方傾斜している。断面観察からは、サブトレンチ２で１～３層、サブトレンチ１で１・２層が確認された。一方、調査区西壁で遺構覆土の堆積層を確認することができたが、建築が予定されている建物の基礎ラインに当たるため遺構の下端まで掘り下げることはできなかった。③溝状遺構２は、サブトレンチ３西壁の状況から、比較的浅い溝であることが確認された。サブトレンチ４の撹乱下部からは溝状の凹みが確認された。これを④溝状遺構とした。当該遺構の幅は、北東側の調査区外に延びることが確認された。ちなみに、②溝状遺構、③溝状遺構２、④溝状遺構は、約 80 ㎝の間隔を空けて検出されたが、詳細は不明である。

3-2．土坑

②土坑からは、ウシの四肢骨が中央部に重なるように検出された。当遺構は、この廃棄場所として掘られたものと推測される。なお、この遺構周辺にはピット集中域があまり見られない。③土坑は、検出面からは少なくとも短径が約 1.3 ～ 1.6 ｍで、深さが約 80 ㎝の規模の大きい遺構である。ピットが集中しない南側で検出された。④土坑１は、ピットに囲われるように検出された。覆土は２層に細分されたが、遺構の性格は不明である。④土坑２は、柱穴跡が密集する場所で検出されたが、遺構の性格は不明である。

3-3．土坑状遺構

③土坑状遺構は、断面形状から擂鉢状に落ち込む遺構である。覆土は、２層に細分された。１層は炭化物が多量に混入している。

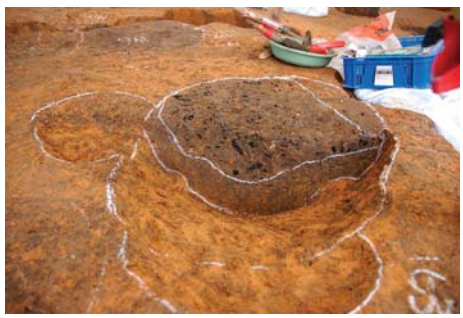
当該遺構は、屋外炉のような性格を持つ可能性が考えられるが、焼土塊などが検出されておらず、遺構の性格は不明である。

3- 4．不明遺構

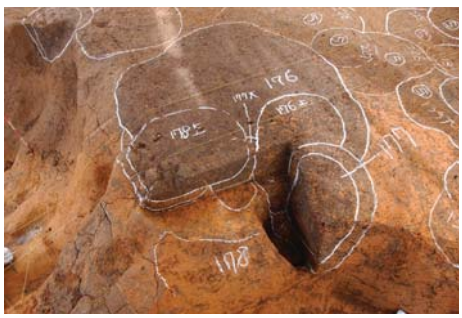
③不明遺構１は、全体的に掘削していないため、詳細は不明である。しかしながら、遺構北側を一部掘削すると、検出面では確認が困難であったピットが幾重にも切り合う状況が確認された。このことから、当遺構内で掘削していない箇所に関しては、ピットが密集している可能性が考えられる。③不明遺構２も、検出面でしか遺構を確認しておらず、詳細は不明である。しかし、③不明遺構１と同様にピットが集中する場所で確認されたことから、ピット密集遺構の可能性もある。③不明遺構３は、拡張トレンチ２の中央で検出された遺構である。この直上には石灰岩礫が密集している状況が確認された。土坑の可能性も考えられる。④不明遺構１は、詳細不明だが、土坑の可能性もある。④不明遺構２は、半掘後の断面観察から溝状遺構の可能性が考えられたが、遺構の性格は不明である。

②溝状遺構

②土坑



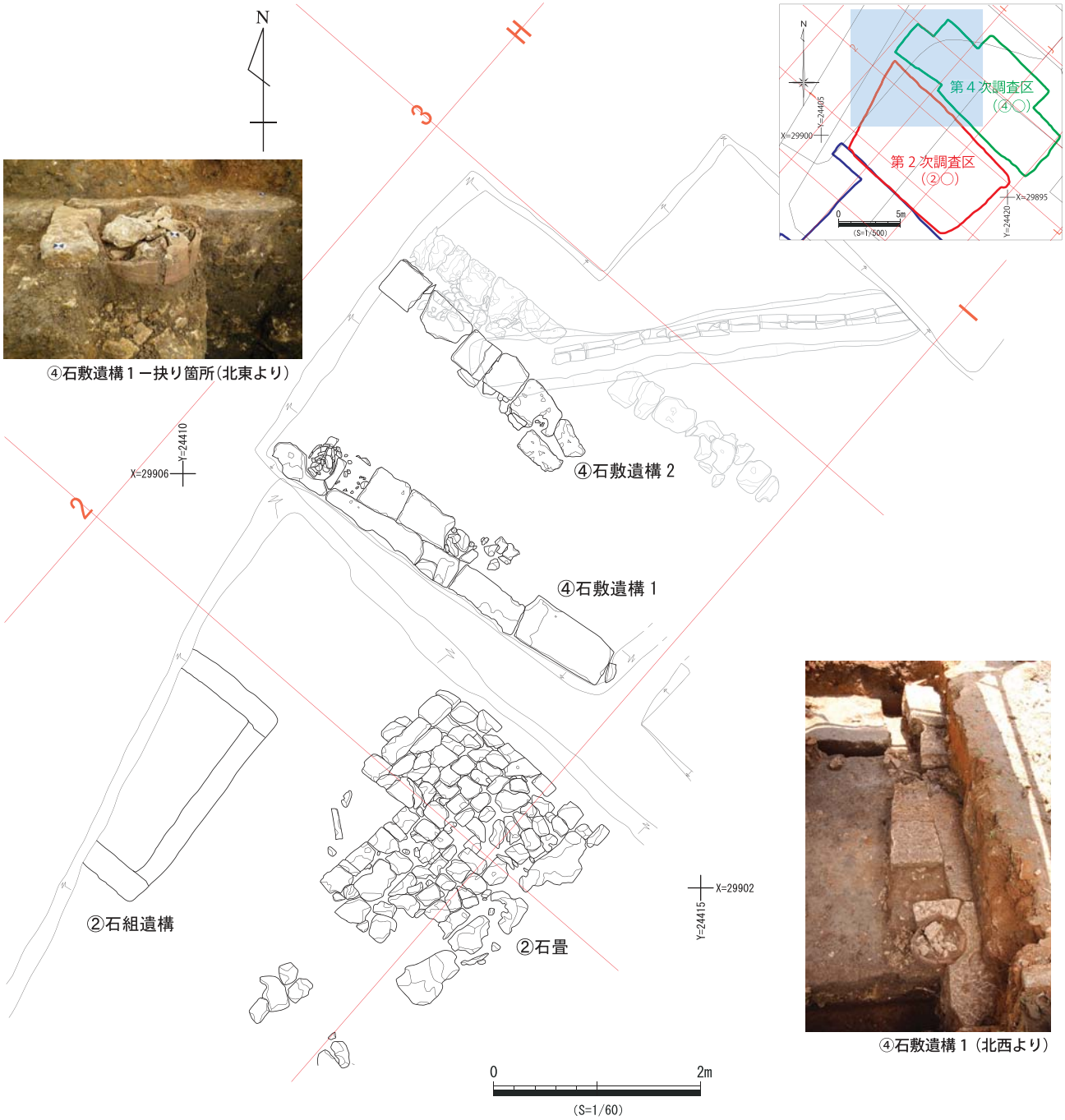
③土坑状遺構



③不明遺構１

図版Ⅲ - 1　第４検出面遺構

④石敷遺構１一抉り箇所（北東より）

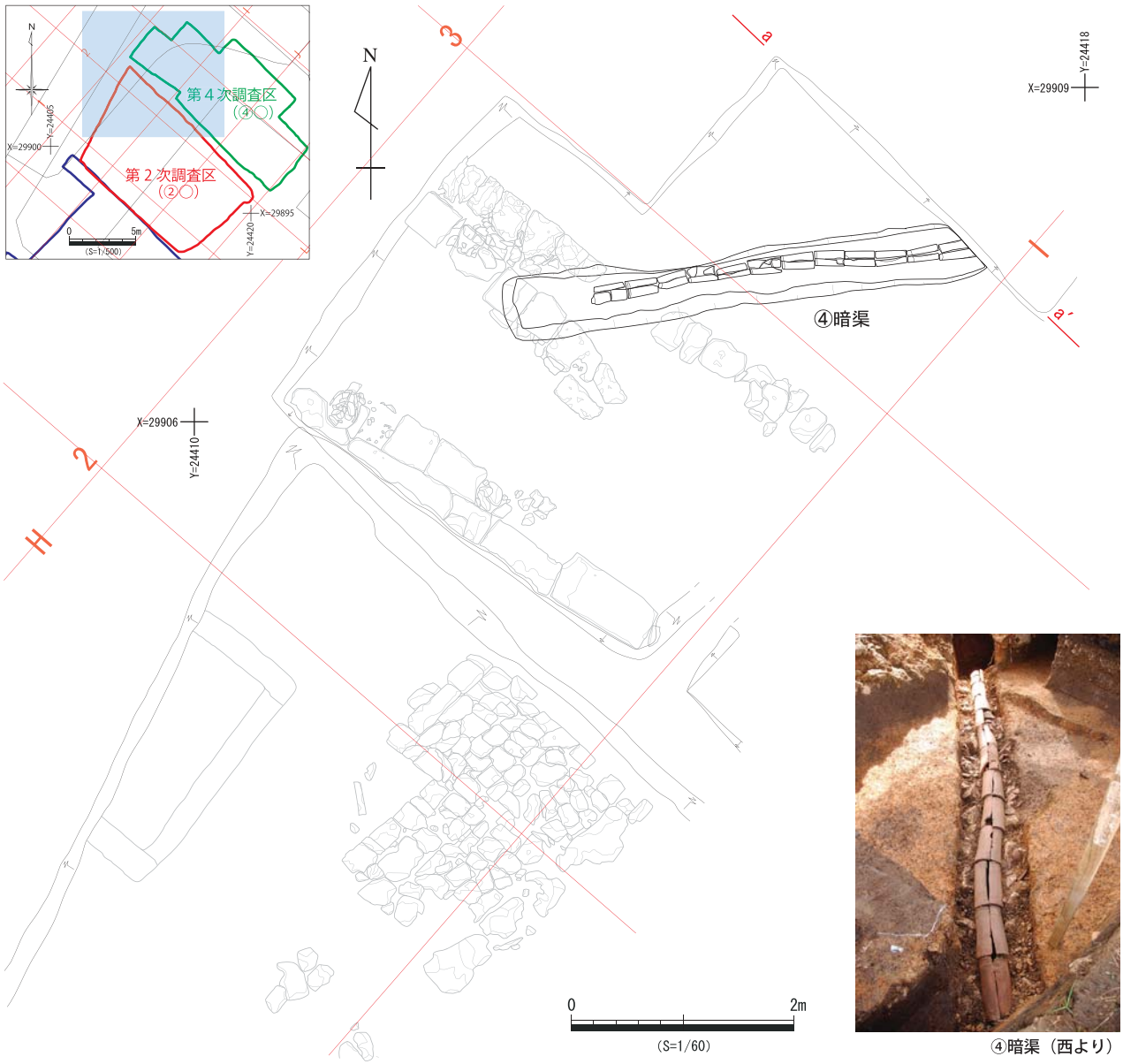


④石敷遺構１（北西より）

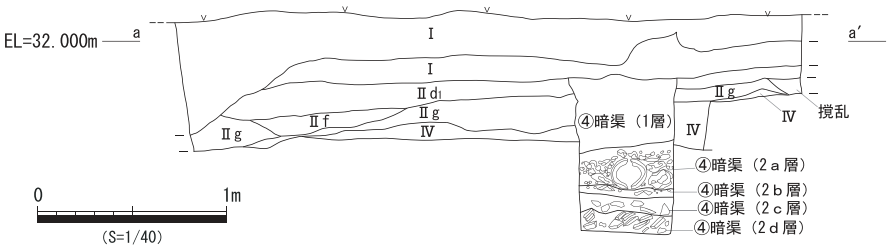
②石組遺構（南東より）

②石畳（北より）

第Ⅲ - ９図　遺構第１検出平面図［②石組遺構・②石畳、④石敷遺構１・２］



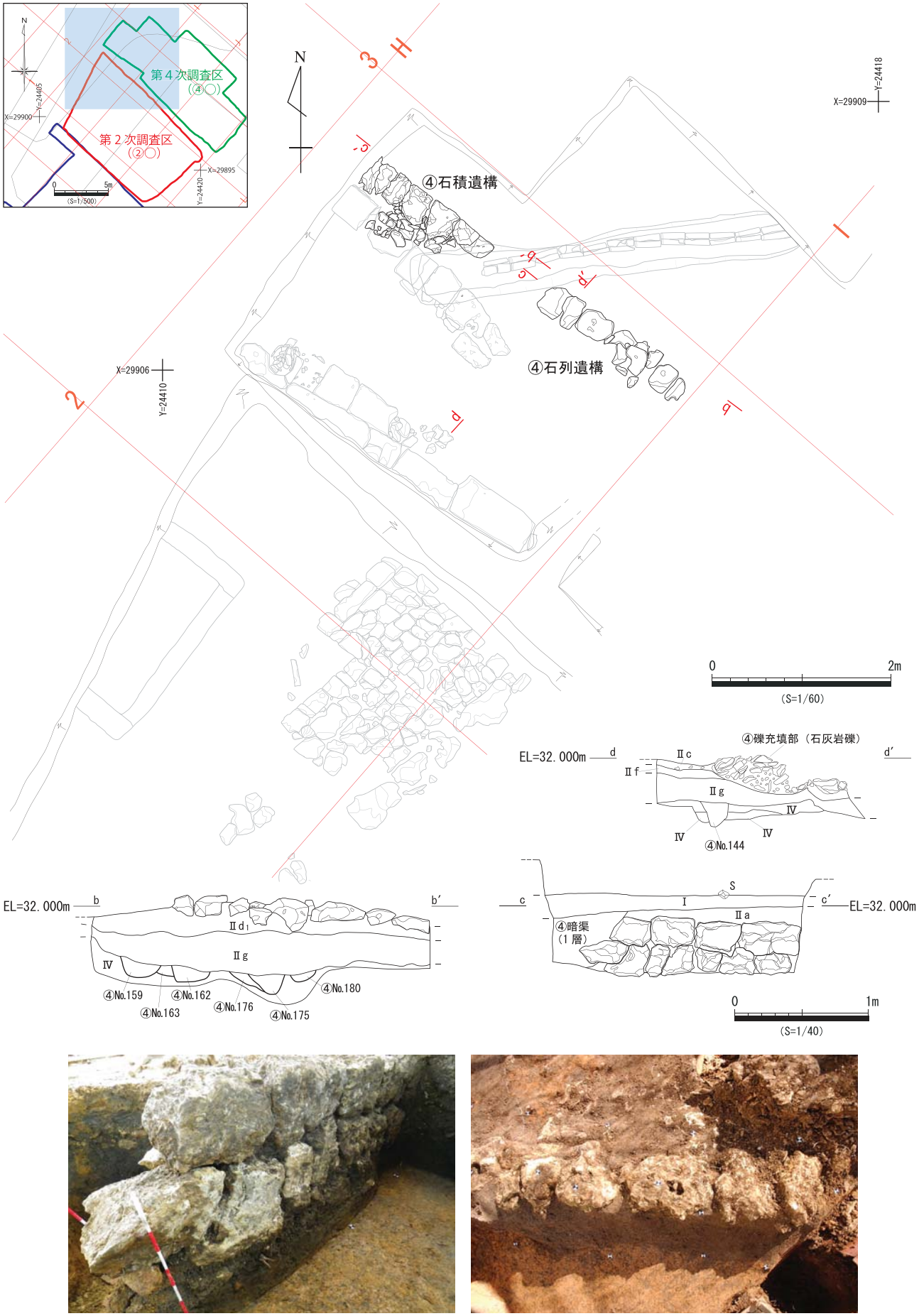
④暗渠（西より）



④暗渠（東より）

④暗渠断面（西より）

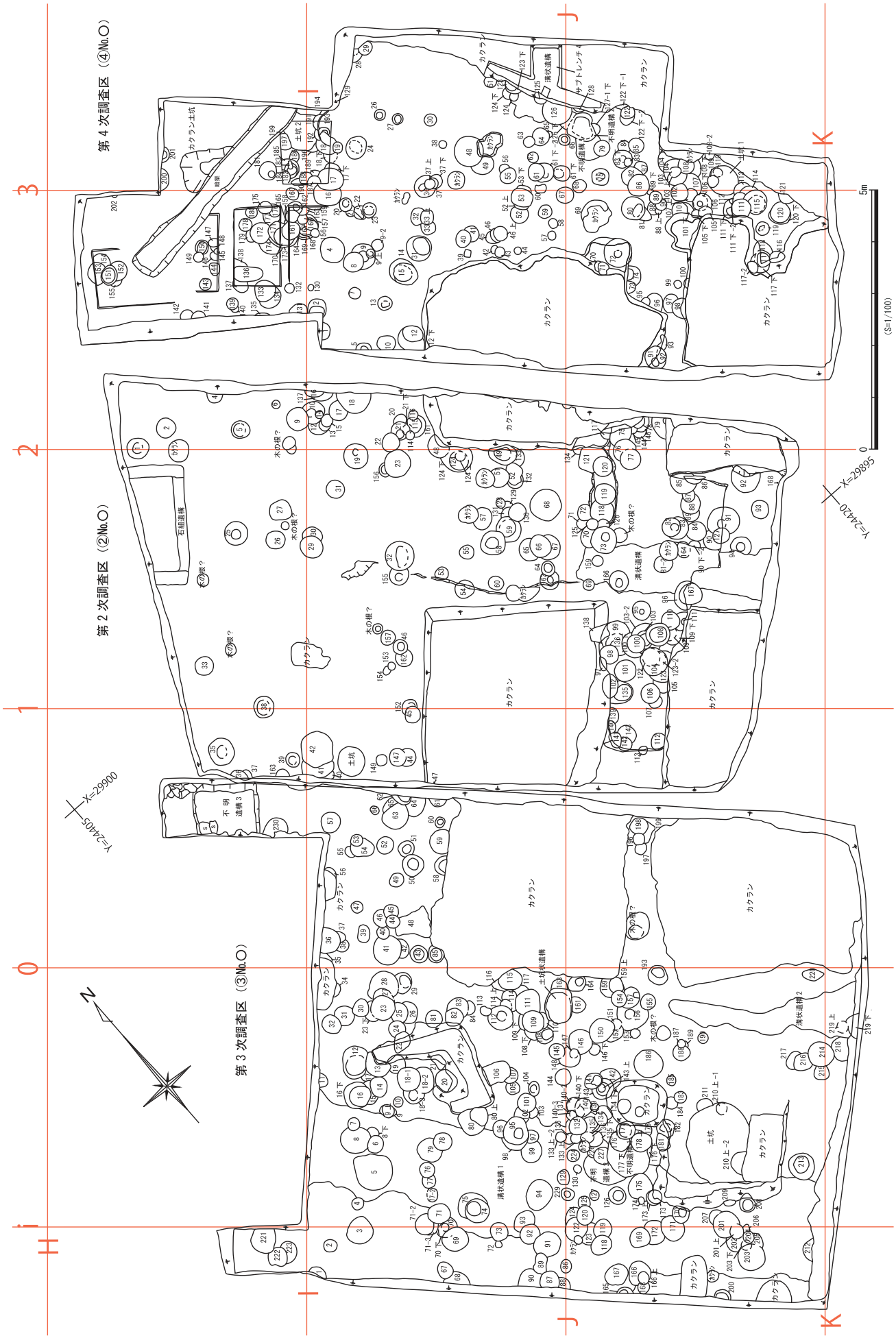
第Ⅲ-10図　遺構第２検出平面図［④暗渠］・拡張トレンチ 3-2 北壁面図



④石積遺構（東より）

④石列遺構（北東より）

第Ⅲ -11 図　遺構第３検出面［④石積遺構・④石列遺構］の平面図及び断面図



第Ⅲ -12 図　遺構第４検出平面図

第Ⅲ-13 図　遺構完掘平面図

3-5. 柱穴跡

623 基のピットの内、掘立柱建物の柱穴跡と推測されたもの（半掘及び完掘した遺構に限る）は、461 基である。この中には、柱痕が残存した遺構が 70 基確認された。しかし、これら検出された遺構は、数が多く、遺構の切り合いが複雑なものも多いことから、掘立柱建物跡の明確なプランを探すことが困難と判断された。そのため、掘立柱建物プランを推測復元するために、分類基準を『市内埋蔵文化財発掘調査報告書』（宜野湾市教育委員会編 2010）に概ね準拠する形で行った。柱穴跡の分類基準は、検出面のサイズ、断面の形状、底面のレベル、覆土の色調の 4 つを設けた。

（1）遺構の検出面サイズ

母屋の柱穴は直径約 20 ～ 50 ㎝、高倉の柱穴は直径約 40 ～ 60 ㎝となるようである。そこで、検出面が 20 ～ 50 ㎝を基準とし、これより小さいものを s（small）、大きいものを l（large）とした。今回の調査では、遺構検出面の直径平均値は、33.2×31.4 ㎝（長軸が不明なものは、短軸を参考）であったことから、主に母屋の柱穴が残存している可能性が考えられた。なお、今回は検出面が 20 ㎝未満、掘削深度が 10 ㎝未満の遺構については、柱穴跡の可能性から除外した。

（2）遺構の断面形状（第Ⅲ - 1 表）

地山面で検出される遺構は、直上層の状況から、当時の遺構上面は削られていると判断された。そのため、遺構深度は考慮せず、基底面の断面形状に注目した。形状からは、大きく 4 つに分類した。この中で、柱穴跡と推測される形状は、主に A ～ C 類に属するものと考えられる。このことから、今回の調査では D 類を除いた全てが柱を据えるために掘り込んだ柱穴跡とした。

（3）遺構の底面レベル（第Ⅲ - 2 表、第Ⅲ -24 図）

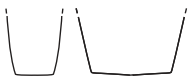
当該調査区及び周辺一帯の地形は、南側から北側に向かって緩やかに下方傾斜している（第Ⅲ -27 図）。地山面で検出された柱穴跡と思われる遺構面の高低差は、南側と北側で約 80 ㎝あり、これら遺構の底面は、南側と北側で約 1.2 m の高低差が認められた。このため、概ね地形に沿った形で建物が建てられていることが推測された。

このことから、同等な底面レベルを有する遺構は、建物のプランを探るために有効と考えた。そこで、確認されたレベルが最も低い柱穴跡と最も高い柱穴跡を調べ、その間を任意に 20 ㎝単位で区切った。その結果、6 つの分類を設けることとなった。

（4）覆土の色調分類（第Ⅲ - 3 表、第Ⅲ -25 図）

今回の調査で確認された遺構の覆土色調は、大きく 4 つに分けられる。これに、切り合い関係、出土遺物を勘案すると、覆土では新旧関係について言及することは困難であった。しかしながら、当分類は、底面レベル分類ごとで同時期に廃棄された可能性のある柱穴跡を探るために、補足する形で利用した。

第Ⅲ - 1 表　遺構の断面形状分類

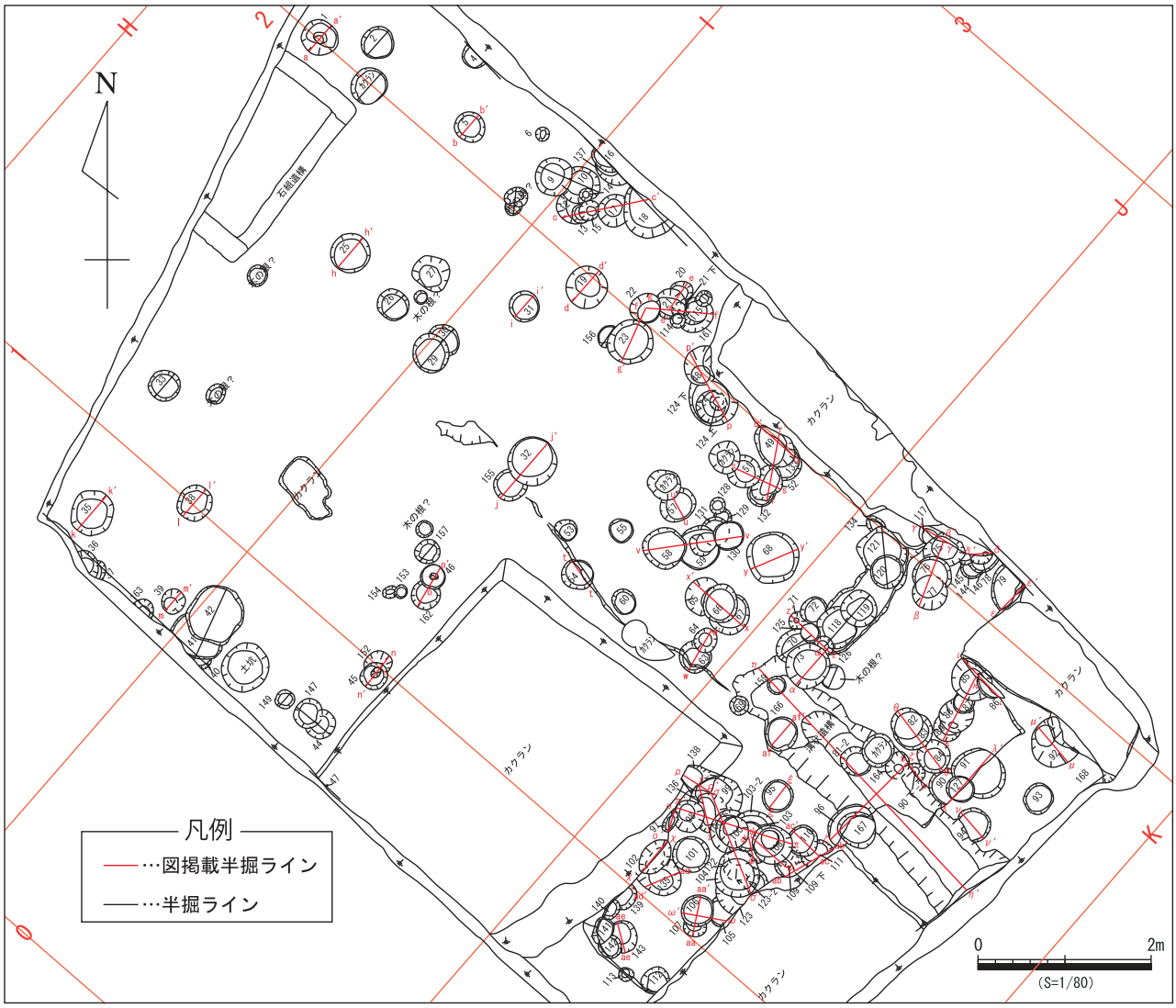
	分類	模式図／備考
A	基底部に平坦面があるもの。	
B	基底部に平坦面がないもの。（基底部が丸味を帯びるものや多少凹凸するもの）	
C	基底部に段を持つもの。	
D	柱を据えるには難のあるもの。（基底部が斜めのものや大きく凹凸するもの）	
＋	柱痕があるもの。	柱穴
s	直径20㎝未満のもの。	柱穴の可能性低い
l	直径50㎝以上のもの。	高倉の可能性あり

第Ⅲ - 2 表　遺構の底面レベル分類

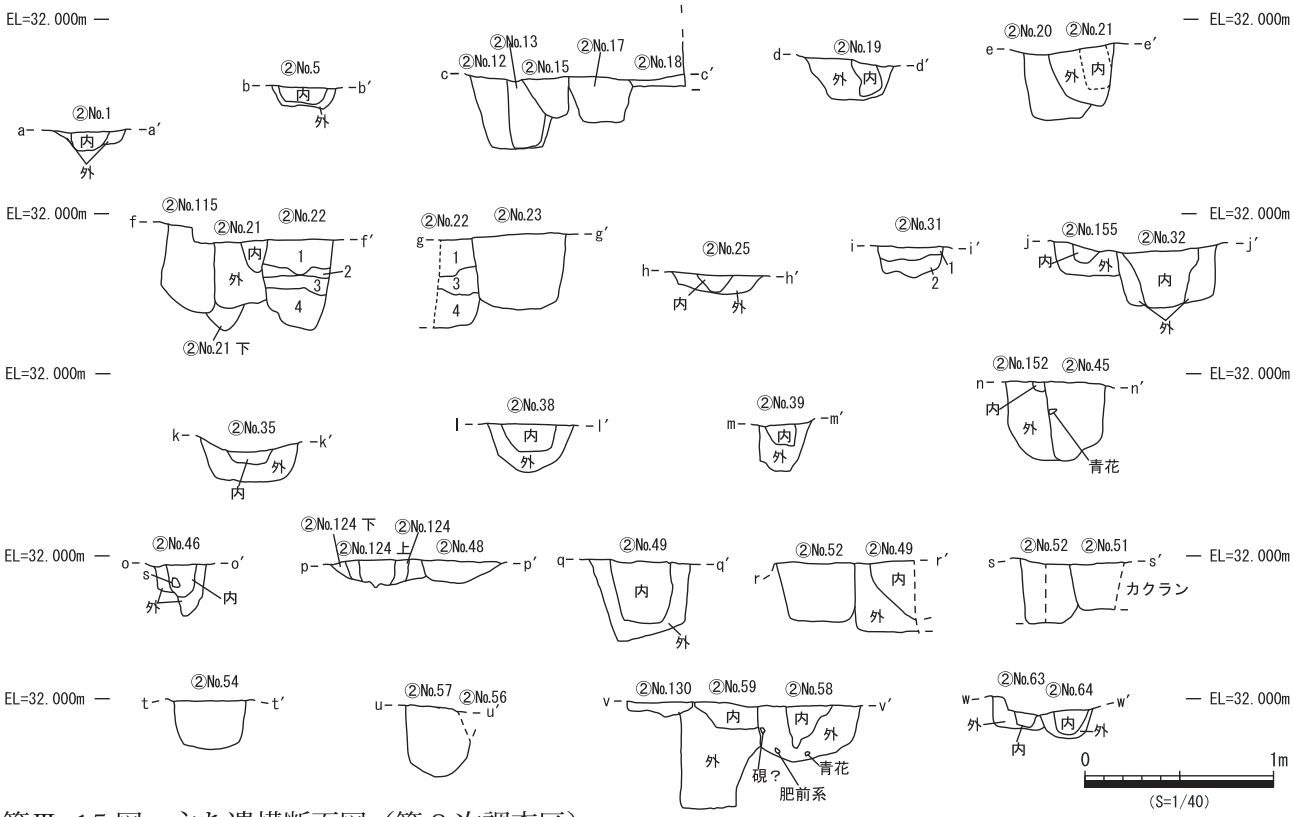
分類	底面レベル（20㎝区切り）
Ⅰ	31.101～31.300m
Ⅱ	31.301～31.500m
Ⅲ	31.501～31.700m
Ⅳ	31.701～31.900m
Ⅴ	31.901～32.100m
Ⅵ	32.101～32.300m

第Ⅲ - 3 表　遺構の覆土色調分類

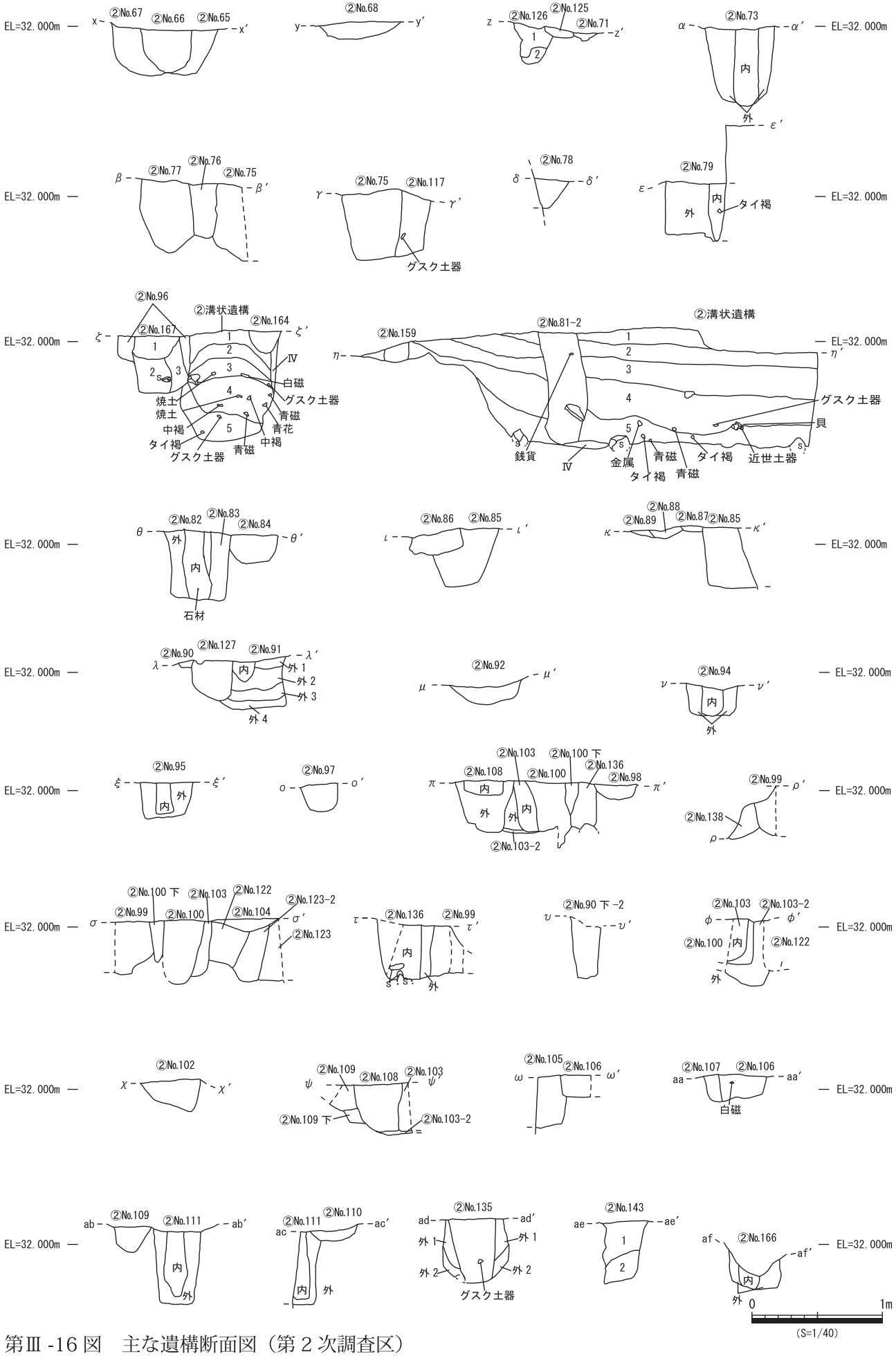
分類	色調
a	黒褐色系
b	暗褐色系
c	褐色系
d	黄褐色系



第Ⅲ-14図　主な遺構半掘ライン（第２次調査区）

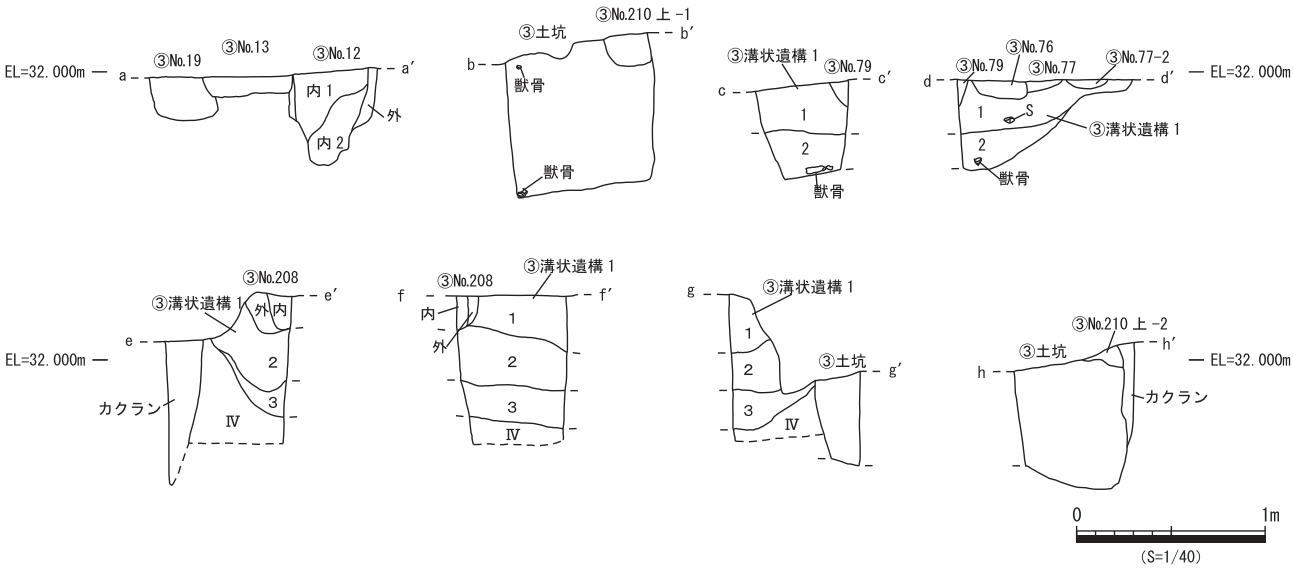


第Ⅲ-15図　主な遺構断面図（第２次調査区）



第Ⅲ -16 図　主な遺構断面図（第 2 次調査区）

第Ⅲ -17 図　主な遺構半掘ライン（第 3 次調査区）



第Ⅲ -18 図　主な遺構断面図（第 3 次調査区）

③ 23・23 下・25・27 ～ 30（南東より）

③No. 18-1 ～ 3（南東より）

③No. 69 ～ 71-3（南西より）

③No. 95 ～ 97（北東より）

③No. 145 ～ 148・150 ～ 157・159 上・159（南東より）

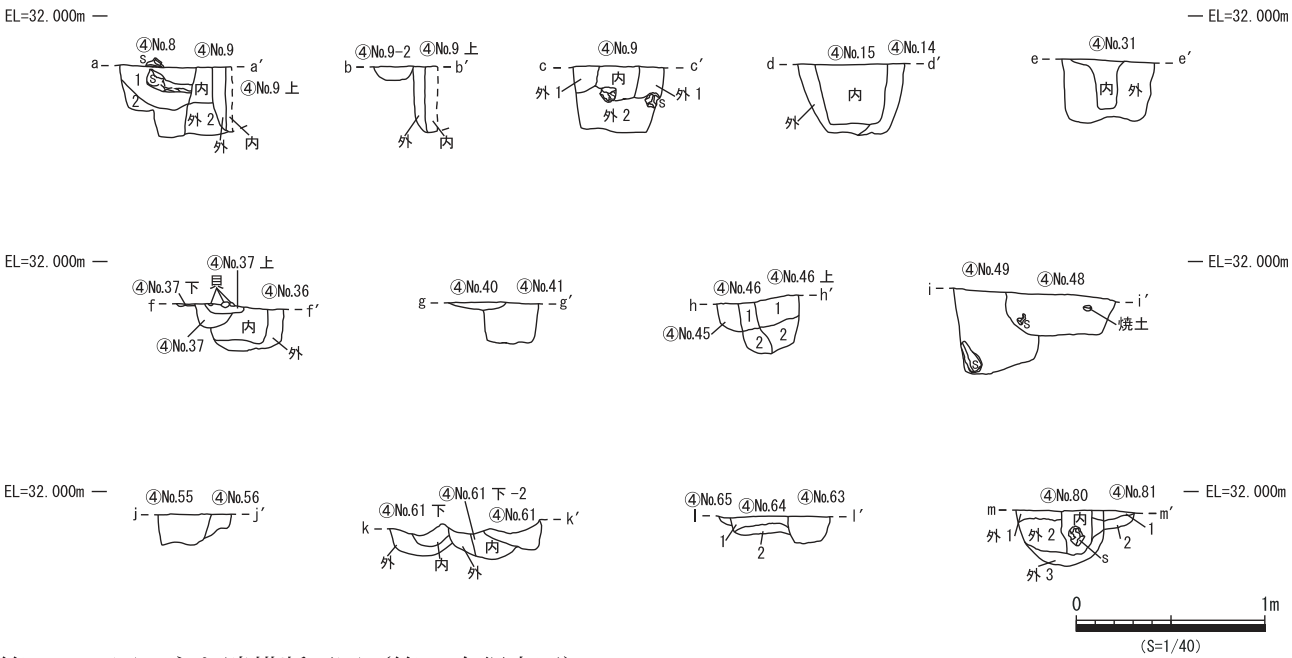
③No. 201 ～ 207（南東より）

サブトレンチ 1 - ③溝状遺構、③No. 76・77・77-2・79（北西より）

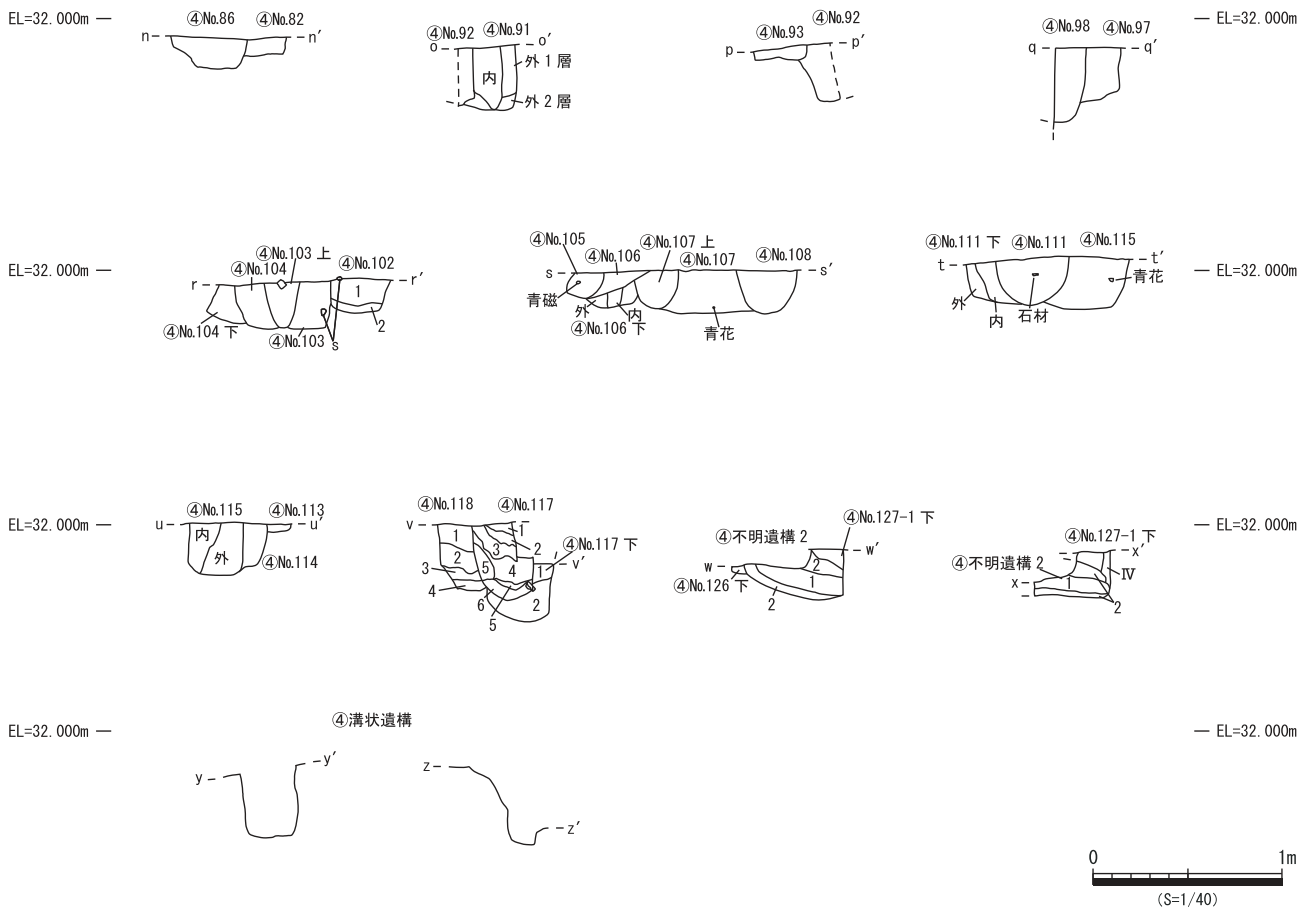
サブトレンチ 2 - ③溝状遺構（北東より）

図版Ⅲ - 2　主な遺構断面（第３次調査区）

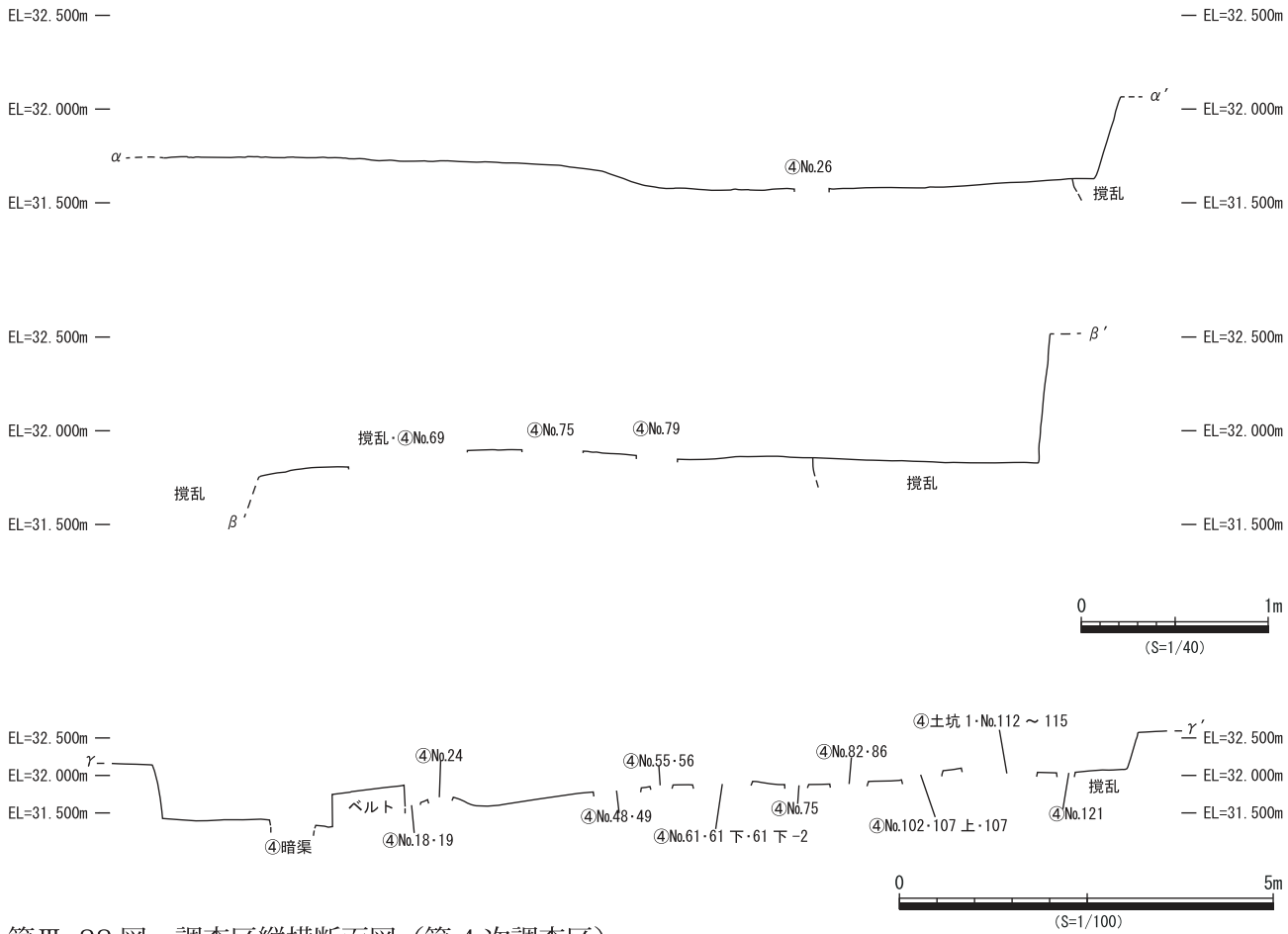
第Ⅲ-19図　主な遺構半掘ライン（第４次調査区）



第Ⅲ-20図　主な遺構断面図（第４次調査区）



第Ⅲ -21 図　主な遺構断面図（第 4 次調査区）



第Ⅲ -22 図　調査区縦横断面図（第 4 次調査区）

第Ⅲ - 4 - 1表　第２次調査区遺構観察一覧

遺構番号（②№○○）	連番	グリッド	形状	検出面（cm）（長×短）	深さ（cm）	底面レベル（m）	分類			その他の情報
							底面	断面形態	覆土	1. 出土遺物 2. 備考 3. 年代測定
1	1	H−2～3	内：円 外：円	内：20×19？ 外：43×38	10	内：31.300m 外：31.340m	Ⅱ	C+	内：a 外：a	1. グスク
2	2	H−3	円	37×36	7	31.375m	Ⅱ	A	b	
4	3	H−3	円？	—×29	4	31.520m	Ⅲ	A	a	2. 北壁に掛かる。
5	4	H−3	内：円 外：円	内：24×23？ 外：36×33	10	内：31.555m 外：31.525m	Ⅲ	A+	内：a 外：b	
6	5	H−3	円	16×15	5	31.635m	Ⅲ	A(s)	c	
9	6	H～I−3	円	44×41	25	31.438m	Ⅱ	A	c	1. 青花、沖無、 アカ、獣骨
10	7	H～I−3	内：円？ 外：円？	内：—×14？ 外：—×41	36	内：31.419m 外：31.330m	Ⅱ	A+	内：c 外：c	1. 先史、白磁、タイ褐、青花、獣骨
12	8	I−3	円？	—×39	30	31.358m	Ⅱ	A	b	
13	9	I−3	円？	—×22	34	31.361m	Ⅱ	A	b	
14	10	I−3	円	15×14	6	31.630m	Ⅲ	A(s)	b	
15	11	I−3	円	24×22	17	31.510m	Ⅲ	B	b	1. グスク
16	12	H～I−3	楕？	—×35	27	31.598m	Ⅲ	A	c	1. 沖無 2. 北壁に掛かる。
17	13	I−3	円？	—×36	23	31.480m	Ⅱ	A	b	1. 黒釉、沖無
18	14	I−3	円？	—×67	18	31.640m	Ⅲ	A(l)	a	1. 青花、本磁 2. 北壁に掛かる。
19	15	I−2～3	内：円？ 外：円	内：13×10？ 外：48×46	22	内：31.588m 外：31.571m	Ⅲ	A+	内：b 外：b	1. 青磁、タイ褐、青花、沖施、本磁
20	16	I−3	円？	—×24	30	31.479m	Ⅱ	A	b	
21	17	I−3	内：円 外：円	内：15×15 外：36×35	39	内：31.640m 外：31.520m	Ⅲ	D+	内：a 外：c	1. 青磁、中褐、タイ褐、青花
21下	18	I−3	円？	20？×17？	13	31.397m	Ⅱ	B(s)	b	
22	19	I−2～3	円	35×33	46	1層：31.677m 2層：31.661m 3層：31.581m 4層：31.400m	Ⅱ	C	1層：c 2層：d 3層：c 4層：d	
23	20	I−2	円	52×50	38	31.498m	Ⅱ	A(l)	b	1. 白磁、沖無
25	21	H−2	内：円 外：円	内：19×18 外：48×45	18	内：31.594m 外：31.580m	Ⅲ	A+	内：b 外：b	
26	22	H−2	円	38×36	26	31.420m	Ⅱ	A	a	1. グスク、類須恵、中褐、 青花
27	23	H−2	不	44×37	40	31.240m	Ⅰ	A	b	1. グスク、獣骨
29	24	H～I−2	円	45×42	28	31.540m	Ⅲ	C	a	
30	25	H～I−2	円？	—×39	12	31.700m	Ⅲ	BorD	b	
31	26	I−2	円	35×34	16	1層：31.750m 2層：31.664m	Ⅲ	A	1層：b 2層：b	
32	27	I−2	内：楕？ 外：円	内：39×23？ 外：57×55	28	内：31.501m 外：31.516m	Ⅲ	A+(l)	内：b 外：b	1. 青磁、中褐、沖無、瓦、 石材、獣骨
33	28	H−2	円	36×34	7	31.560m	Ⅲ	A	b	1. グスク、貝
35	29	H−1	内：円？ 外：円	内：24×19？ 外：51×46	18	内：31.520m 外：31.427m	Ⅱ	A+	内：c 外：c	1. 青磁、アカ、獣骨
36	30	H−1	円？	—×35	40	31.419m	Ⅱ	A	c	2. 南壁に掛かる。
37	31	H−1	円？	—×—	24	1層：31.678m 2層：31.560m	Ⅲ	BorD	1層：b 2層：b	2. 南壁に掛かる。
38	32	H−1～2	内：円？ 外：円	内：28×25？ 外：41.5×38	26	内：31.600m 外：31.496m	Ⅱ	B+	内：c 外：c	1. 青磁
39	33	H−1	内：円？ 外：円	内：16×14？ 外：28×26	24	内：31.636m 外：31.500m	Ⅱ	A+	内：c 外：d	
40	34	I−1	円？	—×—	17	31.718m	Ⅳ	B	a	1. 青磁、青花 2. 南壁に掛かる。
41	35	H～I−1	円？	—×60	18	31.697m	Ⅲ	A(l)	d	2. 南壁に掛かる。
42	36	H～I−1	不	69×59	12	31.710m	Ⅳ	A(l)	c	1. 青磁、タイ褐、沖無、沖施、本磁、瓦、金属、貝、 焼土
44	37	I−1	円	—×33	34	31.521m	Ⅲ	A	d	
45	38	I−1～2	円	32×30	41	31.541m	Ⅲ	C	c	1. 青磁、青花
46	39	I−2	内：円 外：円	内：16×13 外：28×27	28	内：31.780m 外：31.682m	Ⅲ	C+	内：c 外：c	1. 獣骨
47	40	I−1	—	—×—	24	1層：31.602m 2層：31.520m 3層：31.499m	Ⅱ	A	1層：a 2層：a 3層：a	2. 南壁に掛かる。
48	41	I−2～3	円？	—×45	—	31.852m	Ⅳ	A	c	2. 一部撹乱を受ける。
49	42	I−2～3	内：円？ 外：楕？	内：—×32？ 外：55×36	35	内：31.650m 外：31.560m	Ⅲ	A+	内：d 外：d	1. 白磁 2. 一部撹乱を受ける。
51	43	I−2	円	—×36	27	31.722m	Ⅳ	A	c	2. 一部撹乱を受ける。
52	44	I−2	不	—×42	31	31.653m	Ⅲ	A	d	
53	45	I−2	円	26×23	20	31.660m	Ⅲ	B	b	1. 白磁、沖施、貝
54	46	I−2	円	38×33	25	31.730m	Ⅳ	A	a	青磁
55	47	I−2	円	27×26	5	31.910m	Ⅴ	A	c	
57	48	I−2	円	—×41.5	36	31.587m	Ⅲ	B	d	1. グスク、沖無、獣骨、焼土 2. 一部撹乱を受ける。
58	49	I−2	内：円 外：円	内：26×22.5 外：50×47	30	内：31.737m 外：31.663m	Ⅲ	A+	内：c 外：c	1. 青磁、青花、肥前、石製品、焼土
59	50	I−2	内：円？ 外：円	内：—×30？ 外：—×50	57	内：31.839m 外：31.417m	Ⅱ	A+(l)	内：b 外：d	1. 金属、焼土 2. 柱痕としたものは、 別の遺構の可能性有り。
60	51	I−2	円	30×26	14	31.840m	Ⅳ	A	d	1. 獣骨
63	52	I−2	内：円 外：円	内：12×10 外：—×37	16	内：31.856m 外：31.839m	Ⅳ	A+	内：c 外：b	1. 青磁、沖無、銭
64	53	I−2	内：円 外：円	内：17×15 外：28×25	14	内：31.818m 外：31.800m	Ⅳ	A+	内：c 外：c	
65	54	I−2	円？	—×42	48	31.639m	Ⅲ	A	d	1. 沖無、獣骨、焼土、炭
66	55	I−2	円	44×38	30	31.656m	Ⅲ	B	d	1. 白磁、円盤状製品、金属、焼土
67	56	I−2	円？	—×46.5	37	31.631m	Ⅲ	A	c	1. 青花
68	57	I−2	円	61×57	14	31.902m	Ⅴ	B(l)	c	1. 白磁
69	58	J−2	円	22×21	9	31.923m	Ⅴ	A	b	
70	59	J−2	円？	—×43	8	31.898m	Ⅳ	A	c	
71	60	J−2	円？	—×22	5	31.882m	Ⅳ	C	b	
72	61	J−2	円？	—×31	12	31.812m	Ⅳ	B	b	
73	62	J−2	内：円 外：円	内：17×16 外：52×50	60	内：31.390m 外：31.419m	Ⅱ	A+(l)	内：a 外：d	1. グスク、中褐、青花、沖無、金属、石材、獣骨、 焼土
75	63	J−3	円？	—×46	60	31.515m	Ⅲ	C	d	1. 中褐、青花、本磁、獣骨、貝 2. 一部撹乱を受ける。
76	64	J−2～3	円？	—×45	42	31.690m	Ⅲ	AorB	b	1. グスク、青磁、青花
77	65	J−2～3	円	40×39？	55	31.586m	Ⅲ	B	c	1. グスク、青磁、青花、獣骨、貝、 焼土
78	66	J−3	円？	—×26	23	31.909m	Ⅴ	B	c	2. 一部撹乱を受ける。
79	67	J−3	円？	内：—×11 外：—×—	43	内：31.660m 外：31.660m	Ⅲ	C+	内：d 外：d	1. 青花 内：白磁、タイ褐 2. 北壁に掛かる。 一部撹乱を受ける。
81−2	68	J−2	円	—×34	82	31.242m	Ⅰ	A	b	1. グスク、銭、石材 2. 一部撹乱を受ける。
82	69	J−2	内：円？ 外：円	37×31	54	内：31.573m 外：31.583m	Ⅲ	A+	内：d 外：b	1. 青磁、青花、沖無、石材 外：白磁、獣骨 3. 外：371±23（グスク）
83	70	J−2	円？	—×43	53	31.567m	Ⅲ	A	b	1. 白磁、類須恵、沖施、金属、貝
84	71	J−2	円	—×37	25	31.853m	Ⅳ	A	a	1. 青花、沖無、貝
85	72	J−2	円？	—×50	50	31.675m	Ⅲ	A(l)	d	1. 獣骨 2. 一部撹乱を受ける。
86	73	J−2	円？	—×16	22	31.920m	Ⅴ	A(s)	a	1. 肥前 2. 一部撹乱を受ける。
87	74	J−2	円？	—×24.5	6	32.095m	Ⅴ	A	d	1. 青花、沖無、獣骨、貝、炭、不明
88	75	J−2	円	—×34	12	32.041m	Ⅴ	B	d	1. 貝
89	76	J−2	円？	—×32	10	32.050m	Ⅴ	A	d	1. タイ褐、青花、魚骨、貝、焼土
90	77	J−2	円？	—×43.5	5	32.054m	Ⅴ	A	c	1. 先史
90下−2	78	J−2	円	—×22	46	31.620m	Ⅲ	A	d	
91	79	J−2	内：円？ 外：楕	内：—×16？ 外：—×63	41	内：31.946m 外1層：32.038m 外2層：31.877m 外3層：31.800m 外4層：31.739m	Ⅳ	A+(l)	内：c 外1層：c 外2層：c 外3層：c 外4層：c	1. 白磁、青花、獣骨 外1層：沖無、獣骨 外2層：グスク、中褐、沖無
92	80	J−2	円？	54×37	20	31.760m	Ⅳ	A	d	2. 一部撹乱を受ける。
93	81	J−2	円	36×32	7	31.830m	Ⅳ	A	a	

※遺構番号の後に付く内外の表記は、「内」は、柱を抜いた後に入り込んだ土と想定。「外」は柱を据えた後に周囲の隙間に敷き詰めた埋土、造成土と想定。

第Ⅲ - 4 - 2表　第２次調査区遺構観察一覧

遺構番号（②№○○）	連番	グリッド	形状	検出面（cm）（長×短）	深さ（cm）	底面レベル（m）	分類			その他の情報
							底面	断面形態	覆土	1. 出土遺物 2. 備考 3. 年代測定
94	82	J-2	内:円 外:円	内:17×16 外:—×39	24	内:31.677m 外:31.679m	Ⅲ	A+	内:a 外:b	1. グスク
95	83	J-2	内:円 外:円	内:10×8 外:39×34	31	内:31.819m 外:31.780m	Ⅳ	A+	内:a 外:d	1. 青磁
96	84	J-2	円？	—×57	12	31.744m	Ⅳ	A(l)	d	1. グスク、タイ褐、青花、沖無、金属、貝
97	85	J-2	円？	26×13	21	31.840m	Ⅳ	A(s)	d	1. 青磁、近世、金属、焼土 2. 一部撹乱を受ける。
98	86	J-2	円	—×36	13	31.921m	Ⅴ	A	c	1. 白磁、青磁
99	87	J-2	円	—×58	40	31.630m	Ⅲ	C(l)	c	1. 白磁、類須恵 2. 一部撹乱を受ける。
100	88	J-2	円	34×32	38	31.558m	Ⅲ	B	a	1. グスク、白磁、中褐、石材、獣骨、焼土
100下	89	J-2	円？	—×49	34	31.698m	Ⅲ	D	c	
101	90	J-2	円	42×40	12	31.940m	Ⅴ	A	d	
102	91	J-2	円？	46×30	25	31.830m	Ⅳ	D	d	1. 沖無 2. 一部撹乱を受ける。
103	92	J-2	内:円 外:円	内:—×23 外:—×35	37	内:31.685m 外:31.699m	Ⅲ	A+	内:c 外:c	
103−2	93	J-2	円	—×60	40	31.563m	Ⅲ	A(l)	a	1. 青磁
104	94	J-2	円	53×49	11	31.962m	Ⅴ	B	a	1. グスク、白磁、タイ褐、青花、沖無、銭、焼土、炭
105	95	J-2	円？	—×35	40	31.701m	Ⅳ	A	c	1. 焼土 2. 一部撹乱を受ける。
106	96	J-2	円	37×36	18	31.897m	Ⅳ	A	c	1. 白磁、青花
107	97	J-2	円？	—×26	24	31.888m	Ⅳ	A	c	
108	98	J-2	内:円 外:円	内:33×28 外:47×42	40	内:31.939m 外:31.677m	Ⅲ	A+	内:c 外:c	1. タイ褐、青花
109	99	J-2	円？	—×36	20	31.839m	Ⅳ	B	b	1. 白磁、本磁 2. 一部撹乱を受ける。
109下	100	J-2	円？	—×26？	10	31.738m	Ⅳ	A	c	
110	101	J-2	円	—×35	11	31.925m	Ⅴ	B	a	
111	102	J-2	内:円？ 外:円？	内:—×12 外:—×35.5	56	内:31.510m 外:31.442m	Ⅱ	A+	内:b 外:b	1. グスク、青花、肥前、沖無 2. 一部撹乱を受ける。
112	103	J-1	円？	—×32	11	31.942m	Ⅴ	A	c	2. 一部撹乱を受ける。
113	104	J-1	円	17×15	15	31.879m	Ⅳ	A(s)	d	2. 一部撹乱を受ける。
114	105	I-3	円	17×16	15	31.809m	Ⅳ	B(s)	c	
115	106	I-3	円	—×29	47	31.488m	Ⅱ	B	b	
116	107	I-3	円	18×18	10	31.840m	Ⅳ	B(s)	c	
117	108	J-3	円？	—×—	53	31.528m	Ⅲ	A	d	1. グスク、沖無、石材 2. 一部撹乱を受ける。
118	109	J-2	円	—×44	20	31.628m	Ⅲ	A	a	1. グスク、青磁、中褐、青花、本陶、獣骨 （№118と№119:青磁、青花、貝）
119	110	J-2	円	42×40	27	31.562m	Ⅲ	A	a	1. 青花 （№118と№119:青磁、青花、貝）
120	111	J-2	円	37×36	35	31.478m	Ⅱ	A	c	1. 白磁
121	112	J-2～3	隅丸方	—×56	26	31.565m	Ⅲ	A(l)	b	2. 一部撹乱を受ける。
122	113	J-2	円	36？×34？	32	31.680m	Ⅲ	A	c	1. グスク、白磁、青磁、青花、円盤状製品
123	114	J-2	円？	—×60	46	31.583m	Ⅲ	A(l)	c	1. グスク、白磁、青磁、青花、沖無、銭、金属、獣骨、焼土 2. 一部撹乱を受ける。
123−2	115	J-2	円？	—×26？	42	31.580m	Ⅲ	A	b	
124上	116	I-2	円？	19×18？	13	31.838m	Ⅳ	A(s)	b	
124	117	I-2	円？	37×35？	16	31.850m	Ⅳ	A	b	
124下	118	I-2～3	楕？	—×58	11	31.868m	Ⅳ	B(l)	b	2. 一部撹乱を受ける。
125	119	J-2	円	23×21	7	31.910m	Ⅴ	A	c	
126	120	J-2	円？	—×21	29	1層:31.759m 2層:31.710m	Ⅳ	B	1層:a 2層:d	
127	121	J-2	円	33×30	27	31.807m	Ⅳ	B	c	
128	122	I-2	円	20×17	2	31.960m	Ⅴ	A(s)	d	
129	123	I-2	円？	—×20	6	31.920m	Ⅴ	A	d	
130	124	I-2	円	34×32	6	31.910m	Ⅴ	A	d	
131	125	I-2	円？	—×27	13	31.848m	Ⅳ	A	b	
132	126	I-2	円？	—×32	30	31.675m	Ⅲ	A	b	
133	127	I-2～3	円？	—×41	8	31.896m	Ⅳ	D	b	2. 一部撹乱を受ける。
134	128	J-2～3	円？	—×—	—	—	—	A	c	2. 一部撹乱を受ける。
135	129	J-2	内:楕 外:楕？	内:—×33 外:—×45	50	内:31.618m 外1層:31.721m 外2層:31.649m	Ⅲ	B+	内:b 外1層:b 外2層:b	1. グスク 2. 一部撹乱を受ける。
136	130	J-2	内:円 外:円	内:—×32？ 外:—×38？	35	内:31.615m 外:31.622m	Ⅲ	A+	内:c 外:c	1. 近世、石材、焼土 外:青磁、獣骨 2. 底面に石灰岩礫が密集している。
137	131	I-3	円？	—×42	26	31.575m	Ⅲ	A	b	1. 焼土 2. 北壁に掛かる。
138	132	J-2	楕？	—×31	40	31.620m	Ⅲ	B	d	1. 獣骨、焼土 2. 一部撹乱を受ける。
139	133	J-1～2	円？	—×31	11	31.980m	Ⅴ	B	d	2. 一部撹乱を受ける。
140	134	J-1	円？	—×24	7	31.990m	Ⅴ	A	d	2. 一部撹乱を受ける。
141	135	J-1	円？	—×26	21	31.780m	Ⅳ	C	d	2. 一部撹乱を受ける。
142	136	J-1	円？	—×25	19	31.840m	Ⅳ	A	d	2. 一部撹乱を受ける。
143	137	J-1	円	—×36	44	1層:31.733m 2層:31.609m	Ⅲ	A	1層:b 2層:b	
144	138	J-3	円？	—×26	13	32.010m	Ⅴ	A	d	
145	139	J-3	円？	—×—	24	31.900m	Ⅳ	B	d	1. 獣骨 2. 一部撹乱を受ける。
146	140	J-3	円？	—×35	37	31.950m	Ⅴ	A	d	1. 白磁、青花 2. 北壁に掛かる。
147	141	I-1	円	34×32	18	31.680m	Ⅲ	A	d	
149	142	I-1	円	22×20	13	31.730m	Ⅳ	A	d	
152	143	I-1～2	内:円？ 外:円？	内:—×15？ 外:—×30	40	内:31.911m 外:31.547m	Ⅲ	B+	内:c 外:b	
153	144	I-2	円	16×14	20	31.750m	Ⅳ	A(s)	d	
154	145	I-2	楕	—×15	10	31.850m	Ⅳ	B(s)	d	
155	146	I-2	内:円 外:円	内:15×14？ 外:—×37	14	内:31.750m 外:31.679m	Ⅲ	A+	内:d 外:d	
156	147	I-2	内:円？ 外:円？	内:—×16.5 外:—×27	14	内:31.825m 外:31.753m	Ⅳ	A+	内:b 外:b	
157	148	I-2	円	29×26	14	31.800m	Ⅳ	B	d	
159	149	J-2	円	21.5×20	12	31.844m	Ⅳ	A	c	
161	150	I-3	円？	—×41	53	31.430m	Ⅱ	A	d	
162	151	I-2	円	—×32	29	31.670m	Ⅲ	A	b	
163	152	H-1	円？	—×26	22	1層:31.764m 2層:31.641m	Ⅲ	A	1層:b 2層:b	2. 南壁に掛かる。
164	153	J-2	円？	—×31	16	31.908m	Ⅴ	B	a	1. 獣骨、焼土、炭 2. 一部撹乱を受ける。
166	154	J-2	内:楕 外:円	内:16×12？ 外:39×36	22	内:31.571m 外:31.571m	Ⅲ	A+	内:d 外:d	1. グスク、石材
167	155	J-2	円	44×40	43	1層:31.863m 2層:31.610m 3層:31.610m	Ⅲ	A	1層:d 2層:d 3層:c	
168	156	J-2	—	—×—	34	31.942m	Ⅴ	AorB	b	2. 東壁に掛かる。
溝状遺構	157	J-2	長方	—×85	88	1層:31.787m 2層:31.700m 3層:31.644m 4層:31.378m 5層:31.239m	—	—	1層:c 2層:a 3層:b 4層:a 5層:a	1. グスク、白磁、類須恵、青磁、中褐、鉄鉢、青花、近世、アカ、沖無、金属、石器、石材、骨製品、獣骨、貝、焼土、炭 1～2層:グスク、青磁、中褐、銭、獣骨、貝 2～3層:獣骨 3～4層:青磁、青花 4層:グスク、青磁、中褐、青花、焼土 4～5層:グスク、青磁、獣骨 5層:グスク、青磁、タイ褐、近世、金属 3. 1層:440±23（グスク）
土坑	158	I-1	円	55×52	—	—	—	—	d	1. 獣骨、焼土

遺構名（④○）	連番	グリッド	観察所見
石組遺構	159	H-2	調査区の北側で確認された遺構。西壁に一部掛かっているため、全体的な形状を把握することはできないが、恐らく、石灰岩の板状切石を方形状に組んだ遺構と推測される。なお、深くまで埋められていることから、詳細な調査はできなかった。北東ー南西軸は、232cmとなる。検出レベル及び層からは、②石畳、④石敷遺構1・2と時期的に並存、またはそれ以降に構築されたものと考えられる。
石畳	160	H～I-2～3	調査区の北側で確認された遺構。石畳の北西側には、切石で構築された縁石が、南東側には、自然石で構築された縁石がそれぞれ配置されている。4次調査区側には続きが確認されなかった。残存部の長軸は244cm、短軸は156cm。当遺構は、検出レベル及び層から、④石敷遺構1・2と時期的に並存していた可能性が考えられる。

第Ⅲ - 5 - 1表　第３次調査区遺構観察一覧

遺構番号（③№〇〇）	連番	グリッド	形状	検出面(cm)（長×短）	深さ(cm)	底面レベル(m)	分類			その他の情報
							底面	断面形態	覆土	1. 出土遺物 2. 備考 3. 年代測定
1	1	I-ｉ	円？	—×35	—	—	—	—	d	2. 未掘削 南壁に掛かる。
2	2	I-ｉ	円	26×23	—	—	—	—	d	2. 未掘削
3	3	I-ｉ～0	不	52×48	—	—	—	—	a	2. 未掘削
4	4	I-0	円	24×22	—	—	—	—	d	2. 未掘削
5	5	I-0	不	80×65	—	31.661m	Ⅲ	B(l)	a	1. 滑石製品、中褐、アカ、沖施、獣骨、炭
6	6	I-0	円	34×30	—	—	—	—	b	2. 未掘削
7	7	I-0	円	25×23	—	—	—	—	d	2. 未掘削
8	8	I-0	円	59×48	—	—	—	—	d	1. 青磁 2. 未掘削
8下	9	I-0	円？	—×24	—	—	—	—	d	2. 未掘削
9上	10	I-0	円	25×22	—	31.659m	Ⅲ	A	d	
9	11	I-0	楕	34×26	—	31.832m	Ⅳ	B	d	
10	12	I-0	円	19×18	—	31.818m	Ⅳ	B(s)	b	
11	13	I-0	円？	—×27	—	—	—	—	a	2. 西壁に掛かる。 未掘削
12	14	I-0	内:円 外:楕	内:38×35？ 外:—×61	49	内1層:31.602m 内2層:31.478m 外:31.667m	Ⅱ	C+(l)	内1層:a 内2層:a 外:a	1. グスク、白磁、青磁、青花、獣骨 内:グスク、青磁
13	15	I-0	円？	—×51	10	31.835m	Ⅳ	A(l)	b	2. 一部撹乱を受ける。
14	16	I-0	円	37×32	—	31.865m	Ⅳ	A	a	1. 焼土
15	17	I-0	円？	—×43	—	31.477m	Ⅱ	A	a	1. 中褐、タイ褐、沖無、獣骨
16	18	I-0	円	42×39	—	31.792m	Ⅳ	A	b	1. グスク、白磁、青磁、沖施、獣骨
16下	19	I-0	円	—×50	—	31.645m	Ⅲ	A(l)	d	
17	20	I-0	円？	—×—	—	31.676m	Ⅲ	A	d	
18-1	21	I-0	円	47×44	—	31.670m	Ⅲ	A	b	1. グスク、青磁、タイ褐
18-2	22	I-0	円？	—×49	—	31.778m	Ⅳ	A	b	1. 青磁、青花
18-3	23	I-0	内:円 外:円？	内:—×17？ 外:—×41	—	内:31.638m 外:31.626m	Ⅲ	A	内:b 外:d	1. 内:青磁
19	24	I-0	円	—×34	24	31.708m	Ⅳ	A	d	2. 一部撹乱を受ける。
20	25	I-0	円	42×39	—	31.642m	Ⅲ	A	a	1. 青磁、青花 2. 一部撹乱を受ける。
21	26	I-0	不	32×17	—	31.814m	Ⅳ	D(s)	a	2. 一部撹乱を受ける。
22	27	I-0	不	42.5×28.5	—	31.765m	Ⅳ	A	a	2. 一部撹乱を受ける。
23	28	I-0	円	47×45	—	31.774m	Ⅳ	A	b	1. 先史、青花、不明
23下	29	I-0	円？	—×39	—	31.727m	Ⅳ	A	d	
24	30	I-0	円	—×32	—	31.818m	Ⅳ	B	a	
25	31	I-0	円	—×34	—	31.703m	Ⅳ	A	a	1. グスク、アカ
26	32	I-0	円？	—×39	—	31.853m	Ⅳ	A	a	1. グスク
27	33	I-0	円？	—×41？	—	31.811m	Ⅳ	A	b	1. 本磁、沖施
28	34	I-0～1	楕？	—×62	—	31.822m	Ⅳ	A(l)	a	1. 先史、グスク、青磁、青花
29	35	I-0～1	内:円 外:円	内:25？×19 外:—×39	—	内:31.852m 外:31.823m	Ⅳ	A+	内:d 外:d	
30	36	I-0	円	34×32	—	31.918m	Ⅴ	A	b	
31	37	I-0	円	—×39	—	31.497m	Ⅱ	A	a	1. 白磁
32	38	I-0	円	37×34	—	31.749m	Ⅳ	A	a	
34	39	I-0	円？	—×—	—	—	—	—	a	2. 未掘削 一部撹乱を受ける。
35	40	I-1	—	—×—	—	—	—	—	a	2. 未掘削 西壁に掛かる。 一部撹乱を受ける。
36	41	I-1	円？	—×49	—	—	—	—	b	2. 未掘削 西壁に掛かる。
37	42	I-1	楕？	—×23	—	—	—	—	b	2. 未掘削
38	43	I-1	円？	—×25	—	—	—	—	b	2. 未掘削
39	44	I-1	楕？	34×22	—	—	—	—	b	2. 未掘削
40	45	I-1	円？	—×24	—	—	—	—	b	1. 不明 2. 未掘削
41	46	I-1	円？	56×54	—	—	—	—	a	1. 獣骨 2. 未掘削
42	47	I-1	円？	—×35	—	—	—	—	d	2. 未掘削
43	48	I-1	内:円？ 外:円？	内:21×19 外:36×32	—	—	—	—	内:a 外:a	2. 未掘削
44	49	I-1	円？	27×25	—	—	—	—	a	2. 未掘削
45	50	I-1	円？	—×28	—	—	—	—	a	2. 未掘削
46	51	I-1	円？	—×35	—	—	—	—	a	2. 未掘削
47	52	I-1	円？	24×22	—	—	—	—	d	2. 未掘削
48	53	I-1	不	76×40	—	—	—	—	a	2. 未掘削
49	54	I-1	円？	29×24	—	—	—	—	d	2. 未掘削
50	55	I-1	内:円？ 外:円？	内:22.5×20 外:41×39	—	—	—	—	内:b 外:d	2. 未掘削
51	56	I-1	内:円？ 外:円？	内:16×14.5 外:—×31	—	—	—	—	内:d 外:d	2. 未掘削
52	57	I-1	円？	33×32	—	—	—	—	d	2. 未掘削
53	58	I-1	円？	23×21.5	—	—	—	—	d	2. 未掘削
54	59	I-1	楕？	—×36	—	—	—	—	d	2. 未掘削
55	60	I-1	円？	—×22	—	—	—	—	d	2. 未掘削
56	61	I-1	円？	—×25	—	—	—	—	d	2. 未掘削 一部撹乱を受ける。
57	62	I-1	円？	40×37	—	—	—	—	d	2. 未掘削
58	63	I-1	内:円？ 外:円？	内:—×24 外:—×36.5	—	—	—	—	内:a 外:a	2. 未掘削 一部撹乱を受ける。
59	64	I-1	円？	—×45	—	—	—	—	a	2. 未掘削 一部撹乱を受ける。
60	65	I-1	内:円？ 外:円？	内:11×9 外:20×17	—	—	—	—	内:b 外:b	2. 未掘削
61	66	I-1	円？	—×32	—	—	—	—	b	2. 未掘削 北壁に掛かる。

遺構番号（③№〇〇）	連番	グリッド	形状	検出面(cm)（長×短）	深さ(cm)	底面レベル(m)	分類			その他の情報
							底面	断面形態	覆土	1. 出土遺物 2. 備考 3. 年代測定
62	67	I-1	内:楕？ 外:楕？	内:—×22 外:—×39	—	—	—	—	内:a 外:b	2. 未掘削 北壁に掛かる。
63	68	I-1	楕？	52×43	—	—	—	—	b	2. 未掘削
64	69	I-1	円？	—×—	—	—	—	—	d	2. 未掘削 北壁に掛かる。
65	70	I-1	円？	—×—	—	—	—	—	b	2. 未掘削
66	71	I-1	円？	17×14	—	—	—	—	b	2. 未掘削
67	72	I-ｉ	円？	32×27	—	—	—	—	a	2. 未掘削
68	73	I-ｉ	円？	—×51	—	—	—	—	a	2. 未掘削 南壁に掛かる。
69	74	I-ｉ～0	円	51×44	—	31.771m	Ⅳ	B	b	1. 白磁、青花
70	75	I-ｉ～0	内:円？ 外:楕？	内:—×17？ 外:—×42	—	内:31.606m 外:31.606m	Ⅲ	A+	内:a 外:a	
70下	76	I-ｉ～0	円？	—×28	—	31.579m	Ⅲ	A	a	1. 石材
71	77	I-0	楕	44×37	—	31.795m	Ⅳ	B	b	1. 青磁、石材、貝
71-2	78	I-0	円	—×38	—	1層:31.847m 2層:31.674m	Ⅲ	B	1層:d 2層:a	1. 獣骨
71-3	79	I-0	円？	—×—	—	31.867m	Ⅳ	BorD	d	
72	80	I-ｉ	円？	—×13	—	—	—	—	b	2. 未掘削
73	81	I-ｉ～0	円？	35×33	—	—	—	—	a	1. 白磁、焼土 2. 未掘削
74	82	I-0	内:円？ 外:円？	内:28×25 外:48×44	—	—	—	—	内:b 外:b	2. 未掘削
75	83	I-0	円？	—×56	—	—	—	—	b	1. 本陶 2. 未掘削
76	84	I-0	円	30×28	9	31.842m	Ⅳ	A	b	
77	85	I-0	円	—×27	6	31.880m	Ⅳ	B	a	
77-2	86	I-0	円	26×21？	5	31.896m	Ⅳ	B	d	
78	87	I-0	円？	36×34	—	—	—	—	a	1. グスク、青磁 2. 未掘削
79	88	I-0	円	—×46	14	31.804m	Ⅳ	B	a	1. グスク (№79or溝状遺構1:獣骨)
80上	89	I-0	不	38×30	—	31.760m	Ⅳ	A	d	2. 一部撹乱を受ける。
80	90	I-0	円？	—×50.5	—	31.873m	Ⅳ	A(l)	d	1. 焼土 2. 一部撹乱を受ける。
81	91	I-0	円	35×32	—	31.542m	Ⅲ	A	d	2. 一部撹乱を受ける。
82	92	I-0	円	35×32	—	31.817m	Ⅳ	B	c	1. 沖無、貝、焼土 2. 一部撹乱を受ける。
83	93	I-0	円	—×41	—	31.783m 残存レベル	Ⅳ	A	a	1. 焼土
84	94	I-0	円？	—×26	—	31.905m 残存レベル	Ⅴ	A	a	
85	95	I-1	内:円？ 外:円？	内:25×22 外:—×34	—	—	—	—	内:c 外:c	2. 未掘削
86	96	I～J-ｉ	楕？	26×21	—	—	—	—	d	2. 未掘削
87	97	H-ｉ	円？	—×37	—	—	—	—	a	2. 未掘削 南壁に掛かる。
88	98	I～J-ｉ	円？	—×—	—	—	—	—	b	2. 未掘削 南壁に掛かる。
89	99	H-ｉ	不	40×21.5	—	—	—	—	b	2. 未掘削
90	100	H-ｉ	円？	—×—	—	—	—	—	b	2. 未掘削 南壁に掛かる。
91	101	I-ｉ～0	円？	53×45	—	31.972m	Ⅴ	—	a	
92	102	I-ｉ～0	円	—×38	—	31.908m	Ⅴ	A	a	1. 青磁、青花
93	103	I-0	円	—×45.5	—	31.908m	Ⅴ	A	a	1. 石器、獣骨、焼土
94	104	I-0	楕？	58.5×47	—	—	—	—	b	2. 未掘削
95	105	I-0	内:円 外:円	内:20×16 外:52.5×48	—	内:31.592m 外:31.592m	Ⅲ	C+	内:d 外:b	1. グスク、白磁、青磁、獣骨、焼土 外:玉
96	106	I-0	円	—×34	—	31.740m	Ⅳ	A	b	
97	107	I-0	円？	—×24	—	31.606m	Ⅲ	B	a	1. 白磁
98	108	I-0	円？	—×51	—	—	—	—	a	1. グスク 2. 未掘削
99	109	I-0	円？	—×41	—	—	—	—	a	2. 未掘削
101	110	I-0	円	36.5×35.5	—	31.960m	Ⅴ	C	a	1. 青磁、青花
102	111	I-0	円？	—×30	—	31.895m	Ⅳ	B	a	1. グスク
103	112	I-0	円	—×20	—	32.010m	Ⅴ	A	a	
104	113	I-0	内:円 外:楕	内:15×12？ 外:29×21	—	内:31.810m 外:31.810m	Ⅳ	A+	内:a 外:d	
105	114	I-0	円	—×26	—	31.971m	Ⅴ	A	d	
106	115	I-0	楕？	52×37	—	31.729m	Ⅳ	C	a	1. 白磁、青磁、タイ褐、青花、石器、焼土 2. 一部撹乱を受ける。
107	116	I-0	円	—×29	—	31.555m	Ⅲ	A	b	
108	117	I-0	内:円 外:円	内:23×18 外:—×33	—	内:31.656m 外:31.656m	Ⅲ	A+	内:b 外:d	1. 外:グスク
108下	118	I-0	円？	—×—	—	31.831m	Ⅳ	A	d	
109	119	I-0	円	44×41.5	—	31.819m	Ⅳ	A	b	1. 青磁、青花、本磁、沖無、煙管、貝
109下	120	I-0	円？	—×—	—	31.842m	Ⅳ	A	d	
110	121	I-0	円？	—×32	—	32.000m	Ⅴ	A	b	
111	122	I-0	円	—×48	—	31.845m	Ⅳ	A	b	1. タイ褐、青花
112	123	I-0	内:円 外:円	内:19×17？ 外:48×47	—	内:31.819m 外:31.819m	Ⅳ	A+	内:d 外:a	1. グスク 外:グスク、焼土
113	124	I-0	不	22×15	—	31.881m	Ⅳ	D(s)	b	3. 202±21(近現代)
114上	125	I-0	円？	—×24？	—	31.824m	Ⅳ	A	a	
114	126	I-0	楕？	—×30	—	31.815m	Ⅳ	A	a	1. グスク、石材
115	127	I-0～1	円	—×42.5	—	—	—	A	b	1. 先史、獣骨 2. 一部撹乱を受ける。
116	128	I-0	楕？	—×—	—	—	—	A	d	2. 一部撹乱を受ける。
117	129	I-0	円？	—×—	—	31.835m	Ⅳ	A	b	
118	130	J-ｉ～0	円	42×34	—	32.061m	Ⅴ	A	a	1. 沖無、貝 2. 未掘削

※遺構番号の後に付く内外の表記は、「内」は、柱を抜いた後に入り込んだ土と想定。「外」は柱を据えた後に周囲の隙間に敷き詰めた埋土、造成土と想定。

第Ⅲ - 5 - 2表　第３次調査区遺構観察一覧

遺構番号（③№.○○）	連番	グリッド	形状	検出面（cm）（長×短）	深さ（cm）	底面レベル（m）	分類			その他の情報
							底面	断面形態	覆土	1. 出土遺物 2. 備考 3. 年代測定
119	131	J-ｉ～0	円	—×35	—	32.137m	Ⅵ	A	b	1. 沖無、産地不明陶磁器 2. 未掘削
120	132	J-0	円	36×23	—	31.773m	Ⅳ	A	b	1. 石材
122	133	I～J-0、J-ｉ～0	円？	—×41	—	—	—	—	a	2. 未掘削
123	134	J-ｉ～0	円？	—×42	—	—	—	—	a	2. 未掘削
124	135	I～J-0	円？	—×39	—	—	—	A	a	
125	136	J-0	円	—×23	—	31.756m	Ⅳ	A	a	
126	137	J-0	内：円？ 外：円？	内：20×19 外：35×32	—	—	—	—	内：b 外：d	2. 未掘削
127	138	J-0	円？	18×18	—	—	—	—	b	2. 未掘削
129	139	I～J-0	楕？	28×23	—	—	—	—	d	1. 近世 2. 未掘削
130	140	J-0	円？	16×15	—	—	—	—	b	2. 未掘削
132	141	J-0	円	35×34	—	32.092m	Ⅴ	A	a	1. 青磁、アカ
133-上	142	J-0	円？	—×20.5	—	32.078m	Ⅴ	A	b	
133上-2	143	I～J-0	円	20×19	—	32.037m	Ⅴ	D(s)	b	
133	144	I～J-0	円？	—×20.5	—	32.064m	Ⅴ	D	b	
134	145	J-0	円	27？×22	—	31.921m	Ⅴ	D	b	
134下	146	J-0	円？	—×31	—	31.952m	Ⅴ	D	b	2. 一部撹乱を受ける。
135	147	J-0	内：円？ 外：円	内：—×27 外：—×38	—	内：31.896m 外：31.752m	Ⅳ	A+	内：c 外：c	3. 外：607±23（グスク）
135下	148	J-0	円？	—×29	—	32.067m	Ⅴ	B	c	
136	149	J-0	楕？	—×23.5	—	32.034m	Ⅴ	A	a	
137	150	J-0	円	—×19	—	32.081m	Ⅴ	B(s)	a	
140	151	J-0	円	35×32	—	31.915m	Ⅴ	B	a	
140下	152	J-0	円？	—×32.5	—	31.926m	Ⅴ	A	c	1. 白磁
140-2	153	J-0	円？	28？×21？	—	31.578m	Ⅲ	A	a	
140-3	154	J-0	円？	—×29？	—	31.629m	Ⅲ	A	c	
141	155	J-0	内：不 外：楕	内：22×18 外：36.5×29	—	内：32.061m 外：32.083m	Ⅴ	C+	内：a 外：b	
142	156	J-0	円？	—×43	—	31.726m	Ⅳ	B	d	1. 白磁 2. 一部撹乱を受ける。
143上	157	J-0	円	—×14	—	31.972m	Ⅴ	A(s)	d	2. 一部撹乱を受ける。
143	158	J-0	内：円 外：円	内：—×24 外：—×43	—	内：31.775m 外：31.727m	Ⅳ	C+	内：d 外：d	2. 一部撹乱を受ける。
144	159	I～J-0	円	32×30	—	31.852m	Ⅳ	D	a	1. 煙管
145	160	I-0	円	31×29	—	31.975m	Ⅴ	A	b	
146	161	J-0	円	—×46	—	31.899m	Ⅳ	A	a	1. グスク、青磁、アカ、焼土
146下	162	J-0	円	—×21	—	32.146m	Ⅵ	B	a	
147	163	J-0	円	19×17？	—	1層：31.982m 2層：31.884m	Ⅳ	B(s)	1層：a 2層：b	1. グスク
148	164	I～J-0	円	—×39	—	31.858m	Ⅳ	A	b	
150	165	J-0	楕	50×42	—	31.850m	Ⅳ	A	b	1. 青花、石材 3. 415±22（グスク）
151	166	J-0	円？	—×20？	—	32.018m	Ⅴ	A	b	
152	167	J-0	円	—×39	—	1層：31.845m 2層：31.625m	Ⅲ	A	1層：d 2層：b	
153	168	J-0	円	19×17	—	32.102m	Ⅵ	B(s)	d	
154	169	J-0	円	31×28	—	31.939m	Ⅴ	A	b	
155	170	J-0	円	30×28	—	32.016m	Ⅴ	B	d	
156	171	J-0	内：円 外：円	内：19×17？ 外：—×60	—	内：31.878m 外：31.878m	Ⅳ	A+(l)	内：b 外：b	1. 青磁、青花 外：青磁、沖施、石材
157	172	J-0	円	—×38	—	1層：32.019m 2層：32.002m 3層：31.978m	Ⅴ	A	1層：b 2層：c 3層：d	
159上	173	J-0	円	—×26	—	31.931m	Ⅴ	A	b	2. 一部撹乱を受ける。
159	174	J-0	円？	—×47	—	31.755m	Ⅳ	A	b	1. グスク 2. 一部撹乱を受ける。
161	175	J-0	楕？	—×30	—	31.804m	Ⅳ	A	d	
163	176	I～J-0	円？	—×31	—	31.799m	Ⅳ	B	d	
164	177	J-0	内：円 外：円？	内：16×14 外：—×34	14	内：31.998m 外：31.994m	Ⅴ	B	内：a 外：d	2. 一部撹乱を受ける。
165	178	J-ｉ	内：円？ 外：円？	内：—×16 外：—×32	—	—	—	—	内：b 外：b	2. 未掘削 南壁に掛かる。
166上	179	J-ｉ	円？	24×21	—	—	—	—	a	2. 未掘削
166	180	J-ｉ	円？	—×41	—	—	—	—	a	2. 未掘削
167	181	J-ｉ	楕？	46×38	—	—	—	—	a	2. 未掘削
168	182	J-ｉ	円？	—×22	—	—	—	—	a	2. 未掘削
169	183	J-ｉ～0	円？	40×38	—	—	—	—	a	1. グスク 2. 未掘削
170	184	J-ｉ	内：円 外：円？	内：17×15 外：35×30	—	—	—	B	内：a 外：b	2. 一部撹乱を受ける。
171	185	J-ｉ～0	円？	—×48	—	—	—	—	a	2. 未掘削
172	186	J-ｉ～0	円？	—×45	—	—	—	—	a	1. グスク 2. 未掘削
173上	187	J-0	円	—×28	—	—	—	—	b	2. 未掘削
173	188	J-0	円	27×25	—	—	—	B	a	2. 一部撹乱を受ける。
174	189	J-0	円？	13×11	—	—	—	—	b	2. 未掘削
175	190	J-0	円？	—×46	—	—	—	—	a	2. 未掘削
176上	191	J-0	円？	—×37	—	31.963m	Ⅴ	B	a	
176下	192	J-0	楕？	—×—	—	32.232m	Ⅵ	A	d	2. 一部撹乱を受ける。
177	193	J-0	内：円 外：円	内：29×22？ 外：37×35	—	内：31.948m 外：31.868m	Ⅳ	A+	内：a 外：a	2. 一部撹乱を受ける。

遺構番号（③№.○○）	連番	グリッド	形状	検出面（cm）（長×短）	深さ（cm）	底面レベル（m）	分類			その他の情報
							底面	断面形態	覆土	1. 出土遺物 2. 備考 3. 年代測定
177下	194	J-0	円？	—×31	—	32.113m	Ⅵ	A	a	
178上	195	J-0	円？	40×35	—	32.171m	Ⅵ	A	a	1. 青磁
178	196	J-0	円？	—×—	—	32.091m	Ⅴ	D	a	2. 一部撹乱を受ける。
181	197	J-0	不	34×24	—	—	—	A	d	2. 一部撹乱を受ける。
182	198	J-0	内：楕？ 外：円	内：23？×22？ 外：35×32	—	—	—	C	内：b 外：d	2. 一部撹乱を受ける。
183	199	J-0	円	24×21	—	31.996m	Ⅴ	A	c	
184	200	J-0	円	—×23	—	32.061m	Ⅴ	A	b	2. 一部撹乱を受ける。
185	201	J-0	円	19×17	—	—	—	—	b	2. 未掘削
186	202	J-0	円	55×50	—	1層：31.883m 2層：31.542m	Ⅲ	C(l)	1層：d 2層：c	1. 2層：グスク
187	203	J-0	円？	16×14	—	—	—	—	c	2. 未掘削
188	204	J-0	円？	—×33	—	—	—	—	d	2. 未掘削
189	205	J-0	円？	—×—	—	—	—	—	d	2. 未掘削
190	206	J-0	円？	21×19	—	—	—	—	d	2. 未掘削
193	207	J-0～1	内：楕？ 外：円？	内：26×18 外：39×33	—	—	—	—	内：d 外：d	2. 未掘削
196	208	J-1	円？	24×22	—	—	—	—	c	2. 未掘削
197	209	J-1	円？	—×23	—	—	—	—	c	2. 未掘削
198	210	J-1	円？	—×34	—	—	—	—	a	2. 未掘削
199	211	J-1	不？	—×40	—	—	—	—	a	2. 未掘削
200	212	J-ｉ	内：円？ 外：円？	内：—×25 外：—×32	—	—	—	—	内：b 外：d	2. 未掘削 南壁に掛かる。
201上	213	J-ｉ～0	円？	28×26	—	32.159m	Ⅵ	B	a	1. 白磁、青磁、タイ褐、沖無、産地不明陶磁器
201	214	J-ｉ～0	円	—×50	—	31.974m	Ⅴ	A(l)	a	1. グスク、青磁、タイ褐、獣骨、焼土
202	215	J-ｉ	円？	—×—	—	31.902m	Ⅴ	A	a	1. グスク、白磁、青磁、獣骨
203	216	J-ｉ	円	52×50	—	32.096m	Ⅴ	A(l)	c	1. 青磁、沖無、アカ、石器
203下	217	J-ｉ	円？	19？×19？	—	32.070m	Ⅴ	A	b	
204	218	J-ｉ～0	円	22×21	—	32.153m	Ⅵ	B	a	
205	219	J-ｉ～0	円？	—×31	—	32.055m	Ⅴ	A	a	1. 産地不明陶磁器、獣骨
206	220	J-0	楕？	—×15	—	32.138m	Ⅵ	A(s)	a	
207	221	J-0	円？	—×29	—	32.171m	Ⅵ	B	a	1. グスク
208	222	J-0	内：円 外：楕	内：21×20 外：35×30	21	内：32.127m 外：32.106m	Ⅵ	A+	内：a 外：a	2. 一部撹乱を受ける。
209	223	J-0	円？	23×11	—	—	—	A(s)	a	2. 一部撹乱を受ける。
210上-1	224	J-0	円？	24×20？	17	31.993m	Ⅴ	A	a	
210上-2	225	J-0	円？	—×41	10	31.933m	Ⅴ	B	a	2. 一部撹乱を受ける。
211	226	J-0	円？	—×31	—	31.861m	Ⅳ	A	d	
212	227	J-ｉ	円？	—×44	—	—	—	—	a	2. 未掘削 一部撹乱を受ける。
213	228	J-0	内：円？ 外：円？	内：29×27？ 外：51×45	—	—	—	—	内：a 外：a	2. 未掘削
214	229	J～K-0	円？	50×45	—	—	—	—	a	2. 未掘削
215	230	J～K-0	円？	—×28	—	—	—	—	b	2. 未掘削
216	231	J-0	円？	—×32	—	—	—	—	b	2. 未掘削
217	232	J-0	楕？	—×35	—	—	—	—	b	2. 未掘削
218	233	K-0	円	—×45	—	—	—	B	d	2. 一部撹乱を受ける。
219上	234	K-0	—	23×22	—	—	—	—	b	2. 未掘削
219下	235	K-0	円？	—×47.5	—	—	—	—	d	2. 未掘削 一部撹乱を受ける。
220	236	J-0～1	楕？	42×21	—	—	—	—	d	2. 未掘削
221	237	H-ｉ～0	円？	—×47	—	—	—	—	a	2. 未掘削 拡トレ1の北壁に掛かる。
222	238	H-ｉ	円？	—×34	—	—	—	—	a	2. 未掘削
223	239	H-ｉ	円？	—×38	—	—	—	—	a	2. 未掘削
224	240	J-0	円？	25×22	—	—	—	—	d	2. 未掘削
226	241	J-0	楕？	—×44	—	—	—	—	c	2. 未掘削
227	242	J-0	円？	—×33	—	—	—	—	c	2. 未掘削
229	243	I～J-0	内：円？ 外：円？	内：13×11 外：26×23	—	—	—	—	内：a 外：d	2. 未掘削
230	244	H-1	円？	—×47	—	—	—	—	b	2. 未掘削 拡トレ2南壁に掛かる。
231	245	H-0	—	—×—	—	—	—	A	b	2. 拡トレ1と2の間
232	246	H-0	—	—×—	—	—	—	A	b	2. 拡トレ1と2の間
溝状遺構1	247	H-0、I・J-ｉ～0	—	—×132～	—	南東側：31.860m 北西側：31.430m	—	—	1層：b 2層：c 3層：d	1. グスク、青磁、タイ褐、アカ、石器、石材、魚骨 1層：グスク、青磁、獣骨 （№.79cm溝状遺構1：獣骨）
溝状遺構2	248	K-0	—	—×29～	—	—	—	—	d	1. 白磁、タイ褐
土坑	249	J-0	隅丸方？	—×155	80	31.315m	—	—	a	1. グスク、白磁、青磁、黒釉、沖無、アカ、銭、石材、獣骨、焼土、炭 3. 435±21（グスク）
土坑状遺構	250	I～J-0	1層：楕 2層：楕	1層：57×48 2層：68×54	—	1層：31.892m 2層：31.626m	—	—	1層：a 2層：a	1. 白磁、貝 1層：タイ褐、玉、石材？ 2層：グスク
不明遺構1	251	J-0	隅丸方	—×81	—	—	—	—	a	1. 青磁、玉 2. Pit群の可能性あり
不明遺構2	252	J-0	楕？	—×82	—	—	—	—	c	2. Pit群の可能性あり
不明遺構3	253	H-1	不	—×—	—	31.300m	—	—	b	2. 拡張トレンチ2

第Ⅲ - 6 - 1表　第４次調査区遺構観察一覧

遺構番号（④№○○）	連番	グリッド	形状	検出面（cm）（長×短）	深さ（cm）	底面レベル（m）	分類			その他の情報
							底面	断面形態	覆土	1. 出土遺物 2. 備考 3. 年代測定
1	1	I-3	円？	—×35	31	31.429m	Ⅱ	C	a	1. 先史、焼土 2. 西壁に掛かる
2	2	I-3	内:円？ 外:円	内:—×28 外:—×35	32	内:31.500m 外:31.475m	Ⅱ	B+	内:a 外:a	1. グスク、青花 2. 拡トレ3南壁に掛かる。
4	3	I-3	円	49×46	32	1層:31.619m 2層:31.521m	Ⅲ	A	1層:b 2層:b	1. 青花、瓦質
5	4	I-3	内:円？ 外:円？	—×30	26	内:31.660m 外:31.609m	Ⅲ	B+	内:a 外:b	1. 石材 2. 南壁に掛かる
7	5	I-3	円	24×22	17	31.593m	Ⅲ	A	c	1. グスク
8	6	I-3	円	40×38	22	1層:31.522m 2層:31.519m	Ⅲ	A	1層:a 2層:b	1. グスク、青磁 2層:グスク
9上	7	I-3	内:円 外:円	内:—×10 外:17×16	33	内:31.415m 外:31.415m	Ⅱ	A+(s)	内:a 外:a	
9	8	I-3	内:円 外:円	内:—×21.5 外:—×49	34	内 :31.558m 外1層:31.577m 外2層:31.396m	Ⅱ	A+	内:a 外1層:a 外2層:a	1. タイ褐 2層:グスク
9-2	9	I-3	円	22×21	7	31.673m	Ⅲ	A	c	
10	10	I-3	楕？	—×35	8	31.678m	Ⅲ	A	b	2. 南壁に掛かる
12	11	I-3	楕	42×31	21	31.532m	Ⅲ	A	a	
12下	12	I-3	楕？	—×55	12	31.596m	Ⅲ	B(l)	a	2. 南壁に掛かる
13	13	I-3	内:円？ 外:円	内:15×12？ 外:28×26	20	内:31.615m 外:31.533m	Ⅲ	A+	内:a 外:b	1. 外:グスク
14	14	I-3	円？	—×45	36	31.391m	Ⅱ	A	a	1. グスク、獣骨
15	15	I-3	内:円？ 外:円	内:37×30？ 外:49×41	35	内:31.444m 外:31.385m	Ⅱ	C+	内:a 外:a	1. グスク、白磁、青磁、沖無、沖施 2. 内:別の遺構の可能性あり。
16	16	I-3～4	円	—×52	31	1層:31.612m 2層:31.494m	Ⅱ	A(l)	1層:b 2層:b	1. 中褐、魚骨
17	17	I-3～4	円	51×42	25	1層:31.660m 2層:31.537m	Ⅲ	B	1層:b 2層:b	1. 本磁、沖無、沖施、獣骨
17下	18	I-3～4	円？	—×32	9	31.631m	Ⅲ	A	b	
18	19	I-4	楕？	46×34	33	31.389m	Ⅱ	A	a	1. 玉 2. 一部撹乱を受ける。
18下	20	I-4	円？	—×26？	13	31.610m	Ⅲ	B	a	
19	21	I-4	円	21×20	9	31.532m	Ⅲ	A	b	
20	22	I-3	内:円 外:円	内:14×12？ 外:26×24	7	内:31.665m 外:31.662m	Ⅲ	C+	内:b 外:b	
21	23	I-3	円？	—×21	8	31.644m	Ⅲ	B	b	
22	24	I-3	内:不 外:円	内:22？×9 外:—×26	2	内:31.704m 外:31.704m	Ⅳ	A+	内:b 外:b	
23	25	I-3	内:円？ 外:円	内:19×16？ 外:30×26	7	内:31.680m 外:31.671m	Ⅲ	A+	内:b 外:b	
24	26	I-4	内:円？ 外:楕	内:27×21？ 外:45×39	18	内:31.495m 外:31.401m	Ⅱ	B	内:a 外:b	1. グスク、半練
26	27	I-4	内:円 外:円	内:13×12 外:23×21	5	内:31.795m 外:31.544m	Ⅲ	A+	内:b 外:b	
27	28	I-4	内:円 外:円	内:15×13 外:22×21	10	内:31.539m 外:31.499m	Ⅱ	A+	内:c 外:c	
28	29	I-4	内:円？ 外:円？	—×15？	17	内:31.525m 外:31.529m	Ⅲ	C+(s)	内:b 外:b	1. 貝 2. 略西壁に掛かる。一部撹乱を受ける。
29	30	I-4	円	—×27	19	31.353m	Ⅱ	A	a	1. 青磁 2. 一部撹乱を受ける。
30	31	I-4	円	24×23	22	31.510m	Ⅲ	C	c	
31	32	I-3	内:楕 外:円	内:36×28 外:51×49	32	内:31.524m 外:31.451m	Ⅱ	A+	内:b 外:b	1. 不明 内:グスク、沖無、アカ、貝、焼土 外:青磁、沖無、魚骨
32	33	I-3	楕	—×32	5	31.698m	Ⅲ	A	d	
33上	34	I-3	円	29×24	4	31.708m	Ⅳ	B	c	
33	35	I-3	円	—×26	13	31.625m	Ⅲ	B	c	
36	36	I-3～4	内:不 外:円	内:—×11 外:—×41	22	内:31.572m 外:31.538m	Ⅲ	A+	内:a 外:a	1. 外:グスク
37上	37	I-3～4	円	21×18	5	31.729m	Ⅳ	A(s)	a	1. 獣骨、貝 2. ウミギク科の貝及び石灰岩小礫が混入
37	38	I-3～4	円？	—×20	12	31.657m	Ⅲ	A	b	
37下	39	I-3～4	円？	—×25.5	1	31.769m	Ⅳ	A	d	
38	40	I-4	円	15×14	5	31.714m	Ⅳ	A(s)	c	
39	41	I-3	方	18×13	3	31.765m	Ⅳ	A(s)	c	2. 近・現代遺構の可能性あり。
40	42	I-3	円	35×29	3	31.755m	Ⅳ	A	c	1. 青磁
41	43	I-3	円	—×30	20	31.579m	Ⅲ	A	a	1. 青花
42	44	I-3	円？	—×16	2	31.777m	Ⅳ	A(s)	b	
43	45	I-3	円	21×20	6.5	31.747m	Ⅳ	A	c	
44	46	I-3	円	15×14	2.5	31.811m	Ⅳ	B(s)	d	
45	47	I-3	円？	—×25	14	31.638m	Ⅲ	A	b	
46上	48	I-3	円	29×25	48	1層:31.662m 2層:31.531m	Ⅲ	A	1層:b 2層:b	1. 1層:玉
46	49	I-3	円？	—×28	26	1層:31.639m 2層:31.532m	Ⅲ	A	1層:b 2層:b	1. 2層:焼土
48	50	I-4	円	59×56	22	31.618m	Ⅲ	A(l)	a	1. グスク、白磁、青磁、青花 2. 撹乱の影響によって検出面が起伏する。
49	51	I-4	円？	—×40	43	31.415m	Ⅱ	A	b	1. 沖無、石製品 2. 撹乱の影響によって検出面が起伏する。
51	52	I-4	円？	—×24	13	31.642m	Ⅲ	A	c	2. 一部撹乱を受ける。
52上	53	I-3	円？	—×—	—	31.681m	Ⅲ	B	a	
52	54	I-3	円	—×34	—	31.689m	Ⅲ	A	a	
53	55	I-3～4	楕	43×34	—	31.668m	Ⅲ	A	b	1. 青磁、青花、沖無、焼土
53下	56	I-3～4	円？	—×—	—	31.684m	Ⅲ	A	b	
55	57	I-4	円	32×27	16	31.722m	Ⅳ	A	c	1. 貝
56	58	I-4	円？	—×21	12	31.745m	Ⅳ	C	b	1. 青磁
57	59	I-3	円	17×15	4.5	31.816m	Ⅳ	A(s)	a	
58	60	I-3	円	20×17	4	31.832m	Ⅳ	B(s)	a	
59	61	I-3	円	28×25	10	31.782m	Ⅳ	B	a	
60	62	I-3～4	不	23×15	5	31.840m	Ⅳ	B(s)	c	1. アカ 2. 撹乱の影響によって検出面が起伏する。
61	63	I-4	円	34×31	15	31.699m	Ⅲ	D	a	1. グスク、白磁、沖無、焼土 2. 撹乱の影響によって検出面が起伏する。
61下	64	I～J-4	内:円？ 外:円	内:19×17？ 外:—×30	16	内:31.724m 外:31.675m	Ⅲ	B+	内:b 外:b	2. 撹乱の影響によって検出面が起伏する。
61下-2	65	I-4	内:楕？ 外:円？	内:—×11 外:—×36	14	内:31.647m 外:31.661m	Ⅲ	B+	内:c 外:c	2. 撹乱の影響によって検出面が起伏する。
62	66	I-4	円	21×19	—	31.823m	Ⅳ	B(s)	c	
63	67	I-4	円	22×20	14	31.727m	Ⅳ	A	d	
64	68	I-4	円	—×34	9	1層:31.808m 2層:31.791m	Ⅳ	A	1層:c 2層:c	1. グスク 1層:グスク
65	69	I-4	円？	—×12	4	31.823m	Ⅳ	B(s)	c	
66	70	I～J-4	内:円 外:円	内:14×12 外:23×20	10	内:31.782m 外:31.782m	Ⅳ	A+	内:c 外:d	
67	71	I～J-3～4	円	34×30	26	31.650m	Ⅲ	A	a	1. 白磁、青磁 2. 石灰岩礫混入。
68	72	J-3～4	円	27×25	14	31.753m	Ⅳ	A	a	1. グスク
69	73	J-3	円？	—×55	—	31.705m	Ⅳ	D(l)	b	1. 魚骨
70	74	J-3	不	—×20	—	31.553m	Ⅲ	D	b	2. 一部撹乱を受ける。
71	75	J-3	不	25×16	—	31.529m	Ⅲ	D(s)	a	2. 一部撹乱を受ける。
72	76	J-3	内:円？ 外:円	内:15×14？ 外:55×53	26	内:31.567m 外:31.580m	Ⅲ	C+(l)	内:a 外:a	1. 外:青磁、中褐、タイ褐、瓦質、魚骨、焼土 2. 一部撹乱を受ける。
73	77	J-3	円？	—×25	6	31.778m	Ⅳ	B	a	2. 一部撹乱を受ける。
74	78	J-3	内:円？ 外:円？	内:—×21 外:—×39	8	内:31.842m 外:31.766m	Ⅳ	A+	内:b 外:b	2. 一部撹乱を受ける。
75	79	J-4	内:楕？ 外:円	内:17？×15 外:35×33	3	内:31.870m 外:31.883m	Ⅳ	C+	内:b 外:d	
79	80	J-4	不	31×29	27	31.622m	Ⅲ	D	c	
80	81	J-3	内:楕？ 外:円	内:—×15 外:46×43	28	内:31.682m 外1層:31.862m 外2層:31.680m 外3層:31.618m	Ⅲ	B+	内:b 外1層:b 外2層:b 外3層:b	1. 青花、沖無、沖施、魚骨 内:グスク、沖無 外3層:グスク 2. 内:石灰岩礫混入。別の遺構の可能性あり。
81	82	J-3	楕？	—×24	9	1層:31.852m 2層:31.807m	Ⅳ	A	1層:b 2層:b	1. 沖無、獣骨、焼土
82	83	J-4	円？	—×37	10.5	31.803m	Ⅳ	A	a	1. 青花、魚骨
83	84	J-4	円	17×15	16	1層:31.797m 2層:31.717m	Ⅳ	A(s)	1層:b 2層:b	
83下	85	J-4	内:円？ 外:円	内:—×12？ 外:36×34	18	内:31.699m 外:31.713m	Ⅲ	C+	内:b 外:b	1. 青磁、青花
84	86	J-4	円	—×26	10	31.805m	Ⅳ	A	b	1. 獣骨
85	87	J-4	円	30×28	13	31.762m	Ⅳ	A	b	1. 石器
86	88	J-3～4	円	43×40	16	31.739m	Ⅳ	C	b	1. 白磁、青花、魚骨
87	89	J-4	円？	—×26	4.5	31.850m	Ⅳ	A	a	
88上	90	J-3	円？	—×12	3	31.911m	Ⅴ	B(s)	b	
88	91	J-3	円？	—×26	3	31.899m	Ⅳ	A	c	1. 青磁
89	92	J-3～4	円	22.5×24	4.5	31.877m	Ⅳ	A	c	
89下	93	J-3～4	円？	—×11.5	2	31.887m	Ⅳ	A(s)	d	
90	94	J-3	円	—×23	5	31.880m	Ⅳ	A	b	
91	95	J-3	内:楕 外:円	内:17×13 外:44×41	34	内:31.562m 外1層:31.623m 外2層:31.557m	Ⅲ	A+	内:b 外1層:b 外2層:b	1. 青磁、青花、中褐 外:青花、タイ陶？ 2. 南壁に掛かる。一部撹乱を受ける。
92	96	J-3	不	29？×19	30	31.576m	Ⅲ	A(s)	b	2. 一部撹乱を受ける。
93	97	J-3	円？	—×13	6	31.784m	Ⅳ	A(s)	b	2. 一部撹乱を受ける。
95	98	J-3	円？	—×16	7	31.751m	Ⅳ	C(s)	a	2. 一部撹乱を受ける。
96	99	J-3	円？	—×35	11	31.726m	Ⅳ	A	a	1. 沖無 2. 一部撹乱を受ける。
97	100	J-3	円？	—×36	28	31.561m	Ⅲ	A	a	1. グスク、沖無
98	101	J-3	円？	—×39	38	31.462m	Ⅱ	A	b	1. 青花 2. 一部撹乱を受ける。
99	102	J-3	円	16×14	—	31.814m	Ⅳ	B(s)	c	
100	103	J-3	円？	—×18？	—	31.841m	Ⅳ	A(s)	c	2. 一部撹乱を受ける。
101	104	J-3	円？	—×29	15	31.783m	Ⅳ	A	a	1. 石材 2. 一部撹乱を受ける。
101下	105	J-3	円？	—×—	14	31.786m	Ⅳ	A	a	2. 一部撹乱を受ける。
102	106	J-3～4	円	34×32	18	1層:31.818m 2層:31.782m	Ⅳ	A	1層:a 2層:a	1. 青花、中褐、獣骨
103上	107	J-4	円？	22？×19	23	31.709m	Ⅳ	A(s)	a	1. グスク、沖施 2. 検出面に石灰岩礫
103	108	J-4	楕	—×35	25	31.703m	Ⅳ	A	a	1. グスク、沖無
104	109	J-4	円？	—×43	24	31.705m	Ⅳ	A	a	2. 一部撹乱を受ける。
104下	110	J-4	円？	—×—	20	31.737m	Ⅳ	B	a	2. 一部撹乱を受ける。
105	112	J-3	円？	—×27	13	31.859m	Ⅳ	A	a	1. 青磁 2. 一部撹乱を受ける。
105下	111	J-3	円？	—×15	8	31.903m	Ⅴ	A(s)	a	2. 一部撹乱を受ける。
106	113	J-3	円？	—×36	14	31.857m	Ⅳ	D	a	1. 焼土
106下	114	J-3	内:円？ 外:円？	内:11？×9？ 外:32？×28？	12	内:31.812m 外:31.812m	Ⅳ	A+	内:b 外:b	
107上	115	J-3～4	円	—×25	20	31.803m	Ⅳ	A	a	
107	116	J-3～4	円	—×43	23	31.778m	Ⅳ	A	a	1. 白磁、青花、中褐、玉、不明
108	117	J-4	円？	—×31	23	31.773m	Ⅳ	A	a	1. 青花 2. 一部撹乱を受ける。 3. 225±23（近世）
108下	118	J-4	円？	—×—	—	31.891m	Ⅳ	B	b	2. 一部撹乱を受ける。
108-2	119	J-4	円？	—×18.5	—	31.919m	Ⅴ	B(s)	a	2. 北壁に掛かる。
109	120	J-4	円	23×21	21	31.787m	Ⅳ	A	b	
110	121	J-4	円？	18×16？	12	31.835m	Ⅳ	A(s)	a	
111	122	J-3	円	38×35	25	31.818m	Ⅳ	A	a	1. グスク、石器、石材、獣骨、魚骨 2. 一部撹乱を受ける。
111下	123	J-3	内:円？ 外:円？	内:—×18 外:—×34	22	内:31.853m 外:31.846m	Ⅳ	A+	内:a 外:a	1. 外:青磁 2. 一部撹乱を受ける。
111下-2	124	J-3	円？	—×9	2.5	31.977m	Ⅴ	A(s)	a	2. 一部撹乱を受ける。
112	125	J-3	円？	—×28	25	31.691m	Ⅲ	B	a	1. 青花、本陶
113	126	J-3～4	円？	—×32	4	31.966m	Ⅴ	A	a	

※遺構番号の後に付く内外の表記は、「内」は、柱を抜いた後に入り込んだ土と想定。「外」は柱を据えた後に周囲の隙間に敷き詰めた埋土、造成土と想定。

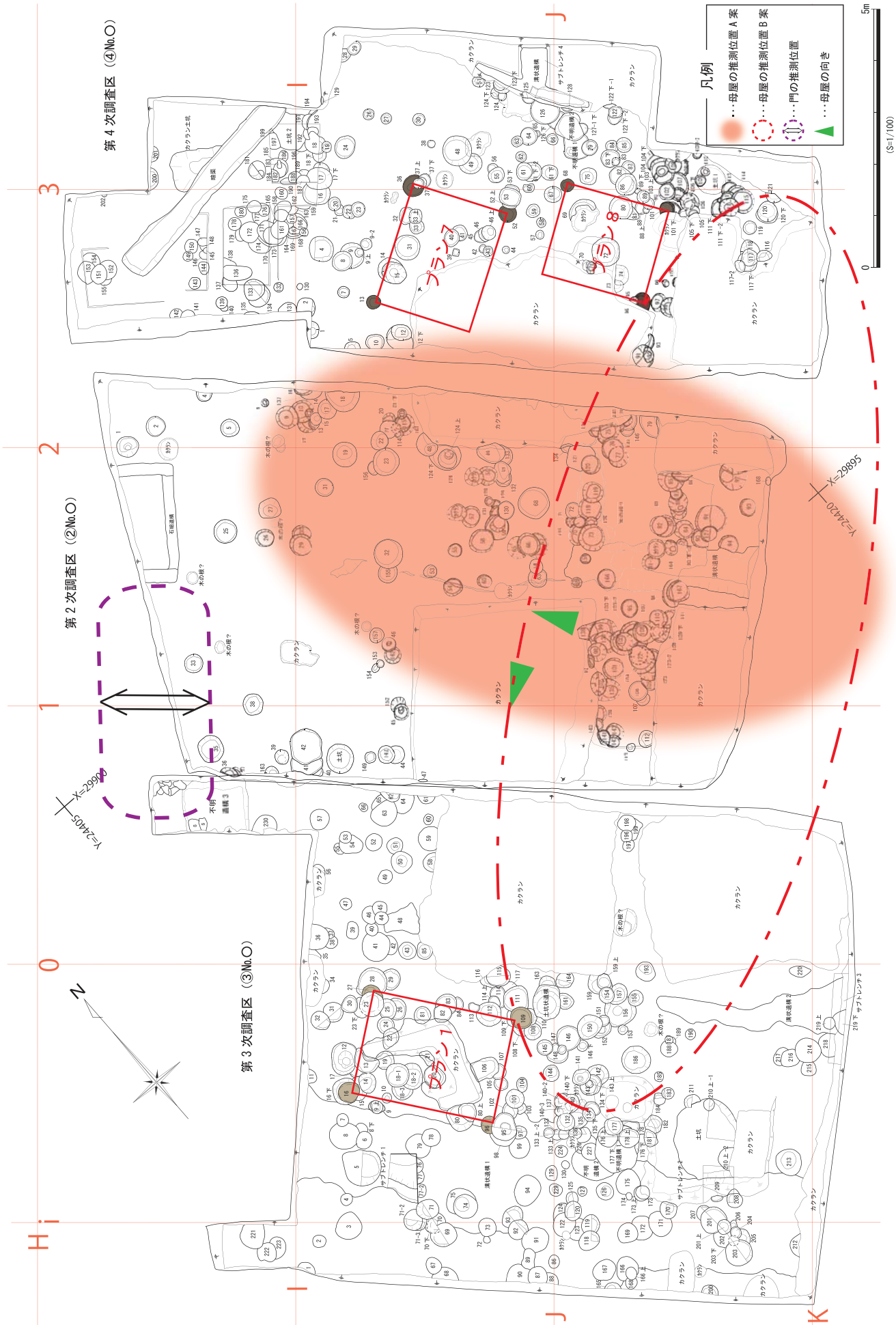
第Ⅲ-6-2表　第4次調査区遺構観察一覧

遺構番号（④№○○）	連番	グリッド	形状	検出面（cm）（長×短）	深さ（cm）	底面レベル（m）	分類			その他の情報
							底面	断面形態	覆土	1. 出土遺物 2. 備考 3. 年代測定
114	127	J-3～4	円？	—×—	22	31.778m	Ⅳ	A	b	3. 446±23（グスク）
115	128	J-3～4	内：円 外：円	内：—×34？ 外：—×46	27	内：31.744m 外：31.800m	Ⅳ	A+	内：a 外：a	1. 内：グスク、魚骨 外：グスク、青磁、青花、石材 2. 一部撹乱を受けている
116	129	J-3	円？	30×21	22	31.809m	Ⅳ	D	a	2. 一部撹乱を受ける。
117	130	J-3	円？	—×33	40	1層：31.942m 2層：31.890m 3層：31.808m 4層：31.693m 5層：31.660m 6層：31.607m	Ⅲ	B	1層：b 2層：b 3層：b 4層：b 5層：b 6層：d	1. グスク、青磁、本磁 2. 一部撹乱を受ける。
117下	131	J-3	円	—×39	31	1層：31.699m 2層：31.497m	Ⅱ	B	1層：b 2層：b	1. 玉 2. 一部撹乱を受ける。
117-2	132	J-3	円	25×17	20	31.530m	Ⅲ	A(s)	b	1. グスク 2. 一部撹乱を受ける。
118	133	J-3	円？	—×37	34	1層：31.863m 2層：31.749m 3層：31.716m 4層：31.599m	Ⅲ	A	1層：a 2層：b 3層：a 4層：b	2. 一部撹乱を受ける。
119	134	J-3	内：不 外：円	内：14×8 外：27×26	2	内：32.005m 外：32.009m	Ⅴ	C+	内：c 外：d	
120	135	J-3	円	39×36	21	31.836m	Ⅳ	B	a	1. 沖無
120下	136	J-3	円？	—×42	19	31.853m	Ⅳ	B	a	
121	137	J-3～4	円？	—×32	18.5	31.864m	Ⅳ	A	b	1. 先史 2. 一部撹乱を受ける。
122	138	J-4	円	26×25	9	31.779m	Ⅳ	B	b	2. 一部撹乱を受ける。
122下-1	139	J-4	—	—×—	—	—	—	—	c	2. 一部撹乱を受ける。 未掘削
122下-2	140	J-4	円？	—×27	6	31.810m	Ⅳ	A	c	
123	141	I-4	円？	—×24	—	31.651m	Ⅲ	A	a	2. 一部撹乱を受ける。
123下	142	I-4	円？	—×32	—	31.738m	Ⅳ	A	b	2. 一部撹乱を受ける。
124	143	I-4	円？	—×16.5	—	31.751m	Ⅳ	A(s)	b	
124下	144	I-4	円？	—×22.5	—	31.623m	Ⅲ	A	b	
125	145	I-4	円？	—×24	—	—	—	B	b	2. 一部撹乱を受ける。
126	146	I～J-4	円？	—×57	4	31.733m	Ⅳ	A(l)	a	2. 一部撹乱を受ける。
126下	147	I～J-4	円？	—×37	2.5	31.767m	Ⅳ	A	b	
127-1下	148	J-4	円？	—×37	10	31.758m	Ⅳ	D	b	
128	149	J-4	円？	—×—	—	31.751m	Ⅳ	A	b	2. 一部撹乱を受ける。
129	150	I-4	—	—×—	14.2	31.599m	Ⅲ	A	a	2. 略西壁に掛かる
130	151	I-3	円？	12×10	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
131	152	H～I-3	円？	—×36	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3南壁に掛かる。 未掘削
132	153	H-3	円？	19×18	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
133	154	H-3	円	42.5×40	—	31.527m	Ⅲ	A	a	1. 中褐、獣骨、焼土 2. 拡トレ3
134	155	H-3	円	—×44	—	31.540m	Ⅲ	A	a	2. 拡トレ3
135	156	H-3	円？	—×—	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3南壁に掛かる。 未掘削
136	157	H-3	楕？	—×28	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
137	158	H-3	円？	—×26	—	—	—	—	d	2. 拡トレ3 未掘削
138	159	H-3	円？	—×—	—	—	—	—	d	2. 拡トレ3 未掘削
139	160	H-3	円？	23×22	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
140	161	H-3	円？	—×15	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
141	162	H-3	円？	—×27.5	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3南壁に掛かる。 未掘削
142	163	H-3	円？	—×25.5	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3南壁に掛かる。 未掘削
143	164	H-3	円？	24×22.5	—	—	—	—	c	2. 拡トレ3 未掘削
144	165	H-3	円？	25×19.5	—	31.408m	Ⅱ	D(s)	b	2. 拡トレ3
145	166	H-3	円？	—×11.5	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
146	167	H-3	円？	—×17.5	—	—	—	—	b	1. グスク 2. 拡トレ3 未掘削
147	168	H-3	円？	—×16	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
148	169	H-3	円？	—×—	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
149	170	H-3	円？	19.5×19	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
150	171	H-3	内：楕？ 外：円？	内：—×17 外：—×25	—	—	—	—	内：a 外：b	2. 拡トレ3 未掘削
151	172	H-3	内：円？ 外：楕？	内：29×25 外：38.5×30	—	—	—	—	内：a 外：a	1. 魚骨 2. 拡トレ3 未掘削
152	173	H-3	円？	—×38	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
153	174	H-3	円？	45×36	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
154	175	H-3	円？	—×35	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
155	176	H-3	円？	—×22.5	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
156	177	I-3	円？	16.5×16	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
157	178	H～I-3	円？	—×19.5	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
158	179	H-3	円？	26.5×22.5	—	—	—	—	a	1. 白磁 2. 拡トレ3 未掘削
159	180	H～I-3	円？	—×—	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
160	181	H-3～4	円？	25×21	—	—	—	—	d	2. 拡トレ3 未掘削
161	182	H-3	円？	—×36	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
162	183	H-3	内：円？ 外：楕？	内：13.5×11 外：—×26	—	—	—	—	内：a 外：a	2. 拡トレ3 未掘削
163	184	H～I-3	円？	—×—	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
164	185	H-3	円？	—×—	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
165	186	H-3	円？	—×—	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
166	187	H～I-3	楕？	—×21	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
167	188	H～I-3	円？	—×—	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
168	189	H～I-3	円？	—×—	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
169	190	H～I-3	円？	—×—	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
170	191	H-3	円？	—×39	—	—	—	—	a	1. グスク 2. 拡トレ3 未掘削
171	192	H-3	円？	—×40？	—	—	—	—	b	1. アカ 2. 拡張トレ3 未掘削
172	193	H-3	円？	—×41	—	—	—	—	a	1. 焼土 2. 拡トレ3 未掘削
173	194	H-3	楕？	—×56	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
174	195	H-3	円？	—×45	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
175	196	H-3	円？	27.5×24	—	—	—	—	a	1. 沖無、アカ 2. 拡トレ3 未掘削
176	197	H-3	円？	—×24.5	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
177	198	H-3	円？	—×33	—	—	—	—	a	1. 沖無 2. 拡トレ3 未掘削
178	199	H-3	円？	25×24.5	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
179	200	H-3	円？	—×23	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
180	201	H-3	円？	19.5×22.5	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
181	202	H-4	内：円 外：円	内：19×16 外：35.5×33	—	内：31.354m 外：31.312m	Ⅱ	A+	内：a 外：b	2. 拡トレ3
182	203	H-4	円？	—×27	6	31.557m	Ⅲ	B	a	2. 拡トレ3
183	204	H-4	不	16×5	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
184	205	H-4	内：楕？ 外：円？	内：—×16 外：—×28	—	—	—	—	内：a 外：d	2. 拡トレ3 未掘削
185	206	H-4	円？	—×40	14	31.461m	Ⅱ	A	b	2. 拡トレ3
186	207	H-4	楕？	—×18	—	—	—	—	c	2. 拡トレ3 未掘削
187	208	H～I-4	円？	—×25	8	1層：31.641m 2層：31.619m	Ⅲ	A	1層：a 2層：a	2. 拡トレ3
188	209	H～I-4	円？	—×26	16	31.518m	Ⅲ	A	a	2. 拡トレ3
189	210	H～I-4	円？	—×—	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 未掘削
190	211	H-4	円？	—×13	19	31.445m	Ⅱ	A(s)	a	2. 拡トレ3
191	212	I-4	円？	—×30	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 一部撹乱を受ける。 未掘削
192	213	I-4	円？	—×22	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 一部撹乱を受ける。 未掘削
193	214	I-4	内：円？ 外：円？	内：—×10 外：—×21	—	—	—	—	内：d 外：d	2. 拡トレ3 一部撹乱を受ける。 未掘削
194	215	I-4	円？	—×—	—	—	—	—	a	2. 拡トレ3 一部撹乱を受ける。 未掘削
196	216	H～I-4	円？	—×—	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
197	217	H-4	円？	—×32	5	31.579m	Ⅲ	B	a	2. 拡トレ3
199	218	H～I-4	円？	—×—	—	—	—	—	b	2. 拡トレ3 未掘削
200	219	H-3～4	円？	—×43.5	11	31.259m	Ⅰ	A	a	2. 拡トレ3-2略西壁に掛かる
201	220	H-4	内：円？ 外：円？	内：—×16 外：—×30.5	29	内：31.112m 外：31.112m	Ⅰ	B+	内：a 外：a	2. 拡トレ3-2略西壁に掛かる
202	221	H-3	円？	—×10	11	31.221m	Ⅰ	B(s)	a	1. グスク 2. 拡トレ3-3略北壁に掛かる
溝状遺構	222	I-4	—	—×—	34	1層：— 2層：31.660 m	—	—	1層：a 2層：b	1. グスク、中褐、沖無
土坑1	223	J-3～4	円	—×56	1層：12 2層：15	1層：31.879m 2層：31.724m	—	—	1層：a 2層：d	
土坑2	224	H～I-4	隅丸方？	80×68	34	31.438m	—	—	a	1. グスク、白磁、青磁 2. 拡トレ3 一部暗渠で切られる。
不明遺構1	225	J-4	不	31×30	15	31.747m	—	A	b	1. 石器 2.土坑の可能性あり。
不明遺構2	226	J-4	不	1層：51×36？ 2層：—×37	18	1層：31.635m 2層：31.611m	—	—	1層：a 2層：a	2. 溝状遺構の可能性あり。

遺構名（④○）	連番	グリッド	観察所見
石敷遺構1	227	H-3	拡張トレンチ3の西～南に掛けて確認された遺構。石敷の一部には、円形状に抉られた箇所が3つ確認された。その内筋道側に位置するものについては、平瓦7点が、抉られた箇所に沿って縦置きで配置されていた。なお、当遺構は、長方形状の石灰岩切石を中心に列状に配置されており、南西に向けて下方傾斜がつく。残存長軸は3.76m。平瓦が配置された円形状抉りの箇所は直径38cm。
石敷遺構2	228	H-3	拡張トレンチ3の中央側から北西側に延びて確認された遺構。方形状の石灰岩切石が列状に配置されている。なお、石敷遺構1と並存していた遺構と推測される。
暗渠	229	H-3～4	拡張トレンチ3の東側から中央に掛けて確認された遺構。当遺構の構造は、４or５層構造となっている。1層は暗渠廃棄時の埋土か暗渠の上部構造としての埋土か判別が困難。２a層は、丸瓦２つで筒状になるよう組み合わせたものが、12組縦列配置されていた。この傍には、石灰岩礫や、瓦片が敷き詰められていた。これより下層の2bは多量の瓦片と砂、2cは多量の石灰岩礫と砂、2dは再び多量の瓦と砂がそれぞれ敷き詰められていた。排水効果を高めるための造りとなっている。なお、丸瓦で構築された暗渠の長軸は約340cm、短軸は約16cmとなる。
石積遺構	230	H-3	拡張トレンチ3の北西側で確認された遺構。北東に面を向き、北西－南東軸に積まれていた。石積みは二段確認されており、下段は、面の形状が不定形を呈した石灰岩石が配置され、上段は方形状を呈した石灰岩石がそれぞれ積まれている。石列遺構と同時期に並存していた遺構と推測される。
石列遺構	231	H-3	拡張トレンチ3の中央から南東側に掛けて確認された遺構。不定形の石灰岩石が北西－南東軸に配置されている。検出層とレベルから判断すると、石積遺構と同時期に並存していた遺構と推測される。

第Ⅲ -23 図　遺構（柱穴跡）の底面レベル分類分布図

第Ⅲ -24 図　掘立柱建物跡プラン図



第Ⅲ -25 図　母屋及び門の推測位置図

４．屋敷の推測復元

4-1．掘立柱建物跡の推測復元（第Ⅲ -24 図）

今回の調査では、前項で行った分類の通り、検出面の直径が 20 ㎝未満、掘削深度が 10 ㎝未満のもの、柱が安定しないと思われるＤ類を除外して的を絞った。その上で、概ね地形に沿った形で検出された遺構の基底面レベル分類（第Ⅲ -23 図）内で、同じ覆土色調を有し、同じ掘り方のものを建物プランとして推測復元した。なお、建物プランの規模については、宮城弘樹・玉城靖・仲宗根求が行った県内のグスク期を中心とした掘立柱建物跡の集成（宮城・玉城・仲宗根 2007）を参考に、これら紹介事例から大きく反れないと思われるものを選定した。

前述の分類から推測した掘立柱建物跡プランは、一間 × 一間の７棟（プラン２・３はどちらか１棟とする）である（第Ⅲ -24 図）。プラン１（③№ 16、③№ 27、③№ 96、③№ 109）は、柱間の長軸が 2.8 m、短軸が２m。プラン２・３は、柱穴が一部重複したプランとなる。プラン２（③№ 111、③№ 148、③№ 156、撹乱）は、長軸 1.5 m、短軸 1.4 mで、プラン３（③№ 117、③№ 148、③№ 156、撹乱）は、長軸 1.6 m、短軸 1.5 mとなる。プラン４（②№ 16、②№ 19、④№ 10、撹乱）は、長軸 1.7 m、短軸 1.5 m。プラン５（②№ 49、②№ 65、②№ 79、②№ 82）は、長軸 2.85 m、短軸２m。プラン６（②№ 83、②№ 121、④№ 91、調査区外）は、長軸 2.45 m、短軸 2.15 m。プラン７（④№ 13、④№ 36、④№ 52、撹乱）は、長軸 2.4 m、短軸 1.9 m。プラン８（④№ 68、④№ 96、④№ 101、撹乱）は、長軸 2.05 m、短軸 1.85 m。これらは、高床倉庫などの付属施設類と推測される。ただし、プラン２については建物の可能性はあるものの、県内の掘立柱建物跡の事例からは同規模の類例は見られない。

建物プランの新旧関係については、遺構の切り合い状況から、プラン１はプラン２・３より新しく、プラン５はプラン６より新しくなる。しかし、出土遺物に時期差が見られないことから、短期間での建て替えが行われたと推察される。また、概ね同じ軸向き（長軸及び短軸の方向に関係なく）を持つ建物跡は、九州・沖縄民家の建物（母屋や付属施設）の配置状況（澤村 1990）や、仲宗根の建掘立柱建物跡の研究（仲宗根 2003）から、同時期に並存、または近い時期に建てられた建物と想定した。

この中で、同じ覆土色調を持つ遺構は、同時期に廃棄された建物の可能性が考えられ、色調が異なるものは、廃棄時期が異なる建物と考えた。前述のことから、プラン２・３とプラン４は、軸向き及び覆土色調から、同時期または近い時期に廃棄された建物跡と推測される。プラン１とプラン７・８は、どちらが先に廃棄されたかは不明だが、一定期間並存していた建物の可能性がある。以上のことから、分類によって選出した建物プランでは、プラン２・３とプラン４→プラン１とプラン７、８と、プラン６→プラン５の建て替えが行われたと推察される。遺物の出土状況からは、プラン７以外は近世以降のものと推定される。プラン７については、柱を据えた後に周辺に敷き詰めた埋土［④№ 13（外）、④№ 36（外）］からグスク土器（Ⅳ類）片が出土したが、詳細が不明なため、同じ軸を持つプラン１、８に近い時期の建物跡として扱った。

4-2．母屋の位置（第Ⅲ -25 図）

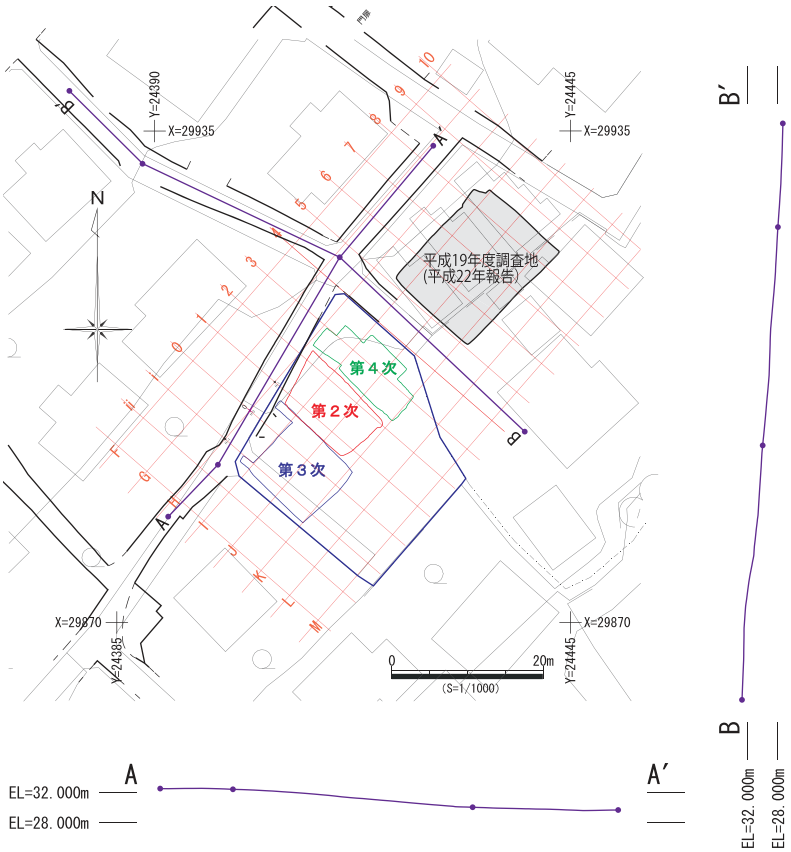
今回の分類による整理では、これら近世以降の付属施設を伴う母屋のプランは見つけることはできなかった。しかしながら、当調査区（大掟屋敷地）内における母屋は、現在でも碁盤型景観を残す当集落の筋道の軸向きや、母屋と付属施設が同じ軸向きを持つ様相が窺えること（澤村 1990、仲宗根 2003）、坂本磐雄の「山の位置と 90 度だけ南寄りに偏った方位」となる統計調査（坂本 1989）、ピットの集中域を勘案すると、第２次調査区東側の範囲内（母屋推測位置Ａ案）に位置していた可能性が高いと考えられる。

ただし、母屋の位置、向きについては、当集落の背面に位置する丘陵が北東ー南西軸に延びていること、「集落の南寄りに山が位置する場合は、台風時の風向きに対する配慮が必要でなければ、最多方位は山を背に向けた

方位となる」（坂本 1989）ことから、調査区南東側の位置で北西方向に正面を向けていた（母屋推測位置 B 案）可能性も考えられる。また、坂本の調査事例を基に、母屋の推測位置と、近現代期の②石組遺構、④石敷遺構類、④暗渠、④石積・石列遺構の付属施設類の位置から、A 案では一番座が南東側に、B 案では南西側にあることが推察された。なお、屋敷地内の庭については、第２次調査区北西側のピットが少ない空間と、その後に構築される近現代期の②石畳（切石で構築された縁石が北西側に、南東側には自然石で構築された縁石がそれぞれ配置されている）の関係は示唆的である。この検出状況と、坂本の論を参考にすると、屋敷地の門は第２次調査区西側～拡張トレンチ２の範囲内に位置していたと思われる。

５．遺構の年代測定結果

今回年代測定を行った遺構は、主に遺構の切り合い関係が多いものの中から、炭化種実が得られた最も古い遺構と、新しい遺構を選出した。分析結果が出たのは、②№.82（外）［BP371±23］、②溝状遺構（１層）［BP440±23］、③№.113［BP202±21］、③№.135（外）［BP607±23］、③№.150［BP415±22］、③土坑［BP435±21］、④№.108［BP225±23］、④№.114［BP446±23］の８基である。この中で、③№.113、③№.135（外）、④№.108、④№.114 の４基においては、年代測定の結果と、遺物の出土状況及び遺構の切り合い関係は適合する可能性が窺えた。しかし、これ以外の４基については異なる結果となった（本章第４節参照）。このことから、今調査で確認された遺構と、年代測定結果の関係性については扱うことを控えたい。



図版Ⅲ－３　調査区東側の筋道（北西より）

図版Ⅲ－４　調査区北側の筋道（北東より）

第Ⅲ-26 図　大掟屋敷地周辺の地形図

第３節　遺物

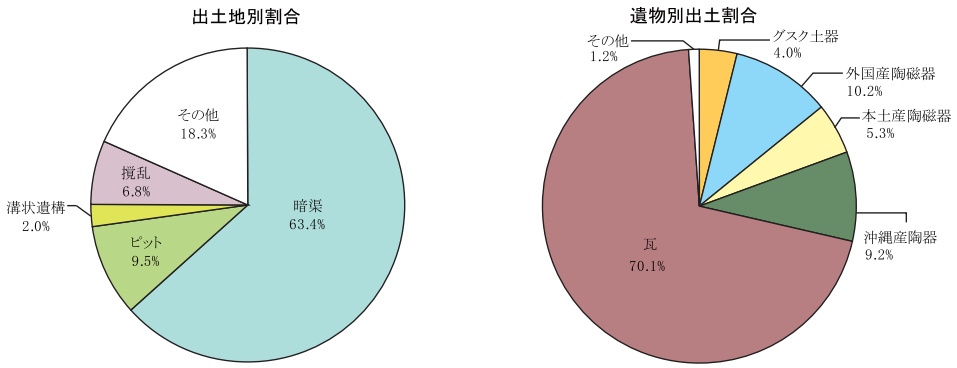
本遺跡における今回の調査（試掘調査、第２～４次調査）では、総数 5563 点もの遺物が確認されている。得られた遺物を見てみると、概ね先史時代から近現代までの資料が見受けられたが、当該地において主体となる時期はグスク時代～近代になるものと推測ができる。出土品の種別は土器（先史、グスク、近世）、類須恵器、白磁、青磁、青花、褐釉陶器（中国産、タイ産）、黒釉陶器、タイ産半練、本土産陶磁器（砥部、肥前、内野山など）、沖縄産無釉陶器、沖縄産施釉陶器、アカムヌー、瓦質土器（沖縄産）、瓦、石器･石製品、銭貨、煙管、円盤状製品、骨製品、玉、焼土塊などがあり、その他にも脊椎動物遺体や貝類遺体が認められた。

第Ⅲ－７表は主要遺物の集計表となっており、それを見ると最も多く得られている人工遺物が 3626 点の瓦（明朝系）で、全体の約 70.1％を占めて他種の遺物を圧倒する出土状況を呈している。次いで、本土産磁器（約 4.9％）、沖縄産無釉陶器（約 4.4％）、グスク土器（約 4.0）、青磁（約 3.7％）などが続くものの、陶磁器の出土割合に大きな差は見られなかった。また、出土地別で傾向を見た場合、暗渠においての出土量が最多となり、その割合は全体の 63.4％となっているが、そこから出た遺物の大多数は瓦（98.7％）であったことから、当遺構の機能的役割を瓦片に持たせていたことが窺える。以下、ピット群（約 9.5％）、溝状遺構（約 2.0％）などの各遺構や攪乱部（6.8％）からも多くの遺物が確認された。

少量ながら先史土器が認められたが、資料のほとんどは砕片であったため、その詳細を把握するには至っていない。また、グスク時代に至るとグスク土器の出土が顕著となり、その点数は 200 点を余る。それらの中で鍋の口縁部資料に把手を貼付したものが見られ、その形状に方形状を呈するもの、瘤状突起のような形をなすものなど、凡そ２種の形状が認められた。前者は砂質、後者は概ね泥質となる資料が目立った。グスク土器の出土数に対して、類須恵器はわずか４点の破片が出土したのみで、その差は約 50 倍であった。また玉縁白磁も確認されるなど、やや古い時期の遺物も出土している。白磁の約２倍もの数量で得られた青磁は、15 世紀頃の製品が主体となっている。青花にいたっては、15 世紀後半～ 16 世紀頃の資料が少量なのに対して、17 世紀以降のものが大半となった。

沖縄において生産された遺物については、アカムヌーの火炉が確認されており、中でもＶ類としている馬蹄形状を呈した資料が全形を窺えそうな状態であったことから、今回は図上復元を試みた。器物ではないが、明朝系瓦の胎土に灰釉碗の破片が混入する資料も認められている。また製品とは異なる出土資料に、複数の焼土塊も見受けられている。資料には混入物の含有量および表面に見られる植物圧痕によって細分が可能であるが、詳細については把握が困難であった。以下、これら遺物の詳細を報告していく。

※暗渠は５枚に分層できたが、時期的な差異が認められないため、「暗渠埋土」として一括で遺物を取り上げた。



※ 遺物別出土割合には脊椎動物および貝類遺体は含めていない。

第Ⅲ -27 図　出土地別の割合および遺物別の割合

第Ⅲ - 7 -1 表　主要遺物集計表

出土位置・層位 / 種類	ピット			その他の遺構																		
				二次 ②	三次 ③						四次 ④											
	二次 ②※	三次 ③	四次 ④	溝状遺構	溝状遺構1	溝状遺構2	土坑状遺構	土坑	不明遺構1	不明遺構3	溝状遺構	土坑2	不明遺構1	暗渠（N・S 1～12）	拡張トレンチ暗渠埋土3	Ⅰ	Ⅰ（瓦溜り）	Ⅰ～Ⅱ	Ⅱ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅱd	Ⅱd 1層
先史土器	2	3	2																	1			
グスク土器	30	29	30	24	5		1	6			1	1			1	1						24	6
類須恵器	3			1																			
白磁	26	12	9	8		1	1	2				1			1			2	2	4		2	1
青磁	32	31	23	25	2			8	1			1				3		1	4	6		6	2
青花	43	13	19	6												2			1	3		3	2
中国産褐釉陶器	7	2	6	10							1									1		1	
黒釉陶器	1							1															
無釉陶器																							
タイ産褐釉陶器	9	6	2	2	1	1	1								1							1	
タイ産半練土器			1																				
タイ産鉄絵				1																			
陶器（タイ産？）			1																				
本土産陶器	3	1	1													2			2			1	
本土産磁器	7	2	4												4	6			1	13		6	6
沖縄産無釉陶器	26	11	18	1				1			2				32	1			1	1		7	4
沖縄産施釉陶器	4	4	2												1	11		1		12	1	15	3
アカムヌー	2	6	5	1	1			2							3	1						1	1
瓦質土器			2																				
瓦	2													24	3458		2				1	2	3
宮古式？ 中森式orパナリ焼	2	1		3																		2	
石器		3	3	2	1								1										
石製品	1	1																					
銭貨	4			1				1								2				1			
煙管		2																					
骨製品				1																			
円盤状製品	2																		1				
玉		1	4				1		1														
貝類遺存体	32	11	22	7			1			2					4			1	1	8			
合計	238	139	154	93	10	2	5	21	2	2	4	3	1	24	3505	29	2	5	13	50	2	71	28

※試掘調査のTP７で確認された遺構No.５は資料整理時に②No.123と判別されたため、これに含めた。

第Ⅲ - 7 -2 表　主要遺物集計表

出土位置・層位 / 種類	Ⅱd/Ⅱg	Ⅱg	Ⅱa～f	Ⅱc～g	Ⅱe～f	Ⅱe～g	Ⅱf～g	暗渠/Ⅱd1	拡張トレンチ1 Ⅱd1	拡張トレンチ2					拡張トレンチ3								
										Ⅱ	Ⅱd2/Ⅱg/Ⅲ	Ⅱg	Ⅱg～Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ～Ⅱ	Ⅱ	Ⅱc	Ⅱd1	Ⅱg 上面	Ⅱg	Ⅱd～f	Ⅱe～f
先史土器																							
グスク土器		3		1	1	2				1				3			2				2		2
類須恵器																							
白磁			3	1						1		2						1			1		
青磁				1						1		1			1	1					2		
青花	2	1		1	2	4				1		2		1	2		1	1				3	
中国産褐釉陶器										1		1											
黒釉陶器													1										
無釉陶器																							
タイ産褐釉陶器														1							2		
タイ産半練土器		1																					
タイ産鉄絵																							
陶器（タイ産？）																							
本土産陶器			1	1						1					1								
本土産磁器		1	1	5		1				6					8	10		2	1	1		1	1
沖縄産無釉陶器		5		3	2	3	4	1		6					1		8		1		2	3	1
沖縄産施釉陶器		4	3	6	1	2	4			5		1			4	5	2	2	1		3	5	2
アカムヌー		4	1	7	1	1	1						1			1	1					2	1
瓦質土器																							
瓦			4	2		1	4	36		2	4				9	5	9					16	2
宮古式？ 中森式orパナリ焼																		1					
石器															1								
石製品																							
銭貨												1											
煙管									1												1		1
骨製品																							
円盤状製品											1												
玉																							
貝類遺存体		2		6	1	2	2			10	4	10	2	88	1		2	1		3			2
合計	2	21	13	34	8	16	15	37	1	35	9	18	4	93	28	22	25	8	3	4	13	30	12

第Ⅲ - 7 -3 表　主要遺物集計表

出土位置・層位 / 種類	拡張 トレンチ3-1						拡張トレンチ3-2	拡張トレンチ3-3						TP2	TP3	TP3	TP5	TP6	TP7			接合資料			
	Ⅰ～Ⅱ	Ⅱg	Ⅱa～b	Ⅱc～g	Ⅱe～f	層序不明	拡張トレンチ3-2Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱa	Ⅱc	Ⅱf	Ⅱg			Ⅰ層	Ⅰ層		西トレ	南トレ1層	南トレ2層	②・№66 ②・№83	②・№73 ②・№77	②・№75 ②・№77	②・№76 ②・№77
先史土器																									
グスク土器		13											6					1							
類須恵器																									
白磁		3							1			1	1		1		1					1			
青磁		6		1		1	2		2		1		2				4		1	1					
青花	3	7	1	1	1			2		1		1	2			2	4	3					1	1	1
中国産褐釉陶器		1							1				1												
黒釉陶器																									
無釉陶器													1												
タイ産褐釉陶器		1				1	1						1				1								
タイ産半練土器																									
タイ産鉄絵																									
陶器（タイ産？）																									
本土産陶器								1								1									
本土産磁器	2	2		1			1	2	4	6					3	1									
沖縄産無釉陶器	19	10		1	5		1		11	1			4	2				1			1				
沖縄産施釉陶器		13		1			1		15	1			1				2		1		1				
アカムヌー		2							1	1			2												
瓦質土器																									
瓦		15		1				3	1				1								1				
宮古式？ 中森式orパナリ焼										1															
石器													1												
石製品																									
銭貨																									
煙管														1											
骨製品																									
円盤状製品																									
玉																									
貝類遺存体		6			1				3				1												
合計	24	79	1	6	7	2	6	8	39	11	1	2	24	3	4	4	12	5	2	1	3	1	1	1	1

第Ⅲ - 7 -4 表　主要遺物集計表

出土位置・層位 / 種類	接合資料																				
	②・No.73 ②・溝状遺構 ②・溝状遺構 4層	②・溝状遺構 ②・溝状遺構 1～2層	②・溝状遺構 ②・溝状遺構 4層	④・No.17 ・撹乱	④・No.117 ・撹乱	③・溝状遺構 1-1層 ・不明	④・No.107 ・拡張トレンチ 3-1Ⅱg	・Ⅱa ・Ⅱd	・Ⅰ ・Ⅱe～g	・Ⅰ ・Ⅱa	・Ⅱg ・Ⅱa～f	・Ⅱg ・Ⅱc～g	・Ⅱa～f ・Ⅱc～g	・Ⅱc～g ・Ⅱe～g	・Ⅰ～Ⅱ ・撹乱	・Ⅱc～g ・撹乱	・Ⅱf～g ・撹乱	・Ⅰ ・拡張トレンチ 3-1Ⅰ～Ⅱ	・Ⅱd1 ・拡張トレンチ 3 Ⅱe～f	・Ⅱg ・拡張トレンチ 3Ⅱ	・Ⅱg ・拡張トレンチ 3Ⅱ
先史土器																					
グスク土器																					
類須恵器																					
白磁																					
青磁		1	1			1		1													
青花							1														
中国産褐釉陶器	1																				
黒釉陶器																					
無釉陶器																					
タイ産褐釉陶器																					
タイ産半練土器																					
タイ産鉄絵																					
陶器(タイ産？)																					
本土産陶器																					
本土産磁器				3	1				1						1	1					
沖縄産無釉陶器				1								1					1				
沖縄産施釉陶器				1						1			1	1				1			
アカムヌー											1								1	1	
瓦質土器																					
瓦																					1
宮古式？ 中森式orパナリ焼																					
石器																					
石製品																					
銭貨																					
煙管																					
骨製品																					
円盤状製品																					
玉																					
貝類遺存体																					
合計	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

第Ⅲ - 7 -5 表　主要遺物集計表

出土位置・層位 / 種類	接合資料																	
	・Ⅱa～f ・拡張トレンチ3Ⅱe～f	・Ⅱa～f ・拡張トレンチ3Ⅱd～f	・Ⅱa～f ・拡張トレンチ3Ⅱd～g	・Ⅱa～f ・拡張トレンチ3-1Ⅱg	④・Ⅱa～g ・礫充填部Ⅱg	・Ⅱe～f ・拡張トレンチ3Ⅱe～f	・Ⅱa ・Ⅱd ・拡張トレンチ3-3Ⅱ	・Ⅱa～f ・Ⅱd ・拡張トレンチ3-1Ⅱg	・拡張トレンチ3Ⅱe～f ・拡張トレンチ3-3Ⅱ	・拡張トレンチ3Ⅰ ・拡張トレンチ3-3Ⅱ	・拡張トレンチ3暗渠埋土 ・拡張トレンチ3-3Ⅱ	・拡張トレンチ3-1Ⅱg ・拡張トレンチ3暗渠埋土	・拡張トレンチ3-1Ⅱg ・拡張トレンチ3-1Ⅱc～g	・拡張トレンチ3Ⅱd～f ・拡張トレンチ3-3Ⅱc	・拡張トレンチ3Ⅱc ・拡張トレンチ3-1Ⅱg	・拡張トレンチ3Ⅱe～f ・拡張トレンチ3-1Ⅰ～Ⅱ	・拡張トレンチ3Ⅰ ・拡張トレンチ3-1Ⅱg層	・拡張トレンチ3Ⅰ ・拡張トレンチ3Ⅱc
先史土器																		
グスク土器																		
類須恵器																		
白磁																		
青磁																		
青花																		
中国産褐釉陶器																		
黒釉陶器																		
無釉陶器																		
タイ産褐釉陶器																		
タイ産半練土器																		
タイ産鉄絵																		
陶器(タイ産？)																		
本土産陶器																		
本土産磁器									1	1	1							
沖縄産無釉陶器			1	1								1	1	1				
沖縄産施釉陶器	1				1	1	1	1								1	1	1
アカムヌー															1			
瓦質土器																		
瓦		1																
宮古式？ 中森式orパナリ焼																		
石器																		
石製品																		
銭貨																		
煙管																		
骨製品																		
円盤状製品																		
玉																		
貝類遺存体																		
合計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

第Ⅲ - 7 -6 表　主要遺物集計表

出土位置・層位 / 種類	接合資料												撹乱	表採	不明	ナンバーリング不明	合計
	・拡張トレンチ3Ⅱd～f ・拡張トレンチ3-1Ⅱg	・拡張トレンチ2Ⅱg ・拡張トレンチ2Ⅲ	・Ⅱc～g ・拡張トレンチ3Ⅱd～f ・拡張トレンチ3Ⅱe～f	・Ⅱa～f ・拡張トレンチ3Ⅱc～g ・拡張トレンチ3-1Ⅱg	・Ⅱd層 ・拡張トレンチ3Ⅰ ・拡張トレンチ3Ⅱc	・拡張トレンチ3Ⅱ ・拡張トレンチ3-3Ⅱ ・撹乱	・拡張トレンチ3 ・拡張トレンチ3Ⅱd～f ・拡張トレンチ3Ⅱd～g	・拡張トレンチ3Ⅱd～f ・拡張トレンチ3Ⅱe～f ・拡張トレンチ3-1Ⅱg	・Ⅱg ・Ⅱf～g ・拡張トレンチ3Ⅱd～f ・拡張トレンチ3-1Ⅱg	・Ⅱa～f ・拡張トレンチ3 Ⅱd～g ・拡張トレンチ3 Ⅱe～f ・拡張トレンチ3-1Ⅱg ・拡張トレンチ3-1Ⅱc～g ・拡張トレンチ3-1Ⅱe～f ・拡張トレンチ3暗渠埋土	・Ⅱa～f ・Ⅱc～g ・Ⅱf～g ・拡張トレンチ3Ⅱd～f ・拡張トレンチ3Ⅱe～f ・拡張トレンチ3-3Ⅱa	④・№80 ・拡張トレンチ3Ⅱd～f ・拡張トレンチ3-1Ⅱg ・拡張トレンチ3-1Ⅱc～g ・拡張トレンチ3-3Ⅱc					
先史土器																	8
グスク土器													5		4		205
類須恵器																	4
白磁													1		2		93
青磁													8	3	1		189
青花													13	7	3		168
中国産褐釉陶器													1		1		36
黒釉陶器																	3
無釉陶器																	1
タイ産褐釉陶器													1				33
タイ産半練土器																	2
タイ産鉄絵																	1
陶器(タイ産？)																	1
本土産陶器													2				18
本土産磁器						1							134		1		255
沖縄産無釉陶器									1	1			18				229
沖縄産施釉陶器			1	1	1							1	16		2		175
アカムヌー								1			1		4				60
瓦質土器															1		3
瓦	2						1						13				3626
宮古式？ 中森式orパナリ焼																	10
石器														2	1	1	16
石製品													1				3
銭貨													1				11
煙管																	6
骨製品																	1
円盤状製品													1				5
玉																	7
貝類遺存体		1											157				394
合計	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	376	12	16	1	5563

1．土器

当該地における土器資料には先史時代、グスク時代、近世期のものが認められた。本節では先史時代およびグスク時代に作製された土器を報告し、近世のアカムヌーや先島地域で作られたと思われる資料などはその他の遺物にて紹介する。

当該地で認められた先史およびグスク時代の土器の出土総数は 213 点であった。前者の先史土器は８点で、器種は壺あるいは甕と思われるものが見受けられ、それとは別に器種不明の資料も検出した。今回の調査区内で見られた先史土器の中には底部資料なども確認されており、残存状況からその形態が乳房状尖底に類似するものであると考えられる資料である。この土器については観察表において詳細を記述しているが、所属する時期などについては不明である。

一方のグスク土器は 205 点の土器片があった。その器種には、断定できない資料を除くと鍋、壺、甕などが確認でき、壺または甕といった資料は 10.3％であったのに対し、鍋あるいは鍋と思われる資料が 89.7％と主体的な器種となっている。また鍋については、以下に明記する分類ごとの傾向で見てみると、Ⅰ類が 52.2％と過半数を占め、その半分の割合でⅣ類、以下Ⅱ類、Ⅲ類が認められる（第Ⅲ－28 図）。これらのグスク土器については、『嘉数トゥンヤマ遺跡Ⅰ』において肉眼観察および自然科学分析などによる分類が行われているため、それを基本に今回の資料も分類している。以下にグスク土器の分類概念を示し、個々の資料の詳細を述べる。

器種分類

鍋：　口縁部の器形が概ね内彎または内傾し、口唇部も丸みを帯びるものや平坦に整形されるものがある。口縁部下に把手や鍔などが附されるが、本遺跡からは鍔を附した資料は得られていない。

壺・甕：　口縁部が「く」の字状に成形されるもので、頸部の屈曲が強いものと弱いものが見られる。また、胴部や底部が鍋とは異なると思われるものも本器種に含めた。

分類概念

Ⅰ類：　軟質泥胎でアバタ状を呈する多孔質の土器で、焼成も比較的良好。胎土中には石英のみ、もしくは石英と長石が認められ、僅かではあるが、鉱物片あるいは岩石片などの有色鉱物を含み、調整痕も顕著である。本類は真志喜森川原遺跡Ａロ類に相当するものと思われる。内外面に土の付着が著しいもの、やや硬質のもの、いわゆる軟質泥胎のもの、やや砂質なものなどが見られる。

Ⅱ類：　軟質泥胎でアバタ状の多孔質土器で、調整痕も認められ、焼成も良好である。肉眼観察ではⅠ類に類似するが、胎土中には混和材としての石灰質砂粒が顕著に認められる。本類は真志喜森川原遺跡Ａハ類に相当するものと思われる。

Ⅲ類：　比較的硬質な土器で胎土は砂質である。器面は鉱物片や岩石片などと思われる有色鉱物の混和材の露出により、ざらつき感がある。本類は真志喜森川原遺跡Ｂロ類に相当するものと思われる。

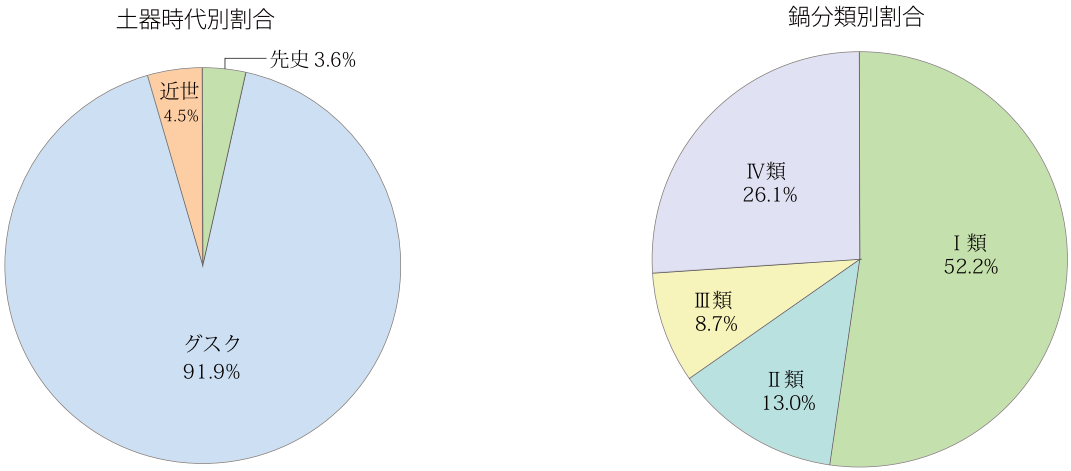
Ⅳ類：　硬質で胎土は泥砂質を呈している。Ⅲ類に類似するものの、比較的少量ではあるが、鉱物片あるいは岩石片と思われる有色鉱物の混和も見られる。また、本類には滑石粒の混和が認められ、その粒子に細粒および粗粒が見受けられ、量によっては青灰色を呈するものもある。混和材としての滑石粒には、器面に塗布しただけと思われるものや、著しく混入するものもある。

第Ⅲ-８表　土器集計表

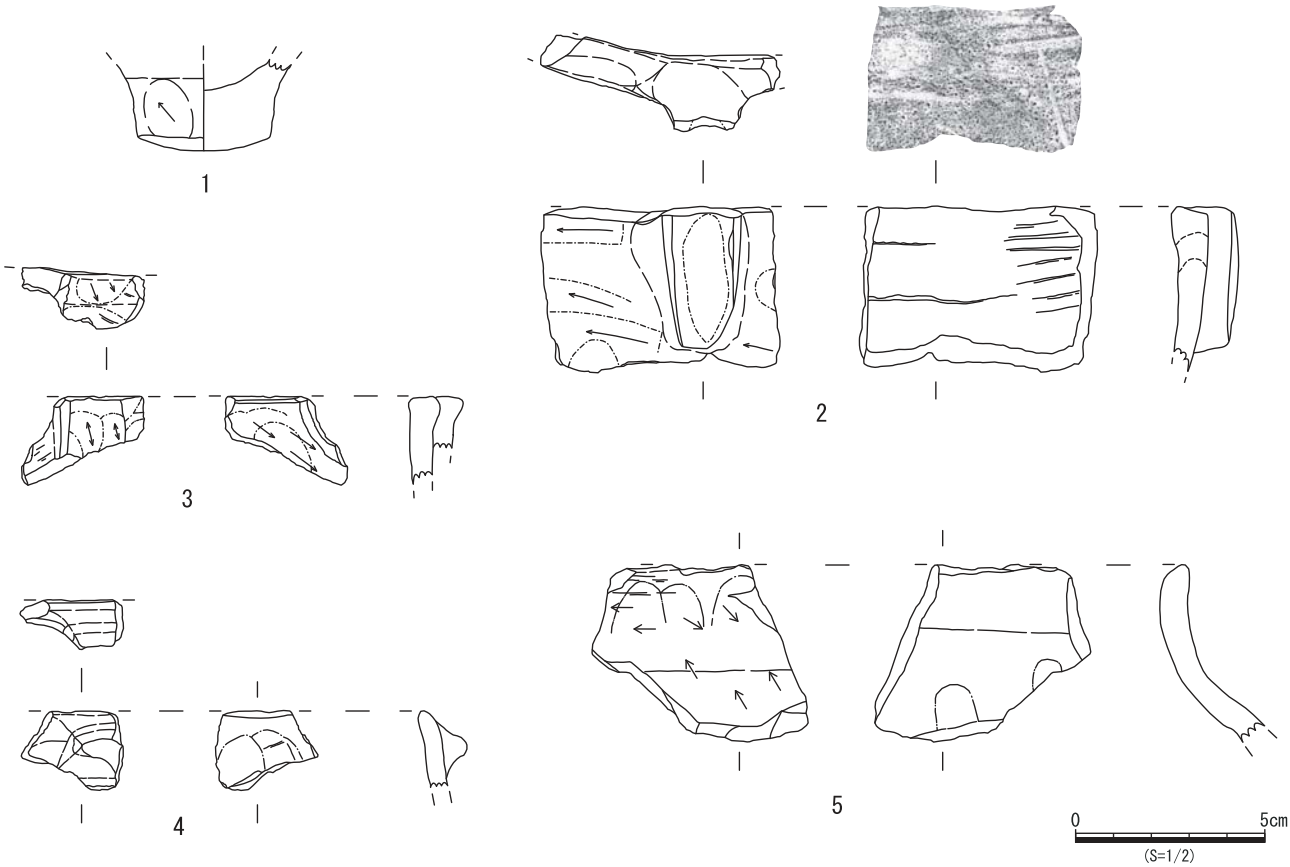
出土位置・層位		種類	先史土器			グスク土器																			合計	
			壺or甕	器種不明		鍋					鍋？		壺	甕	壺or甕	鍋or甕		器種不明								
						Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		Ⅰ	Ⅱ	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ			Ⅳ			
			底	口	胴	口	口	口	口	胴	底	胴	口	胴	口	底	胴	胴	胴	胴	底	底？	胴	底		
ピット	2次　②	№1																					1		1	
		№10			1																				1	
		№15																	1						1	
		№26																					1		1	
		№27																1			1		1		3	
		№33																					1		1	
		№57																			1				1	
		№73																2							2	
		№76				1																			1	
		№77																1							1	
		№81-2									1														1	
		№90		1																					1	
		№91　(外2層)																1							1	
		№94							1														1		2	
		№96																					1		1	
		№100				1																	1		2	
		№104																	1						1	
		№111																					1		1	
		№117																					1		1	
		№118																	3						3	
		№122																1							1	
		№123																1							1	
		№135　(1層)																		1					1	
		№146																1							1	
		№166																					1		1	32
	3次　③	№12																					1		1	
		№12　(内)																					1		1	
		№16																1							1	
		№18-1																1							1	
		№18-1																		1					1	
		№23			1																				1	
		№25																					1		1	
		№26							1									1					1		3	
		№28	1																	1					2	
		№78																	1						1	
		№79																1							1	
		№95																					1		1	
		№98																			1				1	
		№102																		1					1	
		№108　(外)				1																			1	
		№112																			1				1	
		№112　(外)																1		1					2	
		№114																					1		1	
		№115			1																				1	
		№146																					1		1	
		№147																1							1	
		№159																	1						1	
		№169																		1					1	
		№172																					1		1	
		№186　(2層)															1								1	
		№201																1							1	
		№202																1							1	
		№207																1							1	32
	4次　④	№1			1																				1	
		№2																			1				1	
		№7																		1					1	
		№8																1							1	
		№8　(2層)																1							1	
		№9　(2層)																					1		1	
		№13　(外)																					1		1	
		№14										1													1	
		№15																1							1	
		№31　(内)																1					1		2	
		№36　(外)																					1		1	
		№24																		1					1	
		№48																1							1	
		№61																					1		1	
		№64																1							1	
		№64　(1層)													1										1	
		№68																					1		1	
		№80																					1		1	
		№80　(外3層)																				1			1	
		№97																						1	1	
		№103																		1					1	
		№103上																		1					1	
		№111																	1						1	
		№115　(外)																1							1	
		№115　(内)																		2					2	
		№117																					1		1	
		№117-2																					1		1	
		№121			1																				1	
		№170																1							1	
		№202																1							1	32
その他の遺構	2次　②	溝状遺構					1		1		1							8	3				2	1	17	
		溝状遺構　(1～2層)				1												1							2	
		溝状遺構　(2～3層)																						1	1	
		溝状遺構　(4層)																1					1		2	
		溝状遺構　(4～5層)					1																		1	
		溝状遺構　(5層)																	1						1	
	3次　③	溝状遺構1												1						1			2		4	
		溝状遺構1　(1層)																1							1	
		土坑状遺構　(2層)																1							1	
		土坑				1			1									2	1				1		6	
	4次　④	溝状遺構						1																	1	
		土坑2																					1		1	
	拡張トレンチ3暗渠理土					1																			1	39
Ⅰ																							1			1
Ⅱa					1																				1	
Ⅱd						2	1			1					1			15	1				3		24	
Ⅱd1																		2	2	1			1		6	
Ⅱg						1												1		1					3	34
Ⅱc～g																		1								1
Ⅱe～f																		1								1
Ⅱe～g						1																	1			2
拡張トレンチ2	Ⅱ層																	1							1	
	Ⅲ層																	1					2		3	4
拡張トレンチ3	Ⅱ層																		1				1		2	
	Ⅱe～f層																			1			1		2	
	Ⅱg層																	1					1		2	6
拡張トレンチ3-1	Ⅱg層							1						1				8		2				1	13	
拡張トレンチ3-3						1												4	1						6	19
TP6						1																				1
撹乱																		2	1				2			5
不明						1												2	1							4
合計			1	1	6	13	3	1	5	1	2	1	1	1	1	1	1	79	20	18	5	1	47	4		
					8					23		3					5							174		213

第Ⅲ - 9表　土器観察表

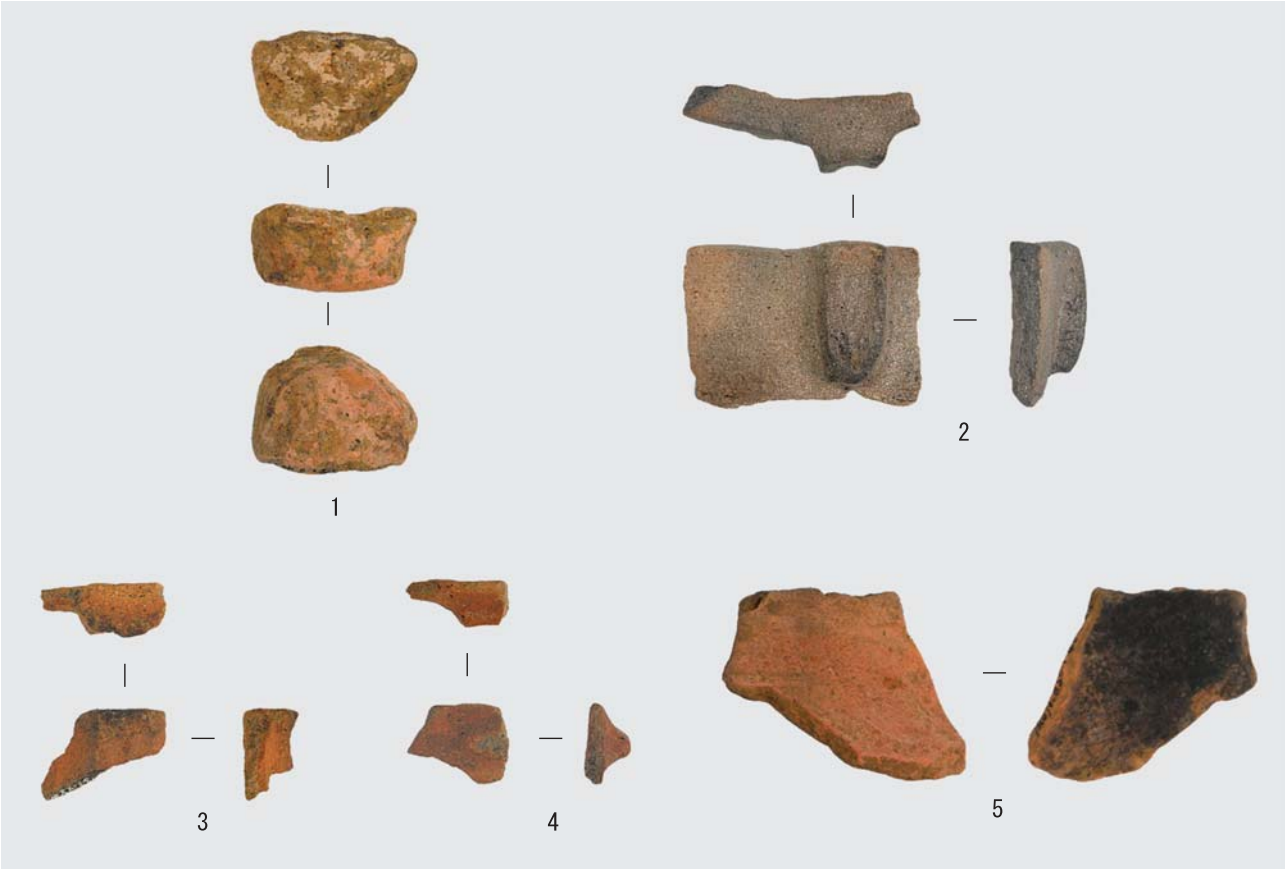
挿図番号 図版番号		分類	器種	部位	胎土・混入物	器形・成形・ 器面調整　等	色調	出土地
第Ⅲ-29図・図版Ⅲ-5	1	先史土器	壺 or 甕	底	泥質となる胎土は橙色を呈しており、黒色粒および白色粒などの混入物が認められる。焼成は良好ではない。	本資料は、乳房状尖底土器に類似した土器の底部資料で、その器種は甕形あるいは壺形と推察されるものである。器面には指頭痕が残存しており、ナデの方向も把握できる状況である。推算される底径は約3.5cmを測る。製作地や型式などの詳細な点については知り得ていない。	外：にぶい橙色 内：にぶい橙色	③No. 28
	2	Ⅳ	鍋	口	青灰色を呈す胎土は砂質である。混入物には夥しい量の滑石粒が含まれており、その他にも黒色粒や褐色粒などが少量みうけられる。焼成は良好である。	口縁部は直口状であるが、口唇部はほぼ平坦に成形され、また内側に突出する状態となる。外面には縦長で方形状の把手を貼付する。把手は一面にのみ指ナデによる凹みを有す。器面はヘラ状工具を使用した後、横位にナデ調整を行うが、内面はさほど丁寧な仕上がりにはなっていない。	外：灰白色 内：灰白色	②No. 94
	3	Ⅳ	鍋	口	やや砂質感が強い胎土となる資料で、色調はにぶい赤褐色を呈す。混入物に黒色粒、白色粒、滑石粒が見られる。焼成は良い。	口縁部は弱く肥厚して直口を呈し、口唇部は平坦に成形する。貼付される把手は上端部が外側に突き出るもので、正面には上下のナデ痕が見られる。また下部が破損するが、長方形状になるものと思われる。器面は両面とも工具を用いた痕に斜位のナデ調整がなされる。	外：橙色 内：橙色	②溝状遺構
	4	Ⅰ	鍋	口	胎土が灰褐色となる資料で、質感は泥質。混入物として褐色粒や石英粒などが包含される。	口縁部はやや内傾し、口唇部は舌状に成形される。外面には断面形態が三角形状の把手が貼付され、口縁部から把手突端部までスロープ状に作られる。器面はアバタ状となるが、ナデ調整が丁寧になされる。内面には指頭痕が弱く残る。	外：赤褐色 内：明赤褐色	Ⅱd層
	5	Ⅳ	壺	口	橙色を呈した胎土は泥砂質である。胎土に含まれるものは褐色粒、黒色粒とともに滑石粒も少量が認められる。	口縁部は微弱に外反するもので、口唇部は舌状に作られる。器面調整はナデによってなされる。胴部から頸部にかけては上方にナデ痕見られるが、口縁部では横位または斜位にナデ調整がなされる。内面にはススの付着が著しい。	外：にぶい橙色 内：橙色	③溝状遺構 1



第Ⅲ -28 図　土器時代別割合・鍋分類別割合



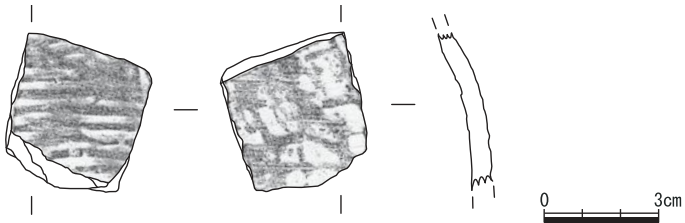
第Ⅲ-29 図　土器：先史土器（1）、鍋（2～4）、壺（5）



図版Ⅲ-5　土器：先史土器（1）、鍋（2～4）、壺（5）

2．類須恵器

類須恵器は総数４点が認められ（第Ⅲ - ７-1 表）、すべて細片で全形を窺える資料は見られないものの、その器種は壺の可能性が考えられる。第Ⅲ -30 図は外面に綾杉文、内面には格子文が見られるが、外面は施文具による叩きの後にナデ調整を行う。焼成は良好で、器色は緑灰色を呈しており、白色粒を含む。② No.99 出土。



第Ⅲ-30 図　類須恵器

図版Ⅲ-６　類須恵器

3．白磁

白磁は碗、皿、杯、小杯、袋物などが認められており、その総数は 93 点である。器種ごとの出土割合では碗が 58.1％、皿が 25.8％、杯 1.1％、小杯 4.3％、袋物 2.2％となっており、碗および皿が全体の８割を超えていた。これらの遺物の時期は 12 世紀～ 16 世紀ごろになるものと思われる。以下に分類概念および個々の詳細を示す。なお、分類は『市内埋蔵文化財発掘調査報告書』（宜野湾市教育委員会編 2010）に倣った。

碗（第Ⅲ -31 図・図版Ⅲ - ７　１～７）

Ⅰ類：　玉縁口縁碗、端反碗、櫛目文碗があり、玉縁口縁碗をⅠａ類とし（１）、他二者をⅠｂ類とする。Ⅰｂ類は外面下半に沈線文、見込み部に圏線を施し、釉は厚めに施す。

Ⅱ類：　口折碗が本類に該当する。口縁部を外側に屈曲させ、口唇部を平坦に成形するもので、今帰仁タイプに相当する。（２）

Ⅲ類：　内彎口縁タイプとしたもので、いわゆるビロースクタイプⅠ類およびⅡ類に相当。（３）

Ⅳ類：　無文外反碗で､腰が丸みを持つ大振りの碗｡ビロースクタイプⅢ類に相当するものも含む｡（４）

Ⅴ類：　有文直口碗とするもので､口唇部に丸みを有し､外面口縁直下に波状沈線を施文するもの｡（５）

Ⅵ類：　無文直口碗とされるもので、無文の直口口縁を持ち、口唇部は丸く整形する。（６）

Ⅶ類：　薄手直口碗で、やや丸みを持つ口唇部や口縁内端に段を有すもの。（７）

Ⅷ類：　内底無釉碗とするもので、見込み部が露胎または蛇の目釉剥ぎがなされたもの。いわゆる庄辺窯系と言われるものとしているが、当該地では確認されなかった。

皿（第Ⅲ -31 図・図版Ⅲ - ７　８～ 10）

Ⅰ類：　口禿皿と呼ばれるもので、薄手に成形し、口縁部の釉を露胎させた資料。（８）

Ⅱ類：　直口皿で、やや内彎するもの（Ⅱａ類）と灯明皿（Ⅱｂ類）がある。（９）

Ⅲ類：　外反皿が本類に該当し、薄手のものと厚手のものが見受けられる。（10）

なお、今回はⅣ類（碁笥底皿）、Ⅴ類（稜花皿）、Ⅵ類（腰折皿）が認められなかった。

杯（図・図版なし）

当該地においては胴部の細片が１点のみのため、分類することが困難であった。

小杯（第Ⅲ -31 図・図版Ⅲ - ７　11）

本器種は４点の小片が得られているが、残存状況の良い資料を図化した。

袋物（図・図版なし）

詳細な器種が不明であったため、袋物として扱った。

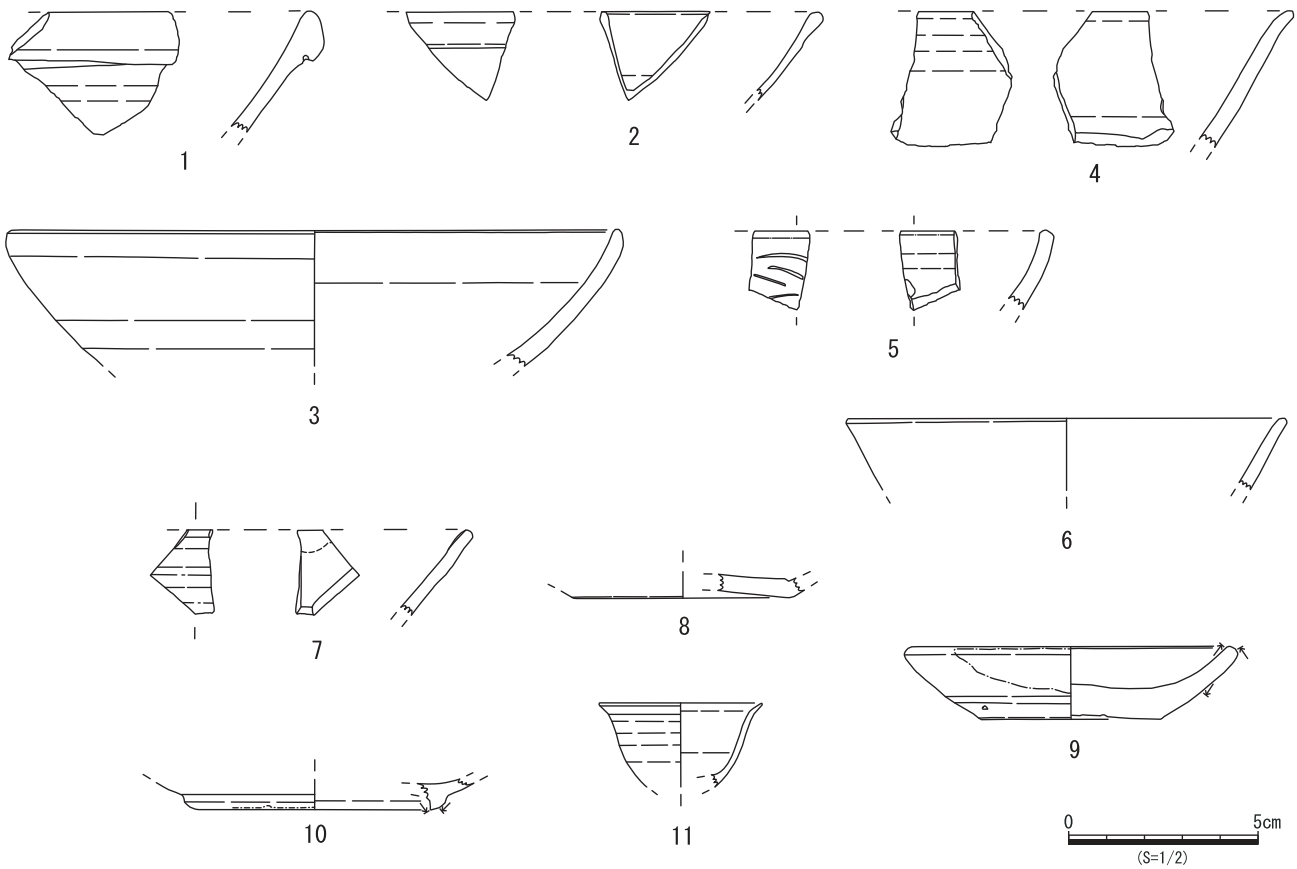
第Ⅲ-10表　白磁集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			碗												碗or皿	皿								杯	小杯		袋物	器種不明		合計	
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ		Ⅶ		類不明		不明	Ⅰ	Ⅱ		Ⅲ			類不明									
			a														a	b													
			口	口	口	底	口	口	口	胴	口	胴	胴	底	胴	底	口	口～底	口	胴	底	胴	底	胴	口	胴	胴	胴	底		
ピット	2次　②	№10																									1			1	
		№23											1																	1	
		№49											1																	1	
		№53											1																	1	
		№68							1				1																	2	
		№79　(内)											1																	1	
		№82　(外)																								1				1	
		№91										1										1								2	
		№98																										1		1	
		№99											1																	1	
		№100																											1	1	
		№104											1										1							2	
		№106											1									1				1				3	
		№109													1															1	
		№120													1															1	
		№122																	1								1			2	
		№123							1				1						1											3	
		№146															1													1	26
	3次　③	№12									1																			1	
		№16											1																	1	
		№31											1																	1	
		№69											1																	1	
		№73											1																	1	
		№95																				1								1	
		№97											1																	1	
		№106											1																	1	
		№140下					1																							1	
		№142					1																							1	
		№201上											1																	1	
		№202					1																							1	12
	4次　④	№15																					1							1	
		№48											1												1					2	
		№61																			1									1	
		№67			1																									1	
		№86																				1								1	
		№107											2																	2	
		№158													1															1	9
その他の遺構	拡張トレンチ3暗渠理土																		1											1	
	2次　②	溝状遺構	1	2			1	1										1												6	
		溝状遺構（2～3層）					1						1																	2	
	3次　③	溝状遺構2																								1				1	
		土坑状遺構		1																										1	
		土坑					1						1																	2	
	4次　④	土坑2																	1											1	14
Ⅰ～Ⅱ													1							1											2
Ⅱ													1			1														2	
Ⅱa					1						1		2																	4	
Ⅱd											1													1						2	
Ⅱd1																						1								1	9
Ⅱa～f													1									1						1			3
Ⅱc～g						1																									1
拡張トレンチ2		Ⅱ																		1										1	
		Ⅱg											1							1										2	3
拡張トレンチ3		Ⅱc																				1								1	
		Ⅱg											1																	1	2
拡張トレンチ3-1		Ⅱg											1		1							1									3
拡張トレンチ3-3		Ⅱ															1													1	
		Ⅱf																										1		1	
		Ⅱg																				1								1	3
TP3										1																				1	
TP5　1層																				1										1	
接合資料	2次　②	№66・№83							1																					1	
攪乱					1																									1	
不明				1										1																2	
合計			1	4	3	1	6	1	3	1	3	1	29	1		1	2	1	4	4	1	9	2		1	3		3	1		
														54	4								24	1		4	2		4		93

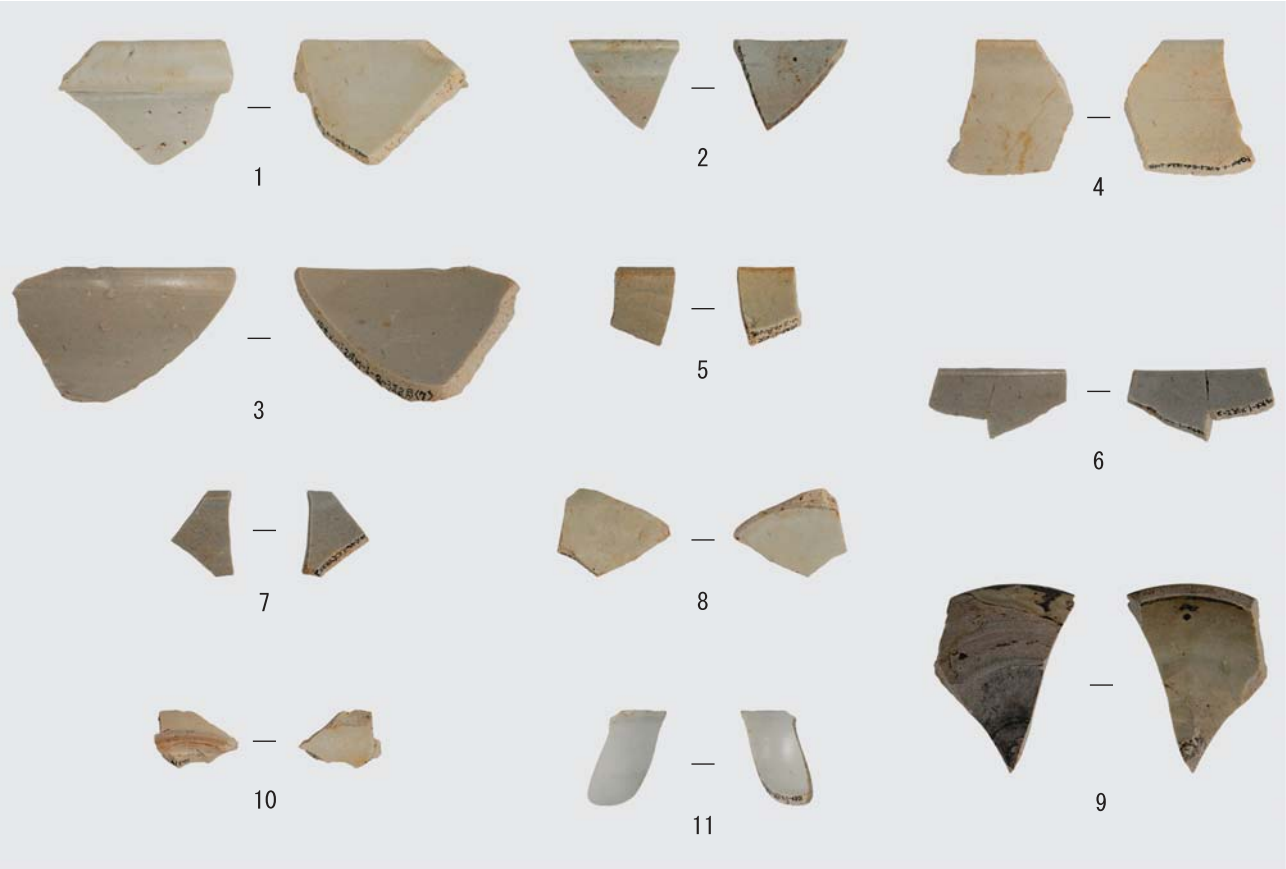
第Ⅲ-11表　白磁観察表

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種・分類		部位	口径 器高 底径	器形・成形・ 文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第Ⅲ-31図・図版Ⅲ-7	1	碗	Ⅰa	口	— — —	胴部から直線的に立ち上がる器形。玉縁の直下は篦状の工具で抉って稜を形成する。	灰白色の細粒子に黒色細粒子を含む。	灰白色の釉を両面に施す。貫入は見られない。	②溝状遺構
	2		Ⅱ	口	— — —	口縁部を短く折って、口唇部を平坦に仕上げ、内端に明瞭な稜をなす。	灰白色の細粒子に黒色微粒子を含む。	淡灰白色の釉薬を両面に施す。内外面に細かい貫入が認められる。	②溝状遺構
	3		Ⅲ	口	16.1 — —	口縁部を微弱に内彎させる。内端に稜を形成する。外面に轆轤痕が見受けられる。	灰白色の細粒子に黒色微粒子を含む。	淡灰白色の釉を内外面に施す。貫入は見られない。	Ⅱa層
	4		Ⅳ	口	— — —	口縁部を微弱に外反させて、口唇部は丸みを帯びる。外面に轆轤痕が確認できる。	淡灰白色の細粒子に黒色微粒子を含む。	淡黄灰色の釉を両面に施す。内面の一部に粗い貫入が認められる。	③No. 142
	5		Ⅴ	口	— — —	口縁部はやや内彎気味に立ち上がるが、直口口縁である。口唇部は丸みを持つ。外面には波状沈線が施文される。	淡灰白色の細粒子に黒色微粒子を含む。	淡灰白色の釉薬を内外面に施す。細かい貫入が両面に見られる。	②溝状遺構
	6		Ⅵ	口	11.6 — —	胴部からほぼ直線的に立ち上がる直口口縁。口唇部は舌状に成形する。	灰色の細粒子に黒色微粒子を含む。	青みを帯びた灰白色の釉を両面に施す。貫入は認められない。	②No. 66 ②No. 83
	7		Ⅶ	口	— — —	直口するものであるが、微弱に屈曲する。口唇部はほぼ平坦に成形されるが、やや丸みを帯びる。外面には轆轤痕が残る。	灰色の細粒子に黒色微粒子を含む。若干の気泡が見られる。	青みを帯びた淡灰白色の釉を両面に施す。内面に釉溜まりが確認できる。細かい貫入が見受けられる。	③No. 12
	8	皿	Ⅰ	底	— — 5.6	上げ底状に成形されたもので、見込み部の際には圏線が確認できる。	黄みを帯びた灰白色の細粒子に黒色の微粒子を含む。	灰白色の釉薬が内外面に施される。貫入は認められない。	Ⅱ層
	9		Ⅱb	口 〜 底	8.4 1.9 4.7	やや上げ底状を呈する。口唇部は僅かに丸みを帯びた成形となる。外面露胎部には轆轤痕が見受けられる。	灰色の細粒子に黒色の微粒子を含む。	青みを帯びた灰白色の釉を内面と外面の一部に施すが、口唇部は露胎する。貫入は見られない。	②溝状遺構
	10		Ⅲ	底	— — 6.1	薄手の皿の底部資料で、高台を逆三角形状に成形する。	淡灰白色の細粒子に黒色微粒子を含む。	灰白色の釉薬が内外面に施されるが、畳付は露胎する。貫入は認められない。	④No. 61
	11	小杯		口	4.3 — —	型成形の可能性がある資料。腰部から僅かに丸みを帯びながら立ち上がり、口縁部で緩やかに外反する。	白色の細粒子に黒色の微粒子が混ざる。	淡灰白色の釉を内外面に施す。貫入は見られない。	④No. 48



第Ⅲ-31 図　白磁：碗（1～7）、皿（8～10）、小杯（11）



図版Ⅲ-7　白磁：碗（1～7）、皿（8～10）、小杯（11）

４．青磁

輸入陶磁器の中で最も多い青磁の総数は 189 点であった。確認された器種は碗、皿、盤、瓶、袋物などがあり、その出土割合は碗が 43.9％、皿 27.0％、盤 2.6％、瓶 1.1％、袋物 0.5％となっており、碗および皿が中心となる。これらの器種を『市内埋蔵文化財調査報告書』（宜野湾市教育委員会編 2010）に倣って分類を行った。碗や皿を分類ごとの割合で見ると、分類不明を除いて碗がＸＩ類（16.9％）が最も多く、次いでⅣ類（12.0％）、Ⅵ類（9.6％）と続く。一方の皿はⅣ類（36.1％）が主体となっていた。以下に分類基準と個別の詳細を観察表にまとめて報告する。

碗（第Ⅲ -32 図・図版Ⅲ - ８　１～６、第Ⅲ -33 図・図版Ⅲ - ９　７～９）

Ⅰ類：　劃花文碗であるが、当該地においては確認されていない。

Ⅱ類：　櫛描文碗であるが、今回は未確認である。

Ⅲ類：　鎬蓮弁文碗が本類に該当するが、蓮弁の輪郭を片切彫りによって描くものと描かないものがある。

Ⅳ類：　無鎬蓮弁文碗といわれるもので、外面に箆削りの蓮弁文を施す資料。（１）

Ⅴ類：　二叉蓮弁文碗で、二条の箆削りで外面に蓮弁文を描くもの。

Ⅵ類：　無文外反碗とされるもので、文様を施さず口縁形態が外反するもの。（２）

Ⅶ類：　玉縁口縁碗というもので、口縁部を玉縁状に肥厚させて成形する碗。（３）

Ⅷ類：　ラマ式蓮弁文碗であるが、当該地においては確認されていない。

Ⅸ類：　有文外反碗であるが、今回の調査では得られなかった。

Ⅹ類：　雷文帯碗と呼ばれるもので、口縁直下に雷文を帯状に廻らせたもので、箆削り（ａ）と型押し（ｂ）がある。（４）

ⅩⅠ類：　細蓮弁文碗とされるもので、線描きの蓮弁文を外面に施すが、弁先や蓮弁の幅が不統一のものも見られる。（５、６）

ⅩⅡ類：　無文直口碗が本類に該当するもので、口唇部の断面形態が舌状のもの（ａ）と方形状のもの（ｂ）があるが、本調査区内ではａタイプのみが認められた。（７、８）

ⅩⅢ類：　有文直口碗で、口縁外面に波状沈線や圏線を廻らせるものがある。

ⅩⅣ類：　薄手直口碗とするもので、口縁が逆「ハ」の字状に開き、高台が浅く広い作りとなるもの。（９）

皿（第Ⅲ -33 図・図版Ⅲ - ９　10 ～ 12）

Ⅰ類：　櫛描文皿であるが、今回は未確認である。

Ⅱ類：　口折皿とするもので、口縁部を外側に折り、外面には蓮弁を施文する。

Ⅲ類：　稜花皿と称されるもので、口唇部に抉りを入れることで稜花とするもの。（10）

Ⅳ類：　外反皿とされるもので、口縁部が緩やかに外反するもの。（11、12）

Ⅴ類：　直口皿で、無文のものと外面に蓮弁文を描くものがある。

Ⅵ類：　泉州窯系皿であるが、当該地においては確認されていない。

Ⅶ類：　菊花皿であるが、本調査区内からは得られていない。

盤（第Ⅲ -33 図・図版Ⅲ - ９　13 ～ 14）

Ⅰ類：　鍔縁盤と呼ばれるもので、鍔縁を摘み上げて成形し、内面に蓮弁文を箆描きで配す。（13）

Ⅱ類：　口折盤であるが、今回は認められなかった。

Ⅲ類：　直口盤であるが、当該地では出土していない。

Ⅳ類：　稜花盤としているもので、口折盤（Ⅱ類）の口唇部を抉って稜花状にしたもの。

底部資料は分類不可であったが、特徴的な資料を図化した。（14）

瓶（第Ⅲ -33 図・図版Ⅲ - 9　15）

瓶は２点の出土であったが、残存状態が比較的良い頸部周辺の資料を図化した。文様構成は詳細を知りえない。

袋物

壺類や瓶類などが考慮されるが、判然としないため、袋物として扱った。

第Ⅲ -12 表　青磁集計表（遺構外）

種類 / 出土位置・層位		碗																	碗or皿	皿							皿？	盤		瓶		器種不明	合計	
		Ⅲ	Ⅳ			Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅹ a	Ⅹ b	ⅩⅠ		ⅩⅡ a	ⅩⅣ		類不明			類不明	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		類不明			類不明	類不明						
		胴	口	胴	底	胴	口	口	口	口	口	胴	口	口	胴	口	胴	底	胴	口	口	口	胴	胴	底	底	胴	底	頸～肩	胴	胴			
Ⅰ							1				1						1																3	
Ⅰ～Ⅱ										1																							1	
Ⅱ											1							1	1					1									4	
Ⅱa						1	1		1						1		1												1				6	
Ⅱd				1															2		1		1					1					6	
Ⅱd1																	1					1											2	18
Ⅱc～g																				1													1	
拡張トレンチ2	Ⅱ												1																				1	
	Ⅱg																		1														1	2
拡張トレンチ3	Ⅰ																		1														1	
	Ⅰ～Ⅱ																							1									1	
	Ⅱg											1		1																			2	4
拡張トレンチ3-1	Ⅱc～g																									1							1	
	Ⅱg											1							3									1		1			6	
	層序不明															1																	1	8
拡張トレンチ3-2	Ⅰ							1																				1					2	
拡張トレンチ3-3	Ⅱ			1													1																2	
	Ⅱc																		1														1	
	Ⅱg	1															1																2	5
TP5	1層																		2					1	1									4
TP7	西トレ																		1														1	
	南トレ1層											1																					1	2
接合資料	Ⅱa Ⅱd		1																														1	
	2次 ② 溝状遺構 溝状遺構 (4層)								1																								1	
	2次 ② 溝状遺構 溝状遺構 (1～2層)			1																													1	
	3次 ③ 不明 溝状遺構1 (1層)						1																										1	4
撹乱					1												2		1			2				1					1		8
表採								1														1		1									3
不明				1																													1	
合計		1	1	4	1	1	3	2	2	1	2	3	1	1	1	1	7	1	13	1	1	4	1	4	1	2	2	3	1	1	2	1	66	
		33																		12														

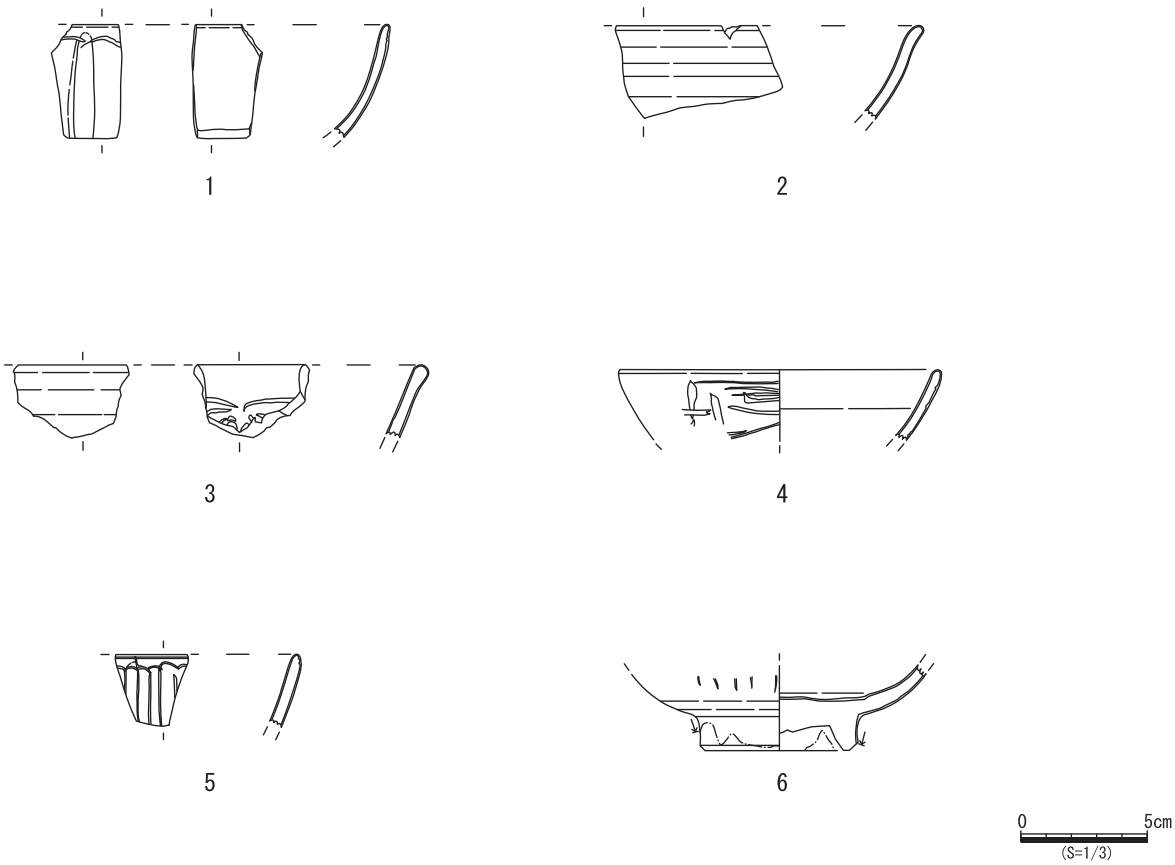
第Ⅲ-13表　青磁集計表（遺構内）

出土位置・層位 ＼ 種類			碗														碗or皿		皿							皿？	盤		袋物	器種不明	合計
			Ⅲ	Ⅳ	Ⅵ	Ⅹ	Ⅹ Ⅰ			Ⅹ Ⅱ		Ⅹ Ⅲ	Ⅹ Ⅳ	類不明			類不明		Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ		Ⅴ	類不明		類不明	Ⅰ	Ⅳ			
						a				a																					
			胴	胴	口	口	口	胴	底	口	底	口	口	口	胴	底	胴	底	口	口	口	胴	口	胴	底	胴	口	口	胴	胴	
ピット	2次 ②	№19															1														1
		№21											1																		1
		№32			1												1							1							3
		№35															1														1
		№38														1															1
		№40													1																1
		№42										1																			1
		№45																			1										1
		№54															1														1
		№58															1		1												2
		№63										1																			1
		№76															1														1
		№77									1																		1		2
		№82								1					1																2
		№95																							1						1
		№97																						1							1
		№98															1														1
		№103-2															1				1										2
		№118																			1										1
		№118/119													1		1													1	3
		№122															1														1
		№123								1					1																2
		№136 （外）													1																1	32
	3次 ③	№8																						1							1
		№12						1						1														1			3
		№12 （内）																												1	1
		№16		1																											1
		№18-1				1									1		1														3
		№18-2					1										1														2
		№18-3 （内）															1														1
		№20					1																								1
		№28															1														1
		№71																1													1
		№78								1																					1
		№92																							1						1
		№95					1																								1
		№101						1																							1
		№106																1													1
		№109															1														1
		№132															1														1
		№146													1															1	2
		№156																					1								1
		№156 （外）																			1										1
		№178上															1														1
		№201上													1																1
		№201																1													1
		№202															1														1
		№203															1														1	31
	4次 ④	№8							1								1									1				1	4
		№15	1																												1
		№29						1												1											2
		№31 （外）																						1							1
		№40																						1							1
		№48				1																									1
		№53																			1										1
		№56																		1											1
		№67								1																					1
		№72 （外）															1														1
		№83下																												1	1
		№88																	1												1
		№91															1														1
		№105			1																										1
		№111下 （外）		1																											1
		№115 （外）					1														1										2
		№117																							1			1			2	23
その他の遺構	2次 ②	溝状遺構		1	1	1								1			5			1		1									11
		溝状遺構(1～2層)																												1	1
		溝状遺構(2～3層)		1											2																3
		溝状遺構(3～4層)	1										1		2		1														5
		溝状遺構(4層)													1									1							2
		溝状遺構(4～5層)															1														1
		溝状遺構(5層)															1													1	2
	3次 ③	溝状遺構1			1																										1
		溝状遺構1(1層)								1																					1
		土坑			1		1							1			5														8
		不明遺構1																			1										1
	4次 ④	土坑2																						1						1	37
合計			2	4	5	3	5	3	1	5	1	2	2	3	13	1	35	3	2	3	7	1	1	7	3		1	1			
			50														38		24							1	2		7	123

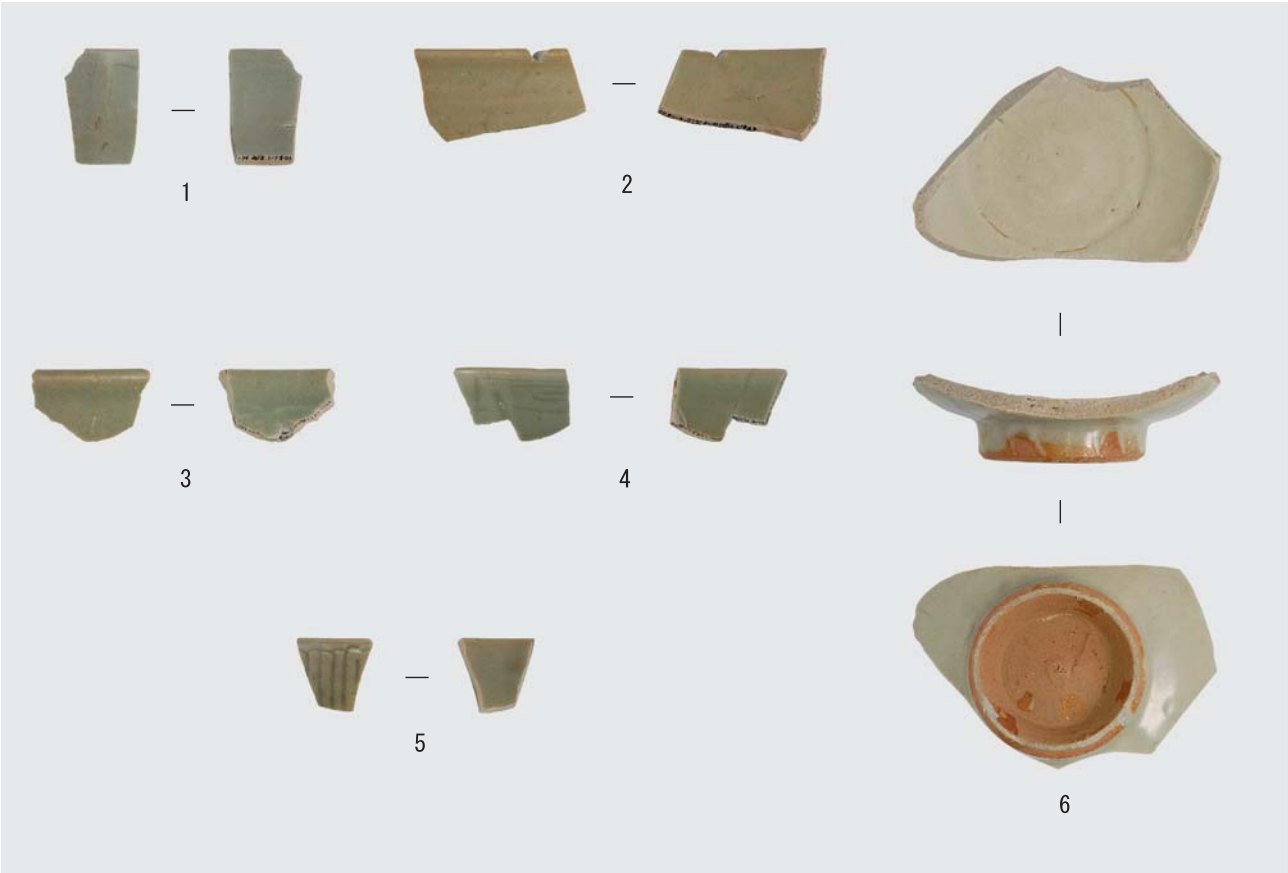
第Ⅲ-14表　青磁観察表

単位：cm

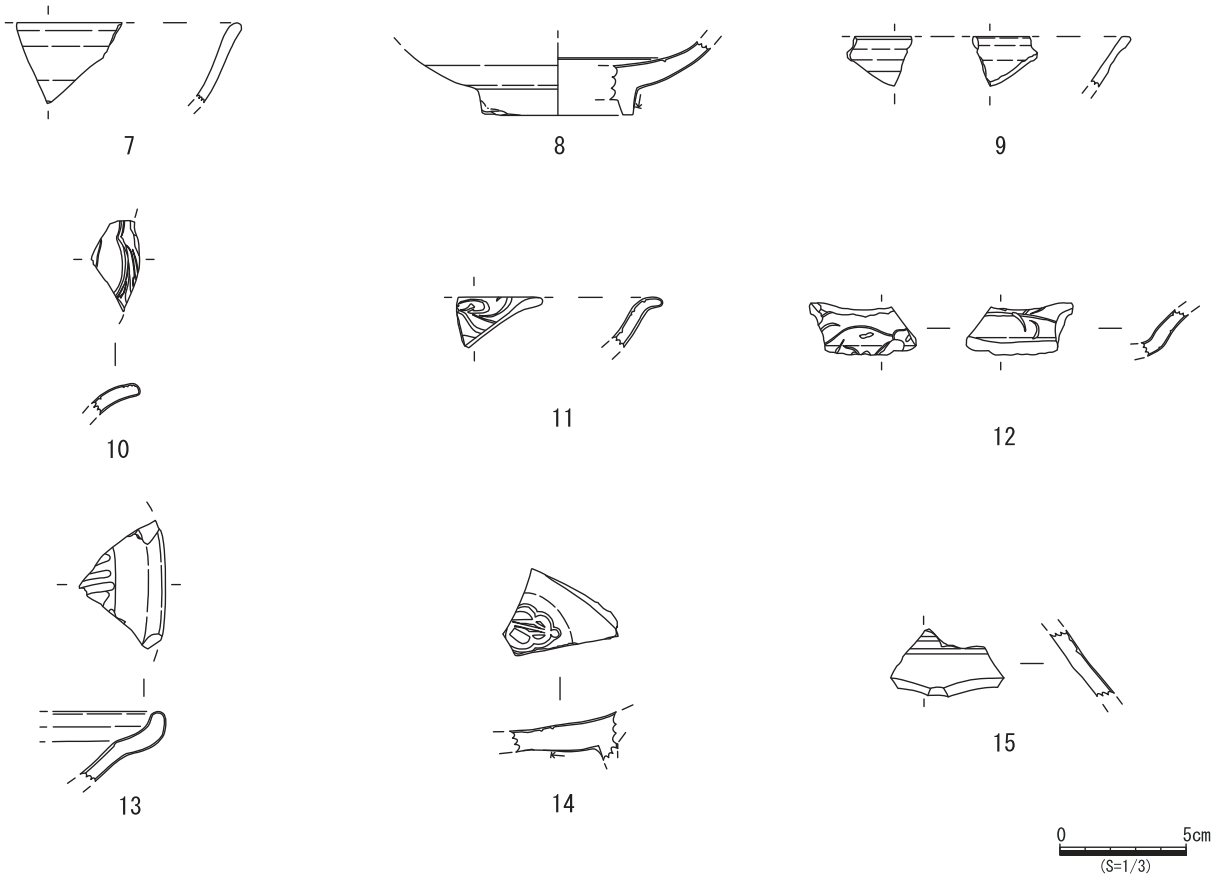
挿図番号 図版番号		器種・分類		部位	口径 器高 底径	器形・成形・ 文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第Ⅲ-32図・図版Ⅲ-8	1	碗	Ⅳ	口	— — —	緩やかに湾曲しながら立ち上がる。外面に蓮弁文を描くが、鎬が不明瞭になりつつある。	灰色の細粒子に黒色の微粒子を含む。	明緑灰色の釉を両面に施す。粗い貫入が内外面に見られる。	Ⅱa層 Ⅱd層
	2		Ⅵ	口	— — —	口縁部を緩やかに外反させ、口唇部は丸みを持たせる。外面には轆轤痕が見られる。	淡灰色の細粒子に黒色の微粒子を含む。	淡緑灰色の釉薬を両面に施す。貫入は認められない。	③溝状遺構1
	3		Ⅶ	口	— — —	口縁断面は玉縁状に肥厚させ、素地は口唇部がほぼ平坦に成形される。内面には草花文と思われる文様が施される。	淡灰白色の細粒子に黒色の微粒子を含む。	淡緑灰色の釉薬を両面に施す。粗い貫入が内外面に見られる。	拡張トレンチ3-2 （Ⅰ層）
	4		Ⅹa	口	12.8 — —	口縁部は直口に成形され、外面には箆描きによる雷文帯が配される。	淡灰色の細粒子に黒色の微粒子を含む。	オリーブ灰色の釉薬を両面に施す。貫入は認められない。	②溝状遺構 ②溝状遺構 （4層）
	5		ⅩⅠ	口	— — —	口縁は直口に口唇部は舌状に仕上げられる。外面には箆描きによる細蓮弁文が片切彫りで施文される。	淡灰白色の細粒子に若干の黒色微粒子を含む。	淡緑灰色の釉薬を両面に施す。貫入は見られない。	③土坑
	6		ⅩⅠ	底	— — 6.3	高台下端部は斜位に面取りされる。外面には線刻蓮弁が描かれる。	灰白色の細粒子に黒色の微粒子が含まれる。若干の気泡痕も見受けられる。	明オリーブ灰色の釉を両面に施すが、高台下端部や外底面は露胎する。貫入は認められない。	④No.8
第Ⅲ-33図・図版Ⅲ-9	7		ⅩⅡa	口	— — —	口唇部が丸みを持つように成形され、外面には轆轤痕が見られる。本資料はⅥ類の可能性もある。	淡灰白色の細粒子に黒色の微粒子が含まれる。	淡緑灰色の釉薬を両面に施す。貫入は認められない。	③溝状遺構1 （1層）
	8		ⅩⅡ	底	— — 6.0	高台がほぼ方形状に成形される。底部資料のため、口縁形態が断定できない。	淡黄色の細粒子。若干の気泡痕が見られる。	淡緑灰色の釉薬を両面に施すが、畳付から高台内部は露胎する。貫入は認められない。	③No.77
	9		ⅩⅣ	口	— — —	逆「ハ」の字状に立ち上がるり、口唇部は平坦に成形される。外面には明瞭な轆轤痕が見られる。	淡黄色の細粒子。	オリーブ灰色の釉薬を両面に施す。細かい貫入は確認できる。	②溝状遺構 （3～4層）
	10	皿	Ⅲ	口	— — —	ほぼ平坦に成形した口唇部をさらに抉ることで稜花とする。内面には線描きの文様などを施す。	淡灰白色の細粒子に黒色微粒子を含む。	淡緑灰色の釉を両面に施す。やや粗い貫入が内外面に見られる。	②溝状遺構
	11		Ⅳ	口	— — —	大きく外反させ、口唇部は丸みを持たせる。内面には草花文と思われる文様を描く。	灰白色の細粒子に黒色の微粒子を含む。	淡緑灰色の釉を両面に施す。貫入は認められない。	Ⅱd1層
	12		Ⅳ	胴	— — —	腰部が屈曲し、外側に開きながら立ち上がる。内外面に草花文（？）が施文される。	青みを帯びた灰色の細粒子に黒色微粒子を含む。	緑灰色の釉薬が両面に施される。貫入は見られない。	②溝状遺構
	13	盤	Ⅰ	口	— — —	鍔端部を撮み上げて成形する。内面には箆削りによる幅の狭い蓮弁文が配される。	灰白色の細粒子に黒色の微粒子を含む。	淡緑灰色の釉薬を両面に施す。内外面に粗い貫入が認められる。	④No.117
	14		不明	底	— — —	高台は略三角形状に成形されると思われる。見込み部には十字花文を配す。	白色の細粒子に黒色微粒子を含む。	淡緑灰色の釉を両面に施すが、外底面中央部は露胎する。貫入が見られない。	拡張トレンチ3-2 （Ⅰ層）
	15	瓶		胴	— — —	外面に二条の圏線が認められる。	灰白色の細粒子に黒色の微粒子を含む。	淡緑灰色の釉を両面に施す。貫入が見られない。	Ⅱa層



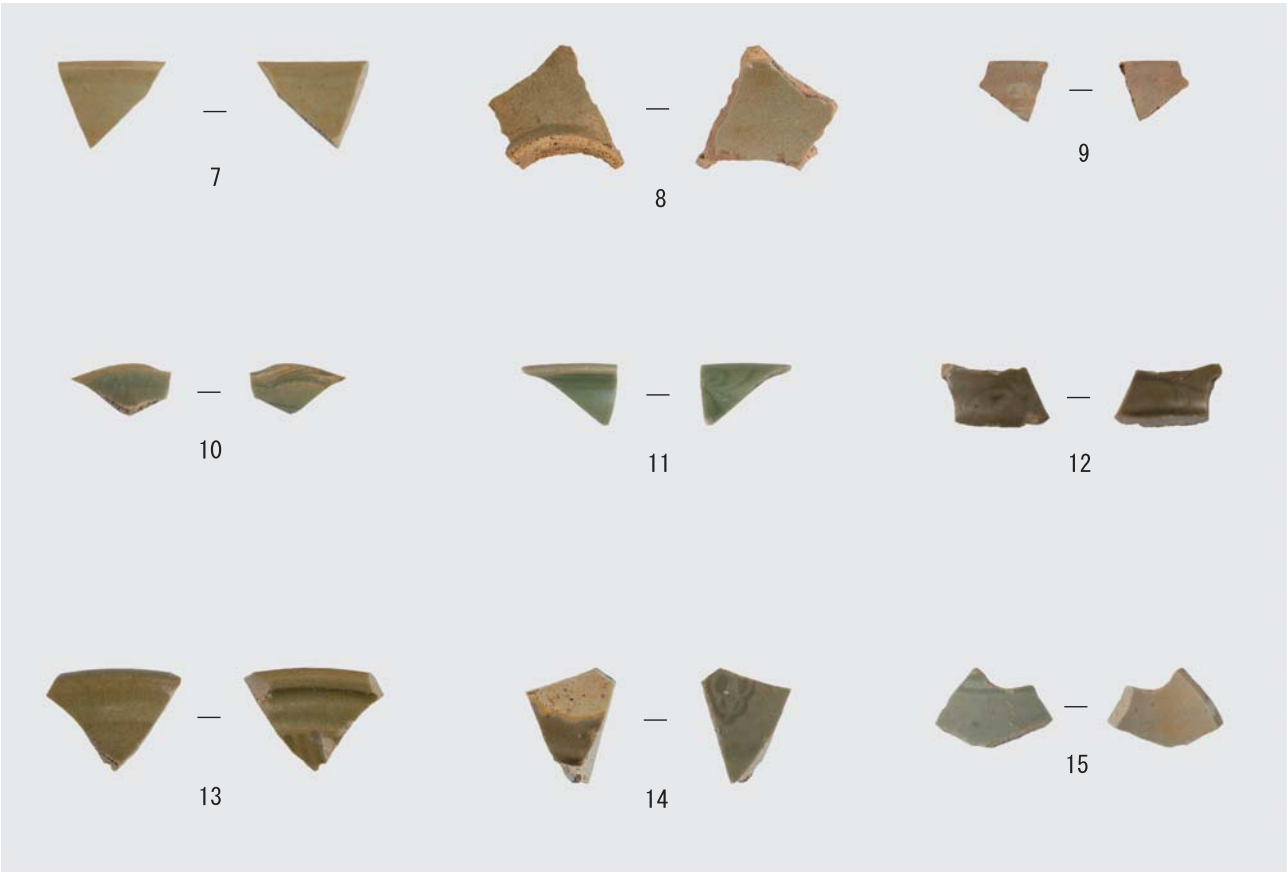
第Ⅲ-32 図　青磁 1：碗



図版Ⅲ-８　青磁 1：碗



第Ⅲ-33図　青磁２：碗（７～９）、皿（10～12）、盤（13・14）、瓶（15）



図版Ⅲ-９　青磁２：碗（７～９）、皿（10～12）、盤（13・14）、瓶（15）

5．青花

本調査区から得られた青花は総数168点であり、その器種には碗、皿、杯、小杯、瓶などが見受けられた。器種別の出土傾向は碗が72.6％で他を圧倒しており、続いて皿（3.6％）、杯（1.8％）、瓶（1.2％）、小杯（0.6％）などが後続する。本種別も複数の分類が可能であり、基本的に『市内埋蔵文化財発掘調査報告書』（宜野湾市教育委員会編2010）の分類基準に倣った。その分類ごとの出土割合を碗で見たところ、分類不明を省いて最も多いのはⅣ類の44.3％で、次にⅥ類の10.7％などであった。以下に分類の基準および個々の詳細を観察表にまとめて紹介する。

碗（第Ⅲ-34図・図版Ⅲ-10 1～7、第Ⅲ-35図・図版Ⅲ-11 8～9）

15世紀後半～16世紀頃に想定される資料はⅠ～Ⅲ類に区分し、17世紀～19世紀頃に想定されるものはⅣ～Ⅵ類に分類した。

Ⅰ類：　外反碗で、外面に草花文や内面に雷文帯などを廻らすものがある。（1、2）

Ⅱ類：　直口碗で、文様を施すものなどがある。（3～5）

Ⅲ類：　腰折碗・蓮子碗類とするもので、口縁部は直口し、その外面に波濤文、胴部にアラベスク文などが配されるものもある。（6、7）

Ⅳ類：　福建・広東系碗が該当し、口縁部が直口するものと外反するものがあり、施文の際コンニャク印判を用いる資料などがある。（8）

Ⅴ類：　18世紀代に想定される碗類とするもので、直口口縁および外反口縁がある。文様は外に簡略化された波濤文や芭蕉文などを描く。

Ⅵ類：　徳化窯系碗で、口縁部の形態が外反するものと直口するものがあり、外面に草花文や寿字文などが施文される。（9）

皿（第Ⅲ-35図・図版Ⅲ-11　10～12）

15世紀後半～16世紀頃に想定されるものはⅠ～Ⅲ類に分類し、17世紀以降と思われる資料はⅣ～Ⅴ類に収めた。

Ⅰ類：　外反皿とするもので、胴部外面に火炎宝珠文や見込み部に玉取獅子文などが施文されるものがある。（10、11）

Ⅱ類：　碁笥底皿が該当し、文様も外面に簡略化した波濤文や芭蕉文などが配される。

Ⅲ類：　直口皿とするものであるが、今回の調査では確認されていない。

Ⅳ類：　広東系皿で、呉須が黒ずみ、見込み部が露胎するものなどがある。（12）

Ⅴ類：　18世紀頃に想定される外反皿が該当するが、当該地においては得られていない。

杯（第Ⅲ-35図・図版Ⅲ-11　13～14）

Ⅰ類：　直口タイプで内外面に圏線を廻らせ、何らかの文様を描くものがあるが、今回は本類に該当する明確な資料は見られなかった。

Ⅱ類：　外反タイプの資料で、内外面に圏線を配し、また外面に簡略化された龍文を施すものなどがある。（14）

Ⅲ類：　菊花タイプとするもので、外反する口縁部を菊花状に整形する。内外面に草花文が描かれる。本類は新たな分類項目として追加設定した。（13）

小杯（15）

型成形と思われるものである。口縁形態は明確ではないが、直口と外反のものがある。

瓶（第Ⅲ-35図・図版Ⅲ-11　16）

胴部のみが得られ、口縁形態は不明である。図化した資料は外面に如意頭文などが施される。

第Ⅲ -15-1 表　青花集計表

出土位置・部位 ＼ 種類			碗															碗ｏｒ皿	皿					杯	小杯	瓶	器種不明		合計	
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ			Ⅴ		Ⅵ			類不明			類不明	Ⅰ		Ⅱ	Ⅳ	類不明	類不明		類不明				
			口	口	底	口	胴	底	口	胴	口～底	口	胴	底	口	胴	底	胴	口	底	胴	口	底	口	底	胴	胴	底		
ピット	2次　②	№9																									1		1	
		№10					1																						1	
		№18	1																										1	
		№19					1																			1			2	
		№21														1													1	
		№26																									1		1	
		№40														1													1	
		№45														1													1	
		№58				1																							1	
		№67				1																							1	
		№73					1																				3		4	
		№75														1													1	
		№77				1		1																			1		3	
		№79				1																							1	
		№82					1																						1	
		№84				1										1													2	
		№87					1																						1	
		№89													1														1	
		№91																									1		1	
		№96					1																						1	
		№104														1											1		2	
		№106				1																							1	
		№108														1													1	
		№111														1													1	
		№118		1																									1	
		№118/119					1									1													2	
		№119														1													1	
		№122				2																							2	
		№123				1	2									1													4	
		№146																									1		1	43
	3次　③	№12	1																										1	
		№18-2																									1		1	
		№20														1													1	
		№23						1																					1	
		№28	1																										1	
		№69				1																							1	
		№92														1													1	
		№101																									1		1	
		№106	1																										1	
		№109														1													1	
		№111					1																						1	
		№150																										1	1	
		№156					1																						1	13
	4次　④	№2				1																							1	
		№4																			1								1	
		№41																									1		1	
		№48				1																							1	
		№53	1																										1	
		№80		1																									1	
		№82																										1	1	
		№83下				1																							1	8

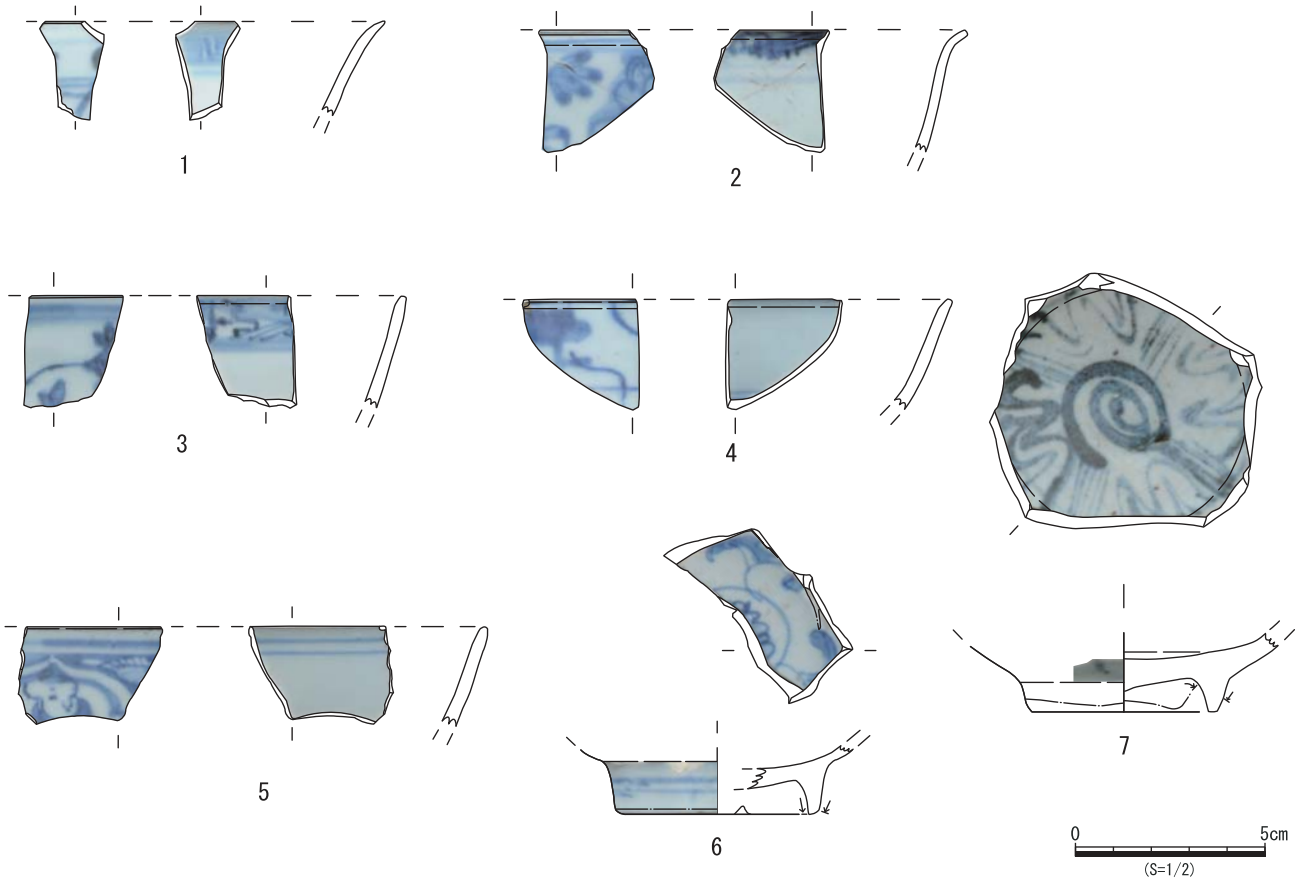
第Ⅲ-15-2表　青花集計表

出土位置・部位 ＼ 種類			碗															碗ｏｒ皿	皿					杯	小杯	瓶	器種不明		合計	
			Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ			Ⅴ		Ⅵ			類不明			類不明	Ⅰ		Ⅱ	Ⅳ	類不明	類不明		類不明				
			口	口	底	口	胴	底	口	胴	口～底	口	胴	底	口	胴	底	胴	口	底	胴	口	底	口	底	胴	胴	底		
ピット	4次　④	№86																									1		1	
		№91				1																						1	2	
		№91　(外)																1							1				2	
		№98								1																			1	
		№102														1													1	
		№107				1																							1	
		№108				1																							1	
		№112					1																						1	
		№115　(外)																						1					1	11
その他の遺構	2次　②	溝状遺構				1	1									1											1		4	
		溝状遺構　(3～4層)	1																										1	
		溝状遺構　(4層)																						1					1	6
Ⅰ							1	1																						2
Ⅱ																1													1	
Ⅱa				1					1							1													3	
Ⅱd					1											1											1		3	
Ⅱd1						1																	1						2	
Ⅱg																											1		1	10
Ⅱc～g																												1		1
Ⅱe～f																2														2
Ⅱe～g							1								1												1	1		4
Ⅱd/Ⅱg			1					1																						2
拡張トレンチ2		Ⅱ														1													1	
		Ⅱg															1				1								2	
		Ⅲ																						1					1	4
拡張トレンチ3		Ⅰ													1	1													2	
		Ⅱ																									1		1	
		Ⅱc																					1						1	
		Ⅱd～f														1											2		3	7
拡張トレンチ3-1		Ⅰ～Ⅱ			1											1											1		3	
		Ⅱa～b																									1		1	
		Ⅱc～g																	1										1	
		Ⅱe～f																									1		1	
		Ⅱg				1	3									1										1	1		7	13
拡張トレンチ3-3		Ⅰ										1	1																2	
		Ⅱa		1																									1	
		Ⅱf													1														1	
		Ⅱg				2																							2	6
TP3　Ⅰ層												1	1																	2
TP5　Ⅰ層							2						1	1																4
TP6						1		1								1														3
接合資料	2次②	№73 №77						1																					1	
		№75 №77				1																							1	
		№76 №77				1																							1	
	4次④	№107 拡張トレンチ3-1Ⅱg層														1													1	4
撹乱						1	1				3	2	1		1	1	1										2			13
表採			1			1	1						1			2												1		7
不明																1			1								1			3
合計			8	4	2	26	22	6	1	1	3	4	5	1	5	32	2		1	1	1	1	2				27	6		
																	122	1					6	3	1	2		33		168

第Ⅲ-16表　青花観察表

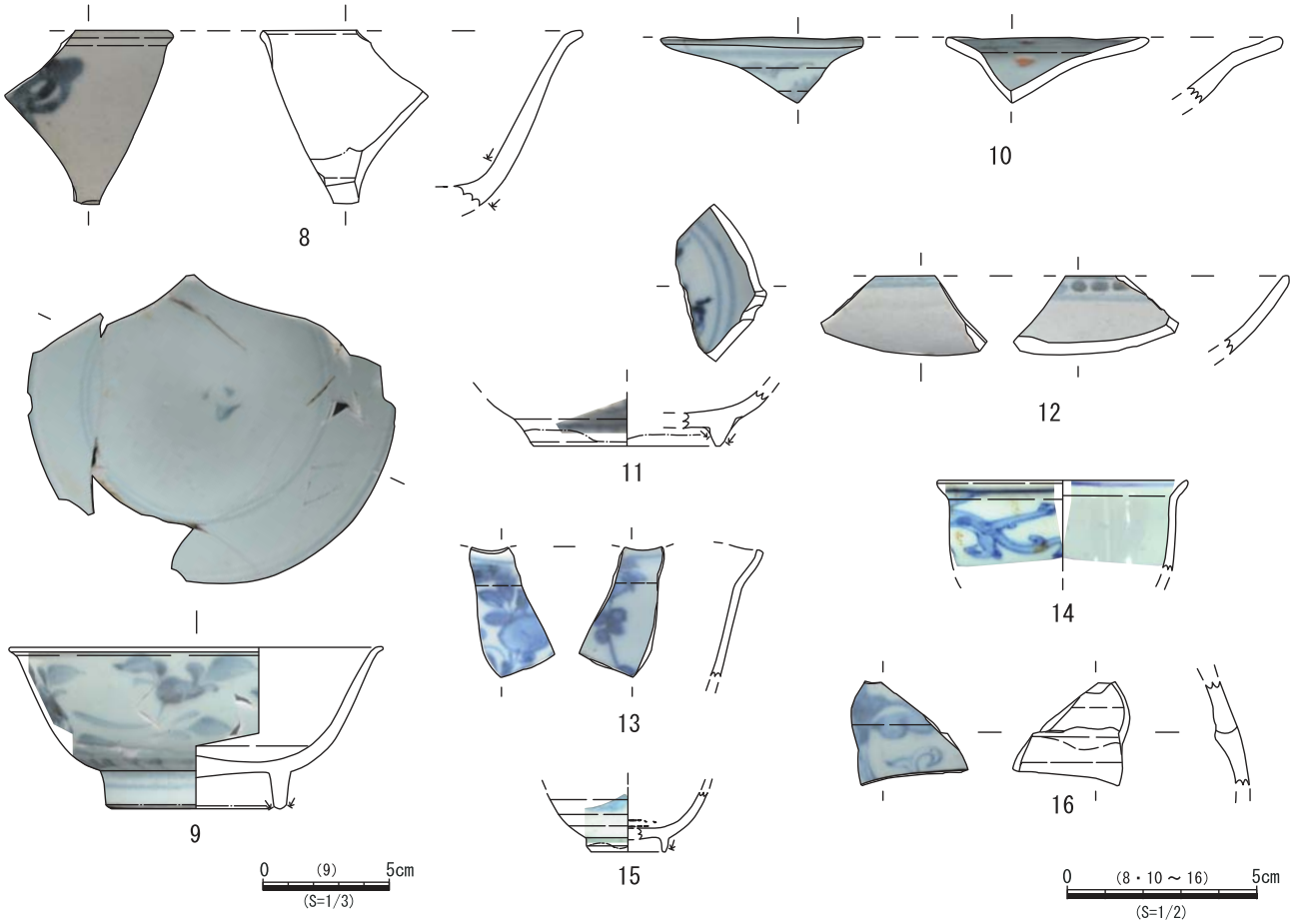
単位：cm

挿図番号 図版番号		器種・分類		部位	口径 器高 底径	器形・成形・ 文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第Ⅲ-34図・図版Ⅲ-10	1	碗	Ⅰ	口	— — —	口縁部は外反し、口唇部は舌状に成形。外面に圏線と草花文、内面に雷文帯を配す。	淡灰白色の微粒子。	青白色を呈す。	③No.12
	2		Ⅰ	口	— — —	口縁部を外反に成形。外面には圏線および草花文、内面には四方襷文と圏線を描く。	灰白色の微粒子。	濁った青白色を呈す。	Ⅱd層／Ⅱg層
	3		Ⅱ	口	— — —	口縁部は直口に仕上げる。外面には圏線と草花文、内面には四方襷文を施す。	灰白色の微粒子。	青白色を呈す。	Ⅱd1層
	4		Ⅱ	口	9.4 — —	口縁部は直口。外面には仙芝祝寿文が施文され、口唇部にも呉須をめぐらせる。	黄みがかった白色の微粒子。	淡青白色を呈す。	拡張トレンチ3-3 （Ⅱa層）
	5		Ⅱ	口	— — —	口縁部は直口に成形する。外面には圏線および唐子文、内面には2条の圏線を配す。	白色の微粒子。	青白色を呈す。	④No.80
	6		Ⅲ	底	— — 5.4	見込み部が凹状に成形された蓮子タイプ。高台の外面下端部は丸みを帯びる。見込み部には草花文、高台に2条の圏線を描く。	灰白色の微粒子。	淡青白色を呈す。畳付は露胎する。	拡張トレンチ3-1 （Ⅰ～Ⅱ層）
	7		Ⅲ	底	— — 5.0	腰折碗と思われる資料。見込み部には十字花文および圏線を施し、外面にも何らかの文様が見られる。	淡灰色の微粒子。	濁った青白色を呈す。粗い貫入が認められる。基本的に高台内面および外面下端部、畳付は露胎する。	Ⅱd層
第Ⅲ-35図・図版Ⅲ-11	8		Ⅳ	口	— — —	口縁部は外反する。内面は無文であるが、外面には何らかの文様が施文される。	淡黄白色の細粒子。	濁った黄白色を呈し、細かい貫入が確認できる。外面の胴下部および見込み部は露胎。	④No.91
	9		Ⅵ	口 ～ 底	14.8 7.2 6.4	口縁部は外反し、高台下端部は斜位の面取をする。外面には草花文と蓮弁文と圏線、内面には圏線および見込み部に草花文が施される。	淡灰白色の微粒子。	青白色を呈す。全面施釉後に畳付の釉剥ぎをする。	撹乱
	10	皿	Ⅰ	口	— — —	口折タイプ。口折部は稜を形成するほど屈曲する。外面に圏線と火炎宝珠文、内面には2条の圏線を配す。	淡灰白色の微粒子。	淡青白色を呈す。粗い貫入が見受けられる。	不明
	11		Ⅰ	底	— — 5.1	高台を略三角形に成形。見込み部には圏線および玉取獅子文、外面には圏線と何らかの文様が描かれる。	淡灰白色の微粒子。	青白色を呈す。高台下端部際に釉薬は施されない。	拡張トレンチ3-1 （Ⅱc層）
	12		Ⅳ	口	— — —	口縁部を直口に成形。外面に2条の圏線、内面には波濤文？が施される。漳州窯で焼かれた資料。	灰白色の微粒子。	濁った青白色を呈し、細かい貫入が確認できる。	④No.4
	13	杯	Ⅲ	口	— — —	輪花形で、口縁部は外側に屈曲する。内外面ともに圏線と草花文が施文される。	白色の微粒子。	淡青白色を呈す。	④No.115（外）
	14		Ⅱ	口	6.6 — —	口縁部は外反する。外面に圏線および龍文、内面には1条の圏線が配される。	淡灰白色の微粒子。	濁った白色を呈す。	拡張トレンチ2 （Ⅲ層）
	15	小杯		底	— — 2.2	外面に轆轤痕が認められる。残存部の内面は無文だが、外面には何らかの文様と高台脇に圏線1条が描かれる。	白色の微粒子。	濁った白色を呈す。見込み部周辺に釉斑が見られる。施釉範囲は内面および外面の高台途中までとなる。	④No.91 （外）
	16	瓶		胴	— — —	積み痕が確認できる資料。外面には如意頭文などが施される。	淡灰白色の微粒子。	青白色を呈す。	拡張トレンチ3-1 （Ⅱg層）

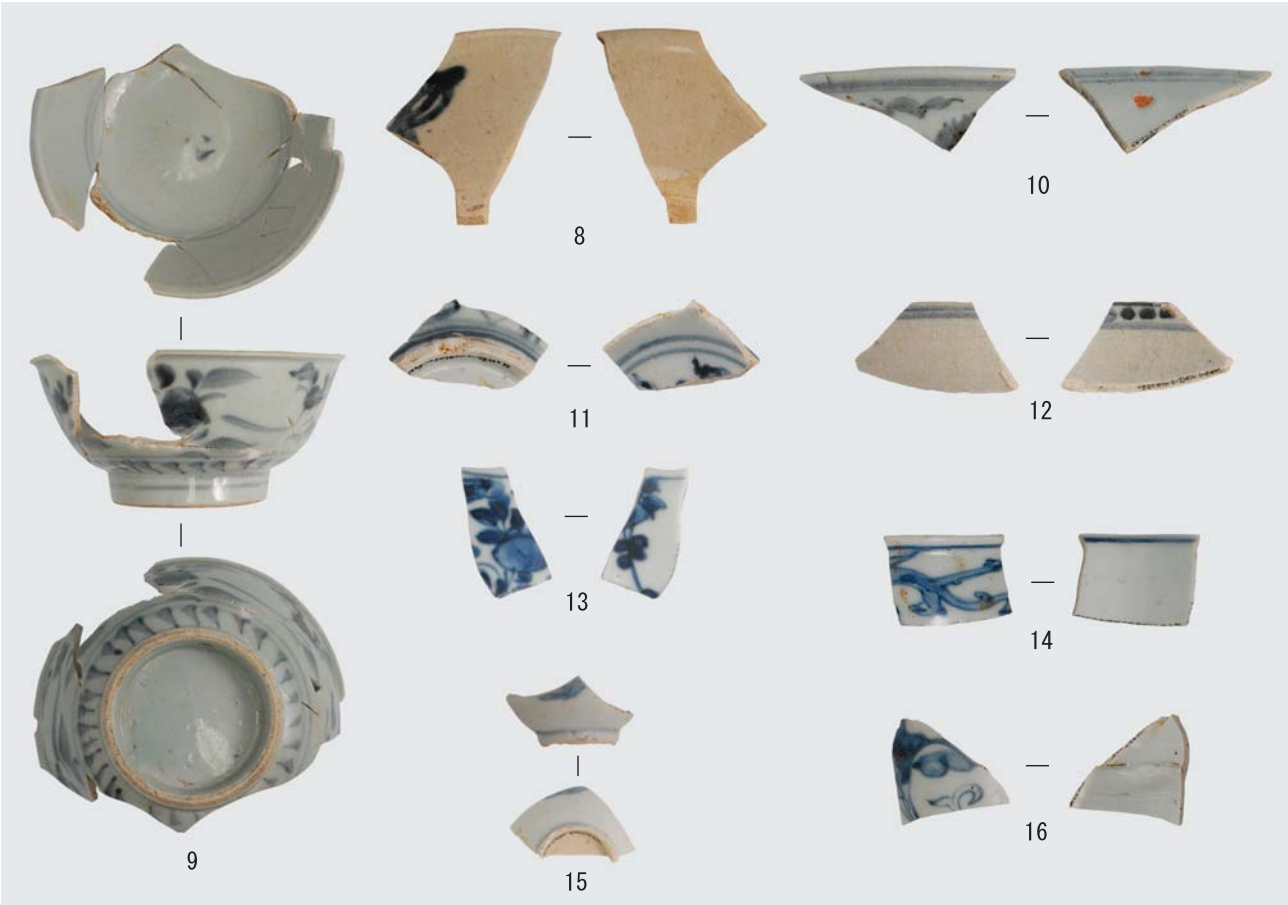


第Ⅲ-34 図　青花１：碗

図版Ⅲ-10　青花１：碗



第Ⅲ-35図　青花２：碗（８・９）、皿（10～12）、杯（13～14）、小杯（15）、瓶（16）



図版Ⅲ-11　青花２：碗（８・９）、皿（10～12）、杯（13～14）、小杯（15）、瓶（16）

6．外国産陶磁器

本節に含めた資料は、前述した白磁、青磁、青花を除いた外国産陶磁器で、褐釉陶器（中国産、タイ産）、黒釉陶器、無釉陶器、半練土器、鉄絵である。各々の出土割合については、褐釉陶器（中国産、タイ産）90.8％、黒釉陶器 3.9％、無釉陶器 1.3％、半練土器 2.6％、鉄絵 1.3％となっており、中国産およびタイ産の褐釉陶器が圧倒的に多く認められた。以下に各種別ごとの報告を行う。

褐釉陶器（第Ⅲ -36 図・図版Ⅲ -12　2～4、6）

本種別は 69 点が確認され、うち中国産 47.4％、タイ産が 43.4％となる。多く得られている器種は両者ともに壺（壺？を含む）が多かった。その他には碗、茶入壺、袋物、鍋蓋などが中国産に見られたが、タイ産については壺類のみである。個々の詳細は第Ⅲ -19 表に記す。

黒釉陶器（第Ⅲ -36 図・図版Ⅲ -12　1）

黒釉陶器は総数３点のみの出土で、天目茶碗の胴部と底部、袋物の胴部が見られた。特徴的な資料を図化し、観察一覧（第Ⅲ -19 表）にその詳細を示す。

無釉陶器（第Ⅲ -36 図・図版Ⅲ -12　5）

壺の口縁部が１点のみ得られており、中国産と思われる。他の種別とともに観察一覧にて詳しく述べる。

半練土器（第Ⅲ -36 図・図版Ⅲ -12　7、8）

本種別には落し蓋の端部片１点と壺の胴部片１点の計２点が認められた。以下に２点とも報告する。

鉄絵（第Ⅲ -36 図・図版Ⅲ -12　9）

タイ産の鉄絵合子で、身の口縁部１点が②溝状遺構から出土しているのみである。

第Ⅲ -17 表　外国産陶磁器集計表（遺構外）

種類		中国産						タイ産					合計	
		褐釉陶器				黒釉陶器	無釉陶器	褐釉陶器				半練土器		
		碗	壺		器種不明	天目茶碗	壺	壺			壺？	壺		
出土位置・層位		口	口	胴	胴	底	口	口	頸	底	胴	胴		
Ⅱa					1								1	
Ⅱd		1									1		2	
Ⅱg												1	1	
拡張トレンチ2	Ⅱ			1									1	
	Ⅱg			1									1	
	Ⅱg～Ⅲ					1							1	
	Ⅲ										1		1	4
拡張トレンチ3	Ⅱg									1	1		2	
拡張トレンチ3-1	Ⅱg			1					1				2	
	層序不明										1		1	3
拡張トレンチ3-2	Ⅰ										1		1	
拡張トレンチ3-3	Ⅱ			1									1	
	Ⅱg		1				1				1		3	4
TP5　1層								1					1	
接合資料	2次　②	№73 溝状遺構 溝状遺構4層		1									1	
撹乱				1							1		2	
不明					1								1	
合計		1	1	6	2	1	1	1	1	1	7	1		
		12						11					23	

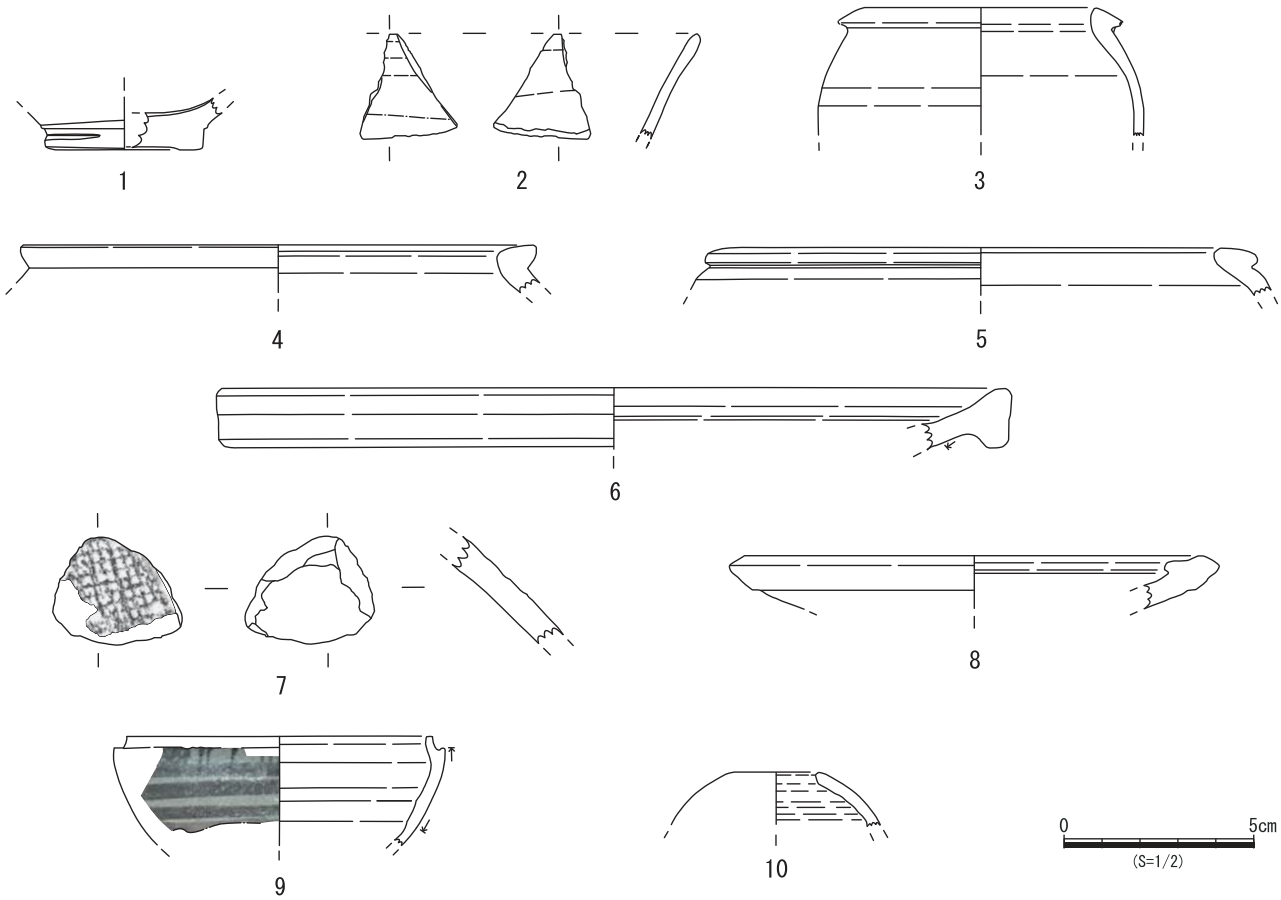
第Ⅲ-18表　外国産陶磁器集計表（遺構内）

出土位置・層位		種類	中国産							タイ産							タイ産？	合計	
			褐釉陶器					黒釉陶器		褐釉陶器					半練土器	鉄絵			
			壺			茶入壺？	袋物	天目茶碗	袋物	壺			壺？	器種不明	蓋	合子(身)	袋物		
			口	頸	胴	胴	胴	胴	胴	頸	胴	耳	胴	胴	端部	口	口		
ピット	2次　②	№10											1					1	
		№17						1										1	
		№19											1					1	
		№21			1								1					2	
		№26			1													1	
		№32			1													1	
		№42											1					1	
		№75			1													1	
		№79											1					1	
		№89											1					1	
		№91　（外2層）			1													1	
		№96											1					1	
		№100			1													1	
		№104												1				1	
		№108											1					1	
		№118			1													1	17
	3次　③	№5	1															1	
		№15			1								1					2	
		№18-1											1					1	
		№106											1					1	
		№111											1					1	
		№201											1					1	
		№201上											1					1	8
	4次　④	№9											1					1	
		№16					1											1	
		№24													1			1	
		№72　（外）			1						1							2	
		№91			1													1	
		№91　（外）															1	1	
		№102			1													1	
		№107			1													1	
		№133			1													1	10
その他の遺構	拡張トレンチ3暗渠埋土											1						1	
	2次　②	溝状遺構	1	1	4											1		7	
		溝状遺構（1～2層）			1													1	
		溝状遺構（2～3層）			1	1												2	
		溝状遺構（4層）	1															1	
		溝状遺構（5層）											2					2	
	3次　③	溝状遺構1											1					1	
		溝状遺構2								1								1	
		土坑状遺構（1層）										1						1	
		土坑							1									1	
	4次　④	溝状遺構			1													1	19
合計			3	1	20	1	1	1	1	1	1	2	18	1	1	1			
			28							25							1	54	

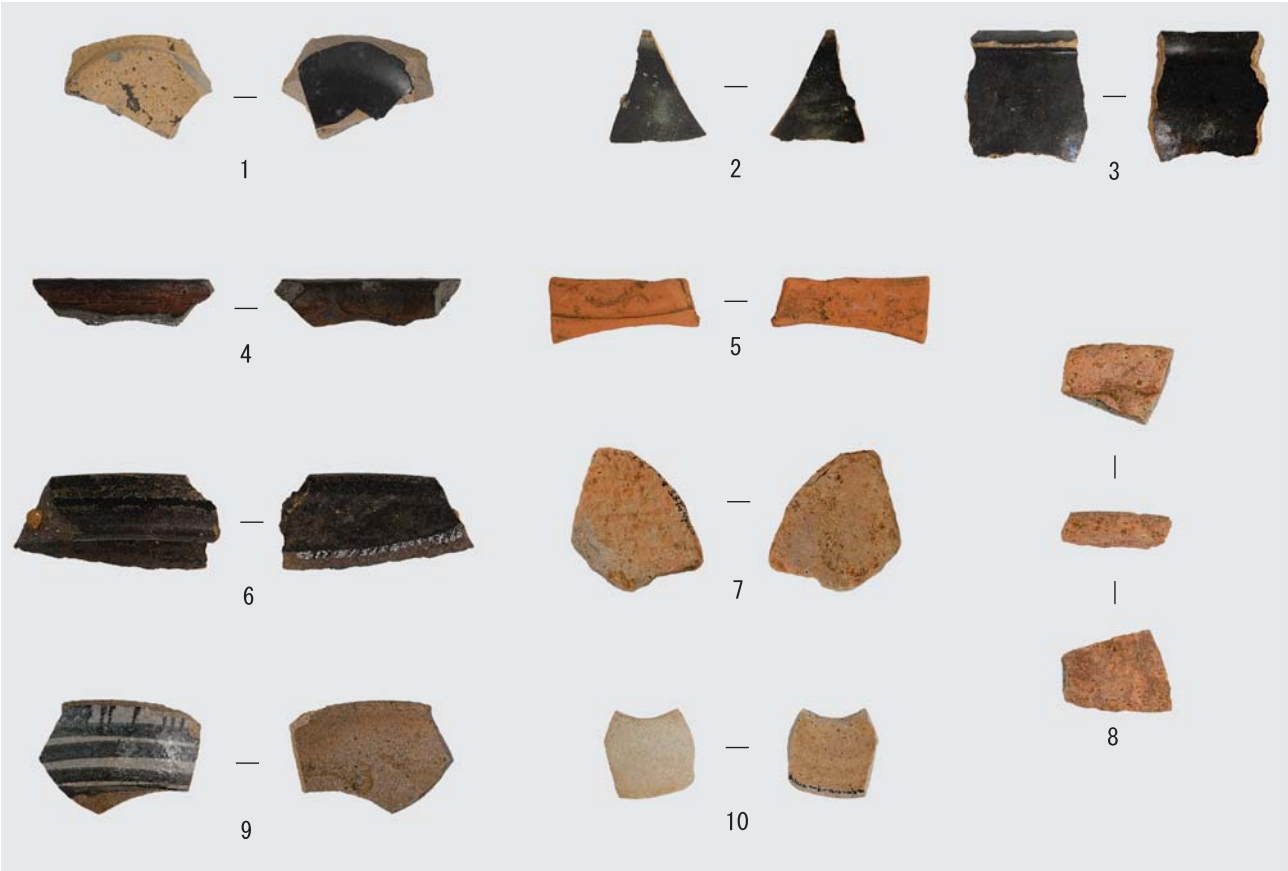
第Ⅲ-19表　外国産陶磁器観察表

単位：cm

挿図番号 図版番号		種別	器種	部位	口径 器高 底径	器形・成形・ 文様等の特徴	素地・胎土	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第Ⅲ-36図・図版Ⅲ-12	1	黒釉陶器	碗	底	— — 4.2	高台をほぼ垂直に成形する。高台内は浅削りとなり、糸切痕が残る。畳付の幅は不統一。	淡灰褐色の細粒子に黒色の微粒子を含む。	黒釉を内面に施すものの、胴下部や高台は露胎する。貫入は見られない。	拡張トレンチ2 （Ⅲ層）
	2	中国産褐釉陶器	碗	口	— — —	薄手の資料で、外に開くように立ち上がる。口唇部は丸みを帯びた成形となる。外面には轆轤痕が見受けられる。	褐色の細粒子。	黒褐色の釉薬を両面に施す。貫入は見られない。	Ⅱd層
	3		壺	口	6.1 — —	茶入壺と思われる資料。口縁部は略三角形状に成形し、口唇部も平坦にする。胴部には稜が確認できる。	黄灰色の細粒子で、白色の粗粒子を含む。	黒褐色の釉を両面に施す。貫入は見られない。	②溝状遺構
	4		壺	口	13.4 — —	断面が三角形状に肥厚し、口唇部は平坦に成形される。	灰色の細粒子に白色の粗粒子や黒色の細粒子を含む。	黒褐色の釉薬を両面に施す・貫入などは認められない。	拡張トレンチ3-3 Ⅱg層
	5	無釉陶器	壺	口	12.6 — —	口縁部を玉縁状に肥厚させる。無頸の壺で、口縁部は内傾する。	赤橙色の細粒子に黒色微粒子を含む。	施釉なし。	拡張トレンチ3-3 Ⅱg層
	6	タイ産褐釉陶器	壺	口	20.6 — —	口縁部はラッパ状に大きく外反し、口唇部が肥厚する。	暗褐色の粗粒子に白色および褐色の粗粒子が含まれる。	黒褐色の釉を両面に施すが、外面は肥厚部の下方から施釉されないようである。貫入は見られない。	TP5 1層
	7	半練土器	壺	胴	— — —	器面は内面がナデ調整されているのに対し、外面は工具による叩きのによって、格子文様が明瞭に見られる。	器面は浅黄色を呈すが、胎土は灰白色となり、混入物に白色および黒色の細粒子が見られる。	施釉なし。	Ⅱg層
	8		蓋	端部	端部径 11.8	端部は内側に折り曲げて、先端部を撮み上げることで突起を形成する。	器面は淡黄色を呈すが、胎土は淡灰色となり、混入物に黒色の細粒子が見られる。	施釉なし。	④No.24
	9	鉄絵	合子	口	8.1 — —	合子の身。口縁部は微弱に湾曲しながら突出する。口唇部は平坦に成形される。内面には轆轤痕が明瞭に残る。最大径の推算は8.8cmを測る。	灰白色の細粒子に黒色や赤色の微粒子を含む。	外面上半部は白化粧した後に透明釉が施す。さらに鉄釉で圏線を数条めぐらせ、格子文と花文（？）を描く。外面下半部、蓋受け部、内面は露胎する。	②溝状遺構
	10	タイ産陶器？	袋物	口	2.2 — —	胴部から口縁部にかけて内傾する無頸の器物。内面には轆轤痕が認められる。タイ産の可能性が考えられる。	灰白色の細粒子に黒色微粒子を含む。	白色の釉を外面に施し、内面は露胎する。	④No.91 （外）



第Ⅲ-36 図　外国産陶磁器：碗（１・２）、壺（３～７）、蓋（８）、合子（９）、袋物（10）



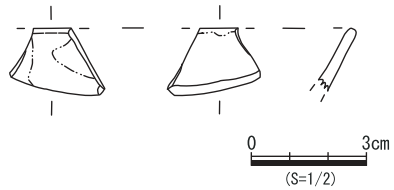
図版Ⅲ-12　外国産陶磁器：碗（１・２）、壺（３～７）、蓋（８）、合子（９）、袋物（10）

7．本土産陶磁器

本項目では近世および近代以降の本土産陶磁器を扱うことにする。当該地において認められた陶器は 18 点で、磁器は 255 点となっており、近代以降の遺物や産地不明の資料が殆どである。産地が特定できたものは、陶器が肥前の内野山産、磁器は肥前産および砥部産などであった。また、それぞれの器種構成では、陶器は碗や植木鉢が比較的多く、磁器は碗類が 68.2％、皿類が 11.8％と目立っている。以下に特徴的な資料を図示して紹介する。

内野山産（第Ⅲ -37 図・図版Ⅲ -13）

第Ⅲ -37 図に図示した資料は、碗の口縁部で直口となっており、口唇部は丸みを持った形状となる。内外面には銅緑釉が施された後に透明釉をかけるが、外面には釉垂れが見受けられる。貫入は認められない。素地は明黄灰色の粗粒子で、黒色の細粒子が混入される。残存部には文様は見られない。本資料は② No.86 より得られている。



第Ⅲ-37 図　本土産陶器

肥前産

明確な肥前産のものと判断できた資料は９点であった。確認できた器種は碗、皿、急須で、皿は１点のみであったのに対して、碗および急須は４点ずつの出土である。今回は集計表のみを提示する。

砥部産

当該産地の資料は、碗のみが明らかなものとして判断でき、本土産磁器の中での検出割合は約 14.5％であった。また、砥部産のもので全形を窺える資料は 10.8％となる。出土場所は撹乱部から目立ち、本資料が得られた遺構は④ No.17 のみである。今回は紙幅の都合上、集計表のみの報告とする。

図版Ⅲ-13　本土産陶器

第Ⅲ -20 表　本土産陶器集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			内野山			産地不明									合計	
			碗		皿	皿	擂鉢	鉢	蓋	植木鉢？			器種不明			
			口	胴	口	口	胴	口	体部～鍔	口	胴	底	胴	底		
ピット	2次　②	No.86	1												1	
		No.111		1											1	
		No.118											1		1	3
	3次　③	No.75					1									1
	4次　④	No.112											1			1
Ⅰ											1	1				2
Ⅱ													2		2	
Ⅱd				1											1	3
Ⅱa～f				1												1
Ⅱc～g														1		1
拡張トレンチ2　Ⅱ					1											1
拡張トレンチ3　Ⅰ										1						1
拡張トレンチ3-3　Ⅰ								1								1
TP3　1層										1						1
撹乱						1			1							2
合計			1	3	1	1	1	1	1	2	1	1	4	1		
					5									13		18

第Ⅲ-21-1表　本土産磁器集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			肥前						砥部				産地不明																										合計	
			碗			皿	急須		碗				碗				小碗					皿					皿？	杯			小杯	急須		火入	蓋	器種不明			
			口	胴	底	口	口	胴	口～底	口	胴	底	口～底	口	胴	底	完	口～底	口	胴	底	完	口～底	口	胴	底	底	口～底	口	胴	底	口～底	底	体部～縛	胴	底		
ピット	2次　②	No.18													1																						1		
		No.19																																	1		1		
		No.42													1														1								1		
		No.58				1																															1		
		No.75																																	1		1		
		No.109																													1						1		
		No.111		1																																	1		7
	3次　③	No.27																																	1		1		
		No.109																																	1		1		2
	4次　④	No.17								3																		1											4
のその遺の構他	拡張トレンチ3　暗渠埋土														1			1	1	1																			4
Ⅰ											1				1				1										1				1		1				6
Ⅱ																				1																	1		
Ⅱa										1	2			1	3			1	2		1		2														13	
Ⅱd														2	1				2										1								6	
Ⅱd1										1	1								1	2									1								6	
Ⅱg																				1																	1	27
Ⅱa～f																			1																			1	
Ⅱc～g				1				1	1										1										1									5	
Ⅱe～g																																			1		1		
拡張トレンチ2	Ⅱ										1			2	1					2																	6	
拡張トレンチ3	Ⅰ									1					1				2		1		1	2													8	
	Ⅰ～Ⅱ									2				1		1		1	1	1	1						1								1		10	
	Ⅱc																				1					1											2	
	Ⅱd1																		1																		1		
	Ⅱd～f																	1																			1		
	Ⅱe～f																				1																1		
	Ⅱg上面																																		1		1	24
拡張トレンチ3-1	Ⅰ～Ⅱ																		1					1													2	
	Ⅱg																	1										1									2	
	Ⅱc～g																						1														1	5
拡張トレンチ3-2	Ⅰ																																		1			1
拡張トレンチ3-3	Ⅰ																		1																1		2	
	Ⅱ							1											1							1										1	4	
	Ⅱa								1	1				1					1		1		1														6	12

第Ⅲ -21-2 表　本土産磁器集計表

種類			肥前						砥部				産地不明																										合計
			碗			皿	急須		碗				碗				小碗					皿					皿？	杯			小杯	急須		火入	蓋	器種不明		
出土位置・層位			口	胴	底	口	口	胴	口～底	口	胴	底	口～底	口	胴	底	完	口～底	口	胴	底	完	口～底	口	胴	底	底	口～底	口	胴	底	口～底	底	体部～縟	胴	底	
TP3										2														1														3
TP3　1層																					1																	1
接合資料	4次 ④	№17 撹乱							1	1									1																			3
		№117 撹乱																				1																1
	Ⅰ Ⅱe～g																	1																				1
	Ⅰ～Ⅱ 撹乱																	1																				1
	Ⅱc～g 撹乱																		1																			1
	拡張トレンチ3Ⅰ 拡張トレンチ3-3Ⅱ																											1										1
	拡張トレンチ3Ⅱ 拡張トレンチ3-3Ⅱ 撹乱						1																															1
	拡張トレンチ3Ⅱe～f 拡張トレンチ3-3Ⅱ							1																														1
	拡張トレンチ3-3暗渠埋土 拡張トレンチ3-3Ⅱ																								1													1
撹乱			1		1				1	7	6	2	4	8	4	3	1	11	25	13	5		7	6	1	1		3	7	2		1		1	12	1	134
不明												1																										1
合計			1	2	1	1	1	3	4	19	11	3	4	15	14	4	1	18	44	21	12	1	12	10	1	4	1	6	11	2	1	1	1	1	22	2	
								9				37																								209	255

8．沖縄産無釉陶器

方言で「アラヤチ」と称されるもので、無釉あるいは泥釉やマンガン釉を施して焼き締めた陶器である。今回の調査では総数 229 点が出土し、器種には壺、甕、擂鉢、鉢、火炉、急須、皿などが認められ、そのうち最も多いのが壺（34.9％）で、その後に鉢類（19.2％）、擂鉢（6.6％）などが続く。以下に各器種の形態分類を示し、個別に詳細を述べていく。なお、分類は基本的に『嘉数トゥンヤマ遺跡Ⅱ』に準拠する。

壺（第Ⅲ -38 図・図版Ⅲ -14　2、3）

本器種は口縁形態によって 4 種に大別することが可能であるが、当該地においては肩部や胴部などに比して口縁部の出土数は極めて少なかったものの、Ⅲ類以外は確認することができた。

甕（第Ⅲ -38 図・図版Ⅲ -14　4）

甕は大型の製品が主体で、破片資料も多く得られると思われたが、本調査区内においては壺との区別ができない胴部を省くと明確な甕が 5 点のみで沖縄産無釉陶器全体の 2.2％となる。また、そのうち分類可能な資料が 1 点（Ⅱ類）であったが、文様の残存状況が不良であったため、詳細は不明である。

鉢（第Ⅲ -38 図・図版Ⅲ -14　7～8、第Ⅲ -39 図・図版Ⅲ -15　9）

本器種の出土点数は 31 点（13.5％）あり、不明確ながらも鉢と思われるものも 13 点が認められている。鉢の分類では大きく 5 類に分けることが可能であるが、当該地ではⅠ～Ⅲ類の資料が得られており、Ⅳ類とⅤ類については明確なものが見られなかった。今回確認されたⅠ・Ⅱ類は文様の有無によってａおよびｂ類に細分することができ、Ⅰ類ではａのみ、Ⅱ類については何れかの判断が困難であった。各類の出土割合はⅠ類が 22.6％、Ⅱ類が 3.2％、Ⅲ類が 12.9％、分類が困難な口縁資料が 6.5％となっており、Ⅰ類が最も多く認められた。

擂鉢（第Ⅲ -40 図・図版Ⅲ -16　10 ～ 11）

擂鉢は 15 点が得られており、器種の中では３番目に多い出土量となる。本器種は安里進らによる分類（安里ほか 1987）を参考に４類に大別し、その形態がⅠ類からⅣ類へと変遷していることが考えられる。分類ごとに見てみると、Ⅰｂ類１点、Ⅱ類２点、Ⅳ類２点となっており、分類が困難な胴部（９点）や底部（１点）が多くを占める。なお、今回の調査においてはⅢ類が見られなかった。

その他の器種（第Ⅲ -38 図・図版Ⅲ -14　１・５・６）

以上の器種のほかに皿、急須の蓋、火炉などが１点ずつ見受けられた。これらの資料は小片であったものの、図上での推定復元が概ね可能であることから図化して報告する。

第Ⅲ -38 図１は皿の口縁部であるが、口径の推算ができないものである。残存する資料では器壁の厚さがほぼ一定で、口縁形態も直口状に成形される。

同図５は急須の蓋で残存部は鍔部～き※である。本資料は鍔部の径が復元でき、摘みは欠損するものの、その形態が概ね推定でき得るものである。

同図６は耳が貼付された火炉の胴部である。資料はアカムヌーの火炉分類のⅡ類に当てはまるもので、残存状況からⅡａ類になるものと思われる。このタイプの火炉はアカムヌーではベタ底状になるものが殆どであるが、沖縄産無釉陶器においては脚部が付されるものも見られる。

※被せ蓋などに見られる部位で、身の蓋受け部と咬み合う部分。名称は「き」の他に「袴」などとも称される。

第Ⅲ -22 表　沖縄産無釉陶器一覧（宜野湾市教育委員会編 2009）

器種	分類 記号	分類 基準	備考	
壺	Ⅰ類	口縁断面が逆Ｌ字状を呈す長頸のもの。	大	口径 20 ㎝前後
			中	口径 12 ㎝前後
				口径 9 ㎝前後
			小	口径 6 ㎝前後
	Ⅱ類 a 1	有頸で口縁断面玉縁状を呈し、直状に立ち上がるもの。	大	口径 21 ㎝前後
			小	口径 15 ㎝前後
	Ⅱ類 a 2	有頸で口縁断面玉縁状を呈し、外反するもの。	大	口径 17 ㎝前後
			小	口径 13 ㎝前後
	Ⅱ類 b —	無頸で口縁断面玉縁状を呈すもの。	大	口径 16 ㎝前後
			小	口径 12 ㎝前後
	Ⅲ類	口縁断面が逆Ｌ字状を呈する短頸あるいは無頸のもの。	出土数 2 点のみ。	
	Ⅳ類	口縁が僅かに肥厚し（あるいは無肥厚）、外反するもの。口径は概ね10 ㎝以内。	大	口径 7 ㎝前後
			小	口径 4 ㎝前後
甕	Ⅰ類	口縁が断面三角状を呈し、口縁部からすぐに胴部へと移行するもの。	得られていない。	
	Ⅱ類	口縁断面が逆Ｌ字状で、口縁上面の幅が広いもの。	出土点数１点のみ。	
	Ⅲ類	口縁断面が方形状に肥厚するもの。	大	口径 32 ～ 35 ㎝
			中	口径 26 ～ 30 ㎝
			小	口径 21 ～ 25 ㎝
擂鉢	Ⅰ類 a	口縁断面が「く」の字状で、口縁直下に稜が施されるもののうち、口縁がやや直状に角度を変えて立ち上がるもの。		
	Ⅰ類 b	口縁断面が「く」の字状で、口縁直下に稜が施されるもののうち、口縁が外傾するもの。		
	Ⅱ類	Ⅰ類に比して、口縁断面が緩やかに「く」の字状をなすもの。		
	Ⅲ類	口縁断面が逆Ｌ字状で口唇の幅が狭いもの。櫛目の上端ラインが一様で整然と施される。		
	Ⅳ類	口縁断面が逆Ｌ字状で口唇の幅が広いもの。口唇部に圏線が廻る。	『嘉数トゥンヤマ遺跡』Ⅰの擂鉢Ⅲ類。	
鉢	Ⅰ類 a	口縁部が内彎し、外面に箆描きの波状線を描くもの。	ミジクブサー（水鉢）。	
	Ⅰ類 b	口縁部が内彎するもので、無文のもの。	ミジクブサー（水鉢）。	
	Ⅱ類 a	口縁部が内彎し、断面形が玉縁状を呈するもので有文のもの。	ミジクブサー（水鉢）。	
	Ⅱ類 b	口縁部が内彎し、断面形が玉縁状を呈するもので無文のもの。	ミジクブサー（水鉢）。	
	Ⅲ類	口縁断面が逆Ｌ字状を呈すもの。		
	Ⅳ類	口唇を平坦に成形し、口縁両端が張り出すもの。	『嘉数トゥンヤマ遺跡』Ⅰの甕Ⅳ類。	
	Ⅴ類	水鉢同様に、口縁が底部から開いて立ち上がるが、口縁は内彎しないもの。大型の浅鉢。		

第Ⅲ-23 表　沖縄産無釉陶器集計表

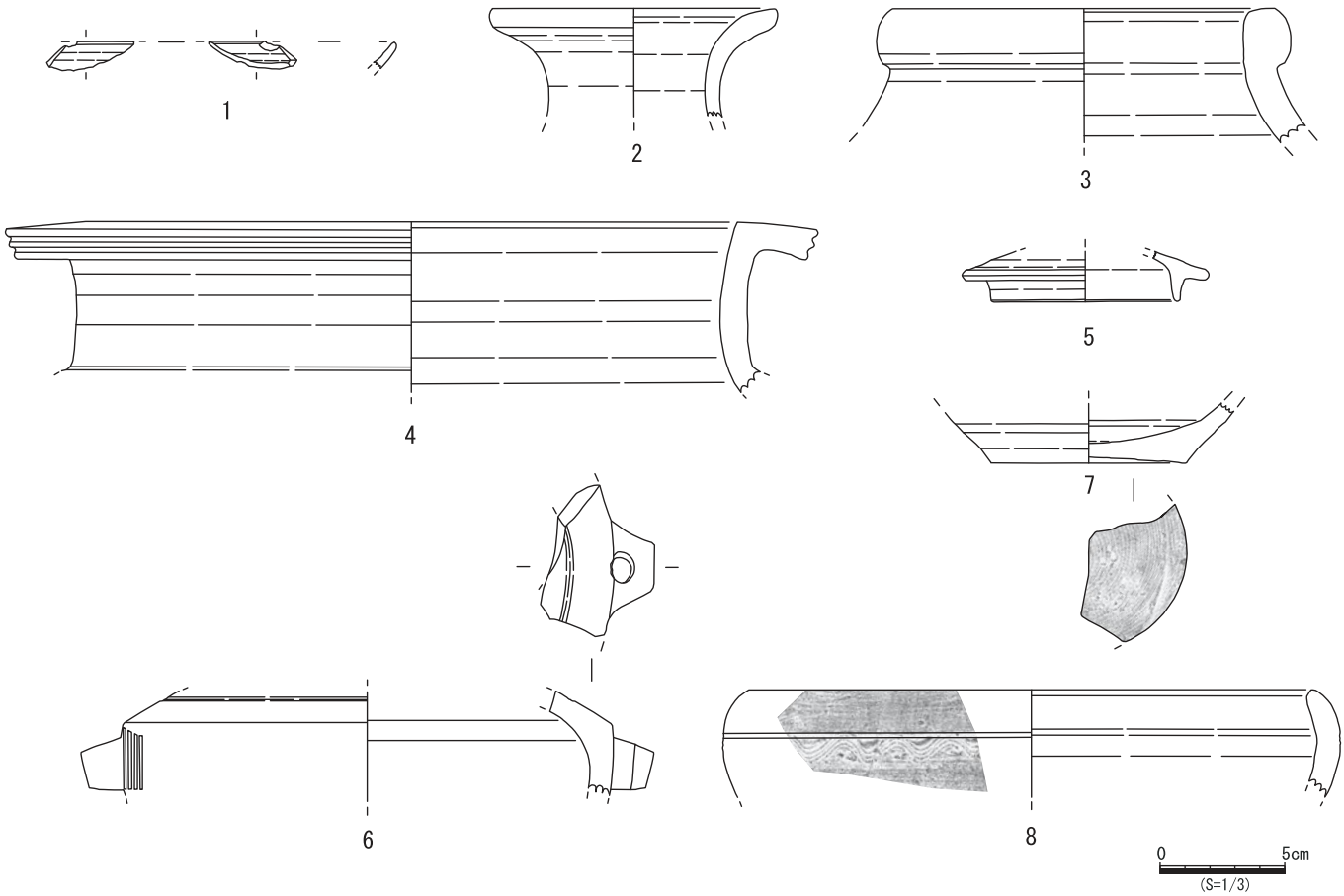
出土位置・層位 ＼ 種類			皿	壺						壺 or 甕	甕			擂鉢						鉢								鉢？	壺 or 鉢		急須（蓋）	火炉	器種不明		合計
				Ⅰ	Ⅱ	Ⅳ					Ⅱ			Ⅰ	Ⅱ	Ⅳ				Ⅰ		Ⅱaorb	Ⅲ	類不明								Ⅱ			
					b									b						a															
			口	口	口	口	肩	胴	底	胴	口	胴	底	胴	口	口～底	口	胴	底	口	胴	口	口	口～底	口	胴	底	胴	胴	底	鍔～き	耳	胴	部位不明	
ピット	2次 ②	№9																															1		1
		№16						1																											1
		№17																															1		1
		№23																															1		1
		№32																															1		1
		№42					1			1																									2
		№57																															1		1
		№63						1																											1
		№65								1								1																	2
		№73						1																											1
		№82																															1		1
		№84						1																											1
		№87																										1							1
		№91 （外1層）																1																	1
		№91 （外2層）						1																						1					2
		№96						1																											1
		№102						1																											1
		№104																															1		1
		№111																2																	2
		№117																																1	1
		№123 ※					1															1													2	26
	3次 ③	№15																															1		1
		№82						1																											1
		№109						1																											1
		№118					1																										1		2
		№119						2																									1		3
		№201上						1																											1
		№203						1																									1		2	11
	4次 ④	№15						2													1														3
		№31 （内）						1																											1
		№31 （外）																																1	1
		№49						1																											1
		№53																1																	1
		№61						1																											1
		№80						1																											1
		№80 （内）																												1					1
		№81																															1		1
		№96					1			1																									2
		№97						1																											1
		№103																														1			1
		№120						1																											1
		№175																															1		1
		№177					1																												1	18
その他の遺構	拡張トレンチ3 暗渠埋土			1	1		5	3	2	15			2															2					1		32	
	2次 ②	溝状遺構								1																									1	
	3次 ③	土坑																															1		1	
	4次 ④	溝状遺構						1																	1										2	36
Ⅰ																							1													1
Ⅱ																																	1		1	
Ⅱa										1																									1	
Ⅱd								2	1			1						1									1		1						7	
Ⅱd1							1	1		1																							1		4	
Ⅱg							1	1										1															2		5	18
Ⅱc～g							1	2																											3	
Ⅱe～f								1																						1					2	
Ⅱe～g										1											1												1		3	
Ⅱf～g							1			2										1															4	
暗渠/Ⅱd1										1																									1	
拡張トレンチ2		Ⅱ								1					1						1												2	1	6	
拡張トレンチ3		Ⅰ					1																												1	
		Ⅱ								5																		3							8	
		Ⅱd1						1																											1	
		Ⅱg		1																													1		2	
		Ⅱd～f						1																				1					1		3	
		Ⅱe～f															1																		1	16
拡張トレンチ3-1		Ⅰ～Ⅱ																		2	1			1		11	4								19	
		Ⅱg					3	3																				1					3		10	
		Ⅱc～g								1																									1	
		Ⅱe～f	1							1																		3							5	35
拡張トレンチ3-2		Ⅰ																											1						1	
拡張トレンチ3-3		Ⅱ					2	1	1	2								1					2								1		1		11	
		Ⅱa																								1									1	
		Ⅱg						1		1				1																				1	4	16
TP	2									1	1																								2	
	6							1																											1	
	7 南トレ 2層														1																				1	4
接合資料	Ⅱa～f 拡張トレンチ3-1Ⅱg					1																														1
	拡張トレンチ3-1Ⅱg 拡張トレンチ3暗渠埋土						1																													1
	Ⅱf～g 撹乱							1																												1
	拡張トレンチ3-1Ⅱc～g 拡張トレンチ3-1Ⅱg								1																											1
	Ⅱa～f 拡張トレンチ3Ⅱd～g									1																										1
	Ⅱf～g Ⅱg 拡張トレンチ3Ⅱd～f 拡張トレンチ3-1Ⅱg															1																				1
	4次 ④ 撹乱 №17							1																												1
	Ⅱc～g Ⅱg																												1							1
	Ⅱa～f 拡張トレンチ3Ⅱd～g 拡張トレンチ3Ⅱe～f 拡張トレンチ3-1Ⅱc～g 拡張トレンチ3-1Ⅱe～f 拡張トレンチ3-1Ⅱg 拡張トレンチ3暗渠埋土																						1													1
	拡張トレンチ3Ⅱd～f 拡張トレンチ3-3Ⅱc									1																										1
撹乱							2	4	2	1			1					1	1									2					3	1	18	
合計			1	2	1	1	23	46	7	40	1	1	3	1	2	1	1	9	1	3	4	1	4	1	1	12	5	13	3	3	1	1	31	5	229	
				80							5			15						31													36			

※試掘調査のTP７で確認された遺構No.５は資料整理時に②No.123と判別されたため、これに含めた。

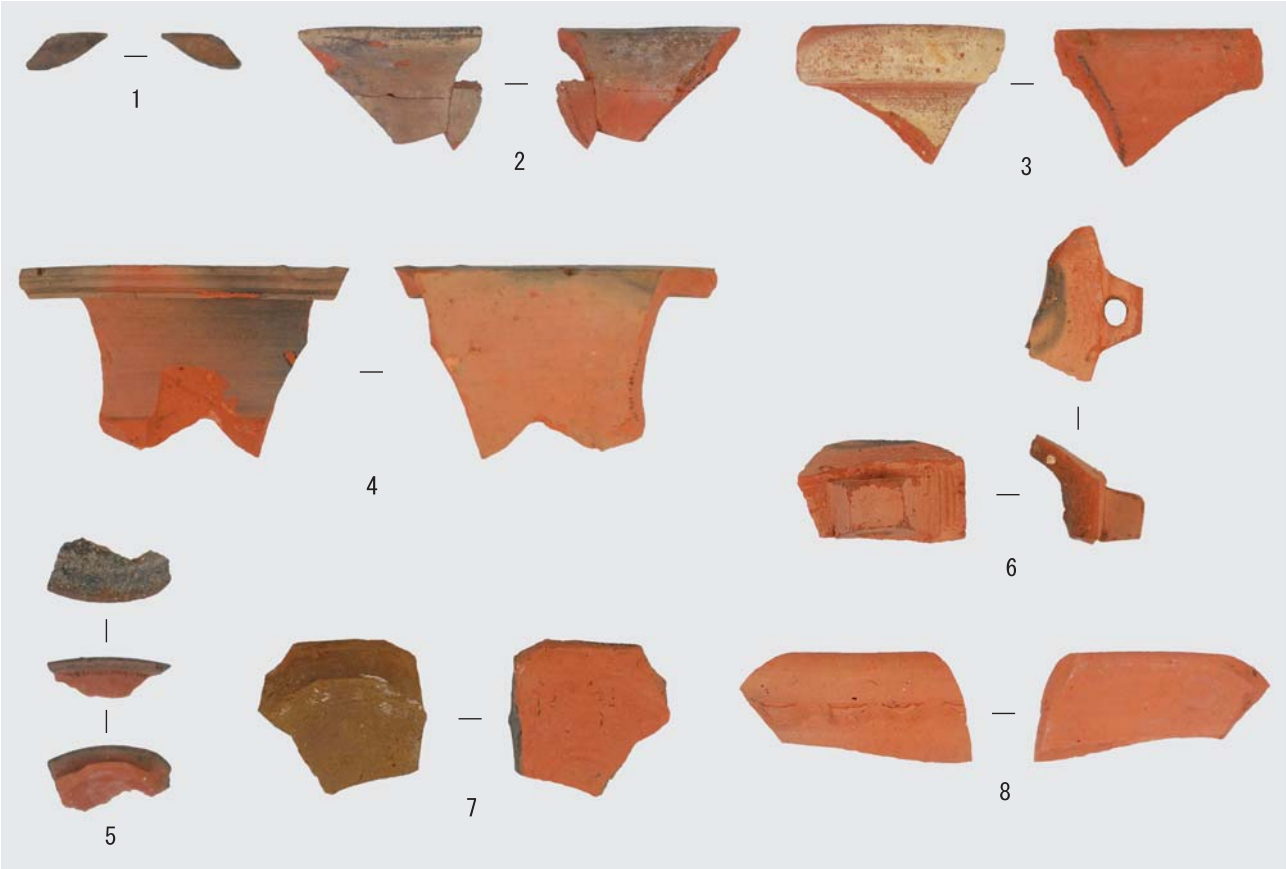
第Ⅲ-24表　沖縄産無釉陶器観察表

単位：cm

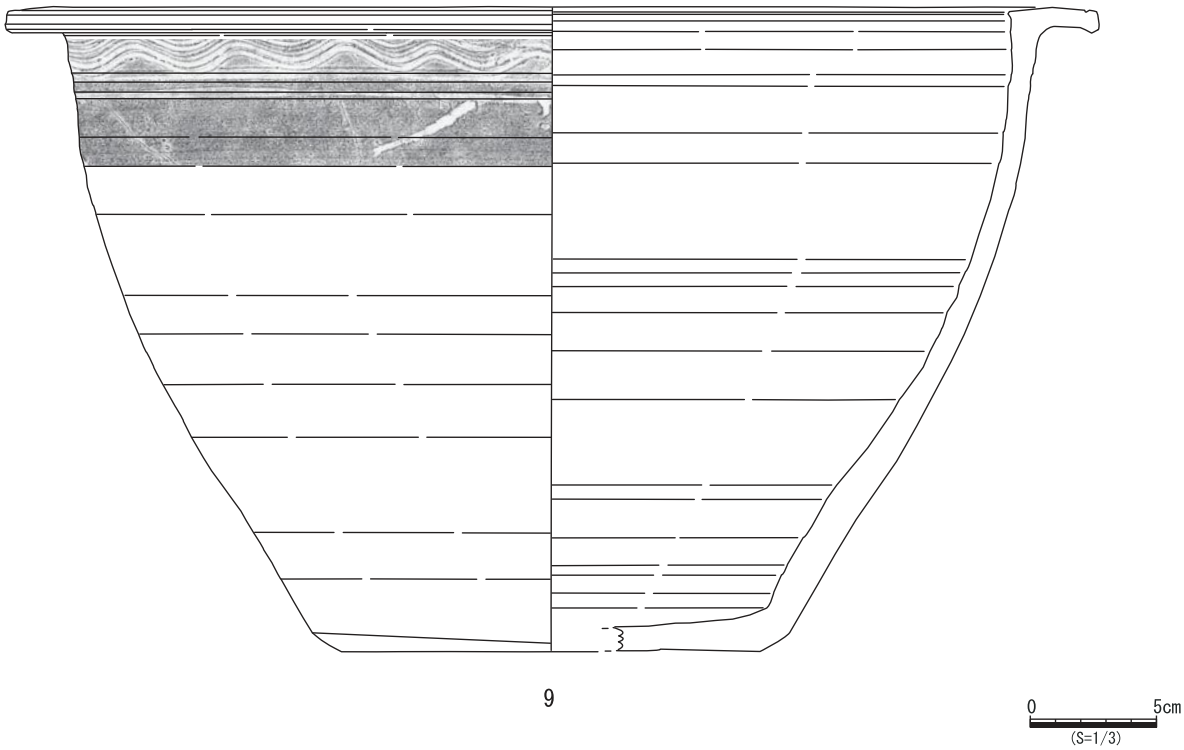
挿図番号 図版番号		器種・分類		部位	口径 器高 底径	器色	素地	観察事項	出土地
第Ⅲ-38図・図版Ⅲ-14	1	皿	—	口	— — —	外面:灰赤色 内面:赤褐色	赤灰色。 白色粒。	直口を呈した口縁資料。ナデ調整がなされるが、内外面に轆轤痕も見受けられる。	拡張トレンチ3-1 （Ⅱe～f層）
	2	壺	Ⅳ	口	11.6 — —	外面:にぶい赤褐色 内面:明赤褐色	赤橙色。 白色粒、褐色粒。	ラッパ状に開いた口縁部で、口唇部は舌状を呈す。ナデ調整がなされる。	拡張トレンチ3-1 （Ⅱg層） Ⅱa～f層
	3		Ⅱb	口	16.2 — —	外面:浅黄橙色 内面:赤色	赤色。 黒色粒、白色粒。	口縁部は玉縁状に肥厚し、口唇部は丸みを帯びつつも、やや平坦になる。器面はナデ調整がなされる。	拡張トレンチ3 暗渠埋土
	4	甕	Ⅱ	口	26.0 — —	外面:明赤褐色 内面:明赤褐色	明赤褐色。 褐色粒、黒色粒。	口縁部は逆L字状にして弱く外反し、口唇部は広く成形する。頸部は直状に立ち上がる。口縁外縁部には2条の圏線が囲繞する。器面はヘラケズリおよびナデ調整を施す。	TP2
	5	急須 （蓋）	—	鍔 ～ き	— — 7.4	外面:暗赤褐色 内面:赤褐色	赤色。 白色粒、黒色粒。	鍔部は削り出して成形する。内面はナデ調整がなされる。上面は混入物によってザラツキ感がある。	拡張トレンチ3-1 （Ⅱ層）
	6	火炉	Ⅱ	胴	— — —	外面:明赤褐色 内面:赤褐色	赤褐色。 白色粒。	内側に屈曲し、火窓および把手を有す資料。火窓直下には1条の圏線をめぐらせ、把手の右側には縦位の沈線が数条みられる。器面はヘラケズリとナデ調整がなされる。把手は貼付後に穿孔される。内面および火窓周辺にはススが付着する。資料の最大胴径は推算で19.6cmを測る。	④No.103
	7	鉢	—	底	— — 7.9	外面:灰褐色 内面:明赤褐色	赤灰色。 白色粒。	上げ底状に成形され、外側に開くように胴部が立ち上がる。器面はナデ調整がなされるが、両面とも轆轤痕が見受けられる。外底面には時計回りの糸切痕が確認できる。	Ⅱd層
	8		Ⅰa	口	22.3 — —	外面:明赤褐色 内面:明赤褐色	明赤褐色。 黒色粒、白色粒。	口縁部が内彎し、舌状の口唇部を有す資料。外面には圏線を配した後、直下に5目程の櫛状工具で波状文をめぐらす。両面ともナデ調整がなされており、波状文の上下端の一部はナデ消される。	Ⅱf～g層
第Ⅲ-39図・図版Ⅲ-15	9		Ⅲ	口 ～ 底	36.2 25.6 16.6	外面:にぶい赤橙色 内面:にぶい橙色	橙色。 白色粒、黒色粒。	逆L字状の口縁部に成形され、口唇部は広くつくられる。口縁部の外縁部はやや丸みを帯び、下端部は下方に微弱に張り出す。底部はベタ底状となる。口縁部直下には2条の圏線を廻らせ、一方の圏線に重なるように5目の櫛目で波状文を囲繞する。器面はヘラケズリとナデ調整がなされているが、轆轤痕も認められる。	拡張トレンチ3-1 （Ⅱg・Ⅱc～g・Ⅱe～f） 拡張トレンチ3 暗渠埋土 拡張トレンチ3 （Ⅱd～g・Ⅱe～f） Ⅱa～f層
第Ⅲ-40図・図版Ⅲ-16	10	擂鉢	Ⅱ	口	27.8 — —	外面:にぶい赤褐色 内面:赤褐色	赤色。 白色粒、黒色粒。	片口を有す口縁資料で、胴部はほぼ直線的に立ち上がる。口唇部やその外縁部はやや丸みを帯び、口縁部も丸みを持って屈曲する。その下位はヘラ削りがされているため、屈曲部との間は突状の稜線が目立っている。内面の擂目は、5目程の櫛目が上端部から約3cm下方に施される。	TP7 南トレ2層
	11		Ⅳ	口 ～ 底	25.0 12.1 12.2	外面:暗赤色 内面:にぶい赤褐色	赤褐色。 白色粒。	微弱に内彎する資料。断面形態が逆L字状に成形され、口唇部は広くつくられる。口唇部直下は丸みを帯びる。底部は上げ底状で、胴部は開くように立ち上がる。内面の摺り目は口縁部上端から施した後、約2cm下方までをナデ消すものの、完全には消されていない。また、摺り目は間隔を空けることなく器面をめぐる。器壁はヘラケズリとナデ調整がなされる。	拡張トレンチ3-1 （Ⅱg層） Ⅱf～g層 Ⅱg層 拡張トレンチ3 （Ⅱd～f層）



第Ⅲ-38 図　沖縄産無釉陶器 1：皿（1）、壺（2・3）、甕（4）、急須蓋（5）、火炉（6）、鉢（7・8）

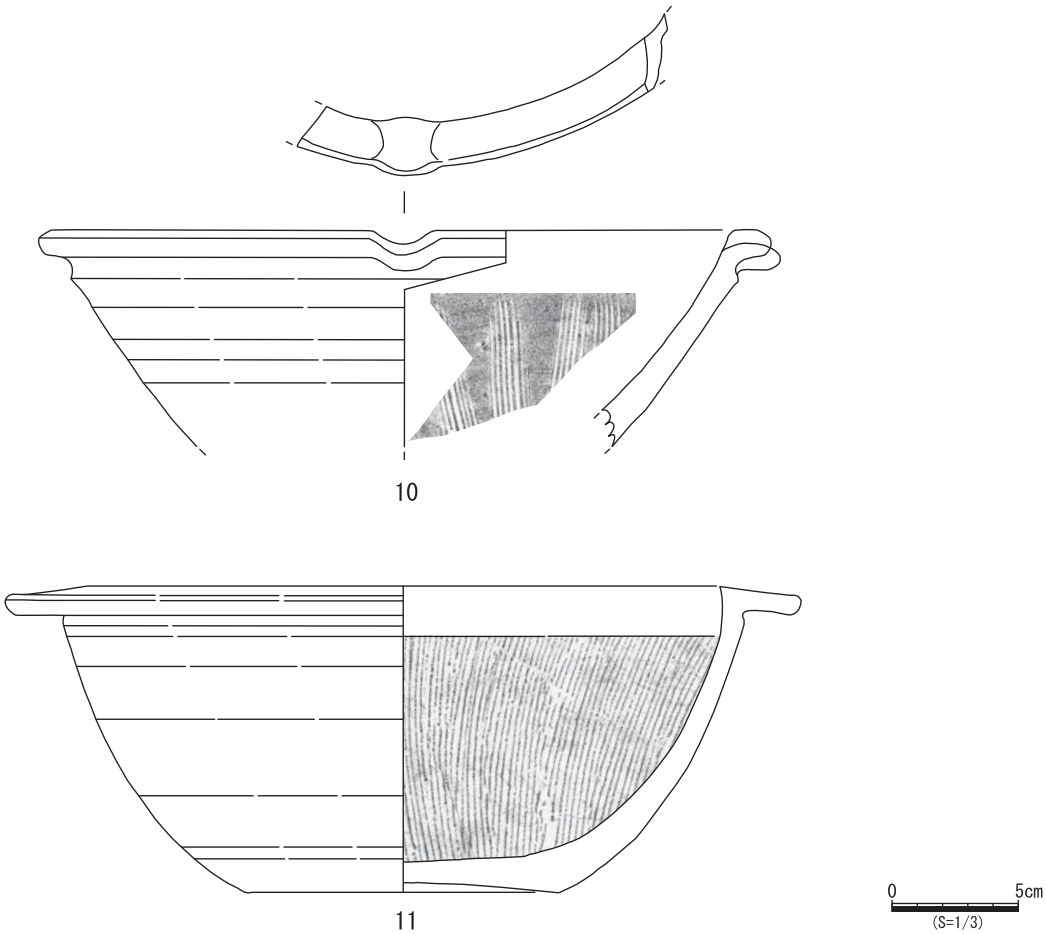


図版Ⅲ-14　沖縄産無釉陶器 1：皿（1）、壺（2・3）、甕（4）、急須蓋（5）、火炉（6）、鉢（7・8）



第Ⅲ-39 図　沖縄産無釉陶器２：鉢

図版Ⅲ-15　沖縄産無釉陶器２：鉢



第Ⅲ-40 図　沖縄産無釉陶器３：擂鉢

図版Ⅲ-16　沖縄産無釉陶器３：擂鉢

９．沖縄産施釉陶器

沖縄の方言で「ジョウヤチ」と称されるもので、釉薬を施して焼成した焼物である。この沖縄産施釉陶器は総数 175 点が出土し、器種に碗、小碗、皿、鉢、壺、壺の蓋、急須、火炉、火入、香炉、袋物などが認められた。器種で最も多く見られたのは碗（59.4％）となっており、圧倒的な量を誇っている。その次に多く得られていたのが鉢（19.4％）で、以下に続く器種は５％未満の出土量となった。

沖縄産施釉陶器の分類に関して、施釉技法および釉色などは各器種に共通する大分類として扱い、細分類については器種ごとにそれぞれ行った。なお、以下に示す分類基準は『嘉数トゥンヤマ遺跡Ⅱ』を基本としているが、今回の調査において得られた資料で既存の分類に該当しないものは新規に追加した。

施釉技法

Ⅰ類：釉薬を単掛けするもの

器面に単色の釉薬を施すもので、施釉範囲は両器面または外面のみとなる。

Ⅱ類：内外面の釉薬を掛け分けるもの

外面に鉄釉（ロ）や黒釉（ハ）などを施釉した後に内面に灰釉を施すもので、①内面の白化粧がなされないものと、②内面の白化粧後に灰釉を掛けるものがある。

Ⅲ類：器面に白化粧をし、透明釉を掛けるもの

内外面に白化粧を施し、その上から透明釉（灰釉）を施釉する。

釉薬の種類

釉薬には基本的に（イ）灰釉、（ロ）鉄釉、（ハ）黒釉があるが、今回（ニ）緑釉を追加設定した。

（イ）灰釉は透明あるいは半透明で、微かに灰色、褐釉、オリーブ褐色などがある。（ロ）鉄釉と（ハ）黒釉は鉄を基本とした釉薬であり、原料の調合や焼成などによっては判別し難いものもある。そのため、発色により褐色から暗褐色のものを鉄釉、黒色の釉を黒釉とした。また、不透明や光沢のない褐色を呈する釉薬などは錆釉とした。（ニ）緑釉は基本的に緑色系の釉色を指す。

碗（第Ⅲ -41 図・図版Ⅲ -17　１～２）

碗の出土数は総数 104 点であった。これらの資料には口縁形態がＡ直口するもの、Ｂ外反を呈するものが認められたが、Ｃ玉縁状に成形されたものは認められなかった。また、胴部の腰が張らないもの（ａ）や腰が張るもの（ｂ）も見られた。

碗Ⅰ類　Ⅰ類（イ）は口径や高台径が大きく、胴部が直線的に立ち上がる形状となるもので、いわゆる湧田灰釉碗と称される碗である。今回の調査で得られた資料では、口縁形態がＡ直口するもののみであったが、他遺跡ではＢ外反を呈するものも確認されている。施釉方法もフィガキー（浸し掛け）により灰釉が施され、素地は灰色系のものが比較的多く見られる。また、見込み部や高台、畳付には砂目が認められる。

Ⅰ類（ロ）はⅠ類（イ）の形態を踏襲したタイプの碗で、口縁部が外反を呈し、胴部の腰に張りが出てくる傾向が見られる。施釉法は見込み部に錆釉による同心円を描き、続いて内外面の口縁から胴部にかけて鉄釉を施すものの、高台や見込み部には施釉しないものがある。また、内面の施釉範囲は基本的に同心円外を意識しているようである。

碗Ⅱ類　本類の器形もⅠ類（ロ）と同様に、口縁部の外反や腰が張る傾向となる。施釉状況は外面に鉄釉を施し、内面には①灰釉を直接かけるものと、②白化粧を施した後に透明釉を施釉するものがある。後者のタイプは、白化粧の範囲が内面から外面の口縁部まで及び、外面の白化粧は鉄釉に覆われる。施釉の順序としては、白化粧を内面から外面口縁まで施し、その後に外面に（ロ）鉄釉または（ハ）黒釉を掛ける。施釉範囲は、高台まで及ばないものと及ぶものが見受けられた。また、見込み部は蛇の目釉剥ぎを行い、同部と畳付にはアルミナの付着が認められた。

碗Ⅲ類　Ⅲ類の器形もⅠ類(ロ)と同じく、口縁部の外反や腰が張り出す傾向が見られる。器面の状況は、全面に白化粧をおこなった後に灰釉（透明釉）を施し、見込み部には蛇の目釉剥ぎがなされる。見込み部および畳付にはアルミナが付着する。また、施文技法は竹筒の先端をいくつかに割り、各々の先端に丸いスタンプをつけて押印し、点花文を施すものや、菊花文などを筆により手書きで施すものもある。

小碗（第Ⅲ -41 図・図版Ⅲ -17　3）

本器種は７点出土し、その施釉技法もⅠ～Ⅲ類まであるものの、当該地の調査においてはⅡ類が確認できなかった。今回は確認されたⅠ類およびⅢ類の細分類を示す。

小碗Ⅰ類　釉薬の種類が（ロ）鉄釉ではあるが、施釉技法は基本的に碗Ⅰ類に準じており、施釉範囲は外面および内面の途中までとなる。器形などに関しては小破片のため、詳細を把握することが困難である。

小碗Ⅲ類　碗Ⅲ類と同じく、口縁形態がＡ直口するもの、Ｂ外反を呈するものとに区分できるが、前者は見られなかった。また、本類は①面取りの無いもの、②面取りするものも含めて細分している。

皿（第Ⅲ -41 図・図版Ⅲ -17　4）

皿は３点だけが得られており、本器種もⅠ～Ⅲ類に大きく区分できる。そして、Ａ直口するものと、Ｂ外反を呈するものが他遺跡で認められているが、今回の調査ではⅡ類が認められず、また口縁形態が判別できる資料も１点のみであった。以下の説明では未確認のⅡ類は割愛する。

皿Ⅰ類　本器種Ⅰ類は（イ）および（ロ）が見受けられた。その施釉技法は碗Ⅰ類に準じており、両資料とも外面から内面にかけて施釉がなされている。また、本類（ロ）の資料は口縁部がＡ直口するものである。

皿Ⅲ類　本類は口縁部の器形や施釉方法などの細分が基本的に碗Ⅲ類と同様である。今回の調査で認められた資料は施文されたもののみで、その文様はコバルトを用いて筆で手描きするものである。

鉢（第Ⅲ -41 図・図版Ⅲ -17　5～6）（第Ⅲ -42 図・図版Ⅲ -18　7）

本器種は 34 点が確認され、その器形には胴部から口縁部にかけて立ち上がるものなどがある。鉢の細分類では、口縁形態によりＡ逆Ｌ字形のもの、Ｂ外反するもの、Ｃ波形のもの、Ｄ玉縁のものなどがこれまでに確認されているが、今回の調査区において内彎するものが認められたため、これをＥ類として口縁部の器形分類に追加した。

鉢Ⅰ類　器形が高台から口縁部にかけて直線的に立ち上がるものが１点のみ得られている。施釉範囲は口縁部内面から外面の胴下部まで釉薬が掛かる。当該地より出土した資料は口縁形態が直口し、Ａ～Ｅに該当しなかった。今後の調査においても、類例資料が普遍的に得られるか不明なため、今回は新規に分類設定せず、「その他」として報告する。

鉢Ⅱ類　胴部から立ち上がるものと開くものがあり、後者はいわゆるワンブーと称される鉢である。今回見られた口縁形態はＡ逆Ｌ字形とＥ内彎の二種であった。また、本類はすべて②内面に白化粧が施されている。

鉢Ⅲ類　Ⅲ類は１点のみで、口縁部はＥ内彎を呈し、また施釉技法も基本的には碗Ⅲ類と同じである。

壺

壺は蓋も含めると３点の出土である。本器種はⅠ類のみが認められるが、その釉薬の種類は（ロ）鉄釉、（ハ）黒釉の２パターンがあった。ここでの細分類は身に限り、胴部の張り具合によってａ張るもの、ｂ張らないものの二種に分けられる。なお蓋については、今回は細分できなかった。

急須

本器種は轆轤引きによる製品で４点が得られた。今回見られた急須はすべてⅢ類となっており、白化粧をした後に透明釉を内外面に掛けるものが見受けられた。唯一確認できる底部には白化粧および施釉はしない。また、注口は白土で成形されているため、白化粧はなされずに透明釉だけが掛けられる。有文のものは線彫りの幾何学文に薄いコバルトや鉄釉で彩色し、注口などの継ぎ目は緑釉で彩られる。

火炉（第Ⅲ -42 図・図版Ⅲ -18　8）

火炉は土瓶などを据えるために口縁部内面に突起が付されるもので、当該地においては口縁部の破片資料が２点出土した。出土資料は２点ともに、Ⅰ類（ロ）に分類できる。口縁形態はａ直口するもの、ｂ内彎するものがあるが、今回はｂ内彎するものが確認できた。

火入（第Ⅲ -42 図・図版Ⅲ -18　9）

本器種は４点が認められた。器種の用途は火種入れで、煙草盆などに入れ込んで使用するもので、火取とも称される。火入もⅠ～Ⅲ類があり、また、口縁部の器形によりａ直口するもの、ｂ内傾するものがあるが、今回の調査ではⅡ類およびｂ内傾する口縁部が見られなかった。

火入Ⅰ類　（ロ）のみが認められ、鉄釉を外面の口縁部から高台際および口縁部内面に施す。

火入Ⅲ類　本類は有文の胴部が１点のみのため、口縁形態などの詳細把握が困難であった。施文は筆などを用いているようで、薄いコバルトで手描きされる。

香炉

香炉は轆轤引きで成形されるもので、口縁部は逆Ｌ字形を呈し、直立する頸部、胴部が強く張るものが多く見られるようである。また、底部についても３つの脚が貼付されるものが多く、当該地においても香炉の脚部が１点だけ確認できた。残存資料は白化粧後にコバルトを施していることから、Ⅱ類またはⅢ類の可能性が考えられる。

袋物

すべて小破片で、全形が窺えない胴部資料を本項目で扱った。袋物には、Ⅰ類のみが見受けられ、（ロ）黒釉、（ハ）鉄釉、（ニ）緑釉などが見られた。資料はすべて外面にのみ施釉がされている。また、今回追加設定した（ニ）緑釉の資料は２点であったが、同一個体になると思われる。

第Ⅲ-25-1表　沖縄産施釉陶器集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			碗																					小碗					皿			鉢
			Ⅰ								Ⅱ				Ⅲ									Ⅰ	Ⅲ				Ⅰ		Ⅲ	Ⅰ
			イ				ロ		ハ		ロ				有文				無文					ロ	B				イ	ロ	有文	ロ
			A				B		B		B				B				A	B										A		その他
				a	b			b			②	②	①	②											①	①	②					
												b																				
			口	底	胴	底	胴	口	胴	口	胴	口	底	胴	底	口～底	口	胴	底	口	口～底	口	胴	底	胴	口	底	胴	底	底	口	底	口～底
ピット	2次 ②	№19																															
		№42						1																									
		№53																															
		№83																															
	3次 ③	№5																															
		№16					1																										
		№27																															
		№156 (外)					1																										
	4次 ④	№15																									1						
		№103上							1																								
その他の遺構	拡張トレンチ3 暗渠埋土																	1															
Ⅰ										1										1	2	1	1			1							
Ⅰ～Ⅱ			1																														
Ⅱa			1														2	1			4	1	1							1			
Ⅱb																																	
Ⅱd					1							1				1	1				1	4	3										
Ⅱd1														1		1						1											
Ⅱg			1			1			1																								
Ⅱa～f																																	
Ⅱc～g																2					1	1											
Ⅱe～f										1																							
Ⅱe～g																						1			1								
Ⅱf～g																									1	1						1	
拡張トレンチ2	Ⅱ				1						1										1		1								1		
	Ⅱg																																
拡張トレンチ3	Ⅰ																																
	Ⅰ～Ⅱ															2	1																
	Ⅱ																					2											
	Ⅱc															1																	
	Ⅱd1																					1											
	Ⅱg					1																											
	Ⅱd～f																			1	3	1											
	Ⅱe～f																					2											
拡張トレンチ3-1	Ⅱg		1							1			1								3			1									
	Ⅱc～g																					1											
拡張トレンチ3-2	Ⅰ															1																	
拡張トレンチ3-3	Ⅱ		1	1													1				4	5											
	Ⅱa																					1											
	Ⅱg						1																										
TP	5 1層						1																1										
	7 西トレ																																
	7 南トレ 2層																																
接合資料	Ⅱc～g 拡張トレンチ3Ⅱd～f 拡張トレンチ3Ⅱe～f														1																		
	Ⅰ Ⅱa																			1													
	拡張トレンチ3Ⅱe～f 拡張トレンチ3-1Ⅰ～Ⅱ																			1													
	Ⅱe～f 拡張トレンチ3Ⅱe～f																						1										
	Ⅱa～f層 拡張トレンチ3Ⅱe～f																						1										
	拡張トレンチ3　Ⅰ 拡張トレンチ3-1Ⅱg																																
	Ⅱa～f層 Ⅱc～g層																																
	Ⅱa～g 礫充填部Ⅱg																																
	Ⅱa～f 拡張トレンチ3Ⅱc～g 拡張トレンチ3-1Ⅱg																																
	Ⅱd 拡張トレンチ3Ⅰ 拡張トレンチ3Ⅱc																																
	拡張トレンチ3Ⅰ 拡張トレンチ3Ⅱc																																
	Ⅰ 拡張トレンチ3-1Ⅰ～Ⅱ																																
	Ⅱa～f層 Ⅱd層 拡張トレンチ3-1Ⅱg																																
	Ⅱa Ⅱd 拡張トレンチ3-3Ⅱ																																
	4次 ④ №17 撹乱																																1
	Ⅱc～g Ⅱe～g																																
	4次 ④ №80 拡張トレンチ3Ⅱd～f 拡張トレンチ3-1Ⅱc～g 拡張トレンチ3-1Ⅱg 拡張トレンチ3-3Ⅱc																																
撹乱							1		1			1	1			1	2		1				1					1					
不明																						1											
合計			5	1	2	1	5	1	1	3	3	1	2	2	1	1	9	7	2	1	4	19	23	10	1	2	2	1	1	1	1	1	
			104																						7					3		1	

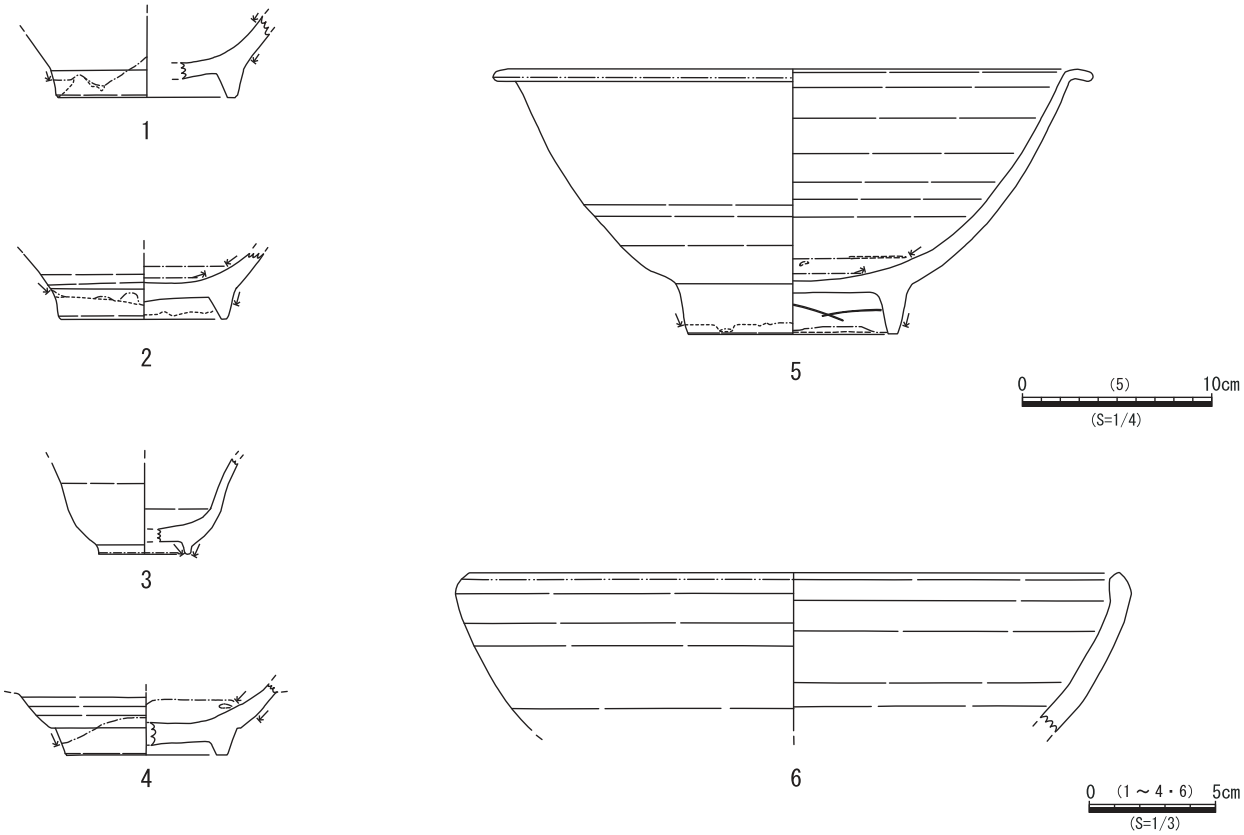
第Ⅲ-25-2表　沖縄産施釉陶器集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			鉢						鍋ｏｒ急須	壺蓋	壺		壺？	急須				急須ｏｒ酒器	火炉	火入				香炉	袋物			器種不明					合計	
			Ⅱ					Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ		Ⅰ	Ⅲ				Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ		Ⅲ	類不明		Ⅰ			Ⅰ			Ⅲ	類不明		
			ロ						ロ	ロ	ロ	ハ	ロ						ロ	ロ		有文			ロ	ハ	ニ	イ	ロ	ニ				
			A ②		②		E ②	E			a								b	a														
			口～底	口	胴	底	口	胴	底	撮み～き	胴	胴	胴	口	注口	胴	底	注口	口	口～底	胴	胴	底	足	胴	胴	胴	胴	胴	胴	胴	胴		
ピット	2次 ②	№19																											1				1	
		№42																															1	
		№53																							1								1	
		№53																				1											1	4
	3次 ③	№5									1																						1	
		№16																															1	
		№27																														1	1	
		№156 （外）																															1	4
	4次 ④	№15																															1	
		№103上																															1	2
その他の遺構	拡張トレンチ3 暗渠理土																																	1
Ⅰ				1	1																			1							1		11
Ⅰ～Ⅱ																																		1
Ⅱa					1	1																												12
Ⅱb																																		1
Ⅱd					1			1								1																		15
Ⅱd1																																		3
Ⅱg																													1					4
Ⅱa～f					2																						1							3
Ⅱc～g				2																														6
Ⅱe～f																																		1
Ⅱe～g																																		2
Ⅱf～g					1																													4
拡張トレンチ2	Ⅱ																																	5
	Ⅱg												1																				1	6
拡張トレンチ3	Ⅰ			2		1	1																											4
	Ⅰ～Ⅱ											1					1																	5
	Ⅱ																																	2
	Ⅱc								1																									2
	Ⅱd1																																	1
	Ⅱg				1																							1						3
	Ⅱd～f																																	5
	Ⅱe～f																																	2
拡張トレンチ3-1	Ⅱg			1						1					1				1							1	1						13	14
	Ⅱc～g																																1	
拡張トレンチ3-2	Ⅰ																																	1
拡張トレンチ3-3	Ⅱ				1		1												1														15	
	Ⅱa																																1	
	Ⅱg																																1	17
TP	5 1層																																2	
	7 西トレ					1																											1	
	7 南トレ 2層					1																											1	4
接合資料	Ⅱc～g 拡張トレンチ3Ⅱd～f 拡張トレンチ3Ⅱe～f																																	1
	Ⅰ Ⅱa																																	1
	拡張トレンチ3Ⅱe～f 拡張トレンチ3-1Ⅰ～Ⅱ																																	1
	Ⅱe～f 拡張トレンチ3Ⅱe～f																																	1
	Ⅱa～f層 拡張トレンチ3Ⅱe～f																																	1
	拡張トレンチ3 Ⅰ 拡張トレンチ3-1Ⅱg		1																															1
	Ⅱa～f層 Ⅱc～d層		1																															1
	Ⅱa～g 欠充填部Ⅱg		1																															1
	Ⅱa～f 拡張トレンチ3Ⅱc～g 拡張トレンチ3-1Ⅱg		1																															1
	Ⅱd 拡張トレンチ3Ⅰ 拡張トレンチ3Ⅱc				1																													1
	拡張トレンチ3Ⅰ 拡張トレンチ3Ⅱc				1																													1
	Ⅰ 拡張トレンチ3-1Ⅰ～Ⅱ					1																												1
	Ⅱa～f層 Ⅱd層 拡張トレンチ3-1Ⅱg					1																												1
	Ⅱa Ⅱd 拡張トレンチ3-3Ⅱ	1																																1
	4次 ④ №17 撹乱																																	1
	Ⅱc～g Ⅱe～g																	1																1
	4次 ④ №80 拡張トレンチ3Ⅱd～f 拡張トレンチ3-1Ⅱc～g 拡張トレンチ3-1Ⅱg 拡張トレンチ3-3Ⅱc																			1														1
撹乱					2	1								1							1		1											16
不明																															1			2
合計			1	10	12	7	2	1			1	1	1	1	1	1	1			1	1	1	1		1	1	2	1	2	1	1	1		
			33						1	1	2		1	4				1	2	4				1	4			6					175	

第Ⅲ-26表　沖縄産施釉陶器観察表

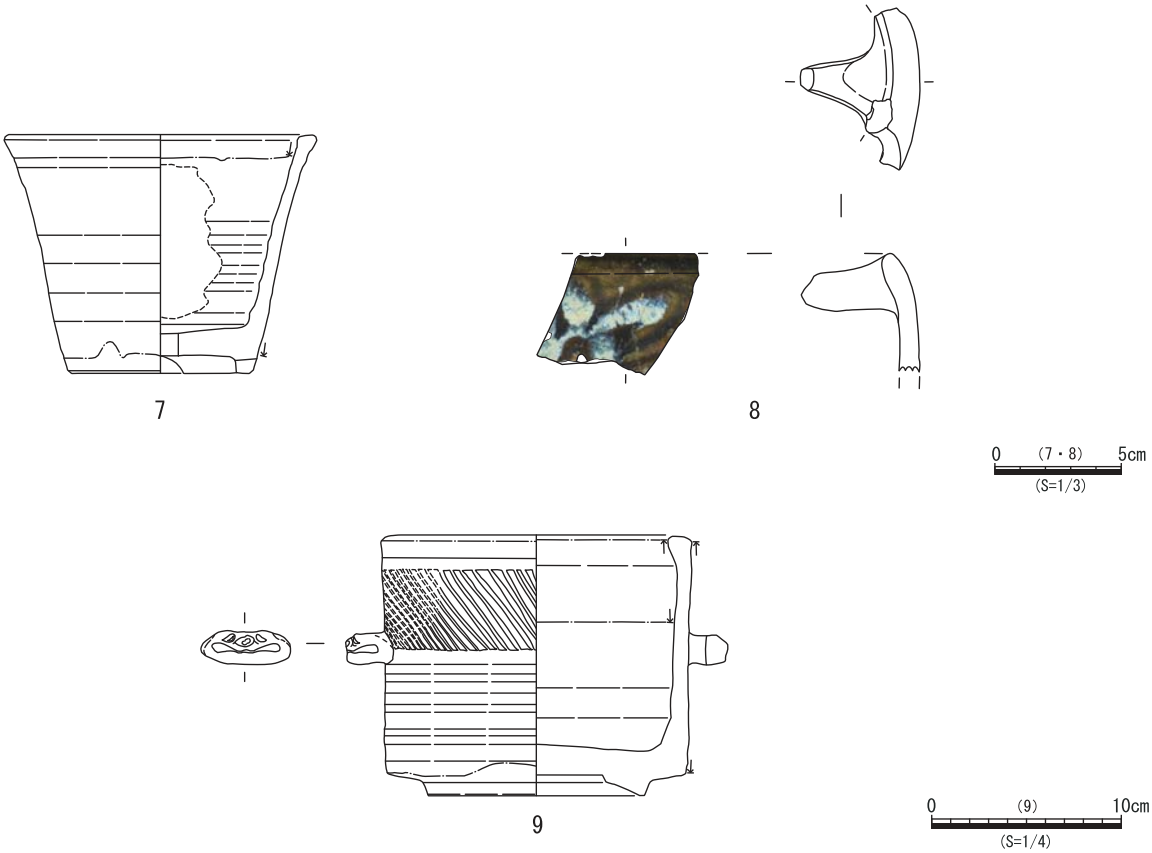
単位：cm

挿図番号 図版番号		器種・分類		部位	口径 器高 底径	器形・成形・ 文様等の特徴	素地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第Ⅲ-41図・図版Ⅲ-17	1	碗	Ⅰイa	底	— — 7.2	灰釉碗。腰は張らず、直線的に立ち上がる。高台際削り痕が明瞭。高台の一部に白土が付着する。	褐灰色の細粒子。細かな亀裂や気泡痕が見られる。	暗オリーブ灰色を呈する釉薬で、外面は胴下部まで施すが、一部は高台まで掛かる。内面も胴部途中まで施釉される。貫入は見られない。	拡張トレンチ3-1 （Ⅱ層）
	2	碗	Ⅱロb②	底	— — 6.6	高台際から直線的に立ち上がる。高台の内外面には白土が付着し、特に外面では施釉後に白土を塗布したことが窺える。	浅黄色の細粒子。	オリーブ灰色の釉薬は外面のみに認められ、高台途中まで施される。また、高台には指跡が残る。内面は白化粧がなされ、見込み部で蛇の目状に釉剥ぎされる。貫入は認められない。	Ⅱd層
	3	小碗	Ⅲb①	底	— — 3.6	腰が張り、胴部は丸みを帯びながら立ち上がる。口縁部は外反するものと思われる。見込み部は平坦に成形される。	灰白色の細粒子。気泡痕が目立つ。	全面に白化粧を施した後に透明釉を掛けるが、畳付だけは露胎する。全体的に細かい貫入が見受けられる。	Ⅱf～g層
	4	皿	Ⅰイ	底	— — 6.4	口縁部は外反するものと思われるもので、胴部はやや丸みを持って立ち上がる。高台は逆台形状に成形する。外面には轆轤痕が見られる。見込み部に重ね焼きの痕跡がある。	灰色の細粒子。気泡痕が若干みられる。	オリーブ灰色を呈す釉が外面胴下部から内面の見込み部上方まで施釉される。外面は高台まで一部釉が掛かる。内外面に細かい貫入が確認できる。	Ⅱb層
	5	鉢	ⅡAロ②	口 ～ 底	30.0 14.0 11.0	口縁部が逆L字状に成形され、胴部は外側に開くように立ち上がる資料。畳付周辺には白土が付着し、見込み部には重ね焼きの痕跡が残る。	にぶい黄橙色の細粒子。	黒褐色の鉄釉が施された資料。内面から口縁の外縁部にかけて白化粧をした後に、外縁部直下から外底面まで鉄釉を掛ける。見込み部は蛇の目状に釉剥ぎされ、高台内面も露胎する。	拡張トレンチ3-3 （Ⅱ層） Ⅱa層 Ⅱd層
	6	鉢	ⅡロE②	口	25.8 — —	口縁上部を内側に屈曲させて内彎にする。両面に轆轤痕が認められる。	灰黄褐色の細粒子。細かな気泡痕が目立つ。	黒褐色の鉄釉を外面に施す資料。内面および口唇部周辺を白化粧した後、外面に鉄釉を施して透明釉を掛けている。細かい貫入が内外面に見られる。	拡張トレンチ3-3 （Ⅱ層）
第Ⅲ-42図・図版Ⅲ-18	7	鉢	Ⅰロ その他	口 ～ 底	12.0 9.5 7.2	口縁部が直口を呈して、やや肥厚する。口唇部は平坦に成形。胴部は高台から直線的に立ち上がる。見込み部から外底面にかけて、径8mmの穿孔が認められる。高台に2ヵ所の抉りが想定される。	浅黄橙色の細粒子。	オリーブ黒色を呈する釉薬を口縁部内面から外面の胴下部にかけて施釉する。指痕が胴下部に残る。貫入は見られない。	④No.17 撹乱
	8	火炉	Ⅰロb	口	— — —	口縁部を内彎にし、口唇部は丸みを帯びて成形される。胴部は直線的に立ち上がる。口縁部内面には受け部がやや下方向きに貼付される。受け部上面には指圧痕が残る。外面に薄いコバルト？で何らかの文様が描かれる。	褐灰色の細粒子。	オリーブ黒色を呈する釉薬を全面に施す。貫入は見られない。	拡張トレンチ3-3 （Ⅱ層）
	9	火入	Ⅰロa	口 ～ 底	15.4 13.7 11.5	胴部から直線的に立ち上がって、口縁部にいたる資料。口縁部は内側に張り出し、口唇部を平坦に成形する。高台内面は斜位に面取りする。外面の上半部は斜位の線彫りがめぐり、下半部には稜が目立つほど凹凸を呈す。また、獅子頭を模した把手を2ヵ所に貼付する。内面の一部にススが付着する。	浅黄色の細粒子。	オリーブ黒色を呈する釉薬を口縁部内面および外面胴部に施釉する。貫入は見られない。	④No.80 拡張トレンチ3-1 （Ⅱg・Ⅱc～g層） 拡張トレンチ3-3 （Ⅱc層） 拡張トレンチ3 （Ⅱd～f層）



第Ⅲ-41 図　沖縄産施釉陶器１：碗（１・２）、小碗（３）、皿（４）、鉢（５・６）

図版Ⅲ-17　沖縄産施釉陶器１：碗（１・２）、小碗（３）、皿（４）、鉢（５・６）



第Ⅲ-42 図　沖縄産施釉陶器２：鉢（７）、火炉（８）、火入（9）

図版Ⅲ-18　沖縄産施釉陶器２：鉢（７）、火炉（８）、火入（9）

10. アカムヌー

本製品はこれまで陶質土器として整理されていたものである。小型の登り窯で焼成されるため（曽根1983）低火度で軟質となる。しかし、焼成温度の影響によっては硬質になるタイプもある。硬質のものは瓦質土器の範疇に収まるものもあるが、本土産の瓦質土器とは異なるため、本製品で硬質と判断したものは本項目において扱う。

アカムヌーは今回の調査で60点となっており、その器種には鍋、水鉢、急須、火炉、鍋や火炉の蓋などが見られた。この器種を出土割合で見てみると、器種不明のものを除いて最も多く得られているのが急須となり、その割合は13.3％であった。続いて火炉（蓋も含む）の11.7％、蓋を含めた鍋が５％、水鉢は3.3％となっている。以下に器種別による形態分類をおこなって、その基準を示し、個別の資料報告をする。なお、本製品の分類は基本的に『嘉数トゥンヤマ遺跡Ⅱ』に倣った。

火炉（第Ⅲ-43～46図・図版Ⅲ-19～22　1～7）

火炉は身の部分が６点、本器種の蓋と思われる資料が１点のみ得られた。前者の身については、その器形から大きく５つに分類することが可能であるが、当該調査区で確認できたものはⅠ類とⅤ類だけで、他は判別が困難な胴部や底部であった。

Ⅰ類　胴中央部から大きく内傾しながら口縁部にいたるもので、全体的に丸みを帯びた形状を呈す。本類やⅡ類には火窓が設けられる。

Ⅴ類　基本的にⅠ～Ⅳ類の形態とは異なり、Ⅴ類は上面観が馬蹄状を呈したもので、比較的大型の製品となる。本類は各部の残存状態が良好であったため、図上にて推定復元を試みた。

急須（第Ⅲ-46図・図版Ⅲ-22　8）

本器種は胴下部が「く」の字状に屈曲し、いわゆる土瓶とも呼称されるものである。当該地においては、判別のつかない胴部や底部を除いて８点の出土があった。急須の形態分類は頸部の有無および蓋受けの有無で分類が可能であるが、今回の調査では口縁部周辺の資料が認められず、注口や胴部や底部などであったため詳細は不明である。

鍋（図・図版なし）

鍋は蓋を含めて３点が認められ、うち１点は身であったが、全形を窺えるものは得られなかった。今回の調査において見られた鍋の身はⅡ類に該当するものである。このⅡ類には蓋受け部の成形によって、ａヨコナデにより蓋受け部を窪ませたもの、ｂ蓋受け端部をツメ状にして滑り止めを設けたものが細分類としてあるが、今回得られた資料はａのものであった。また、径が復元できそうな蓋の庇端部の径を推算したところ、凡そ19cmであったことから、蓋の大きさとしては中型で、その中でもサイズが小さい部類に含まれるものであった。

水鉢（図・図版なし）

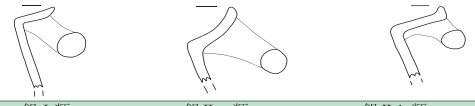
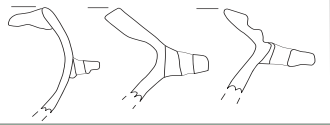
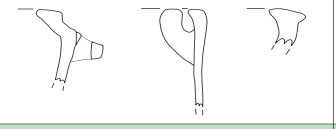
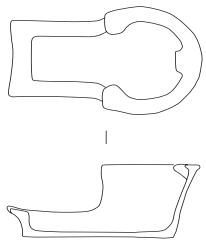
本器種は口縁部の２点が確認された。水鉢は鉢の範疇に含められるものだが、今回は「ミジクブサー」と沖縄方言で称されるもののみであったため、本項目を水鉢とした。本器種は鉢分類のⅠ類およびⅡ類に相当するが、当該地より得られた資料は２点ともⅠ類に属する。

Ⅰ類　本類とⅡ類はともに口縁部が内彎しているが、Ⅱ類との相違は口唇部を平坦に仕上げないという点である。口縁部外面の文様の有無によって、ａ波状文を箆描きで施すもの、ｂ無文のものの２つに細分可能である。

第Ⅲ-27表　アカムヌー集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			鍋	鍋（蓋）	鍋？	水鉢	急須			火炉				火炉（蓋）	器種不明			合計	
			Ⅱ a			Ⅰ a				Ⅰ		Ⅴ							
			口	鍔	底	口	注口	胴	底	口	胴	口～底	底	端部	胴	底	部位不明		
ピット	2次　②	№9													1			1	
		№35													1			1	2
	3次　③	№5													1			1	
		№25													1			1	
		№132													1			1	
		№146													1			1	
		№203													2			2	6
	4次　④	№31　（内）													1			1	
		№60													1			1	
		№171													2			2	
		№175													1			1	5
その他の遺構	拡張トレンチ3 暗渠埋土			1				1							1			3	
	2次　②	溝状遺構													1			1	
	3次　③	溝状遺構1													1			1	
		土坑			1										1			2	7
Ⅰ															1				1
Ⅱd															1			1	
Ⅱd1															1			1	
Ⅱg															4			4	6
Ⅱa～f									1										1
Ⅱc～g				1		2	1		1	1					1				7
Ⅱe～f										1									1
Ⅱe～g															1				1
Ⅱf～g																1			1
拡張トレンチ2		Ⅱg～Ⅲ													1				1
拡張トレンチ3		Ⅰ～Ⅱ													1			1	
		Ⅱ													1			1	
		Ⅱd～f													1		1	2	
		Ⅱe～f									1							1	5
拡張トレンチ3-1		Ⅱg	1												1				2
拡張トレンチ3-3		Ⅱ						1										1	
		Ⅱa													1			1	
		Ⅱg													2			2	4
接合資料	Ⅱa～f Ⅱc～g Ⅱf～g 拡張トレンチ3Ⅱd～f 拡張トレンチ3Ⅱe～f 拡張トレンチ3-3Ⅱa											1							1
	Ⅱd　1 拡張トレンチ3Ⅱe～f							1											1
	拡張トレンチ3Ⅱc 拡張トレンチ3-1Ⅱg												1						1
	Ⅱa～f Ⅱg						1												1
	拡張トレンチ3Ⅱd～f 拡張トレンチ3Ⅱe～f 拡張トレンチ3-1Ⅱg														1				1
	拡張トレンチ3Ⅱ Ⅱg															1			1
撹乱									1		1			1	1				4
合計			1	2	1	2	2	3	3	2	2	1	1	1	36	2	1		
							8			6					39				60

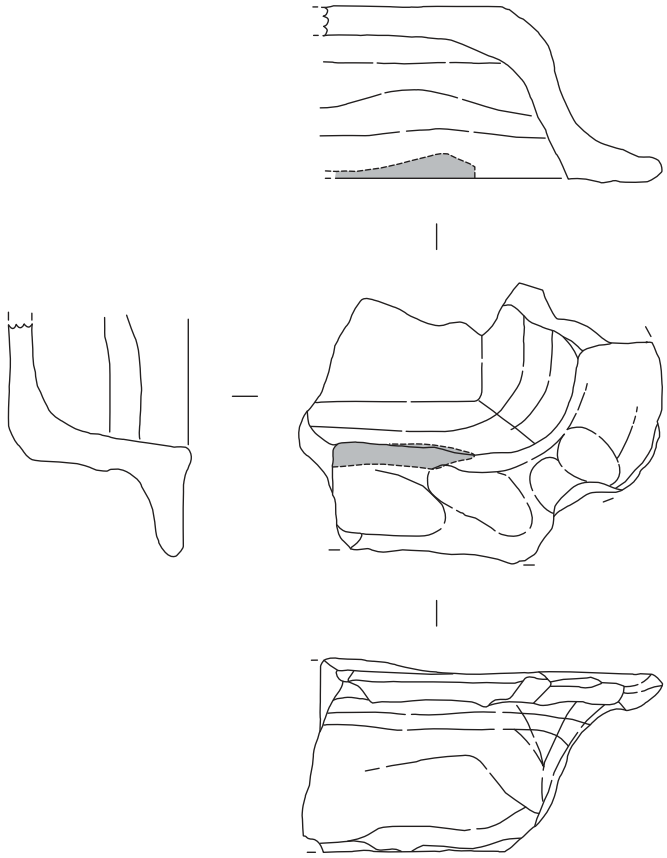
第Ⅲ-28表　アカムヌー分類一覧（宜野湾市教育委員会編 2009）

器種	分類				備考
	属性	記号		基準	
鍋	蓋受け	Ⅰ類		滑り止めがないもの。	 鍋Ⅰ類　鍋Ⅱa類　鍋Ⅱb類
		Ⅱ類	a	蓋受け部をヨコナデによって窪ませることで、滑り止めを作るもの。	
			b	蓋受け端部を成形することによって、ツメ（滑り止め）を作り出すもの。	
	大きさ	大		口径26cm以上のもの°	撮径約9cm以上、または庇端部径約23cm以上の鍋蓋が概ね対応。
		中	大	口径24～25cmのもの。	撮径約8cm～9cm、または庇端部径約21～23cmの鍋蓋が概ね対応。
			中	口径21～23cmのもの。	撮径約7cm～8cm、または庇端部径約19～21cmの鍋蓋が概ね対応。
			小	口径19～20cmのもの。	撮径約6cm～7cm、または庇端部径約18～19cmの鍋蓋が概ね対応。
		小		口径18cm以下のもの。	撮径約6cm以下、または庇端部径約18cm以下の鍋蓋が概ね対応。
鉢	口縁部	Ⅰ類	a	口縁部が内彎し、外面に箆描きの波状線を描くもの。	ミジクブサー（水鉢）。
			b	口縁部が内彎するもので、無文のもの。	ミジクブサー（水鉢）。
		Ⅱ類		内彎口縁で、口唇が平坦のもの。	ミジクブサー（水鉢）。『嘉数トゥンヤマ遺跡』ⅠでⅡ類として報告されている口縁断面玉縁状のものは本調査では得られていない。
		Ⅲ類		口縁断面が逆L字状を呈すもの。	 鉢Ⅰ類　鉢Ⅱ類　鉢Ⅲ類
急須	頸部	Ⅰ類		無頸のもの。	
		Ⅱ類		有頸のもの。	 急須Ⅰa類　急須Ⅱa類（長頸）　急須Ⅱa類（短頸）　急須Ⅱb類
	口縁	a類		蓋受けを作らないもの。	
		b類		蓋受けをつくるもの。	
火炉	器形	Ⅰ類		器形球状で、胴部中央から口縁へ大きく内傾するもの。	 火炉Ⅰ類　火炉Ⅱa類　火炉Ⅱb類
		Ⅱ類	a	胴部から「く」の字状に折れて口縁が内傾するもの。	
			b	胴部から「く」の字状に折れて口縁が内傾するもので、口縁に突帯が廻るもの。	
			c	胴部上位で「く」の字状に折れて口縁が直状に立上るもの。	 火炉Ⅱc類　火炉Ⅲ類　火炉Ⅳ類
		Ⅲ類		円筒状の器形を呈すもの。	
		Ⅳ類		浅鉢状になるもの。	
		Ⅴ類		上面観が馬蹄形を呈し、大型のもの。	 火炉Ⅴ類

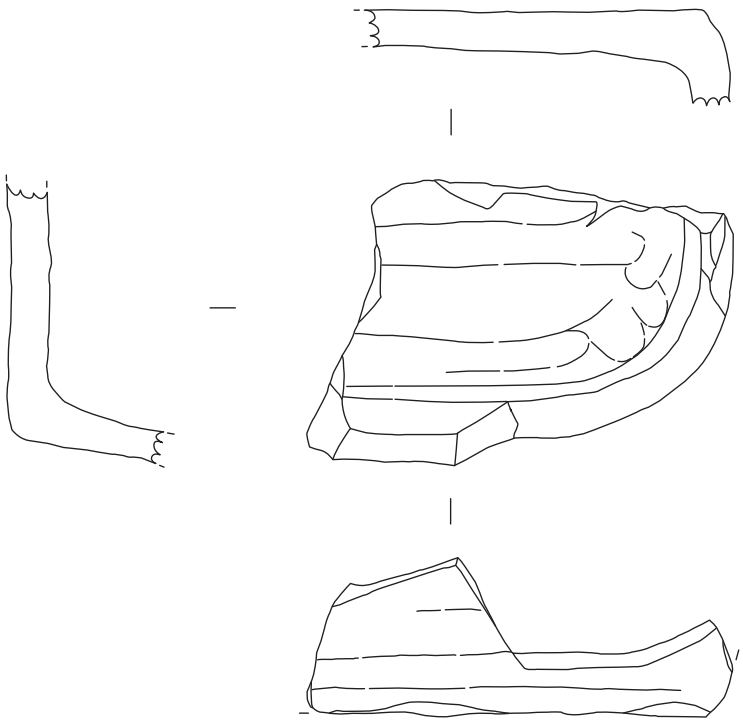
第Ⅲ-29表　アカムヌー観察表

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種・分類		部位	口径 器高 底径	器色	素地	観察事項	出土地
第Ⅲ-43図・図版Ⅲ-19	1	火炉	Ⅴ	口	— 7.0 —	外面：橙色 内面：橙色	橙色が基本となる素地には雲母、黒色粒、白色粒、赤色粒などが包含される。	ベタ底の底部からやや外傾しながら逆L字状の口縁部まで立ち上がる。外面は粗い整形なのに比して内面は横位のナデ調整がなされる。外底面に巻貝圧痕が認められる。内面上端部にススが付着する。	拡張トレンチ3（Ⅱe～f層）
	2		Ⅴ	底	— — —	外面：橙色 内面：橙色	黄橙色を呈する素地に黒色粒、白色粒、赤色粒、雲母などが混入する。	平面観は弧状となり、断面形態はL字状に成形される。内外面ともに横位のナデ調整がなされる。また、内底面は長軸に沿った指ナデ痕が認められる。	Ⅱf～g層
第Ⅲ-44図・図版Ⅲ-20	3		Ⅴ	口	— — —	外面：明黄褐色 内面：にぶい橙色	橙色となる素地に赤色粒、雲母、白色粒などが含まれる。	弧状を呈した平面観で、断面は三角形上に肥厚する口縁資料。内面には丸みを帯びた器物受けの突起が貼付される。内面上端部や突起上部にススが付着する。	拡張トレンチ3-3（Ⅱa層）
	4		Ⅴ	口	— — —	外面：明黄褐色 内面：浅黄色	浅黄色の素地には黒色粒や雲母などが混ぜられる。	側面が逆L字状に成形される。上面や正面部はナデ調整がされるが、内面および外面は比較的雑な仕上がりとなる。内面上端部には斜位に面取りされた器物受けの突起が貼付される。正面および内面などにススが付着する。	Ⅱa～f層
第Ⅲ-46図・図版Ⅲ-22	5		—	蓋	下部径 14.0	外面：橙色 内面：にぶい橙色	素地は橙色で、雲母や黒色粒や白色粒などが入れられる。	饅頭状に成形されたもので、ヘラ削りの後にナデ調整をなす。資料には上面から穿たれた径約1.5cmの孔が2ヵ所に見られる。平坦に仕上げられた下面には白化粧土が塗布される。	撹乱
	6		Ⅰ	口	14.4 — —	外面：橙色 内面：橙色	色調は外側が橙色で、内側は明褐灰色となる。混和材として白色粒、黒色粒、雲母などが包含される。	回転ヘラ削りやナデ調整がなされ、口唇部は舌状に成形される。内彎する口縁部内面に器物受けの突起を貼付する。平坦となる突起先端にはススが付着する。	Ⅱe～f層
	7		不明	底	— — 12.9	外面：橙色 内面：橙色	橙色となる素地に雲母、黒色粒、白色粒などが混入する。	回転ヘラ成形の後、外面はナデ調整を施すものの、内面は轆轤痕が残る。胴部は開くように立ち上がる。	拡張トレンチ3-1（Ⅱg層） 拡張トレンチ3（Ⅱc層）
	8	急須	—	胴	— — —	外面：橙色 内面：橙色	橙色を呈する素地には黒色粒、雲母、白色粒などが含まれる。	回転ヘラ削りによる成形で、轆轤は時計回りであったと思われる。資料は、胴下部で「く」の字状に屈曲し、窄まりながら立ち上がる。推算胴径は約17.4cmを測る。	拡張トレンチ3（Ⅱe～f層） Ⅱd1層



1



2

凡例

スス付着部

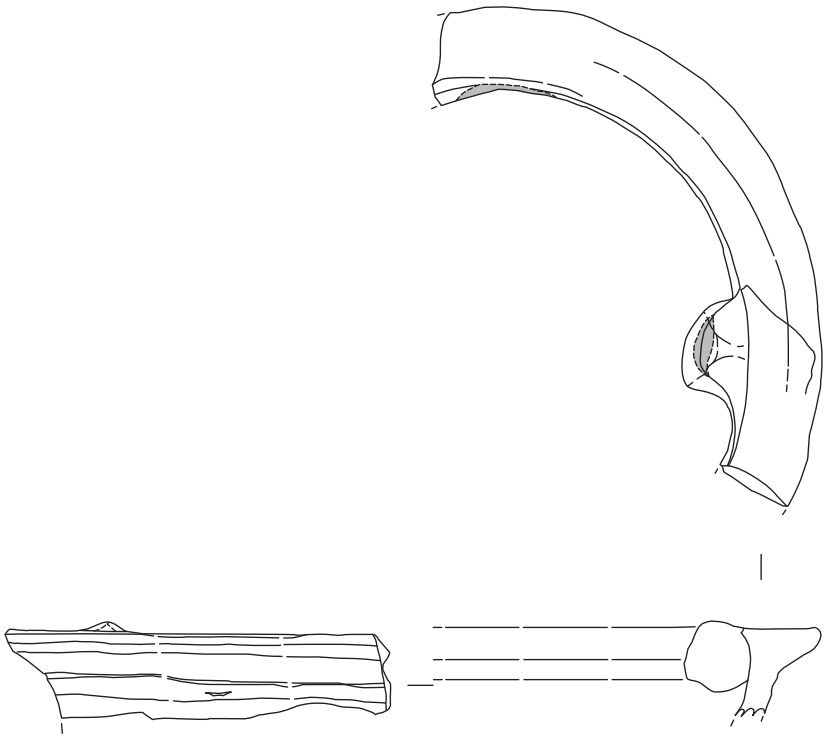
0　5cm
(S=1/3)

第Ⅲ-43図　アカムヌー1：火炉（1・2）

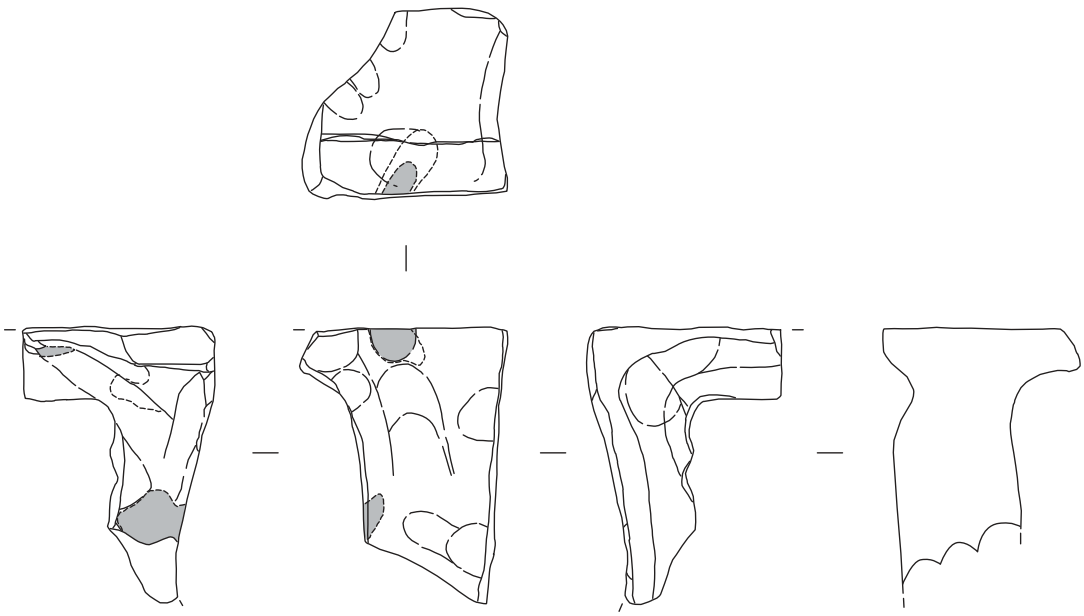
1

2

図版Ⅲ-19　アカムヌー１：火炉（１・２）



3



4

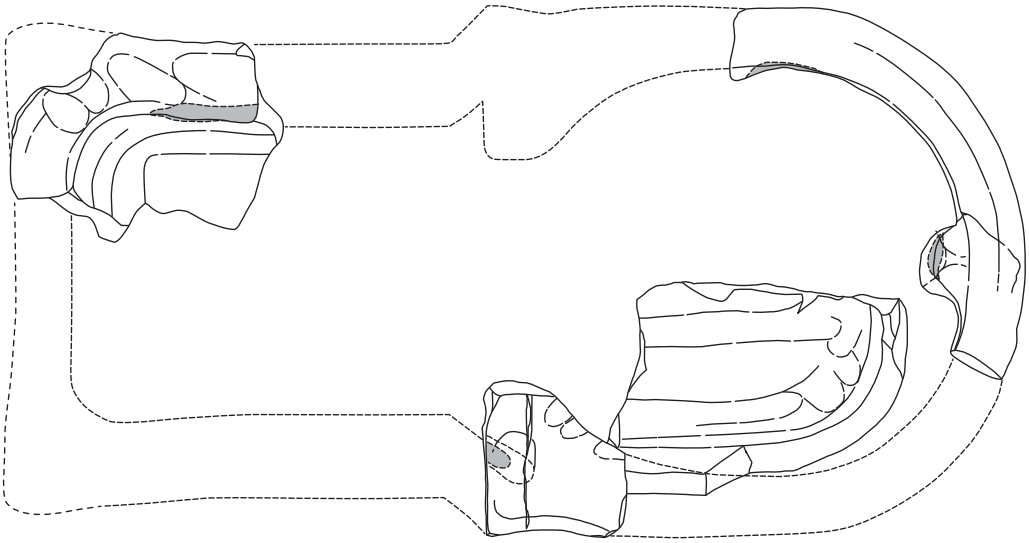
凡例

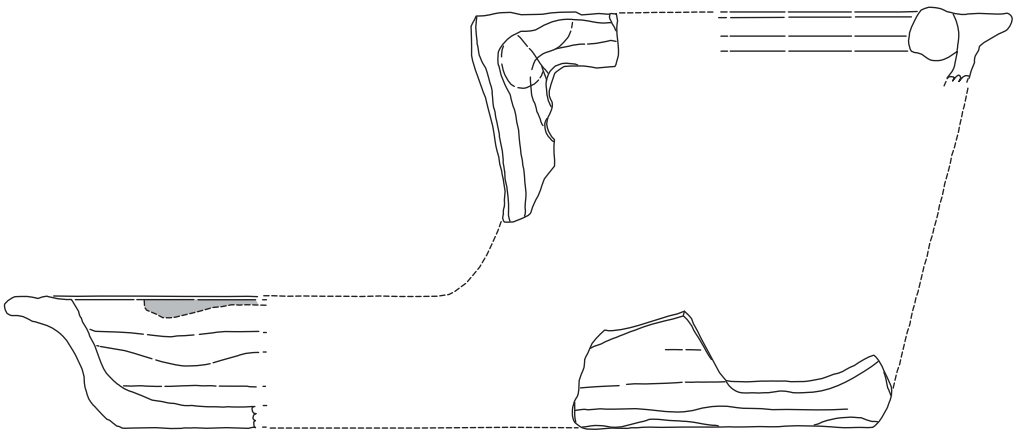
スス付着部

0　5cm
(S=1/3)

第Ⅲ-44図　アカムヌー２：火炉（３・４）

図版Ⅲ-20　アカムヌー２：火炉（３・４）





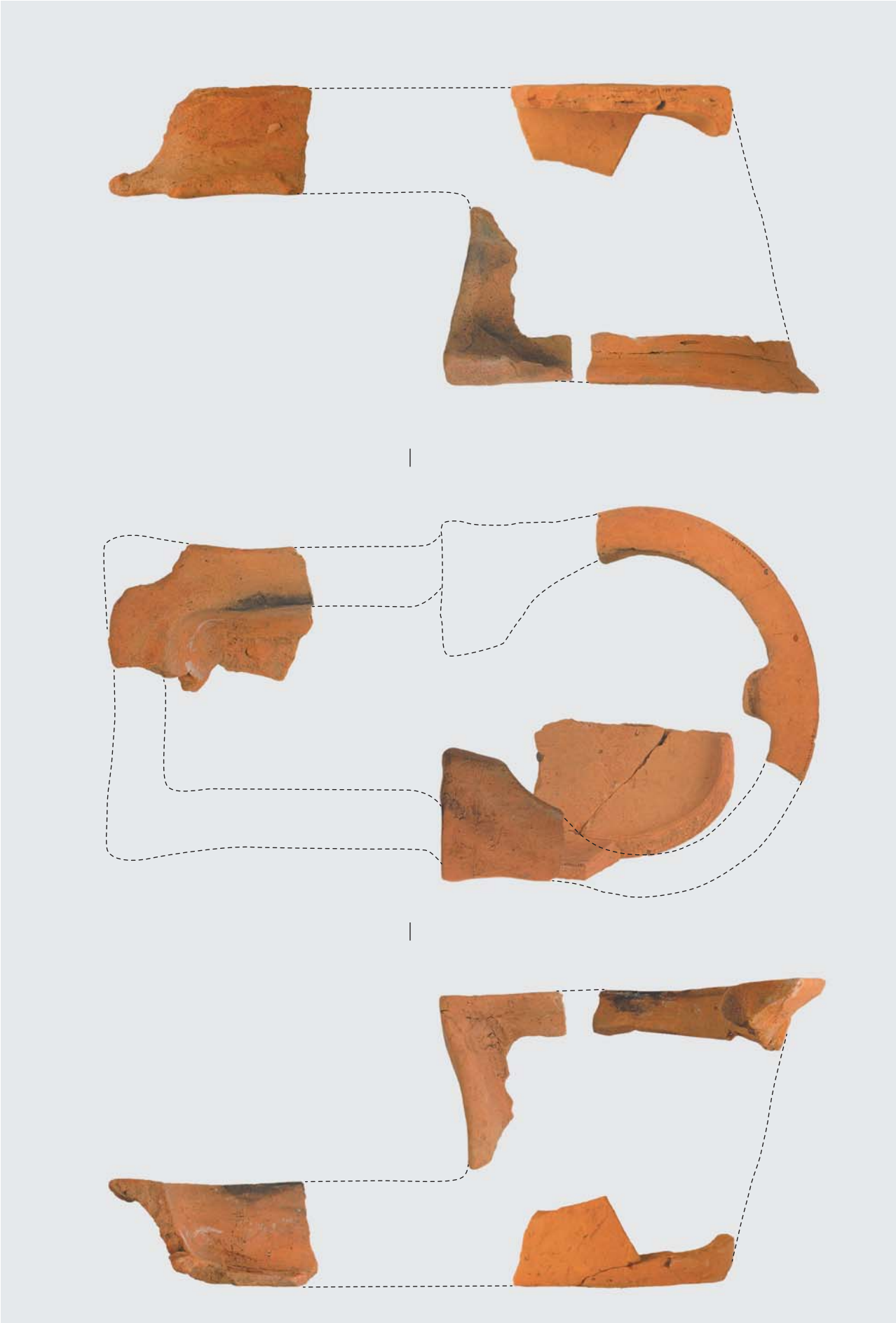
凡例

スス付着部

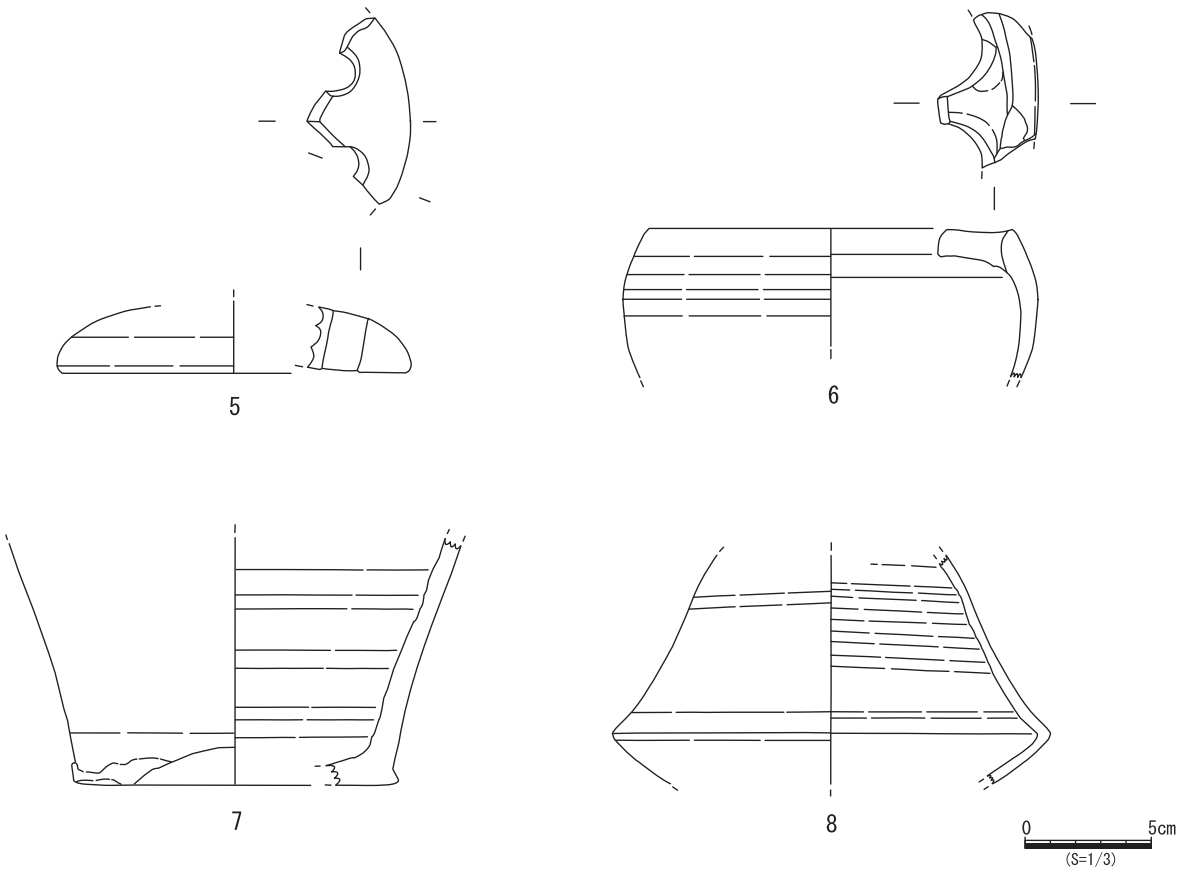
0　10cm

(S=1/4)

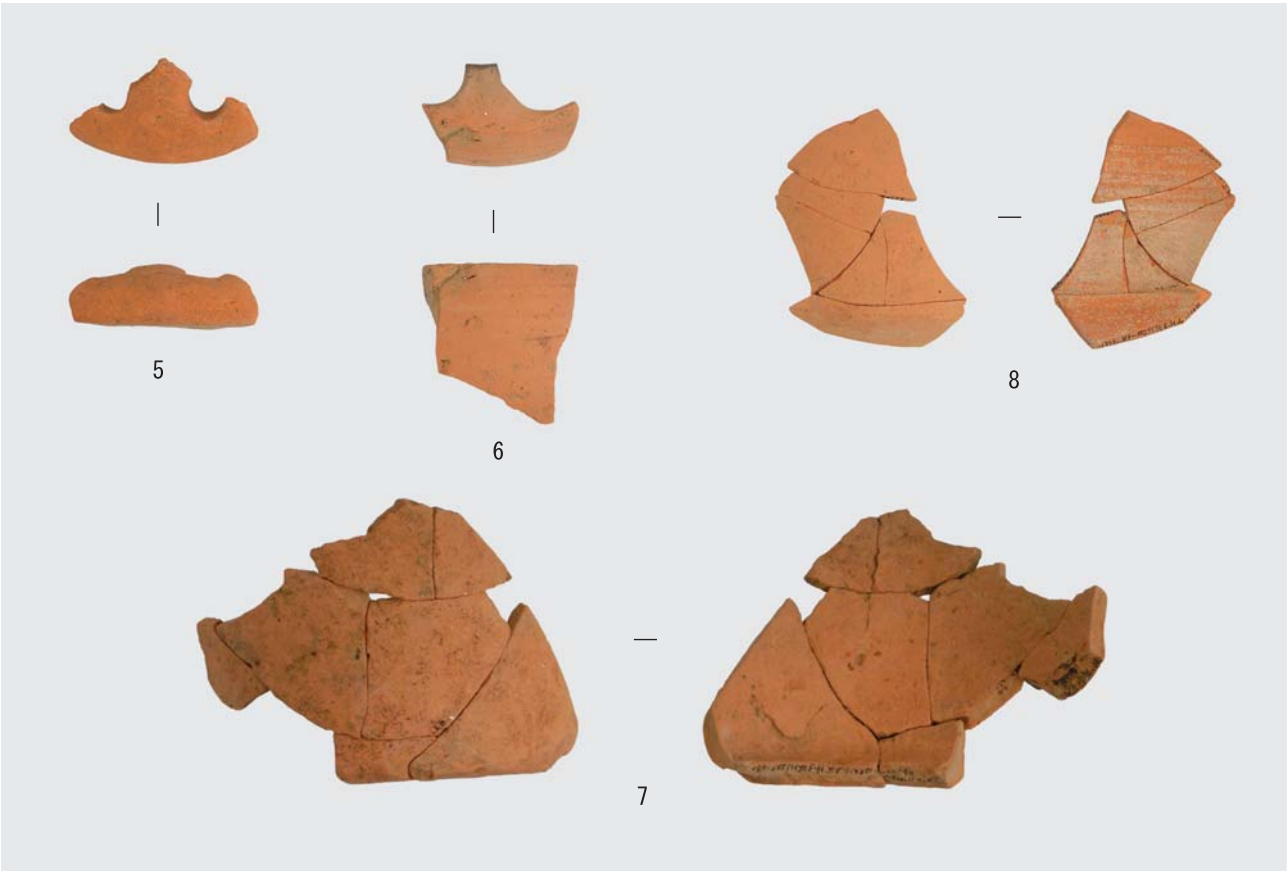
第Ⅲ-45 図　アカムヌー３：火炉（１～４）



図版Ⅲ-21　アカムヌー３：火炉（１～４）



第Ⅲ-46 図　アカムヌー４：火炉（５～７）、急須（８）



図版Ⅲ-22　アカムヌー４：火炉（５～７）、急須（８）

11. 瓦

瓦の出土総数は 3626 片で、当該地において最も多く得られた遺物である。今回得られた資料は概ね明朝系の赤色系瓦であり、グスク時代の高麗系瓦や大和系瓦などは得られていない。資料の種類には、不明のものを除いて丸瓦（28.2％）および平瓦（53.9％）が見られ、軒瓦などは認められなかった。また出土状況については、調査区北側で検出した暗渠からの出土が圧倒的で、その数量は水路を形成する丸瓦を省いても 3458 片（95.4％）となる。これは、意図的に割られた瓦が水はけを良くする目的で石灰岩礫とともに遺構内に充填された結果だと考えられる。また、当該遺構より得られた瓦片には漆喰が付着するものも複数あり、屋瓦として使用されたものが再利用されたものと思われる。

瓦の種類が丸瓦と平瓦の２種であったことは前述したとおりである。前者の丸瓦の出土数は 1023 片で、玉縁部片 195 片のうち玉縁角部は 103 片が認められている。２つの角部片を１個体の丸瓦として算定すると約 51 個体が想定※でき、それに完形の玉縁部４点を加えると、当該地で得られた丸瓦は 55 個体と仮定できる。また、平瓦に関しても個体数を算定するため、端部 820 片のうち角部 386 片を抜き出し、４つの端部角が揃って１個体とした場合、平瓦の個体数は約 96 枚であった。

今回の報告資料に、沖縄産施釉陶器の灰釉碗口縁部片が混入した瓦片が１点見られた（図版Ⅲ -23）。胎土に混入した陶器片が焼成後の凹面に亀裂を生じさせたものであるが、瓦が割られたことで破断面にて確認できる状態となっていた。なお、陶器片の分類はＩイＡ類である。拡張トレンチ３暗渠埋土からの出土。

※暗渠内で水路の性格を持つほぼ完形の丸瓦 24 枚は 含めていない。

図版Ⅲ-23　灰釉碗口縁部片混入の瓦片

第Ⅲ -30 表　瓦集計表

出土位置・層位 ＼ 種類		丸瓦 完	丸瓦 玉縁～端部	丸瓦 玉縁 完	丸瓦 玉縁 角	丸瓦 玉縁 片	丸瓦 端部 角	丸瓦 端部 片	丸瓦 筒部	平瓦 端部 広端～狭端	平瓦 端部 角	平瓦 端部 片	平瓦 筒部	不明瓦 端部 片	不明瓦 筒部	合計	
ピット 2次 ②	№32														1	1	
	№42								1							1	2
その他の遺構	拡張トレンチ3暗渠埋土	1	3	3	100	86	51	116	593		367	420	1110	57	551	3458	
	暗渠（N・S 1～12）※	19	5													24	3482
Ⅰ（瓦溜り）				1							1						2
Ⅱb															1	1	
Ⅱd															2	2	
Ⅱd1									1						2	3	6
Ⅱa～f								1			1				2		4
Ⅱc～g								1							1		2
Ⅱe～g															1		1
Ⅱf～g								1				1	1		1		4
暗渠/Ⅱd1								1	14		3	3	15				36
拡張トレンチ2	Ⅱ														2	2	
	Ⅱd2/Ⅱg/Ⅲ											2			2	4	6
拡張トレンチ3	Ⅰ				1						3	1	3		1	9	
	Ⅰ～Ⅱ								2		2				1	5	
	Ⅱ				1			2	1			1	2		2	9	
	Ⅱd～f					1		1	4			1	3		6	16	
	Ⅱe～f								1						1	2	41
拡張トレンチ3-1	Ⅱg						1		2		4	2			6	15	
	Ⅱc～g				1											1	16
拡張トレンチ3-3	Ⅰ														3	3	
	Ⅱ														1	1	
	Ⅱg										1					1	5
ＴＰ7南トレ2層								1									1
接合資料	拡張トレンチ3 Ⅱd～f 拡張トレンチ3-1 Ⅱg						1				1						2
	Ⅱa～f 拡張トレンチ3 Ⅱd～f							1									1
	拡張トレンチ3 Ⅱ 拡張トレンチ3 Ⅱd～f 拡張トレンチ3 Ⅱd～g									1							1
	Ⅱg 拡張トレンチ3 Ⅱ										1						1
攪乱						1		1	2		2	2	2		3		13
合計		20	8	4	103	88	53	126	621	1	386	433	1136	57	590		
									1023				1956		647		3626

※水路を形成する資料で、２枚１組の12組までが確認された。

12.　石器・石製品

当該地より得られた石器および石製品は総数 19 点あり、その内訳は前者が 16 点で後者は３点であった。石器には主に石斧、磨石、砥石、叩き石、石核、石材、石錘？が認められ、石製品には滑石製品、または硯？などがみられた。得られた資料の中で最も多かったのは叩き石で、その割合は 26.3％であった。次に磨石が 15.8％となり、砥石などが 10.5％と以下に続く。これを出土地別で見ると、遺構から出土した資料が６割以上となっている。また石材ごとに資料を確認すると、製品の中で多く利用されていた石材は砂岩となっており、続いて黒色片岩および琉球石灰岩も複数の加工品が見られている。以下に特徴的な資料や残存状態の良いものを図化し、詳細を報告する。

第Ⅲ -47 図１は磨製石斧の基部が欠損した資料である。本製品は表裏面および両側面に研磨調整が施されており、側面部には稜が形成され、磨面には斜位または縦位の擦痕が見られる。また刃部には剥離が目立つが、残存する刃縁は敲打による摩滅が確認できる。本資料は砂岩を利用しており、その寸法は長軸 8.4cm、短軸 4.9cm、厚さ 2.5cm、重量 181.1g となる。出土地は④ No.111 であった。

第Ⅲ -47 図２は表面にほぼ円形の滑面を有す砥石で、残存する資料には滑面が３箇所に認められる。砥石は片状砂岩を素材として利用しており、側面部は概ね自然面を残している。表面も周縁部は若干の自然面が認められるものの、中央部は３箇所に滑面を有し、それらと重なるように凹みが形成される。なお、滑面には擦痕が見られることから、研磨を施した方向を推測し得るものである。長軸 8.9cm、短軸 8.8cm、厚さ 2.3cm、重量 273.2g となる本製品は拡張トレンチ３のⅠ層から得られている。

第Ⅲ -47 図３は琉球石灰岩を利用した石錘と思われるものである。平面形態が楕円状を呈する本資料は、上部が鉤状になっているものの、表裏面から穿孔されたと想定することも可能なものだと思われる。断面形状は略三角形状をなすが、全面が風化しており、人為的な痕跡を見出すことが困難である。寸法は長軸 13.3cm、短軸 7.2cm、厚さ 4.0cm、重量 336g となる資料で、④ No.49 より出土している。なお、今回は製品の可能性について言及したが、今後の検討を要するものである。

第Ⅲ -48 図４は複数の凹みが確認できるものであるが、用途が不明な資料である。当該資料は細粒砂岩を材としており、その形状は側面観が台形状で、断面形が概ね三角形を呈している。三角形上の二面は面全体が凹み、もう一面は平坦となる。また上面観も凡そ平坦部となるが、そこに比較的深めの孔が２箇所みられ、その上端の径は１つが約 1.9cm、もう一方が約 2.2cm を測る。この２つの孔は下部になるにつれ窄まり、深さは前者が約 1.1cm で、後者が約 1.9cm となる。また左側面上部にも楕円形状の孔が横位に入っているのが認められる。長軸 10.1cm、短軸 9.6cm、厚さ 6.9cm、重量 660g である本資料も明確な加工痕が見られず、製品としての是非が断定できないものである。これについても、更なる検討が必要と思われる。出土場所は②溝状遺構。

第Ⅲ -48 図５は滑石製品の破片である。本製品は小破片のため全形を窺い知ることはできないが、元々は滑石製石鍋の口縁部の可能性が考えられるものである。上面部は概ね平坦になされ、表面は凸状、裏面は凹状となる。表裏面とも研磨調整が丁寧に施され、斜位の擦痕が認められるのに比して、上面部は丁寧さに欠けたものとなる。また、右側面は左側面とは対照的に著しく磨耗しており、破断面と思われる両側面にも差異が見られた。このことから本資料は、滑石製品の破片が転用され、グスク土器の混和材としての母材といった性格を有していた可能性が推察される。長軸 3.5cm、短軸 2.7cm、厚さ 1.4cm、重量 17.5g を測るもので、③ No. 5 から得られている。

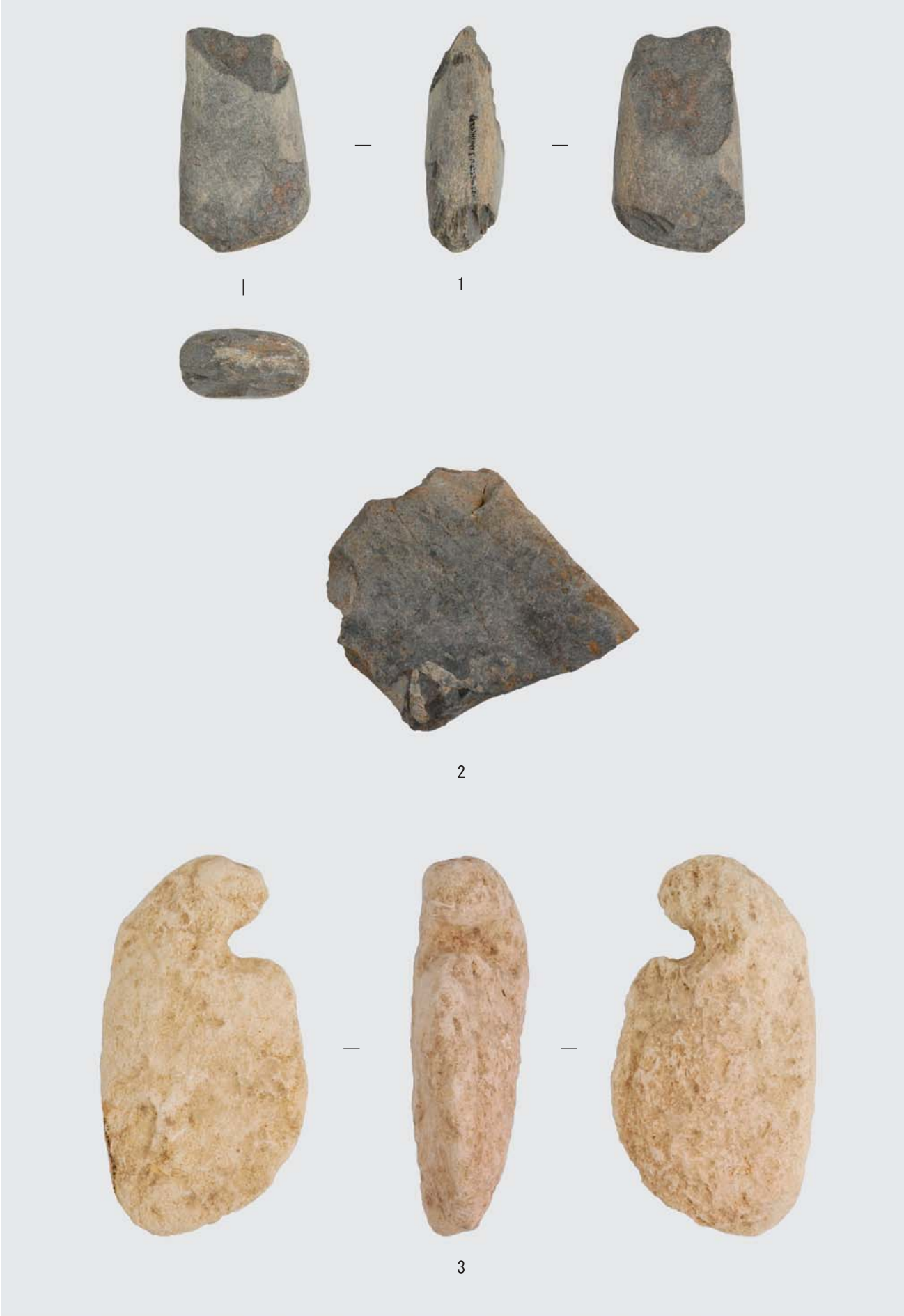
第Ⅲ-31表　石器・石製品集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			石器									石製品		合計	
			石斧	磨石	砥石	砥石？	石錘？	石核	叩き石	叩き石片	器種不明	滑石	硯？		
ピット	2次 ②	No.58											1		1
	3次 ③	No.5										1		1	
		No.93								1				1	
		No.106							1					1	
		No.203				1								1	4
	4次 ④	No.49					1							1	
		No.85			1									1	
		No.111	1											1	3
その他の遺構	2次 ②	溝状遺構		1							1			2	
	3次 ③	溝状遺構1		1										1	
	4次 ④	不明遺構1							1					1	4
拡張トレンチ3		Ⅰ			1										1
拡張トレンチ3-3		Ⅱg		1											1
表採									2						2
撹乱											1				1
不明									1						1
ナンバーリング不明								1							1
合計			1	3	2	1	1	1	5	1	2	1	1		
			17									2		19	

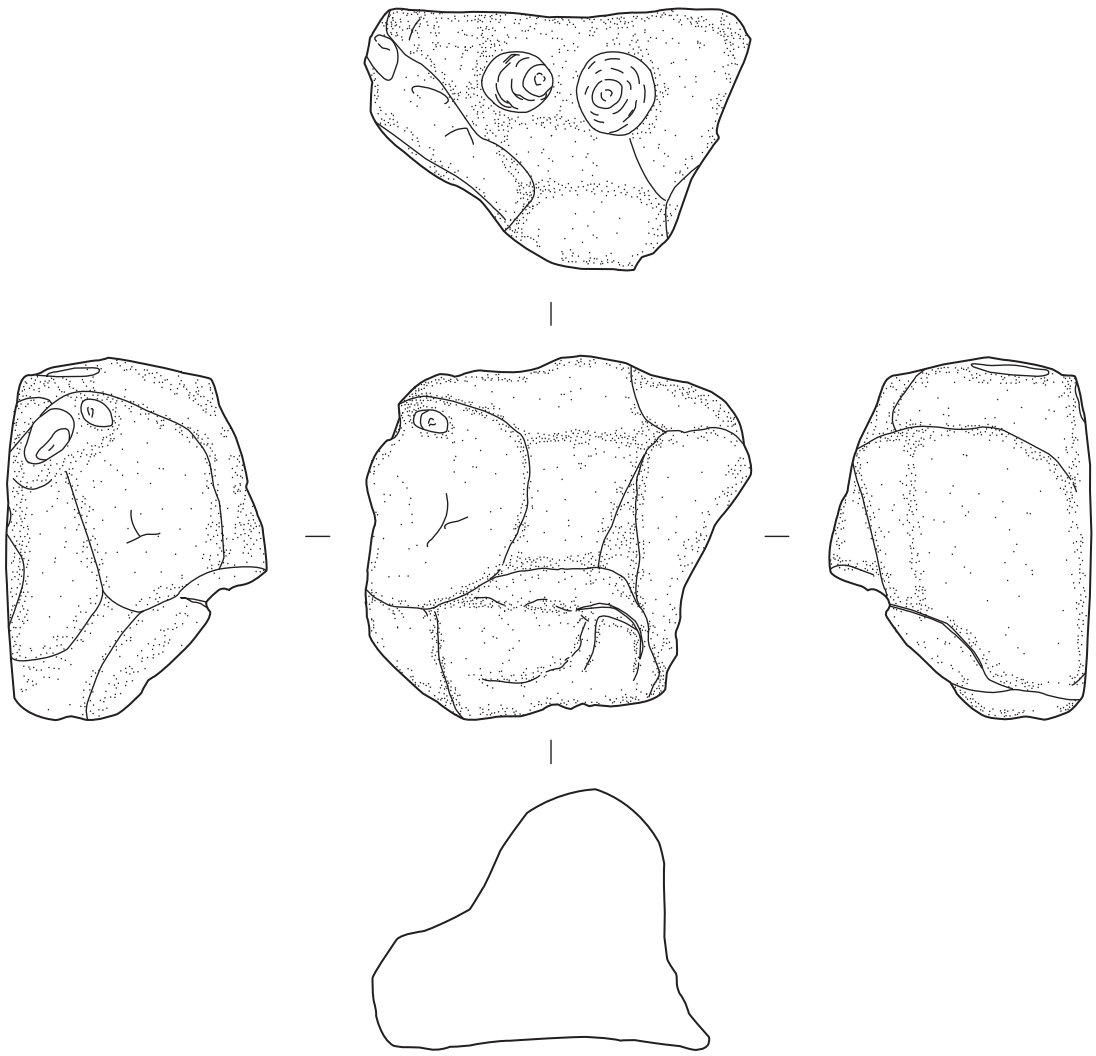
第Ⅲ-32表　石器・石製品の石質相関表

石材 ＼ 器種	石斧	磨石	砥石	石錘？	石核	叩き石	叩き石片	器種不明	砥石？	硯？	計
砂岩	1					2	1				4
片状砂岩			1								1
班レイ岩						1					1
細粒砂岩								1			1
花崗閃緑岩		1									1
角閃石安山岩						1					1
黒色片岩			1			1					2
粘板岩										1	1
玄武岩									1		1
輝緑岩		1									1
琉球石灰岩				1				1			2
滑石								1			1
軽石		1									1
チャート					1						1
計	1	3	2	1	1	5	1	3	1	1	19

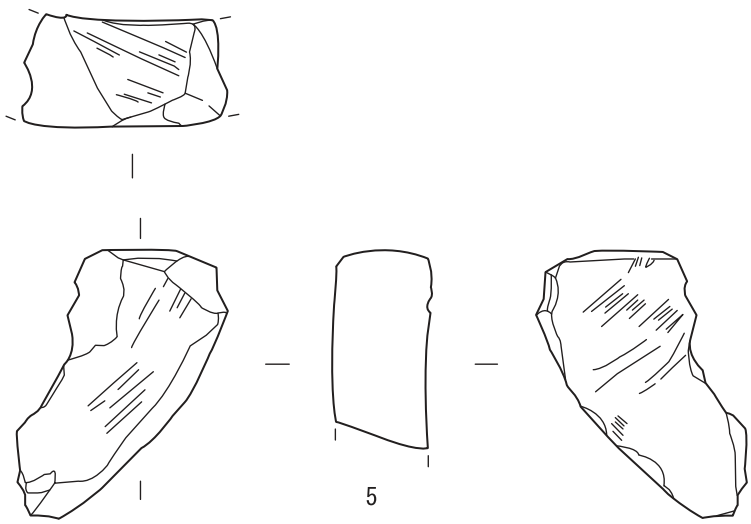
第Ⅲ-47図　石器・石製品１：石斧（１）、砥石（２）、石錘？（３）



図版Ⅲ-24　石器・石製品１：石斧（１）、砥石（２）、石錘？（３）



0 5cm
(S=1/2)



0 2cm
(S=1/1)

第Ⅲ-48 図　石器・石製品 2：器種不明（4）、石製品〔器種不明 / 滑石〕（5）

4

5

図版Ⅲ-25　石器・石製品２：器種不明（４）、石製品〔器種不明 / 滑石〕（５）

13. その他の遺物

ここで報告する遺物は銭貨、煙管、円盤状製品、骨製品、玉、近世土器、焼土塊である。これらはグスク時代および近世の資料であるが、量的に少なかったことから本項で扱った。以下に種別ごとに紹介する。

銭貨（第Ⅲ -49 図・図版Ⅲ -27　1～5）

銭貨は合計 11 点が得られており、その銭種は永樂通寶、寛永通寶、無文銭（いわゆる鳩目銭・輪銭）、一銭などが確認されている。その中で、寛永通寶や無文銭などの近世銭は 63.6％となり、中国の明代に初鋳された永樂通寶や近代の一銭とは割合の差が大きい。また出土地別では、第２次調査のピットから得られた資料が過半数を占めていることも注目される。

煙管（第Ⅲ -49 図・図版Ⅲ -27　6～9）

本資料は総数６点が確認されている。煙管の種類はすべてが羅宇タイプとなっており、雁首と吸口の間に羅宇を装着する種である。各資料には、沖縄産の瓦質製、沖縄産無釉陶製、金属製の３種類が認められ、素材別に割合を見てみると、３種類ともに３割程度であった。また部位については、吸口が２点に対して雁首は４点となることが見受けられた。このことは、出土数が少量ではあるものの、雁首と羅宇があれば喫煙が可能であったことが推察できる。

円盤状製品（第Ⅲ -49 図・図版Ⅲ -27　10）

円盤状製品は５点の出土である。今回認められたものはすべて陶磁器を素材としており、それらにはグスク土器、白磁、青花、沖縄産無釉陶器、本土産磁器などが選別されている。素材の使用部位には胴部や底部などが見られるが、胴部の選択が８割を占めており、サイズも概ね２～３cm 大が目立つ。今回の報告資料も、素材となる陶磁器の不要部位を打ち欠いて製作されたものである。

骨製品（第Ⅲ -49 図・図版Ⅲ -27　11）

骨製品は１点のみ得られた。資料は半楕円状を呈する骨製の箆で、ほぼ全面を研磨して仕上げている。本製品は上原静が提唱するＡａ型に相当するもので、本タイプは 14 世紀頃から近代まで存在するとしている（上原 2007）。また、上原は骨製箆が裁縫用具として息づくものであると指摘する。なお、素材となる動物種は不明である。

玉（第Ⅲ -49 図・図版Ⅲ -27　12～14）

玉は合計で７点が認められており、その種類には岸本竹美が分類（岸本 2003）する丸玉、切子玉などが見受けられた。これらの数量を割合で見てみると、前者の丸玉はガラス製のもので７割を占めており、丸玉と思われる資料も含めると８割以上にもなる。また、後者の切子玉は比較的新しい時代のものと推測できる。なお、資料はすべてピット内から得られている。

近世土器

本項目の土器は基本的に先島地方で作られたと思われる土器を扱う。今調査区で確認できた資料には、宮古式土器と思われるものや、中森式土器またはパナリ焼と推測される資料が得られているが、すべて小破片のため全形を把握し得ない。また、量的には宮古式と思われる土器が過半数を占めている。

焼土塊（図なし・図版Ⅲ -26）

当該地からは複数の焼土塊が検出され、その総重量は凡そ２kg 以上であった。これらには貝殻片や石灰岩砂粒などの混入が顕著なものと、目立たないものの２タイプが認められ、さらに植物圧痕があるものと無いものが確認できた。資料を観察すると、植物圧痕には少なくとも２種が見受けられ、圧痕の幅が約 0.7cm のものと約 0.3cm のものがあった。前者は概ね混入物が著しい焼土塊で確認でき、一方の後者

は混入物が比較的少ない資料において見られた。これらは伊是名元島遺跡(林 2000)、今帰仁城跡周辺遺跡(具志堅 2007)、伊波城跡（上原ほか編 2010）などで報告例がある。特に後二者は当該調査区の出土品と類似しており、幅約 0.7cm の植物は竹、約 0.3cm のものはススキなどのイネ科を想定している。報告者は竹の圧痕がある焼土塊について、屋根瓦を葺く際の葺土を考慮しつつも壁材の可能性にも触れている。イネ科を利用した資料においては、植物を混ぜ込むことで粘土の繋ぎとしていたことを想定している。また、混和材としての貝殻片や石灰岩砂粒の事例も、伊是名元島遺跡や今帰仁城跡主郭（具志堅 2007）などで石灰岩質細砂粒や海砂などとして認められているようである。

今回の調査で見られた焼土塊からは、混入物の包含量によって如何なる相違があるか断定できない。しかし、植物利用で特に竹の圧痕を有した焼土塊は瓦葺建物の葺き土として使われたことが推察できる。それは当該地において、大量の明朝系瓦が確認されたことからも裏付けられるものである。イネ科の圧痕資料は量的に少なかったため、資料のさらなる蓄積を待って今後の検討課題としたい。

図版Ⅲ -26　焼土塊

第Ⅲ -33-1 表　その他の遺物集計表

銭貨集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			永樂通寶	寛永通寶 Ⅰ期	寛永通寶 Ⅲ期	無文銭 鳩目銭	無文銭 輪銭	一銭	銭種不明	合計	
ピット	2次　②	No.63					1			1	
		No.81-2		1						1	
		No.104			1					1	
		No.123			1					1	4
その他の遺構	2次　②	溝状遺構							1	1	
	3次　③	土坑				1				1	
Ⅰ					1				1	2	
Ⅱa								1		1	
拡張トレンチ2　Ⅱg						1				1	
撹乱			1							1	
合計			1	1	3	2	1	1	2	11	
				4		3					

煙管集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			瓦質製 雁首	沖無製 吸口	沖無製 雁首	金属製 雁首	金属製 吸口	合計	
ピット	3次　③	No.109				1		1	
		No.144	1					1	2
拡張トレンチ1　Ⅱd1					1			1	
拡張トレンチ3　Ⅱe～f							1	1	
拡張トレンチ3-1　Ⅱg				1				1	
TP 2					1			1	
合計			1	1	2	1	1	6	
				3		2			

円盤状製品集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			グスク土器 胴	白磁 底	青花 胴	沖無 不明	本土産磁器 胴	合計	
ピット	2次　②	No.66		1				1	
		No.122	1					1	2
Ⅱ層						1		1	
拡張トレンチ2　Ⅱd2/Ⅱg/Ⅲ					1			1	
撹乱							1	1	
合計			1	1	1	1	1	5	

第Ⅲ-33-2表　その他の遺物集計表

玉集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			丸玉	丸玉？	切子玉	合計	
ピット	3次 ③	№95　(外)	1			1	1
	4次 ④	№18	1			1	
		№46上　(1層)	1			1	
		№107	1			1	
		№117下　(1層)	1			1	4
その他の遺構	3次 ③	土坑状遺構(1層)			1	1	
		不明遺構1		1		1	2
合計			5	1	1		7

宮古式土器？中森式orパナリ焼集計表

出土位置・層位 ＼ 種類			宮古式土器？	中森式orパナリ焼		合計	
			器種不明	壺	器種不明		
			胴	口	胴		
ピット	2次 ②	№97	1			1	
		№136	1			1	
	3次 ③	№129	1			1	3
その他の遺構	2次 ②	溝状遺構		1	1	2	
		溝状遺構(5層)			1	1	3
Ⅱd			2				2
拡張トレンチ3		Ⅱc	1			1	
拡張トレンチ3-3		Ⅱa	1			1	2
合計			7	1	2		10
				3			

瓦質土器集計表

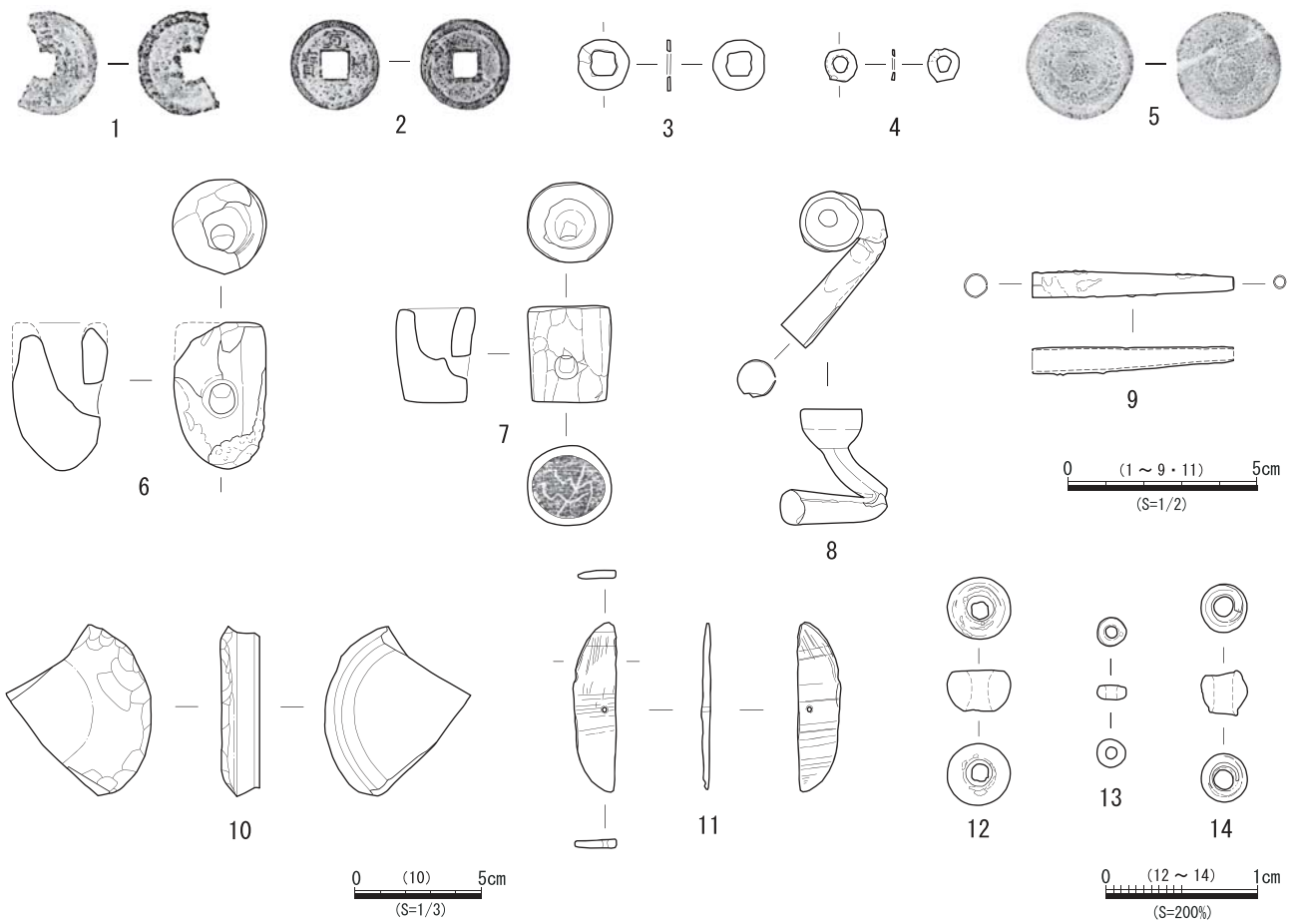
出土位置・層位 ＼ 種類			器種不明	合計	
			不明		
ピット	4次 ④	№4	1	1	
		№72　(外)	1	1	2
不明			1		1
合計			3		3

類須恵器集計表

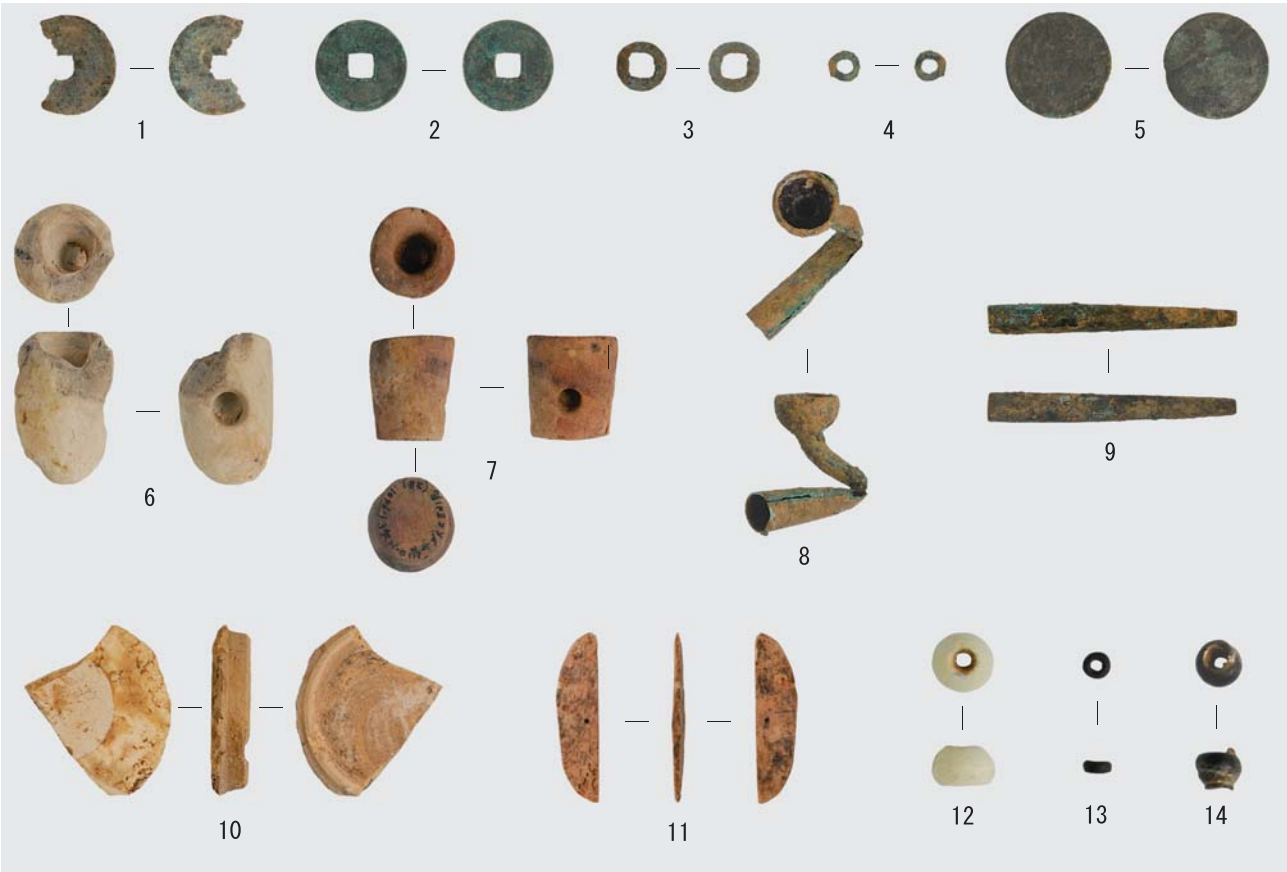
出土位置・層位 ＼ 種類			壺	合計
			胴部	
ピット	2次 ②	№26	1	1
		№83	1	1
		№99	1	1
その他の遺構	2次 ②	溝状遺構	1	1
合計			4	4

第Ⅲ-34表　その他の遺物観察表

挿図番号 図版番号		種別	種類	残存部位	法量	観察事項	出土地
第Ⅲ-49図・図版Ⅲ-27	1	銭貨	永樂通寶	破損	外径26mm、内径21mm、孔径6mm、銭厚2mm、重量2.0g	約1/3が欠損する。全体が青錆びに覆われ、辛うじて「永」「樂」が判読可能。1408年以降に中国(明朝)で鋳造されている。	撹乱
	2		寛永通寶	完形	外径23mm、内径20mm、孔径6×6mm、銭厚1mm、重量2.3g	完形資料。Ⅲ期の寛永通寶で、いわゆる「新寛永」と称される。近世日本の銭貨で初鋳年は1697年、背面は無文となる。	②No.123
	3		無文銭	完形	外径13.5mm、銭厚0.8mm、孔径6.5×7.0mm、重量0.43g	近世銭で完形資料。いわゆる「鳩目銭」と呼ばれ、琉球で鋳銭されたと思われる。バリやセキは丁寧に除去される。	③土坑
	4		無文銭	完形	外径9.0mm、銭厚0.6mm、孔径4.5×4.0mm、重量0.09g	近世の銭で完形資料。「輪銭」と呼称される本資料も琉球銭と考えられる。下端にセキが残存しているのが確認できる。	②No.63
	5		一銭	完形	外径28mm、内径26mm、銭厚2mm、重量6.5g	完形資料。近代の日本銭であるが、青錆びが著しいため鋳造年は不明。	Ⅱa層
	6	煙管	瓦質製	雁首	火皿推算外径2.2cm、雁首高3.9cm、雁首幅2.5cm、小口径1.0cm、重量23.9g	下部が尖底状に成形される。小口から横穴状に、上部から孔を穿って貫通させる。器面はやや雑に整える。	③No.144
	7		沖縄産無釉陶製	雁首	火皿外径2.2cm(内径1.4cm)、雁首高2.6cm、雁首幅2.1m、小口径0.6cm、重量11.4g	円柱状に成形。上面や小口から穿孔する。器面は工具による調整がなされ、下面には何らかの刻みが見られる。	拡張トレンチ1 Ⅱd1層
	8		金属製	雁首	火皿外径1.6cm(内径1.4cm)、羅宇接続部径1.0cm、重量7.0g	半球状の火皿を有す資料。雁首は型による成形が考えられる。火種を叩き落とす際の敲打痕は認められない。	③No.109
	9		金属製	吸口	吸口全長8.0cm、小口径0.9cm、吸口部径0.5cm、重量8.0g	本資料も型成形の可能性が推測できるもので、吸口部にかけて窄まる資料。	拡張トレンチ3 Ⅱe～f層
	10	円盤状製品	白磁皿	底部	推算径7.5cm、幅1.5cm、重量35.1g	約3/4が欠損。資料は概ね外側から打ち欠いて円盤状に整形する。破損は製作時によるものか使用によるものか不明。	②No.66
	11	骨製品	篦	完形	全長4.5cm、幅1.1cm、厚さ0.2mm、孔径0.1mm、重量1.2g	完形資料。全面的に研磨がなされるが、表裏面はやや波打つように弱い凹凸が認められる。ほぼ中央に孔を穿つ。	②溝状遺構
	12	玉	丸玉	完形	最大径4.2mm、孔径1.8mm、高さ2.6mm、重量0.1g	ガラス製と思われる。表面は滑らかであるが、上面は不整合面を呈す。また、上面には気泡痕のような凹部が見られる。	④No.46上(1層)
	13		丸玉	完形	最大径0.9mm、高さ1.0mm、孔径0.8mm、重量0.1g未満	ドーナツ状を呈す資料。全面は光沢を有すほど丁寧に作られる。上面には微細な凹みが確認できる。	④No.117下(1層)
	14		丸玉	完形	最大径3.2mm、高さ2.6mm、孔径1.5mm、重量0.1g未満	螺旋状に成形される。表面はアバタ状となる。色調は黒色であるが、螺旋のラインに沿って帯状の黄金色が確認できる。	④No.107



第Ⅲ-49 図　その他の遺物：銭貨（1～5）、煙管（6～9）、円盤状製品（10）、骨製品（11）、玉（12～14）



図版Ⅲ-27　その他の遺物：銭貨（1～5）、煙管（6～9）、円盤状製品（10）、骨製品（11）、玉（12～14）

14.　脊椎動物遺体

１．資料の概要と分析の方法

本章は標題の調査において出土した遺物のうち脊椎動物遺体について、その出土様相と資料を観察・分析した成果を述べるものである。

脊椎動物遺体の出土状況は他の遺物と大きく変わるものではなく、調査現場において遺物包含層の掘り下げあるいは遺構の覆土精査に際して目視で確認されたものを取り上げる一連の作業によって得られたものである。取り上げは、遺構外のものについてはグリッド・層位ごと、遺構内のものはそれぞれの遺構ごとに一括している。また、一部の資料については座標値を記録している。

分析は、現生標本との形態比較による同定と観察所見および骨長計測を主として行い、基礎データを提示するとともに若干の考察について述べる。比較に用いた標本は筆者所蔵のものを用い、計測方法・箇所は Driecsh（1976）に従った。なお、出土動物骨のうち、基本的に骨幹の全周が残存しているものを分析対象とし、それ以外は破片資料として集計・記載の対象からは除外した。

２．分析の結果と記載

第２～４次調査で得られた脊椎動物遺体のうち分析対象としたのは 279 点で、観察から魚類２群、鳥類１群、哺乳類３群が同定された（第Ⅲ -35 表）。このうち大多数を占めているのが哺乳類であり、鳥類がそれに次ぐ。魚類はごく僅かに見られたのみである。以下に分類群ごとの観察所見を概述する。

○魚類

同定可能であったのはカマス属の歯骨１点とハリセンボン科の棘が 52 点である。前者は② No.89、後者は③溝状遺構１中から一括して出土している。しかし、これら以外には、分析対象外の破片中にも魚骨とみられる資料はあまり見られない。

○鳥類

同定が可能であった分類群はニワトリのみである。比較対象に用いることができた現生標本がニワトリのみであったことから、これと同一群と判断できる資料をニワトリに同定し、それ以外は「鳥類」として一括し判断を保留している。ニワトリを含む鳥類骨は 86 点を同定しているが、うち 82 点が拡張トレンチ３-３のⅡ層から検出されており、一括あるいは短期間での投棄行為によるものである可能性が想定される。

鳥類のうち骨端が欠失している資料については同定対象としたものの、正確な同定は困難であると考え分類群は「鳥類」として判断を保留したが、骨幹のみの形状からすると大半はニワトリのものではないかと推測している。

○哺乳類

全同定資料中の約半数143点が哺乳類に同定され、ウマ・イノシシ / ブタ・ヤギ・ウシの分類群が確認された。

ウマ　基節骨・中節骨が各１点ずつ見られるほか、中手骨あるいは中足骨が２点出土しているが、２点とも遠位端の破片であることから中手・中足いずれかの判断が困難であった。これら全４点はいずれも異なるピット中から出土している。

イノシシ / ブタ　ウシと並び哺乳類組成の多くを占め、同定標本数（NISP）72 点・最小個体数（MNI）4 を数え、頭蓋骨・下顎骨を始め、椎骨・四肢骨を中心に出土している。部位別の出土数でみると上腕骨・橈骨・尺骨・中手骨など比較的前肢の部位に偏りがあるように見られる。また、大多数は骨端が未癒合で脱落している若齢の個体のものである。

また、ほぼ完形の頭蓋骨及び下顎骨が１対出土しており、全体形や歯列形態・骨質などから、これらがブタに同定可能と判断できる。また上腕骨・橈骨・尺骨・中手骨・中足骨については全長が短く、且つ全長に対する

骨幹幅も大きいことが観察され、いずれも骨端が未癒合段階のものである点・表面の骨質が粗い点などと併せるとブタに同定できると考えられる。これらブタと同定した一群の大半が、4次調査において同一土坑中から出土しており、ニワトリ同様一括あるいは短期間に廃棄されたものである可能性が示唆される。

第Ⅲ-35表　出土脊椎動物の分類群一覧

硬骨魚綱	Osteichthyes
カマス属	*Sphyraena*
ハリセンボン科	Diodontidae
鳥綱	Aves
ニワトリ	*Galus galus*
哺乳綱	Mammalia
ウマ	*Equus caballus*
イノシシ/ブタ	*Sus scrofa/S.scrofa ver.domesticus*
ヤギ	*Capra hircus*
ウシ	*Bos taurus*

一方で、ブタと同定した上記の要件に確実には当てはまらず形態観察からブタと判しきれない資料については、イノシシ / ブタと表記している。状況からはブタである可能性は高いと思われるが、出土位置も各グリッドや層位・遺構に散在している点でも前述のブタの一群とはやや異なる要素を持つとも言えるため、別に記載した。

ヤギ　下顎骨が1点のみ検出された。下顎体の第1後臼歯部分から関節突起までが残存しており、歯は全て脱落している。出土は撹乱土中からである。

ウシ　イノシシ / ブタ類と並び本調査出土の脊椎動物遺体の多くを占める分類群の一つであり、NISP=59を数える。上腕骨・中手骨・大腿骨・脛骨・中足骨などが比較的良好に形状を留めている。大半は成獣のものであるが、一部に骨端が未癒合であったり未成熟の骨が観察されることから幼獣が含まれており、MNIは3と算出される。ウシは2次調査に際して出土しているものが多く、特に② No.27・②土坑からまとまって出土したことが確認できる。

3．小考

最後に、上記分析結果を基にした若干の考察について概述する。

本分析で同定された分析資料総数はNISP=279・MNI=15とそれ程多くはない。分類群の内、その大半はニワトリ・イノシシ / ブタ・ウシの3群で占められ、その他の分類群についてはいずれもごく少量が確認されたのみである。家畜類が主体となる組成はグスク時代以降の典型的な様相であると言えるが、魚類がほとんど無に近い程少数である点については本遺跡の動物利用を考察する上で留意する必要はあろう。

個別の分類群ではイノシシ / ブタとウシについて、各々が特定の遺構から一括して検出されている点が注目される。これらの遺構からは動物遺体以外の遺物が供伴していないため、遺構の明確な年代は不明であるものの、当該遺構が動物骨の廃棄を目的に構築された遺構であることを示唆する。また、ニワトリについても遺構内からの出土ではないものの、一定のグリッドに集中して出土していることから、特定の空間を廃棄場として利用していた意図を感じさせる。

解体痕の観察においては、他の分類群に比べウシの資料中にやや目立つ傾向があると思われる。同定の対象とした資料の内ではニワトリ・ブタにカットマークが付された例が1点ずつ見られたのみであるが、ウシのものからは切創であるカットマークに加え、打割痕と考えられる傷が観察されることから、解体以降の利用過程に差異があろうことが推測される。

以上、大山前門原第一遺跡第2～4次調査により出土した脊椎動物遺体の観察所見と基礎的分析結果について記載した。資料数の制約などもあり、詳細な考察にまでは踏み込むことができなかったが、グスク時代～近世期の集落遺跡における動物遺体出土様相の一事例として有用な資料となり得ると思われる。今後、他の遺跡との比較の中で、当該期の動物利用相考察の一助となれば幸いである。

なお、本稿の執筆に際し、宜野湾市文化課の伊藤圭氏に貴重な機会を頂き、また分析に際しては同市文化課の山田浩久氏・長濱健起氏および資料整理員の皆様に多大なご助力を賜った。末筆ながら記して御礼申し上げる。

第Ⅲ-36-1表　魚類・鳥類・哺乳類遺体出土一覧1

近：近位端、遠：遠位端、近幹・幹・遠幹：近位側骨幹・骨幹・遠位側骨幹、（　）：骨端が未癒合で脱落、〈　〉：骨端が未癒合

番号	分類群	部位	残存位置	LR	数	調査	出土地点			備考
							グリッド	遺構・層位	Dot.No.	
159	カマス属	歯	—	R	1	2次	J-2	No.89	—	
160	ハリセンボン科	棘	—	不	52	3次	J-0	溝状遺構1	134	
142	ニワトリ	環椎	完存	—	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
117		頸椎	ほぼ完存	—	20	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
118		胸椎	破片	—	2	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
143		仙骨	完存	—	3	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
144		尾椎	—	—	4	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
119		肋骨	—	R	4	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
120		肋骨	—	L?	2	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
146		烏口骨	完存	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
149		烏口骨	近	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
145		烏口骨	ほぼ完存	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
148		烏口骨	幹	R	1	3次	H-1	拡トレ2・Ⅱ層	—	
122		肩甲骨	近～幹	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
123		肩甲骨	完存	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
121		肩甲骨	近～幹	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
124		上腕骨	完存	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
125		上腕骨	幹～遠幹	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
126		上腕骨	幹～遠	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	CM
132		橈骨	近～幹	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
131		橈骨	完存	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
128		尺骨	近	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
—		尺骨	遠	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
129		尺骨	完存	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
138		手根中手骨	第4中手骨欠損	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
135		大腿骨	完存	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
134		大腿骨	完存	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
136		大腿骨	完存	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
140		脛足根骨	完存	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
141		脛足根骨	完存	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
137		脛足根骨	近	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
152		脛足根骨	近	R	1	4次	I-4	No.17	—	CM、SF
153		脛足根骨	(近)～幹	R	1	4次	H-3	拡トレ3・暗渠埋土	—	幼鳥
151		腓骨	近	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
151		腓骨	近	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
156		足根中足骨	完存	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
155		足根中足骨	近～遠	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
115	鳥類	頭蓋骨	破片	不	3	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
116		後頭骨	—	—	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
150		胸骨	破片	—	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
147		烏口骨	幹～遠	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
127		上腕骨	幹～遠幹	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
		橈骨	幹～遠	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
130		尺骨	幹	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
154		寛骨	寛骨臼	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
151		腓骨	近	R	1	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
157		足根中足骨	幹～遠	L	1	2次	I-2	No.57	—	
158		趾骨	完存	不	8	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
139		破片	—	不	2	4次	H-3	拡トレ3-3・Ⅱ層	—	
9	ウマ	$I_{1/2/3}$	ほぼ完存	L	1	2次	H-2	No.27	—	強度の咬耗
8		$I_{1/2/3}$	歯冠	R	1	2次	H-2	No.27	—	強度の咬耗
62		中手/中足	遠	不	1	3次	I-0	No.16	—	
63		中手/中足	遠	不	1	4次	J-3	No.81	158	
64		基節骨	完存	不	1	3次	I-0	No.5	—	
65		中節骨	ほぼ完存	不	1	2次	J-2	No.85	—	遠位端の一部欠損
70	ブタ	頭蓋骨	※第Ⅲ-38表参照	LR	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
71		下顎骨	※第Ⅲ-38表参照	LR	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
73		肩甲骨	関節窩～肩甲棘	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
75		肩甲骨	肩甲棘	L	1	2次	—	攪乱	—	
72		肩甲骨	関節窩～肩甲棘	R	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
74		肩甲骨	関節窩～肩甲棘	R	1	2次	I-2	No.32	—	
97		上腕骨	〈近〉～〈遠〉	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	大転子のみ脱落
76		上腕骨	近幹～（遠）	R	1	2次	—	不明	—	
96		上腕骨	〈近〉～〈遠〉	R	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	大転子のみ脱落
78		橈骨	〈近〉～〈遠〉	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	近位端半存
77		橈骨	〈近〉～〈遠〉	R	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
81		尺骨	（肘頭）～（遠）	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
80		尺骨	（肘頭）～（遠）	R	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
85		第3手根骨	完存	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
83		第2中手骨	近～(遠)	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
85		第3中手骨	近～〈遠〉	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
84		第3中手骨	近～(遠)	R	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
87		第4中手骨	近～〈遠〉	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
86		第4中手骨	近～(遠)	R	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
88		第5中手骨	近～(遠)	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
82		第5中手骨	近～遠幹	R	1	3次	H-1	拡トレ2・Ⅱ層	—	
90		第3中足骨	近～(遠)	R	1	2次	—	北壁Ⅱd層/Ⅱg層	—	
89		第4中足骨	近～(遠)	R	1	2次	—	Ⅱd層	—	CM
91		基節骨	(近)～遠	不	1	4次	H-3	拡トレ3-3攪乱土坑	—	
92		基節骨	(近)～遠	不	2	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	

第Ⅲ-36-2表　魚類・鳥類・哺乳類遺体出土一覧２

番号	分類群	部位	残存位置	LR	数	調査	出土地点			備考
							グリッド	遺構・層位	Dot.No.	
102	イノシシ/ブタ	頭頂骨＋後頭骨	—	L	1	2次	J-2	溝状遺構	—	
103		上顎骨	※第Ⅲ-38表参照	R	1	4次	H～I-3～4	Ⅱd1層	154	
68		I¹	完存	R	1	4次	H-3	拡トレ3・Ⅱg上面	—	
69		M_1/M_2	歯冠	不	1	2次	J-2	No.73	—	
94		頸椎	破片	—	5	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
93		椎骨	関節突起～棘突起	—	8	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
95		椎骨	椎体	—	11	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	前後の関節面未癒合脱落
93		椎骨	破片	—	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑		
106		腰椎	一部欠損	—	1	4次	H-3	拡トレ3・Ⅱc層	—	横・棘突起欠損、関節面未癒合脱落
113		第4手根骨	完存	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
113		第4手根骨	完存	R	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
113		中間手根骨	完存	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
113		尺側手根骨	完存	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
111		第3中手骨	近～幹	L	1	4次	J-3～4	No.102	—	
108		第4中手骨	近～(遠)	R	1	2次	J-2	No.91（外１層）	—	
105		寛骨	腸骨側寛骨臼周辺	不	1	2次	J-2	No.91	—	CM
114		寛骨	腸骨	L	1	2次	J-2	溝状遺構・2～3層	—	幼獣
107		脛骨	骨幹～（遠）	R	1	3次	H-1	拡トレ2・Ⅱ層	—	
104		踵骨	(踵骨隆起）～距骨関節面	R	1	4次	H-3	拡トレ3-１Ⅱe～f層	—	
113		第3足根骨	完存	L	1	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
109		第4中足骨	近～遠幹	R	1	3次	H-1	拡トレ2・Ⅱg層	228	
110		中節骨	(近)～遠	不	3	4次	H-4	拡トレ3-2攪乱土坑	—	
112		末節骨	完存	不	1	4次	H-3	拡トレ3-3Ⅱ層	—	
67	ヤギ	下顎骨	※第Ⅲ-38表参照	L	1	2次	—	攪乱	—	
2		下顎骨	※第Ⅲ-38表参照	R	1	2次	H-2	No.27・Ⅱd層	—	
4		P²	歯冠	L	1	2次	H-2	No.27	—	
3		P²	歯冠	R	1	2次	H-2	No.27	—	
5		P³/P⁴	歯冠	L	1	2次	H-2	No.27	—	
6		P³/P⁴	歯根一部欠損	L	1	2次	H-2	No.27	—	
7		M上顎	破片	不	1	2次	J-3	No.145	—	
161		歯	破片	不	1	3次	I-0	No.12	213	
10		肩甲骨	後縁	L	1	2次	I-1	土坑	—	
13		肩甲骨	関節周辺	L	1	2次	I-1	土坑	—	
12		肩甲骨	関節周辺	R	1	2次	I-1	土坑	—	
11		肩甲骨	肩甲棘基部	不	1	2次	I-1	土坑	—	
15		上腕骨	幹～遠	L	1	2次	I-1	土坑	—	
14		上腕骨	幹～遠	R	1	2次	I-1	土坑	—	
16		上腕骨	上腕骨頭	R	1	2次	I-1	土坑	—	
17		上腕骨	上腕骨頭	不	1	3次	H-1	拡トレ2・Ⅱg層	73	未癒合で脱落した骨頭
19		橈骨	近	L	1	2次	I-1	土坑・攪乱	—	No.22の尺骨と同一個体
18		橈骨	近～幹	R	1	2次	I-1	土坑	—	
1		橈骨	遠	R	1	3次	I-0	溝状遺構１	107	
20		橈尺骨	遠幹	R	1	3次	I-0	溝状遺構１	107	CM
22		尺骨	肘頭～滑車切痕	L	1	2次	I-1	土坑	—	No.19の橈骨と同一個体
21		尺骨	滑車切痕周辺	R	1	2次	I-1	土坑	—	
29		橈側手根骨	完存	R	1	2次	I-1	土坑	—	
30		橈側手根骨	完存	R	1	2次	—	Ⅱd層	—	幼獣
24		中手骨	近～遠幹	L	1	2次	H-2	No.27	—	近位端に穴
26		中手骨	近	L	1	4次	H-3	拡トレ3-3Ⅱg層	—	CM、SF
23		中手骨	ほぼ完存	R	1	2次	H-2	No.27	—	近位端に穴
25		中手骨	近	R	1	2次	J-2	No.73	—	SF
27		中手骨	近幹	R	1	4次	J-3	No.81	40	
28		中手/中足	遠	不	1	2次	H-2	No.27	—	
32	ウシ	寛骨	腸骨	L	1	2次	H-2	No.27	—	
33		寛骨	腸骨破片	L	1	2次	H-2	No.27	—	
31		寛骨	腸骨＋坐骨	R	1	2次	H-2	No.27	—	
35		大腿骨	近～遠	L	1	2次	I-1	土坑	—	遠位端の前面欠損
34		大腿骨	近～遠	R	1	2次	I-1	土坑	—	大転子欠損
36		脛骨	完存	L	1	2次	I-1	土坑	—	
37		脛骨	ほぼ完存	R	1	2次	I-1	土坑	—	近位端の一部欠損
38		脛骨	遠	R	1	3次	I-0	No.79or溝状遺構１	131	SF
40		踵骨	ほぼ完存	L	1	2次	H-2	No.27	—	踵骨隆起一部欠損
39		踵骨	ほぼ完存	R	1	2次	H-2	No.27	—	距骨関節面一部欠損
42		距骨	完存	L	1	2次	H-2	No.27	—	
41		距骨	ほぼ完存	R	1	2次	H-2	No.27	—	
44		中心第4足根	完存	L	1	2次	H-2	No.27	—	穴
43		中心第4足根	完存	R	1	2次	H-2	No.27	—	穴
45		中心第4足根	完存	R	1	3次	H-1	拡トレ2・Ⅱg層	76	
48		中足骨	完存	L	1	2次	H-2	No.27	—	近位端に穴、CM
49		中足骨	近	L	1	4次	H-3	No.133	190	SF
46		中足骨	近～近幹	R	1	3次	H-1	拡トレ2・Ⅱg層	31	CM、SF
47		中足骨	ほぼ完存	R	1	2次	H-2	No.27	—	
57		基節骨	完存	不	1	2次	H-2	No.27	—	
58		基節骨	ほぼ完存	不	1	2次	H-2	No.27	—	
59		基節骨	近～遠	不	1	2次	H-2	No.27	—	近・遠位端の一部欠損
60		基節骨	幹～遠	不	1	2次	H-2	No.27	—	
61		基節骨	近～遠	不	1	2次	H-2	No.27	—	近位端の一部欠損
50		中節骨	ほぼ完存	不	1	2次	H-2	No.27	—	近・遠位端の一部欠損
51		中節骨	近～遠	不	1	2次	H-2	No.27	—	遠位端の一部欠損
52		中節骨	近～幹	不	1	2次	H-2	No.27	—	
53		中節骨	近～遠	不	1	2次	H-2	No.27	—	前面の一部欠損
54		中節骨	近～遠	不	1	2次	H-2	No.27	—	前面が欠損
55		中節骨	近～遠	不	1	2次	H-2	No.27	—	近位端と前面の一部が切断？
56		末節骨	完存	不	1	3次	H-1	拡トレ2・Ⅱg層	9	
66	ウシorウマ	助骨	骨幹	不	1	2次	J-2・I-1	溝状遺構 2~3,土坑	—	CM

第Ⅲ-37表　鳥類及び哺乳類の計測値一覧

番号	分類群	部位	LR	計測位置	計測値(mm)
146	ニワトリ	烏口骨	L	GL	72.0
				Bd	21.0
				BF	17.5
145	ニワトリ	烏口骨	R	GL	77.0
122	ニワトリ	肩甲骨	L	Dic	16.5
123	ニワトリ	肩甲骨	L	Dic	19.3
121	ニワトリ	肩甲骨	R	Dic	19.5
124	ニワトリ	上腕骨	L	GL	93.0
				Bp	26.0
				SC	10.0
				Bd	20.1
126	ニワトリ	上腕骨	R	Bd	23.9
132	ニワトリ	橈骨	L	Bp	7.0
133	ニワトリ	橈骨	L?	Bd	11.3
131	ニワトリ	橈骨	R	GL	94.0
				Bp	8.0
				SC	4.8
				Bd	11.4
128	ニワトリ	尺骨	R	GL	105.0
				SC	6.5
				Did	14.7
138	ニワトリ	手根中手骨	R	GL	58.8
				Bp	17.5
				Did	11.7
135	ニワトリ	大腿骨	L	GL	103.0
				Bp	20.3
				SC	10.5
				Bd	21.9
134	ニワトリ	大腿骨	R	GL	106.0
				Bp	23.0
				SC	10.1
				Bd	22.0
136	ニワトリ	大腿骨	R	GL	116.5
				Bp	25.0
				SC	11.5
				Bd	24.2
140	ニワトリ	脛足根骨	L	GL	148.5
				Dip	23.0
				Dd	15.8
137	ニワトリ	脛足根骨	R	Dip	25.0
141	ニワトリ	脛足根骨	R	GL	149.0
				Dip	28.5
				Dd	16.2
156	ニワトリ	足根中足骨	L	GL	102.3
				Bp	20.0
				SC	10.9
				Bd	17.5
155	ニワトリ	足根中足骨	R	GL	103.5
				Bp	19.5
62	ウマ	中手/中足骨	不	Bd	40.2
63	ウマ	中手/中足骨	不	Bd	43.1
65	ウマ	中節骨	不	Bp	41.3
64	ウマ	基節骨	不	GL	71.5
				Bp	41.9
				SD	27.0
				Bd	37.3
72	ブタ	肩甲骨	R	SLC	16.5
74	ブタ	肩甲骨	R	SLC	15.6
97	ブタ	上腕骨	L	SD	14.5
				Bd	33.0
76	ブタ	上腕骨	R	SD	10.8
96	ブタ	上腕骨	R	SD	14.5
				Bd	33.0
78	ブタ	橈骨	L	SD	13.3
				Bd	25.4
77	ブタ	橈骨	R	GL	86.0
				Bp	22.0
				SD	13.3
				Bd	25.7
81	ブタ	尺骨	L	SDO	20.5
				DPA	25.7
80	ブタ	尺骨	R	SDO	20.3
				DPA	25.8
85	ブタ	第3中手骨	L	GL	46.7
				Bp	15.4
				B	11.2
				Bd	14.0
83	ブタ	第3中手骨	R	Bp	14.8
				B	11.1
87	ブタ	第4中手骨	L	GL	47.7
				Bp	13.5
				B	10.0
				Bd	13.6
86	ブタ	第4中手骨	R	Bp	13.2
				B	10.0
90	ブタ	第3中足骨	R	B	14.5

番号	分類群	部位	LR	計測位置	計測値(mm)
89	ブタ	第4中足骨	R	Bp	13.1
				B	12.6
107	イノシシ/ブタ	脛骨	R	SD	14.5
109	イノシシ/ブタ	第4中足骨	R	Bp	11.8
				B	8.2
108	イノシシ/ブタ	中節骨	R	Bp	12.0
				B	9.0
13	ウシ	肩甲骨	L	SLC	51.8
				GLP	66.0
				BG	45.5
12	ウシ	肩甲骨	R	SLC	52.0
				GLP	68.0
				BG	48.8
15	ウシ	上腕骨	L	SD	35.0
				Bd	84.0
14	ウシ	上腕骨	R	SD	35.0
				Bd	84.5
19	ウシ	橈骨	L	Bp	84.0
18	ウシ	橈骨	R	Bp	82.2
				SDO	38.5
22	ウシ	尺骨	L	SDO	52.0
				DPA	63.2
21	ウシ	尺骨	R	SDO	50.5
				DPA	62.9
24	ウシ	中手骨	L	Bp	57.9
				SD	30.5
26	ウシ	中手骨	L	SD	69.3
23	ウシ	中手骨	R	GL	189.0
				Bp	61.5
				SD	31.3
				Bd	59.4
25	ウシ	中手骨	R	SD	56.8
32	ウシ	寛骨	L	SH	41.1
31	ウシ	寛骨	R	SH	43.0
35	ウシ	大腿骨	L	GL	323.0
				SD	36.1
34	ウシ	大腿骨	R	SD	32.6
				Bd	81.0
36	ウシ	脛骨	L	GL	326.0
				Bp	80.5
				SD	35.5
				Bd	58.6
37	ウシ	脛骨	R	GL	323.0
				SD	33.2
				Bd	58.8
40	ウシ	踵骨	L	GL	126.5
				GB	42.0
39	ウシ	踵骨	R	GL	125.0
				GB	41.0
42	ウシ	距骨	L	GLl	63.0
				GLm	57.5
				Bd	41.5
41	ウシ	距骨	R	GLl	62.5
				GLm	56.3
				Bd	40.4
48	ウシ	中足骨	L	Bp	48.0
				SD	25.7
				Bd	53.1
46	ウシ	中足骨	R	SD	45.8
47	ウシ	中足骨	R	Bp	48.5
				SD	25.3
57	ウシ	基節骨	不	GL	60.0
				Bp	31.5
				SD	24.8
				Bd	28.8
58	ウシ	基節骨	不	GL	58.5
				Bp	31.5
				SD	25.0
				Bd	27.9
59	ウシ	基節骨	不	Bp	28.5
				SD	25.1
60	ウシ	基節骨	不	Bd	28.1
61	ウシ	基節骨	不	GL	61.0
				SD	23.5
50	ウシ	中節骨	不	Bp	28.8
				SD	23.2
51	ウシ	中節骨	不	GL	40.7
				Bp	28.0
				SD	21.0
52	ウシ	中節骨	不	Bp	29.7
53	ウシ	中節骨	不	GL	43.0
				Bp	30.5
				SD	23.7
				Bd	23.4
54	ウシ	中節骨	不	Bp	30.2

第Ⅲ-38表　哺乳類の顎骨の詳細および計測値

番号	分類群	部位	残存状況	LR	残存歯の状況	計測値（mm） M1:L	M1:B	M2:L	M2:B	M3:L	M3:B	備考
70	ブタ	頭蓋骨	ほぼ完存	L	$I_1I_2I_3cm_1m_2m_3M_1(M_2)$	16.2	12.8	20.5	15.7	—	—	
				R	$I_1I_2I_3cm_1m_2m_3M_1(M_2)$	17.0	12.5	19.5	15.2	—	—	
71	ブタ	下顎骨	ほぼ完存	L	$I_1I_2I_3cm_1m_2m_3M_1(M_2)$	16.5	10.5	不可	不可	—	—	
				R	$I_1I_2I_3cm_1m_2m_3M_1(M_2)$	15.8	10.4	不可	不可	—	—	
103	ブタ	上顎骨	歯槽	R	$P^2P^3P^4M^1M^2$	不可	不可	不可	不可	—	—	歯根のみ残存
67	ヤギ	下顎骨	下顎体～関節突起	R	$M_1M_2M_3$	—	—	—	—	—	—	残存歯無
2	ウシ	下顎骨	下顎体～筋・関節突起	R	$M_1M_2M_3$	—	—	24.3	14.4	34.3	13.9	

※歯種表記：歯槽残存、下線：残存歯、（　）：未萌出
※L：Length、B:Breadth

第Ⅲ-39表　同定標本数及び最小個体数

分類群	部位	L	R	計	NISP	MNI
カマス属	歯骨		1	1	1	1
ハリセンボン科	棘	52		52	52	1
ニワトリ	環椎	1		1	64	4
	頸椎	20		20		
	胸椎	2		2		
	仙椎	3		3		
	尾椎	4		4		
	肋骨	2	4	6		
	烏口骨	2	2	4		
	肩甲骨	2	1	3		
	上腕骨	2	1	3		
	橈骨	1	1	2		
	尺骨	2	1	3		
	手根中手骨		1	1		
	大腿骨	1	2	3		
	脛足根骨	1	4	5		
	腓骨	1	1	2		
	足根中足骨	1	1	2		
鳥類	頭骨	3		3	24	1
	後頭骨	1		1		
	胸骨	1		1		
	上腕骨	1		1		
	橈骨	1		1		
	尺骨	1		1		
	中足骨	2		2		
	烏口骨		1	1		
	寛骨	1		1		
	腓骨		1	1		
	足根中足骨	1		1		
	趾骨	8		8		
	破片	2		2		
ウマ	I(下顎)	1	1	2	6	1
	中手/中足	2		2		
	基節骨	1		1		
	中節骨	1		1		
イノシシ・ブタ類	頭蓋骨	1		1		
	頭頂骨＋後頭骨	1		1		
	I^1		1	1		
	M_1/M_2	1		1		
	上顎骨		1	1		
	下顎骨	1		1		
	頸椎	5		5		
	腰椎	1		1		
	椎体	20		20		
イノシシ・ブタ類	肩甲骨	2	2	4	72	4
	上腕骨	1	2	3		
	橈骨	1	1	2		
	尺骨	1	1	2		
	第3手根骨	1		1		
	第4手根骨	1	1	2		
	中間手根骨	1		1		
	尺側手根骨	1		1		
	第2中手骨	1		1		
	第3中手骨	2	1	3		
	第4中手骨	1	2	3		
	第5中手骨	1	1	2		
	寛骨	1		1		
	腸骨	1		1		
	脛骨		1	1		
	踵骨		1	1		
	第3中足骨	1	1	2		
	第4中足骨		2	2		
	基節骨	3		3		
	中節骨	3		3		
	末節骨	1		1		
ヤギ	下顎骨	1		1	1	1
ウシ	下顎骨		1	1	59	2
	P^2	1	1	2		
	P^3/P^4	2		2		
	M(上顎)	1		1		
	肩甲骨	2	1 1	4		
	上腕骨	1	1 2	4		
	橈骨	1	3	4		
	尺骨	1	2	3		
	橈側手根骨		2	2		
	中手骨	2	3	5		
	中手/中足	1		1		
	寛骨	2	1	3		
	大腿骨	1	1	2		
	脛骨	1	2	3		
	踵骨	1	1	2		
	距骨	1	1	2		
	中心第4足根	1	1	2		
	中足骨	2	2	4		
	基節骨	5		5		
	中節骨	6		6		
	末節骨	1		1		
ウシ/ウマ	助骨	1		1	1	—

第Ⅲ-40表　大山前門原第一遺跡出土の獣骨類計測一覧

No.	種類	部位	残存状況	計測(mm)																												備考
				GL	GLl	GLm	GB	Bp	SD	SC	Bd	SDO	DPA	SLC	GLP	BG	B	SH	Bb	BF	左(M³B)	左(M³L)	右(M³B)	右(M³L)	左(M²B)	左(M²L)	右(M²B)	右(M²L)	Dic	Did	Dip	Dd	
1	ウシ	大腿骨	完存	323.0					36.1		59.6																						
2	ウシ	大腿骨	完存						32.6		81.0																						
3	ウシ	脛骨	完存						33.2																								
4	ウシ	脛骨	完存	326.0				80.5	35.5		58.6																						
5	ウシ	上腕骨	骨幹～遠位端						35.0		84.5																						
6	ウシ	上腕骨	骨幹～遠位端						35.0		84.0																						
7	ウシ	中手骨	完存	189.0				61.5	31.3		59.4																						近位端に穴
8	ウシ	中手骨	完存					57.9	30.5																								遠位端欠損、近位端に穴
9	ウシ	中足骨	完存					48.5	25.3																								
10	ウシ	中足骨	完存					48.0	25.7		53.1																						近位端に穴、カットマーク
11	ウシ	橈骨	近位端～骨幹					82.2				38.5																					
12	ウシ	橈骨	近位端					84.0																									
13	ウシ	尺骨										50.5	62.9																				滑車切痕？
14	ウシ	尺骨	近位端									52.0	63.2																				
15	ウシ	肩甲骨												52.0	68.0	48.8																	関節周辺～
16	ウシ	肩甲骨												51.8	66.0	45.5																	関節周辺～
17	ウシ	寛骨	腸骨～坐骨															43.0															
18	ウシ	寛骨	腸骨															41.1															
19	ウシ	基節骨	完存	60.0				31.5	24.8		28.8																						
20	ウシ	中節骨	完存					28.8	23.2																								
21	ウシ	踵骨	完存	125.0			41.0																										遠位端一部欠損
22	ウシ	踵骨	完存	126.5			42.0																										近位端一部欠損
23	ウシ	距骨	完存		62.5	56.3					40.4																						近位端一部欠損
24	ウシ	距骨	完存		63.0	57.5		41.5																									
25	ウシ	中足骨	近位端					45.8																									3次dot31
26	ウシ	中手骨	近位端					56.8																									穴あり
27	ウシ	中手骨	近位端					69.3																									
28	ウシ	基節骨	完存	58.5				31.5	25.0		27.9																						
29	ウシ	基節骨	完存					28.5	25.1																								
30	ウシ	基節骨	遠位端								28.1																						
31	ウシ	基節骨	近位端	61.0					23.5																								一部欠損
32	ウシ	中節骨	完存	40.7				28.0	21.0																								
33	ウシ	中節骨	近位端	43.0				30.5	23.7		23.4																						一部欠損
34	ウシ	中節骨	遠位端					29.7																									一部欠損
35	ウシ	中節骨						30.2																									破片？
36	ウマ	中節or中足骨	遠位端								40.2																						
37	ウマ	基節骨	完存	71.5				41.9	27.0		37.3																						
38	ウマ	中節骨	遠位端					41.3																									一部欠損
39	ウマ	中手or中足骨	遠位端								43.1																						4次dot158
40	ブタ	頭・上顎骨	完存																		12.8	16.2	12.5	17.0	15.7	20.5	15.2	19.5					
41	ブタ	頭・下顎骨	完存																		10.5	16.5	10.4	15.8									Ⅰ, $Ⅰ_2$, $Ⅰ_3$,C, m_1,m_2,m_3,M_1,(M_2)
42	ブタ	尺骨	完存									20.3	25.8																				
43	ブタ	橈骨							13.3																								頭窩、手根関節面未癒合
44	ブタ?	上腕骨	完存						14.5																								
45	ブタ	上腕骨							10.8																								
46	ブタ	尺骨	完存									20.5	25.7																				
47	ブタ	橈骨							13.3		25.4																						
48	ブタ?	上腕骨	完存						14.5																								
49	ブタ	中足骨						13.1									12.6																
50	ブタ	中足骨															14.5																
51	ｲﾉｼｼorﾌﾞﾀ	脛骨	骨幹～遠位端						14.5																								遠位端が未癒合脱落
52	ｲﾉｼｼorﾌﾞﾀ	中節骨	近位端～遠位端					12.0									9.0																第四中節遠位端未癒合脱落
53	ｲﾉｼｼorﾌﾞﾀ	中足骨						11.8									8.2																第四中足骨3次dot228
54	ブタ	中手骨	完存	46.7				15.4			14.0						11.2																
55	ブタ	中手骨	完存					14.8									11.1																
56	ブタ	中手骨	完存					13.2									10.0																
57	ブタ	中手骨	完存	47.7				13.5			13.6						10.0																
58	ﾆﾜﾄﾘ	肩甲骨																											19.5				
59	ﾆﾜﾄﾘ	肩甲骨																											16.5				
60	ﾆﾜﾄﾘ	肩甲骨																											19.3				
61	ﾆﾜﾄﾘ	上腕骨	完存	93.0				26.0		10.0	20.1																						
62	ﾆﾜﾄﾘ	上腕骨	骨幹～遠位端								23.9																						
63	ﾆﾜﾄﾘ	尺骨	完存	105.0						6.5																				14.7			
64	ﾆﾜﾄﾘ	橈骨	完存	94.0				8.0		4.8	11.4																						
65	ﾆﾜﾄﾘ	大腿骨	完存	106.0				23.0		10.1	22.0																						
66	ﾆﾜﾄﾘ	大腿骨	完存	103.0				20.3		10.5	21.9																						
67	ﾆﾜﾄﾘ	大腿骨	完存	116.5				25.0		11.5	24.2																						
68	ﾆﾜﾄﾘ	脛足根骨	近位端～骨幹																												25.0		
69	ﾆﾜﾄﾘ	鳥口骨	完存	77.0																													
70	ﾆﾜﾄﾘ	鳥口骨	完存	72.0															21.0	17.5													
71	ﾆﾜﾄﾘ	手根中手骨		58.8				17.5																						11.7			
72	ﾆﾜﾄﾘ	足根中足骨	完存	103.5				19.5																									
73	ﾆﾜﾄﾘ	足根中足骨	完存	102.3				20.0		10.9	17.5																						
74	ﾆﾜﾄﾘ	脛足根骨	完存	148.5																											23.0	15.8	
75	ﾆﾜﾄﾘ	脛足根骨	完存	149.0																											28.5	16.2	
76	ブタ	肩甲骨	近位端～骨幹											15.6																			
77	ブタ	肩甲骨	近位端～骨幹											16.5																			
78	ﾆﾜﾄﾘ	橈骨	近位端～骨幹					7.0																									
79	ﾆﾜﾄﾘ	橈骨	骨幹～遠位端								11.3																						

図版Ⅲ-28　脊椎動物遺体１　ウシ　１.右（P^2）　２.左（P^2）　３.左（P^3）　４.左右不明（$M^{1\sim3}$）　５.左$_{1\sim3}$（切歯）
６.右$_{1\sim3}$（切歯）　７.右下顎骨　８.右肩甲骨　９.左肩甲骨　10.右上腕骨　11.左上腕骨
12.右橈骨　13.左橈骨　14.右尺骨　15.左尺骨　16.右中手骨　17.左中手骨

図版Ⅲ-29　脊椎動物遺体２　ウシ　18. 右寛骨　19. 左寛骨　20. 右大腿骨　21. 左大腿骨　22. 右頸骨　23. 左頸骨　24. 左踵骨
25. 右踵骨　26. 左距骨　27. 右距骨　28. 右足根骨　29. 左足根骨　30. 右中足骨
31. 左中足骨　32. 基節骨　33. 中節骨　34.35 末節骨
ウマ　1. 中手骨 or 中足骨　2. 基節骨　3. 中節骨

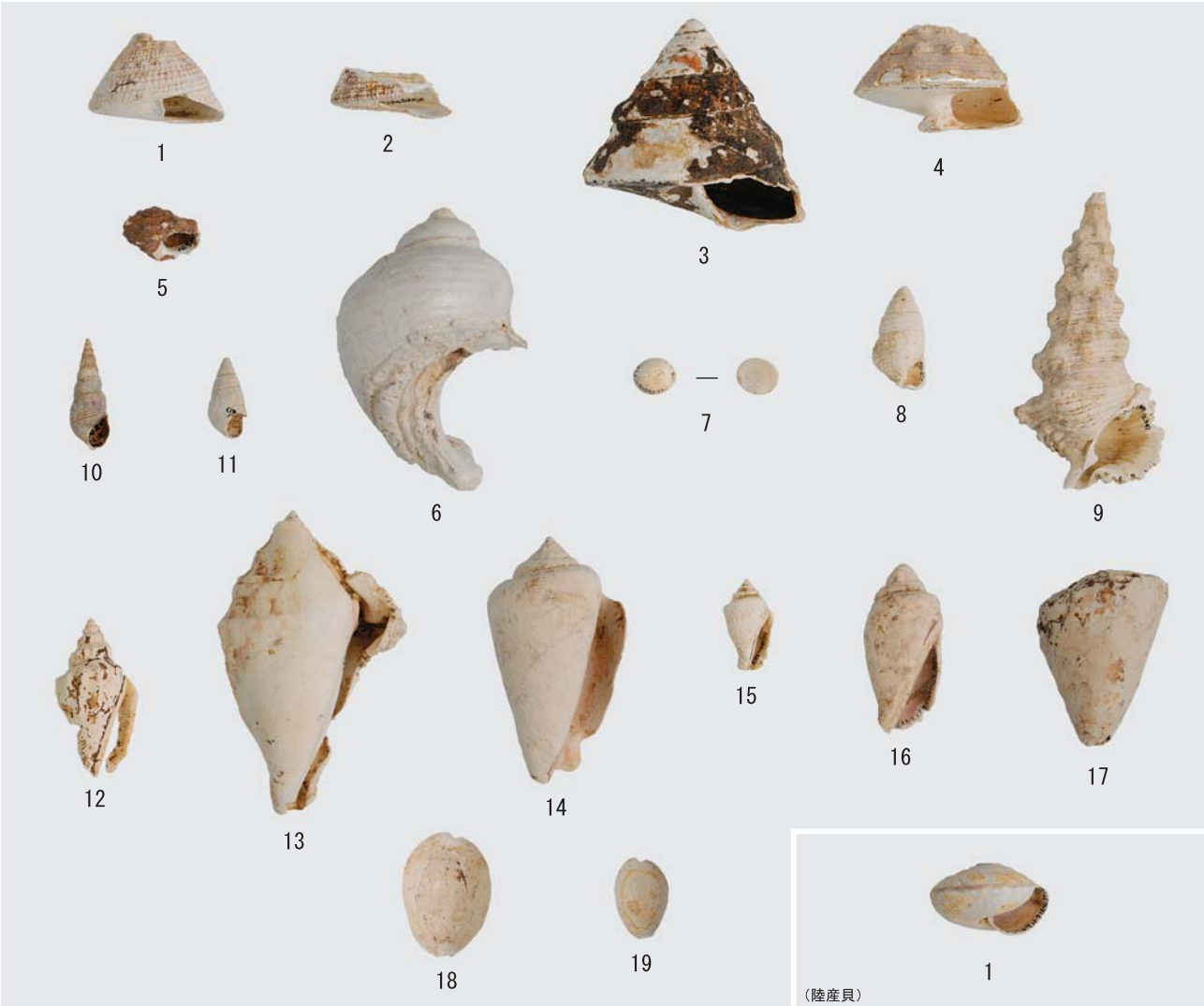
図版Ⅲ-30　脊椎動物遺体３　上：イノシシ　１ａ.頭蓋骨　１ｂ.下顎骨　２.右Ｉ　３.左右不明　M_{1or2}
ヤ　ギ　１.左下顎骨M_1、M_2、M_3～　間接突起
下：ニワトリ　１.頭蓋骨　２.胸骨　３.左烏口骨　４.仙椎　５.胸椎　６.右腓骨　７.右助骨
８.左肩甲骨　９.右手根中手骨　10.左上腕骨　11.右？尺骨　12.右橈骨
13.右大腿骨　14.右脛足根骨　15.左中足骨　16.左脛足根骨
サカナ　１.右歯　カマス属

15. 貝類遺体

本遺跡の２次～４次調査区で得られた貝類遺体は、全てピックアップ法で採取したものである。貝類の最少個体数については、完形個体、殻頂部残存個体及びこれと重複しないと判断される破片資料をカウントした。なお、今回この破片資料については、第Ⅲ-40 表中で殻頂欄に含めて扱うこととする。また、表中の生息地記号は、黒住耐二氏が『古我地原貝塚』（沖縄県教育委員会編 1987）で行った、沖縄における貝類の生息地分類を引用した。

今回の３つの調査区では、総数 394 点得られ、最少個体数は 230 個体確認された。これら個体の、約６割が近現代の造成層であるⅠ・Ⅱ層及び撹乱からの出土となる。種類別出土割合は、カンギク約 16.1％、マガキガイ約 13.9％、オニノツノガイ約 6.5％、クモガイ約 6.1％、ヌノメガイ・ウミギク科ともに約 5.7％、アラスジケマンガイ約 5.2％、クワノミカニモリ約 4.8％、コオニコブシガイ約 4.4％、ニシキウズガイ約３％と後続する。

本遺跡の貝類遺体組成はカンギクやマガキガイの出土がやや目立つ。カンギクは内湾の転石地帯の潮間帯部、マガキガイはサンゴ礁のイノー内砂底などでそれぞれ採取される貝となっている。また、本調査区出土貝類の約 46.6％がサンゴ礁域の潮間帯部からイノー内、約 25.7％が内湾・転石地域の潮間帯下部付近で採取できるものである。



図版Ⅲ-31　貝類遺体：巻貝・陸産貝

図版Ⅲ-32　貝類遺体：巻貝（20 ～ 32）、二枚貝

第Ⅲ-41表　貝類遺体集計表

科名・貝類名・生息地・残存部				出土地・層位		ピット																			その他の遺構				
						2次　②											3次　③				4次　④			2次　②		3次　③		拡張トレンチ3暗渠埋土
						№33	№42	№53	№75	№77	№83	№84	№87	№88	№89	№96	№118 or 119	№71	№82	№109	№118	№28	№31内	№37上	溝状遺構	溝状遺構(2～3層)	土坑状遺構	不明遺構3	
巻貝	ニシキウズガイ科	1	ニシキウズガイ	Ⅰ-2-a	殻頂																								
					破片																								
		2	ムラサキウズガイ	Ⅰ-3-a	殻頂																			2					
					破片																			2					
		3	サラサバテイラ	Ⅰ-4-a	殻頂																								
		4	ギンタカハマ	Ⅰ-4-a	殻頂																								
	リュウテン科	5	カンギク	Ⅱ-1-b	完形																								
					殻頂								2											1					
					破片																								
		6	チョウセンサザエ	Ⅰ-3-a	殻頂																					1			
	オキナエビスガイ目科不明	7	フタ	—	完形																			1					
	オニノツノガイ科	8	クワノミカニモリ	Ⅰ-1-a	完形																								
					殻頂								1																
		9	オニノツノガイ	Ⅰ-2-c	完形																								
					殻頂	1						2								1						2			
					破片																			1		1			
	トウガタカワニナ科	10	タイワンカワニナ	—	殻頂																								
	カワニナ科	11	カワニナ	Ⅳ-5・6	殻頂																								
	スイショウガイ科	12	オハグロガイ	Ⅱ-2-c	殻頂																								
		13	クモガイ	Ⅰ-2-c	殻頂																								2
					破片																								1
		14	マガキガイ	Ⅰ-2-c	完形																								
					殻頂		1			1			1	2	1														
					破片												1												
		15	ヤサガタムカシタモトガイ	—	完形																			1					
		16	ネジマガキ	Ⅱ-1-c	殻頂																								
		17	不明	—	破片																								
	タカラガイ科	18	ハナマルユキダカラ	Ⅰ-3-a	完形																								
					殻頂							1																	
		19	ハナビラダカラ	Ⅰ-1-a	完形																	1							
					殻頂							1									1								
					破片																			1					
	フジツガイ科	20	シオボラ	Ⅰ-2-a	殻頂																								
		21	サツマボラ	Ⅰ-2-a	殻頂																1								
		22	不明	—	破片																								
	ニナ目科不明	23	—	—	完形																								
					殻頂																								
	アツキガイ科	24	アカイガレイシ	Ⅰ-3-a	完形																								
		25	ガンゼキボラ	Ⅰ-4-a	殻頂																								
		26	シラクモガイ	Ⅰ-3-a	殻頂																								
	オニノコブシ科	27	コオニコブシガイ	Ⅰ-3-a	完形																								
					殻頂													1											
	イモガイ科	28	クロミナシ	Ⅰ-2-c	殻頂																1						1		
					破片																								
		29	マダライモ	Ⅰ-1-a	破片																								
		30	不明	—	殻頂														1										
	不明	31		—	破片				2				6																
陸産貝	ナンバンマイマイ科	1	シュリマイマイ	Ⅴ-8	完形																								1
二枚貝	フネガイ科	1	リュウキュウサルボウ	Ⅱ-2-c	完形 L																1								
					殻頂 L												1												
		2	不明	—	完形 R																								
	ウミギク科	3	不明	—	完形 R																			1					
					完形 L																			1					
					殻頂 R								1								1			1					
					殻頂 L																		1	1					
					破片 R																1			1					
					破片 L																			1					
	ウグイスガイ目科不明	4	—	—	破片 不明																								
	キクザルガイ科	5	不明	—	完形 L																								
	ザルガイ科	6	リュウキュウザルガイ	Ⅱ-2-c	殻頂 L																1								
					破片 R																								
	シャコガイ科	7	ヒメジャコ	Ⅰ-2-a	殻頂 合弁																								
					殻頂 R								1											1					
					殻頂 L																			1					
					破片 L																			1					
		8	シラナミ	Ⅰ-2-a	殻頂 合弁																								
					殻頂 L			1																					
		9	ヒレジャコ	Ⅰ-2-c	完形 R																								
					破片 R																								
					破片 L																				1				
					破片 不明																					1			
		10	不明	—	破片 L																								
					破片 不明								1											1					
	チドリマスオガイ科	11	イソハマグリ	Ⅰ-1-c	完形 R																								
					完形 L																								
	イソシジミ科	12	リュウキュウマスオガイ	Ⅱ-1-c	完形 R																								
					完形 L																								
					殻頂 R																								
					殻頂 L																								
	マルスダレガイ科	13	アラヌノメガイ	Ⅰ-2-c	完形 R																								
					破片 R																								
		14	ヌノメガイ	Ⅱ-1-c	完形 合弁																								
					完形 R																								
					完形 L																								
					殻頂 R						1					1													
					殻頂 L																								
					破片 R																								
					破片 L																								
					破片 不																								
		15	アラスジケマンガイ	Ⅲ-1-c	完形 合弁																								
					完形 R																								
					完形 L																								
					殻頂 R								2																
					殻頂 L																						1		
					破片 R																								
	ハマグリ目科不明	16	—	—	破片 不明																								
	不明	—	—	—	完形 R																								
		—	—	—	完形 不																			1					
		—	—	—	殻頂 R																								
		—	—	—	殻頂 L																								
		—	—	—	破片 不明															1						1	1		
化石化	ツノガイ網	32	—	—																									
合計						1	1	1	2	1	1	4	15	2	1	1	2	1	1	2	7	1	1	20	1	6	1	2	4
																	32							22					14

※R…右　L…左

Ⅰ～Ⅱ	Ⅱ	Ⅱa	Ⅱg	Ⅱc～g	Ⅱe～f	Ⅱe～g	Ⅱf～g	拡張トレンチ2					拡張トレンチ3					拡張トレンチ3-1		拡張トレンチ3-3		・拡張トレンチ2 Ⅱg ・拡張トレンチ2 Ⅲ	撹乱	合計	最少個体数
								Ⅱ	Ⅱd2/Ⅱg/Ⅲ	Ⅱg～Ⅲ	Ⅱg	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱc	Ⅱg上面	Ⅱe～f	Ⅱg	Ⅱe～f	Ⅱ	Ⅱg				
	1																						6	7	
												4											3	7	7
																								2	2
																								2	
											1	1												2	2
																				1				1	1
												4											2	6	
												18						1					9	31	
																							4	4	37
																								1	1
																								1	1
																							2	2	
												1						1					6	9	11
			1																					1	
				3				2			2							1						14	
												1											4	7	15
																							2	2	2
													1										1	2	2
								1																1	1
		3		1		1	1							1						1			4	14	
		1		1		1								1									5	10	14
																					1		2	3	
								3	1			8			1	1		2					7	29	
		1																					15	17	32
																								1	1
												1												1	1
											1													1	—
												1												1	
																								1	2
																								1	
												2				1								5	
																								1	6
																							1	1	1
																							1	2	2
												1												2	—
																1								1	
																								1	4
																							3	3	
																							2	2	2
																							1	1	1
																							1	1	1
																							8	8	
																							1	2	10
												1												3	
																							1	1	3
																							1	1	1
																							2	3	—
												2											6	16	—
																								1	1
																							1	2	
																								1	3
																							1	1	1
																							3	4	
								1	1														2	5	
																							3	6	
									1														5	8	
																								2	
																								1	13
			1																					1	1
		1							1															2	2
																								1	
											1													1	1
				1																				1	
																								2	
																							1	2	
																								1	3
																							1	1	
																							1	2	3
												1												1	
										1														1	
																								1	
										1		1												3	2
																							1	1	—
												2											2	6	—
																							5	5	
																							2	2	5
		1																					1	2	
																							1	1	
		1																						1	
																							1	1	3
											1													1	
											1													1	2
																						1		1	
												1					1						1	3	
							1																	1	
					1						1	1						1		1			2	9	
1								1			2	2					1							7	
												8											3	11	
												7												7	
												4											1	5	13
																							1	1	
								1															3	4	
								1				2											3	6	
												4											1	7	
																							2	3	
																							1	1	12
																							1	1	1
																							1	1	
																							1	2	
												3											3	6	—
												2												2	
												5											1	9	
																			1					1	1
								10	4	2	10	88	1	2	1	3	2	6	1	3	1				
1	1	8	2	6	1	2	2					114					9		7		4	1	157	394	230

第４節　自然科学分析調査の成果

大山前門原第一遺跡はこれまでの発掘調査から、グスク時代～近世までの掘立柱建物跡や溝状遺構、近世～近代の屋敷跡などが検出され、当該時期における土器や陶磁器などの遺物が出土している。

本報告では、遺構の年代観、古植生、植物資源利用、土器・石製品の由来に関する情報を得ることを目的として、放射性炭素年代測定、微細物分析・炭化種実同定、胎土薄片・岩石薄片作製鑑定、蛍光Ｘ線分析を実施する。

1. 試料

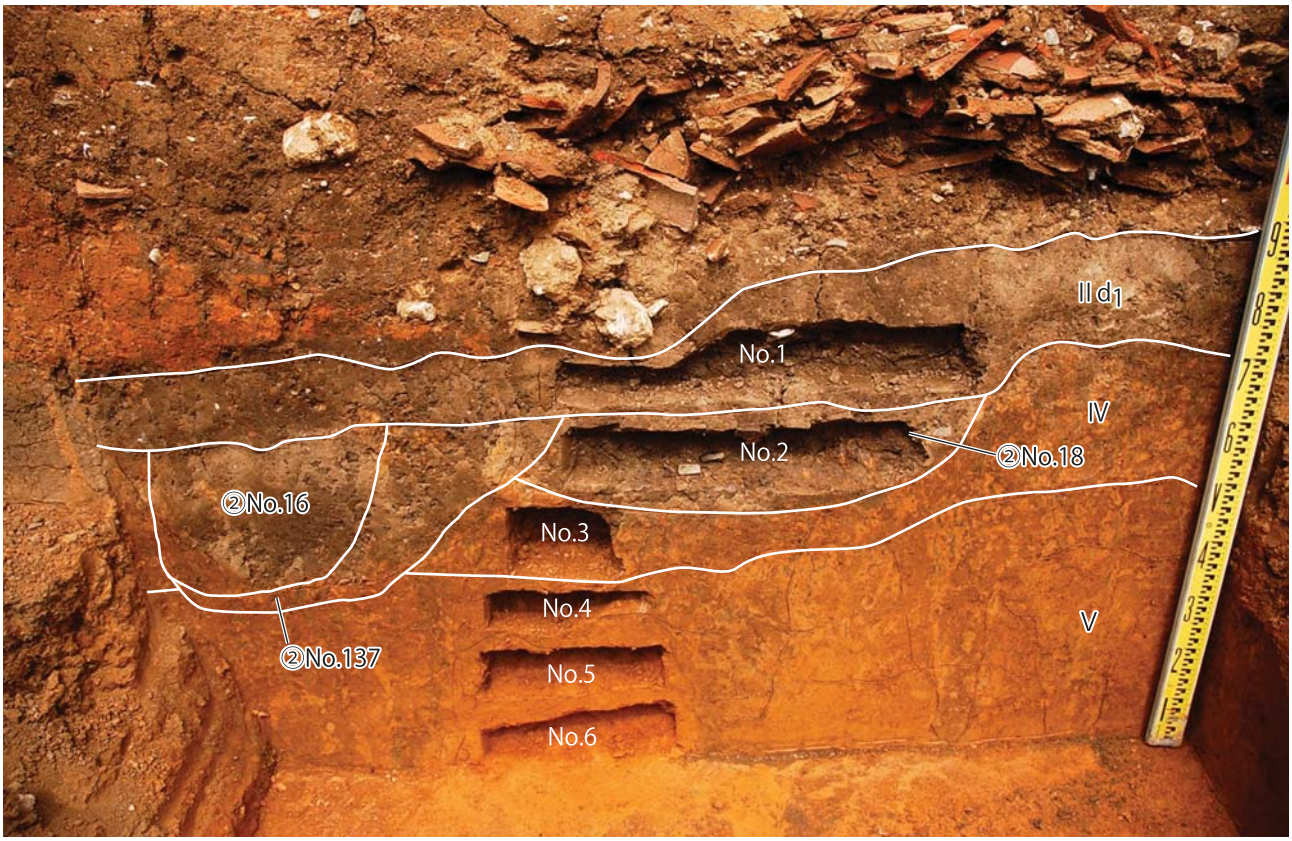
土壌および洗い出し試料は、北壁より採取された土壌３点 (図版Ⅲ -33No.2、3、6) と、第２次～第４次調査で検出された各遺構覆土の洗い出し済 (宜野湾市教育委員会実施) 試料 30 点である。このうちより抽出した炭化種実 10 点について放射性年代測定を、土壌および洗い出し済試料全点について微細物分析・炭化種実同定を実施する。

胎土・石製品試料は、前門原第一遺跡より出土したグスク土器の破片１点と石製品の破片１点である。グスク土器は滑石混入土器で、② No.94 からの出土である。鍋の把手付口縁部で、Ⅳ類とされている。胎土中に多量の滑石片が含有されている状況が肉眼でも明瞭に認識され、脂感のある光沢を呈する。石製品の破片は、器種不明の滑石製品と考えられており、③ No. 5からの出土である。長径 4cm 程度の小片であり、暗褐色を呈し、表面は土器と同様に脂感のある光沢を呈する。これら２点について胎土薄片・岩石薄片作製鑑定を、石製品１点について蛍光Ｘ線分析を実施する。

2. 結果

２- １ 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果をⅢ -42 表に、暦年較正結果をⅢ -43 表に示す。試料の測定年代



図版Ⅲ -33　第２次調査区北壁サンプル採取状況

(補正年代)は、②溝状遺構(1層)が440±20BP、②No.82(外)が370±20BP、③No.113が200±20BP、③No.135(外)が610±20BP、③No.150が420±20BP、③土坑が440±20BP、Ⅲ層が380±20BP、④No.108が230±20BP、④No.114が450±20BP、Ⅱg層が720±20BPの値を示す。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}Cの半減期5,730±40年)を較正することである。暦年較正は、CALIB 6.0のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値を用いて行う。暦年較正は北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用い、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。較正された暦年代は、将来的に暦年較正曲線等の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表された値を記す。

測定誤差をσとして計算させた結果、②溝状遺構(1層)がcalAD 1,436-1,453、②No.82(外)がcalAD 1,458-1,617、③No.113がcalAD 1,661-1,951、③No.135(外)がcalAD 1,305-1,395、③No.150がcalAD 1,443-1,469、③土坑がcalAD 1,437-1,454、Ⅲ層がcalAD 1,453-1,616、④No.108がcalAD 1,650-1,797、④No.114がcalAD 1,434-1,450、Ⅱg層がcalAD 1,272-1,286である。

2-2 微細物分析・炭化種実同定

第2次調査区北壁試料の微細物分析結果をⅢ-44表、各遺構覆土洗い出し済試料の炭化種実同定結果をⅢ-45表に示す。

第2次調査区北壁No.2からは、栽培種のイネの穎(基部)の破片13個、胚乳の破片2個、コムギの胚乳の破片3個を抽出同定した。No.3、6からは、炭化種実が確認されなかった。炭化種実以外では、炭化材が0.002g(No.6)～0.19g(No.2)、骨片が2個(No.2)確認された。

各遺構覆土洗い出し済試料からは、栽培種のイネの穎1305個、胚乳171個、オオムギの穎・胚乳1個、胚乳51個、オオムギーコムギの胚乳39個、穂軸8個、コムギの穎・胚乳3個、胚乳562個、アワの穎・胚乳25個、胚乳61個、キビの胚乳4個と、栽培種の可能性を含むイネ科の胚乳6個、穎・胚乳2個、穎6個、ダイズ類の種子2個、マメ科の種子44個、計2290個が確認された。植物質食糧のイネとコムギを主体とし、オオムギやアワ、キビ、マメを含む種類構成を示す。遺構別出土状況では、③土坑が最多(481個)で、②No.123(222個)、③No.117(195個)、④No.108、④No.114(各189個)、④No.109(141個)と次ぐ。栽培種以外の分類群では、常緑針葉樹のマツ属複維管束亜属の葉1個、草本のテンツキ属の果実2個、ホタルイ属の果実、コミカンソウの種子1個、イヌコウジュ属の果実1個、アカネ科の核1個と、双子葉類9個の、計17個が確認された。なお、②No.104、③No.109下、③No.132の3試料からは、炭化種実は確認されなかった。種実以外の遺物では、炭化材、動物遺存体(椎骨、歯、魚類の鱗、巻貝類など)、土器片、玉などが確認された。

確認された栽培種のうち、②溝状遺構(1層)のイネ、コムギ、アワ、マメ科の全51粒0.026g、②No.82(外)のコムギ6粒0.016g、③No.113のコムギ6粒0.024g、③No.135(外)のオオムギ2粒、コムギ4粒0.027g、③No.150のコムギ5粒0.03g、③土坑のコムギ10粒0.044g、Ⅲ層のコムギ7粒0.04g、④No.108のイネ4粒0.01g、④No.114のコムギ6粒0.027g、Ⅱg層のコムギ7粒0.018gの、合計10点を年代測定対象試料として選択抽出した。測定試料を中心とした写真記録の一部を図版Ⅲ-33に示す。

コムギの大きさは、最小で長さ2.2mm、幅1.8mm、厚さ1.9mm(③No.135(外))、最大で長さ4.7mm、幅2.6mm、厚さ2.2mm(③土坑)と、ややばらつきがある。また、③土坑のコムギ42個の計測値より、欠損部位を除いた21個の長さは、最小2.8～最大4.7(平均3.38±標準偏差0.43)mm、幅は1.5～2.7(2.21±0.38)mm、厚さは1.2～2.2(1.83±0.27)mmであった。

第Ⅲ -42 表　放射性炭素年代測定結果

調査次	遺構No.	種類	補正年代 BP	δ13C (‰)	測定年代 BP	Code No.	備考
2次	溝状遺構(1層)	イネ・コムギ・アワ・マメ科	440±20	−23.09±0.39	410±20	IAAA-112023	12757-1
2次	82(外)	コムギ(胚乳)	370±20	−23.65±0.52	350±20	IAAA-112027	12757-1
3次	113	コムギ(胚乳)	200±20	−21.04±0.43	140±20	IAAA-112029	12757-1
3次	135(外)	オオムギ・コムギ	610±20	−26.44±0.59	630±20	IAAA-112026	12757-1
3次	150	コムギ(胚乳)	420±20	−23.90±0.49	400±20	IAAA-112025	12757-1
3次	土坑	コムギ(胚乳)	440±20	−23.69±0.45	410±20	IAAA-112028	12757-1
3次	Ⅲ層	コムギ(胚乳)	380±20	−23.03±0.44	340±20	IAAA-112030	12757-1
4次	108	イネ(胚乳)	230±20	−22.52±0.56	180±20	IAAA-112024	12757-1
4次	114	コムギ(胚乳)	450±20	−25.70±0.47	460±20	IAAA-112031	12757-1
4次	Ⅱg	コムギ(胚乳)	720±20	−22.53±0.47	680±20	IAAA-112032	12757-1

1)年代値の算出には、Libby の半減期5,568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68% が入る範囲)を年代値に換算した値。

第Ⅲ -43 表　暦年較正結果

調査次	遺構No.	補正年代 (BP)		暦年較正年代(cal)			相対比	Code No.
2次	溝状遺構(1層)	440±23	σ	cal AD 1,436 − cal AD 1,453	cal BP 514 − 497	1.000	IAAA-112023
			2σ	cal AD 1,425 − cal AD 1,473	cal BP 525 − 477	1.000	
2次	82(外)	371±23	σ	cal AD 1,458 − cal AD 1,514	cal BP 492 − 436	0.761	IAAA-112027
				cal AD 1,600 − cal AD 1,617	cal BP 350 − 333	0.239	
			2σ	cal AD 1,449 − cal AD 1,524	cal BP 501 − 426	0.635	
				cal AD 1,559 − cal AD 1,563	cal BP 391 − 387	0.012	
				cal AD 1,570 − cal AD 1,631	cal BP 380 − 319	0.353	
3次	113	202±21	σ	cal AD 1,661 − cal AD 1,676	cal BP 289 − 274	0.285	IAAA-112029
				cal AD 1,768 − cal AD 1,771	cal BP 182 − 179	0.051	
				cal AD 1,777 − cal AD 1,799	cal BP 173 − 151	0.471	
				cal AD 1,941 − cal AD 1,951	cal BP 9 − − 1	0.194	
			2σ	cal AD 1,652 − cal AD 1,682	cal BP 298 − 268	0.275	
				cal AD 1,737 − cal AD 1,757	cal BP 213 − 193	0.084	
				cal AD 1,761 − cal AD 1,804	cal BP 189 − 146	0.469	
				cal AD 1,936 − cal AD 1,951	cal BP 14 − − 1	0.173	
3次	135(外)	607±23	σ	cal AD 1,305 − cal AD 1,328	cal BP 645 − 622	0.419	IAAA-112026
				cal AD 1,341 − cal AD 1,364	cal BP 609 − 586	0.407	
				cal AD 1,384 − cal AD 1,395	cal BP 566 − 555	0.174	
			2σ	cal AD 1,298 − cal AD 1,372	cal BP 652 − 578	0.779	
				cal AD 1,378 − cal AD 1,403	cal BP 572 − 547	0.221	
3次	150	415±22	σ	cal AD 1,443 − cal AD 1,469	cal BP 507 − 481	1.000	IAAA-112025
			2σ	cal AD 1,435 − cal AD 1,494	cal BP 515 − 456	0.968	
				cal AD 1,602 − cal AD 1,612	cal BP 348 − 338	0.032	
3次	土坑	435±21	σ	cal AD 1,437 − cal AD 1,454	cal BP 513 − 496	1.000	IAAA-112028
			2σ	cal AD 1,429 − cal AD 1,473	cal BP 521 − 477	1.000	
3次	Ⅲ層	377±23	σ	cal AD 1,453 − cal AD 1,498	cal BP 497 − 452	0.703	IAAA-112030
				cal AD 1,504 − cal AD 1,511	cal BP 446 − 439	0.081	
				cal AD 1,601 − cal AD 1,616	cal BP 349 − 334	0.215	
			2σ	cal AD 1,447 − cal AD 1,522	cal BP 503 − 428	0.696	
				cal AD 1,572 − cal AD 1,629	cal BP 378 − 321	0.304	
4次	108	225±23	σ	cal AD 1,650 − cal AD 1,667	cal BP 300 − 283	0.540	IAAA-112024
				cal AD 1,782 − cal AD 1,797	cal BP 168 − 153	0.460	
			2σ	cal AD 1,643 − cal AD 1,680	cal BP 307 − 270	0.493	
				cal AD 1,764 − cal AD 1,800	cal BP 186 − 150	0.429	
				cal AD 1,939 − cal AD 1,951	cal BP 11 − − 1	0.078	
4次	114	446±23	σ	cal AD 1,434 − cal AD 1,450	cal BP 516 − 500	1.000	IAAA-112031
			2σ	cal AD 1,423 − cal AD 1,467	cal BP 527 − 483	1.000	
4次	Ⅱg層	717±22	σ	cal AD 1,272 − cal AD 1,286	cal BP 678 − 664	1.000	IAAA-112032
			2σ	cal AD 1,261 − cal AD 1,296	cal BP 689 − 654	1.000	

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0(Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。
5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

第Ⅲ-44表　微細物分析結果

分類群	部位	状態	第2次調査区北壁 No.2	No.3	No.6
炭化種実					
イネ	穎(基部)	破片	13		
	胚乳	破片	2		
コムギ	胚乳	破片	3		
炭化材			0.19g	0.01g	0.002g
			9.1mm	3.0mm	2.9mm
動物遺存体	骨片	破片	2		
分析量			500.2g	501.8g	503.4g

第Ⅲ-45表　炭化種実同定結果

分類群	部位	調査次	2次						3次													4次											
		遺構No.	溝状遺構(1層)	溝状遺構(5層)	82外	104	123	138	71-3	108外	109下	113	117	132	135外	150	205	土坑	211	Ⅲ層	9外2層	82	88	104下	105	108	109	土坑2層	114	126下	127-1下	Ⅱg層
		状態																															
栽培種																																	
イネ	穎	先端	1	5	1								3		1	1						2			2	1							
		基部	38	36	49		116	5	19			8	127		34	22		80	11		14	75	9	33	32	122	87	11	107	5	3	3
		破片	7	15	24		63	2	4			5	22		2	1		2			1	6	6	6		36	7	1	30		2	
	胚乳	完形		2												1		28		3						4						
		破片		2			8	1				8	3		5	11		42		11	2	5		4	2	9	9		3			8
オオムギ	穎・胚乳	完形																								1						
	胚乳	完形		1			1		1			1			2	1		18		11												
		破片														1		13						1								
オオムギ―コムギ	胚乳	破片														1		38														
	穂軸	破片					2					1	1					3														1
コムギ	穎・胚乳	完形		1												1																
		破片														1																
	胚乳	完形	1	4	4		6			2		6	2		4	8		120		21			2	1	3	2	3		9		2	7
		破片	1	12	12		25					24	36		17	36		53		26	3	4	1	3	14	12	33		33	1	2	7
アワ	穎・胚乳	完形	1		1							1				1	1	10				1		1		1			2	1		
		破片																						1	1				2			
	胚乳	完形			1		1						1			3		38							1	1	1		1			5
		破片							1									4											1		1	1
キビ	胚乳	完形																3														
		破片																							1							
栽培種の可能性を含む分類群																																	
イネ科	胚乳	完形		1	1							1			1			1											1			
イネ科?	穎・胚乳	完形		2																												
	穎	基部		6																												
ダイズ類	種子	完形													1																	
		臍		1																												
マメ科	種子	完形																						1			1					
		破片	2									1			2	3		28		5				1								
周辺植生に由来する分類群																																	
マツ属複維管束亜属	葉	破片					1																						1			
テンツキ属	果実	完形																							1							
		破片														1																
ホタルイ属	果実	破片														1																
コミカンソウ	種子	完形														1																
イヌコウジュ属	果実	完形																						1								
アカネ科	核	完形																						1								
双子葉類	種実	破片					1								1	2		3				1	1									

2-3 胎土薄片・岩石薄片作製鑑定

1) 土器 (② No.94)

観察結果をⅢ-46 表、Ⅲ-50 ～ 52 図に示す。胎土中に含まれる砂粒の主体は、極細粒砂～粗粒砂径の滑石の鉱物片と細粒砂～極粗粒砂径の滑石岩の岩石片である。他には極めて微量の石英と不透明鉱物の鉱物片が認められるに過ぎない。なお、滑石の鉱物片の粒径モードは細粒砂であり、滑石岩の岩石片の粒径モードは粗粒砂である。また、胎土中における砕屑物の割合は 20% 程度である。

2) 岩石片 (③ No.5)

岩石名：滑石岩

岩石の組織：交代状組織 (replacement texture)

主成分鉱物

滑石：多量存在し、粒径最大 0.53mm の他形で板状～不定形板状を呈し、無方向性で分布するが、局所的に弱い配向性を示す。結晶度は良好であり、粒径 0.1mm 以上のものが大部分を占めている。

副成分鉱物

緑泥石:きわめて微量存在し、粒径最大 0.12mm の他形で不定形板状を呈し、淡褐色を示す。比較的、結晶度は良好で、濃集状をなして分布する。

不透明鉱物：きわめて微量存在し、粒径最大 0.08mm の他形で短柱状～不定形粒状を呈する。

変質鉱物

褐色粘土鉱物：少量存在し、粒径最大 0.05mm の他形で放射板状～不定形板状を呈し、淡褐色～褐色の多色性を示す。苦鉄質鉱物を交代したとみられ、径 0.3 ～ 1mm 大で濃集する産状を示す。

水酸化鉄：少量存在し、粒径最大 0.005mm の他形で微細不定形状を呈し、暗褐色を示す。滑石の粒間を縫って脈状をなして分布する。一部、孔隙の壁に付着するものも認められる。

孔隙

微量存在し、孔径最大 1.4mm で不定形状を呈して点在し、周囲の基質には水酸化鉄が鉱染状に広がっている。

2-4 蛍光 X 線分析

蛍光 X 線分析による主要化学組成分析値をⅢ-47 表に示す。なお、分析試料の強熱減量 (Ig. Loss) は、主要 10 元素を 100mass% から減じた値である。

滑石の主要な成分である SiO_2 と MgO を主体とし、SiO_2 は約 60%、MgO は約 30% を占める。これらに次いで多い元素は Fe_2O_3 であり、約 5% 程度の値を示し、次いで Al_2O_3 が約 2% を示すが、TiO_2、MnO、CaO、Na_2O、K_2O、P_2O_5 などはいずれも 1% 未満である。また、強熱減量は、約 7% の値を示す。

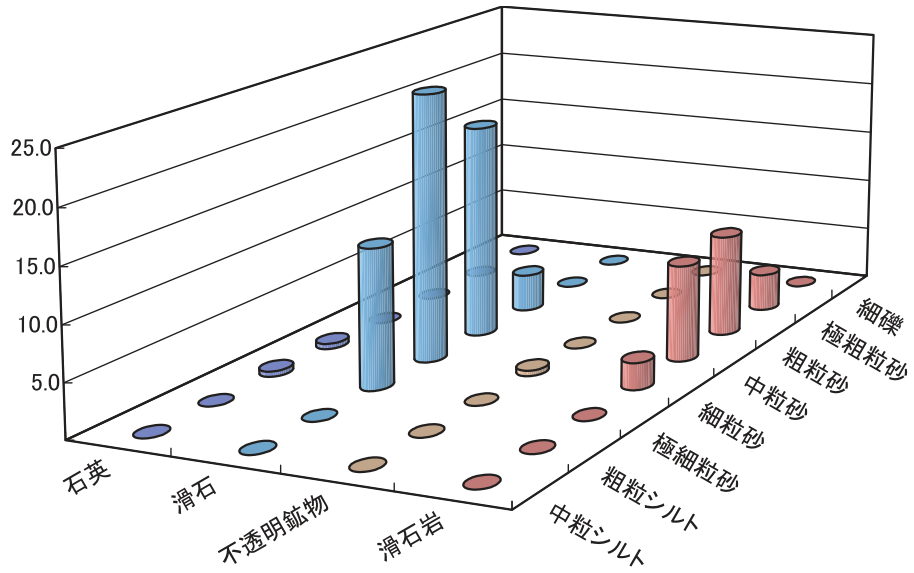
第Ⅲ-46 表　薄片観察結果

試料	砂粒区分		砂粒の種類構成				合計
			鉱物片			岩石片	
			石英	滑石	不透明鉱物	滑石岩	
土器 (②No.94)	砂	細礫					0
		極粗粒砂				7	7
		粗粒砂		7		19	26
		中粒砂		40		18	58
		細粒砂	1	75	1	5	82
		極細粒砂	1	26			27
		粗粒シルト					0
		中粒シルト					0
	基質						709
	孔隙						17

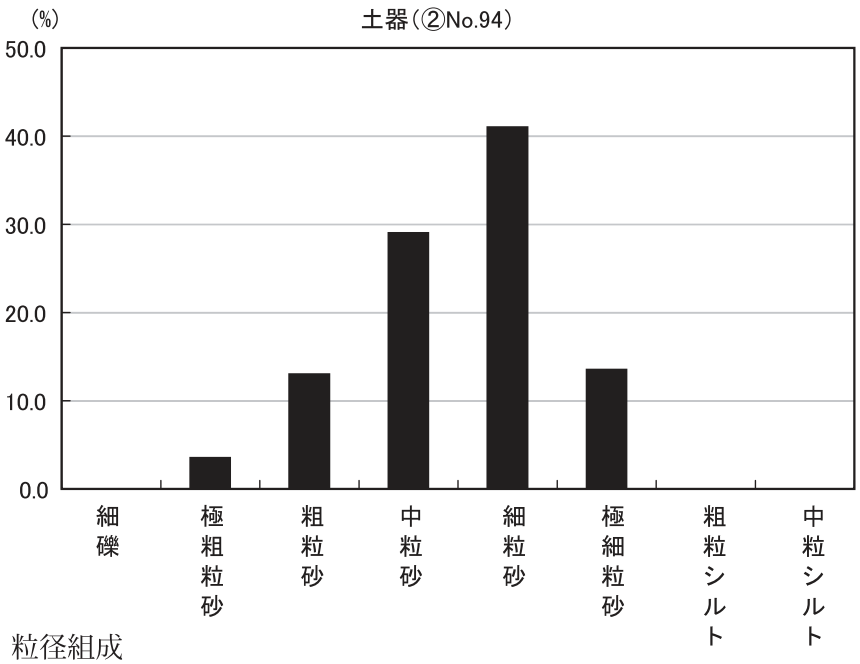
第Ⅲ-47 表　主要化学組成

(単位:mass%)

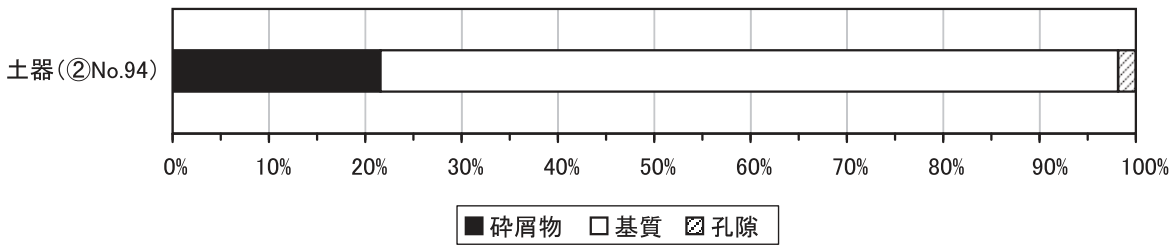
試料名	SiO_2	TiO_2	Al_2O_3	T-Fe_2O_3	MnO	MgO	CaO	Na_2O	K_2O	P_2O_5	Ig.loss
滑石(③No.5)	57.24	0.02	2.13	5.19	0.02	28.75	0.08	0.01>	0.01	0.03	6.53



第Ⅲ -50 図　各粒度階における鉱物・岩石出現頻度（%）



第Ⅲ -51 図　粒径組成



第Ⅲ -52 図　粉屑物・基質・孔隙の割合

3. 考察

3-1 遺構の年代観と植物資源利用・古植生

ピットを中心とした各遺構と北壁から出土した炭化種実には、栽培種のイネ、オオムギ、コムギ、アワ、キビと、栽培種の可能性を含むイネ科、ダイズ類、マメ科の炭化種実が計 2308 個確認され、穀類のイネとコムギを主体とする植物質食糧の種類構成を示した。また、放射性年代測定結果からは、②溝状遺構(1 層)、② No.82(外)、③ No.135(外)、③ No.150、③土坑、④ No.114、Ⅱg 層がグスク時代 (補正年代で 720 ± 20 ～ 320 ± 20BP、暦年代で calAD 1,272-calAD 1,514)、Ⅲ層はグスク時代の終わりから近世の初め (補正年代で 380 ± 20BP、暦年代で calAD 1,453-calAD 1,616)、④ No.108 が近世 (補正年代で 230 ± 20BP、暦年代で calAD 1,650-calAD 1,797)、③ No.113 が近現代 (補正年代で 200±20BP、暦年代で calAD 1,661-calAD 1,951) の値を示す。このうち、②溝状遺構、②№82（外）、③№150、③土坑、Ⅲ層、Ⅱg 層の年代測定結果では、出土遺物や、遺構の切り合い序列から推測した年代観の所見と異なり、グスク時代が主体となる比較的古い値を示している。

この理由としては、遺構覆土が古い時期の土壌を利用した人為的な埋積や、遺構放棄後の付近からの土壌流入などが想定できる。また、ナガラ原東貝塚では、地中に存在する間隙により、現代の炭化米の落ち込みなどが示唆された例もあり（木下 2003）、試料採取における、遺構にかかわる諸条件の詳細な検討が重要となる。一方、グスク時代と想定される遺構には、新しい年代値を示すものはなく齟齬がない。

前回当社が実施した大山前門原第一遺跡と、隣接する大山前門原第二遺跡の分析調査でも、各ピット遺構から同様の植物質食糧の種類構成が確認され、大山前門原第一遺跡のコムギとオオムギに 15 ～ 18 世紀末、大山前門原第二遺跡のオオムギとムギ類に 11 ～ 12 世紀と 14 ～ 17 世紀の年代値を得ている (沖縄県宜野湾市教育委員会 2010)。周辺遺跡では、真志喜森川原遺跡のグスク時代後半 (14 ～ 15 世紀) より、イネ、アワ、オオムギ、コムギの炭化種実が出土している (沖縄県宜野湾市教育委員会 1994)。喜友名前原第二遺跡では、柱穴覆土よりイネを主体とする炭化種実が出土し、イネに 11 ～ 12 世紀の年代値を得ている (パリノ・サーヴェイ株式会社 2006)。

栽培種以外の分類群では、木本は、常緑高木のマツ属複維管束亜属、草本のテンツキ属、ホタルイ属、コミカンソウ、イヌコウジュ属、アカネ科が確認された。複維管束亜属は、沖縄島に自生するリュウキュウマツに由来すると考えられる。草本類は、明るく開けた場所に生育する「 人里植物 」に属する分類群で、テンツキ属とホタルイ属には水湿地生植物を含む。これらは、調査区周辺域の水湿地を含む草地環境に由来すると考えられる。

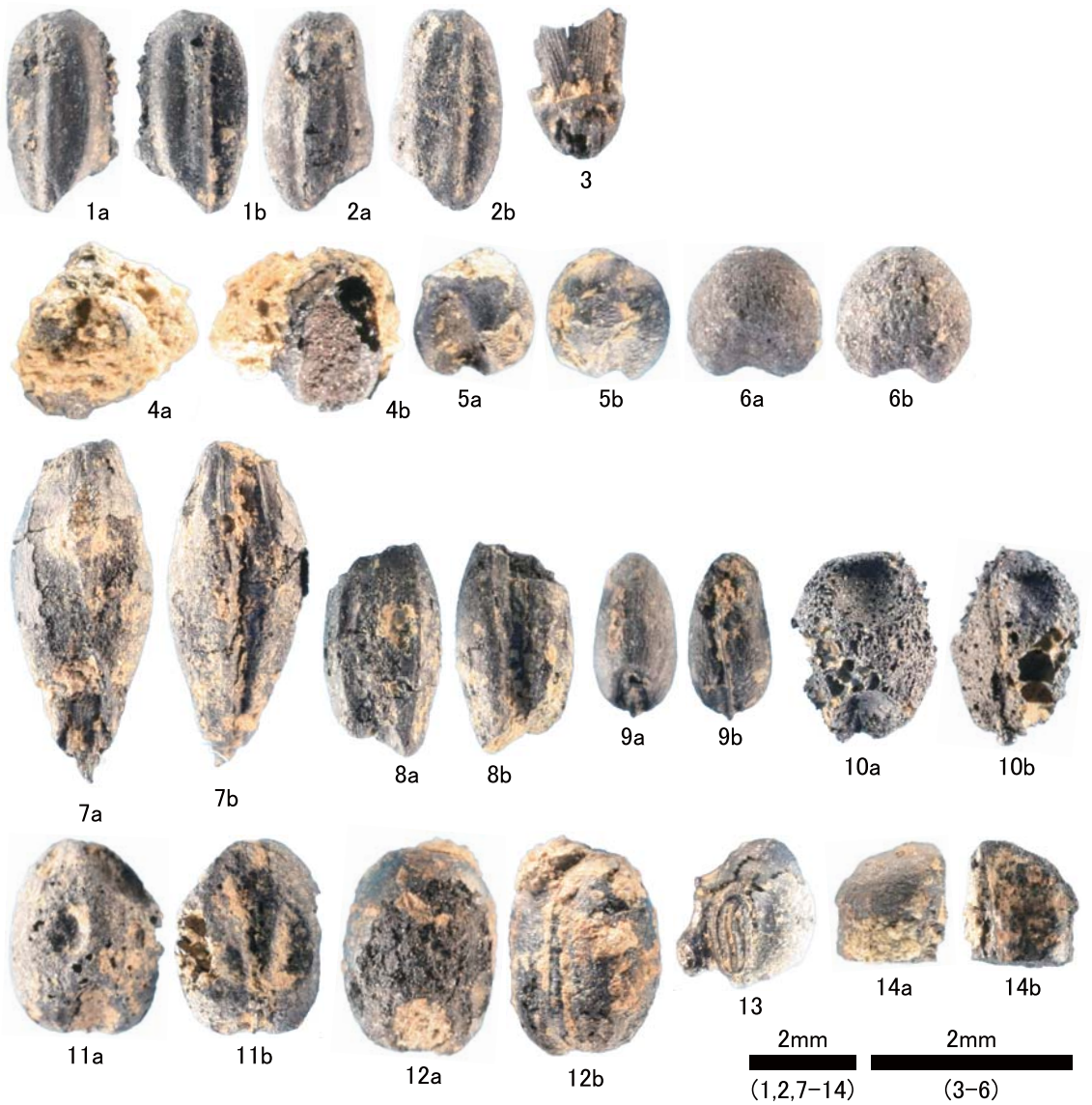
3-2 土器・石製品の由来

土器胎土中に認められた多量の光沢のある砂粒は、滑石の鉱物片と滑石岩の岩石片であることが確認され、石製品の破片とされた岩石片も滑石岩の破片であることが確認された。さらに、土器胎土中の滑石岩の岩石片には、緑泥石や蛇紋石が伴われていることが確認され、石製品の滑石岩中にも副成分鉱物として緑泥石が確認された。これらのことから、両試料中に認められた滑石は、低温高圧型の変成岩類 (泥質片岩や塩基性片岩など) からなる変成岩体中に産する蛇紋岩に伴って産する滑石岩に由来すると考えられる。北海道から九州までの滑石鉱床は全て蛇紋岩に伴うものとされている一方で、中国の著名な滑石鉱床はドロマイト (炭酸塩鉱物の一種) の割れ目を満たした熱水鉱床に由来するとされている (坪谷ほか編 1965)。したがって、今回の両試料中の滑石岩は、中国大陸に由来するものではなく日本国内の滑石鉱床に由来するものであると考えられる。

日本国内特に西日本における滑石鉱床としては長崎県の西彼杵半島が最もよく知られているが、今岡ほか (2006) によれば、山口県宇部市でも滑石岩の分布とそれに伴う石鍋製作遺跡が確認されている。したがって、土器や石製品に利用された滑石の由来する地質は、西日本だけをみても各地に分布することが予

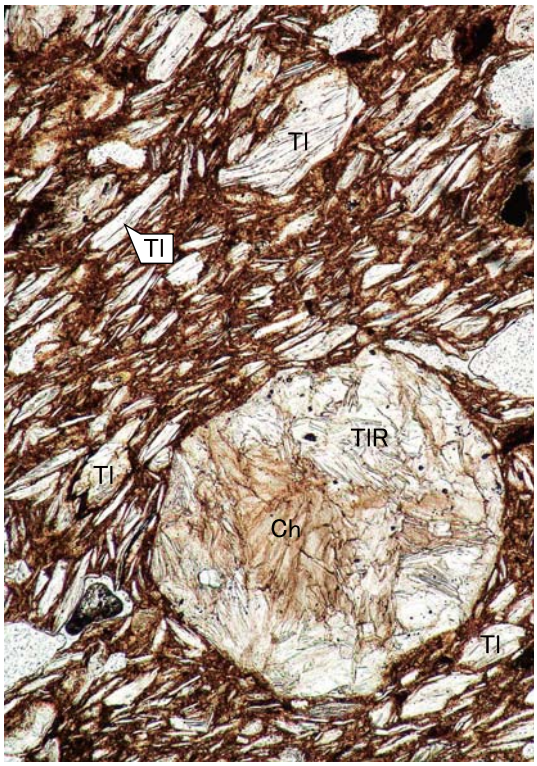
想され、現時点では、今回の土器中の滑石岩と石製品の滑石岩とを同一の地質に由来するものと断定することはできない。上述した今岡ほか (2006) の事例では、西彼杵半島の滑石岩と宇部市の滑石岩とでは、化学組成のみでは区別することは難しいが、直閃石という鉱物の有無を合わせて考えることにより、区別が可能になるとされている。今回の石製品の滑石岩の化学組成も、上述の分析事例に掲載された化学組成のデータと良く似た値であることが確認されるが、直閃石は認められなかった。このことからは、今回の石製品の滑石岩は、少なくとも直閃石の含まれる宇部市の滑石岩に由来する可能性は低いと考えられ、西彼杵半島の滑石に由来する可能性はあると言うことができる。ただし、上述したようにその産地を限定するまでにはまだ至らない。

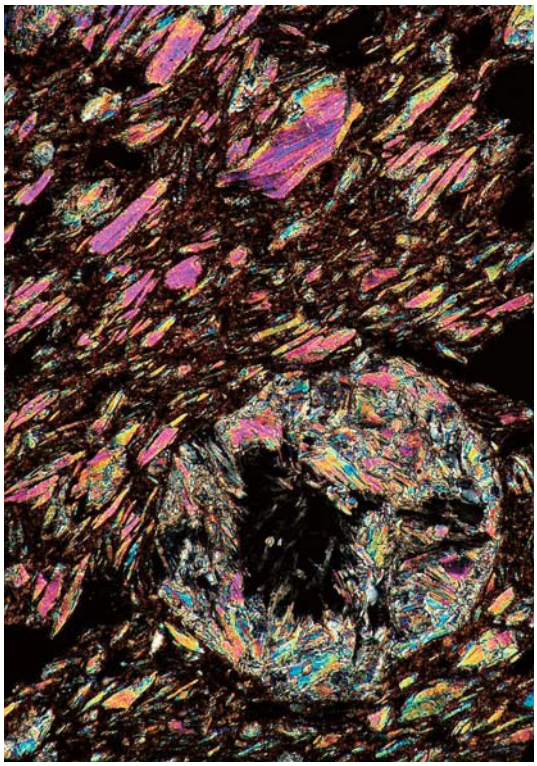
琉球列島における滑石の由来を明らかにするためには、今後も多くの分析事例を蓄積し、比較検討することが必要であると考えられる。



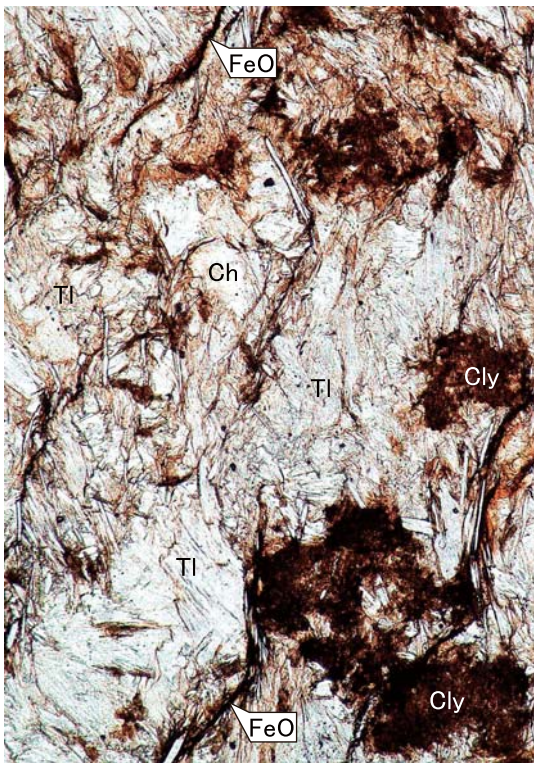
1．イネ 胚乳(年代測定対象)(④No.108)
2．イネ 胚乳(年代測定対象)(④No.108)
3．イネ 穎(④No.108)
4．アワ 穎・胚乳(年代測定対象)(②溝状遺構(1層))
5．アワ 穎・胚乳(③土坑)
6．キビ 胚乳(③土坑)
7．オオムギ 胚乳(③土坑)
8．オオムギ 胚乳(年代測定対象)(③No.135(外))
9．コムギ 胚乳(年代測定対象)(③土坑)
10．コムギ 胚乳(年代測定対象)(③No.150)
11．コムギ 胚乳(年代測定対象)(③土坑)
12．コムギ 胚乳(年代測定対象)(Ⅲ層)
13．ダイズ類 種子(③No.135(外))
14．マメ科 種子(年代測定対象)(②溝状遺構(1層))

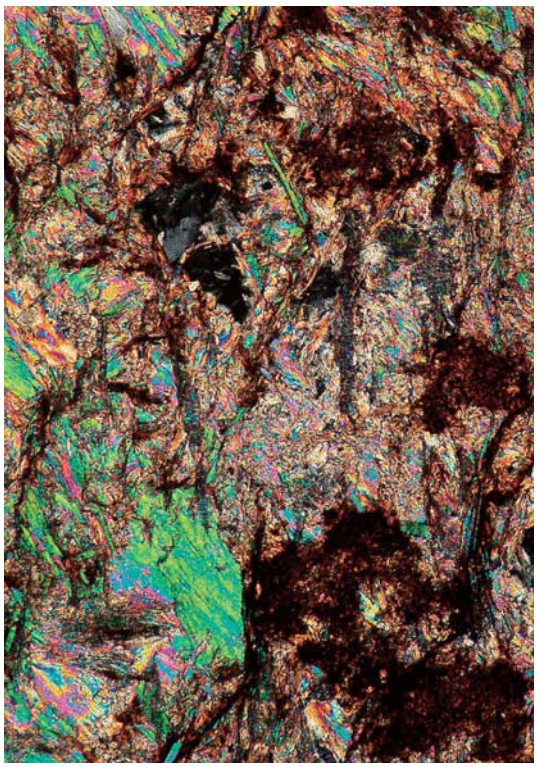
図版Ⅲ -34　種実遺体





1. 胎土薄片(土器②No.94)





2. 岩石薄片(石製品:③No.5)

0.5mm

Tl:滑石. Ch:緑泥石. TlR:滑石岩. FeO:酸化鉄結核. Cly:褐色粘土鉱物.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

図版Ⅲ -35　胎土・岩石薄片

第Ⅳ章　結語

遺跡の確認　大山前門原第一遺跡は、1900年に加藤三吾によって発見され（宜野湾市教育委員会編1989）、宜野湾市教育委員会が1980年度に実施した「市内全域の遺跡詳細分布調査」によって再確認した「周知の遺跡」である。当初、同第二遺跡と同一と判断し、「大山前門原遺跡」としていたが、地形的な特徴から、かつて別の自然集落を形成した可能性を考慮し、両者を分離している。なお、『琉球国由来記』には、在来の自然集落の首長と考えられる「大ヒヤ」名を冠する殿（トゥン）（祭場）が両遺跡内にそれぞれ記載される（第Ⅳ－１表）。

調査地について　当該地は、大山集落の旧家の１つである大掟屋（ウフチャー）（高級役人）の屋敷地である。大掟屋は当初、真志喜石川第一遺跡に屋敷地があったとされる。大山集落の旧家群は、根屋（ニーヤー）とされる上具志川（ウィーグシカー）家の周囲に集中する。上具志川家は上具志川山の麓に屋敷を構えており、近世にはこれを高位として碁盤型集落が形成されたと考えられる。なお、当該地は元々一筆の土地であるが、埋蔵文化財の発掘の届出順に３次に分けて調査を行った。

層序について　今調査では、大きく５枚の層序を識別した。Ⅰ層は表土および現在の造成層、Ⅱ層は近代ないしは戦前の造成層、Ⅲ層は近世の造成層、Ⅳ層は造成土が混ざったマージの堆積層、Ⅴ層は地山（マージ）である。柱穴跡など多くの遺構は、概ねⅣ層の上面で検出した。Ⅳ層は、当初屋敷の造成に関係すると推測したが、自然科学分析の結果では地山と解釈される。

遺構について　掘立柱建物の柱穴跡を主体として、石灰岩の切石等を使用した構築物、暗渠、土坑、溝状遺構などが確認された。当報告では、柱穴跡と推測された遺構の分類を基に、建物のプラン並びに軸向き、当集落内を通る碁盤型の筋道、近代期の石畳や家畜小屋などの付属施設の位置、坂本磐雄の統計調査を勘案し（坂本1989）、母屋とその一番座及び門の位置の復元を試みた。

一方、屋敷地の推測された位置関係から、第２次調査区の北西側におけるピットの少ない場所を、空閑地として捉えることができた。この空閑地は、庭と想定することができ、ウシの骨がまとまって出土する②土坑、②№.27（今回は柱穴跡として推測した遺構）が確認された。このことから、動物等の食料残滓の廃棄場所として利用されていたことが窺える。また、拡張トレンチ３-２の撹乱された土坑からは、「ブタ/イノシシ」の骨がまとまって出土している。この土坑を切る形で暗渠が設置されている。その後に、家畜小屋と想定された石敷遺構が構築される。このように、食料残滓となった動物骨の廃棄場所等についても、屋敷地の空間利用を復元する上で重要である。

放射性炭素測定年代について　本報告では、８基の遺構で放射性炭素年代測定を行った。その結果、４基の遺構は、遺物の出土状況や切り合い関係と整合しなかった。このことから、遺構の切り合い関係や、検出範囲を誤認したことにより、別の遺構の覆土を採取した可能性が考えられる。また、分析試料に炭化物が混在した可能性も考えられる。一方、近世～近代の遺物が出土した遺構を切る②No.82（外）や③No.150は、放射性炭素年代測定においてグスク時代の測定値が示された。そのため、この年代測定の結果と、出土した遺物や遺構の切り合い関係における年代観との齟齬は、必ずしも遺構集中部で行った覆土の採取方法だけが原因ではないと考えられる。これについては、グスク時代～現代まで、長期に亘り利用されていたと考えられる生活域において、近世以降に掘られた遺構が「どこから持ち込んだ土で埋められたのか」を改めて考えなければならない。

遺物について　先史時代～現代までの遺物を確認した。その総数は、約5,500点余りとなる。また、主要遺物の出土割合は第Ⅳ－１図の通りである。これは、本調査区と本遺跡の第１次調査区及び同第二遺跡の第１次調査区との、地理的関係性と時間的重層性を複合的にまとめた試図である。

前章第３節で述べたように、今調査ではグスク時代～近代において、各種の主要遺物における出土割合に大差はなかった。また、第１次調査でも近似した様相が窺えた。加えて、グスク時代と近世以降における主要遺物の出土割合は、第１次調査と第２～４次調査に大きな違いがないことから、グスク時代～近世以降にかけて概ね継続的に生活の場としての土地利用が窺える。なお、主要遺物から遺跡の主体時期を推察すると、本調査区が少なくとも 14 世紀中頃～近代という長い期間に亘って利用されたことが把握できる(第Ⅳ表－ 1)。

これに対して、大山前門原第二遺跡の第１次調査区においては、近世の遺物が２割に満たない。このことから、ここではグスク時代のある時期については生活の場であったが、近世になると断続的になった可能性が考えられる。また、同第二遺跡の第１次調査区は、旧家の１つである伊波家が管掌する伊波の殿(イハヌトゥン)および伊波の御願小(イハヌウガングヮー)の近隣に位置することから、近世期にはこれらの拝所との関連性が遺物の出土傾向として表れたことも推測できる。

以上のように、大山前門原第一遺跡と同第二遺跡はそれぞれの調査区が近い位置にありながら、遺物の出土傾向に明確な違いが認められた。

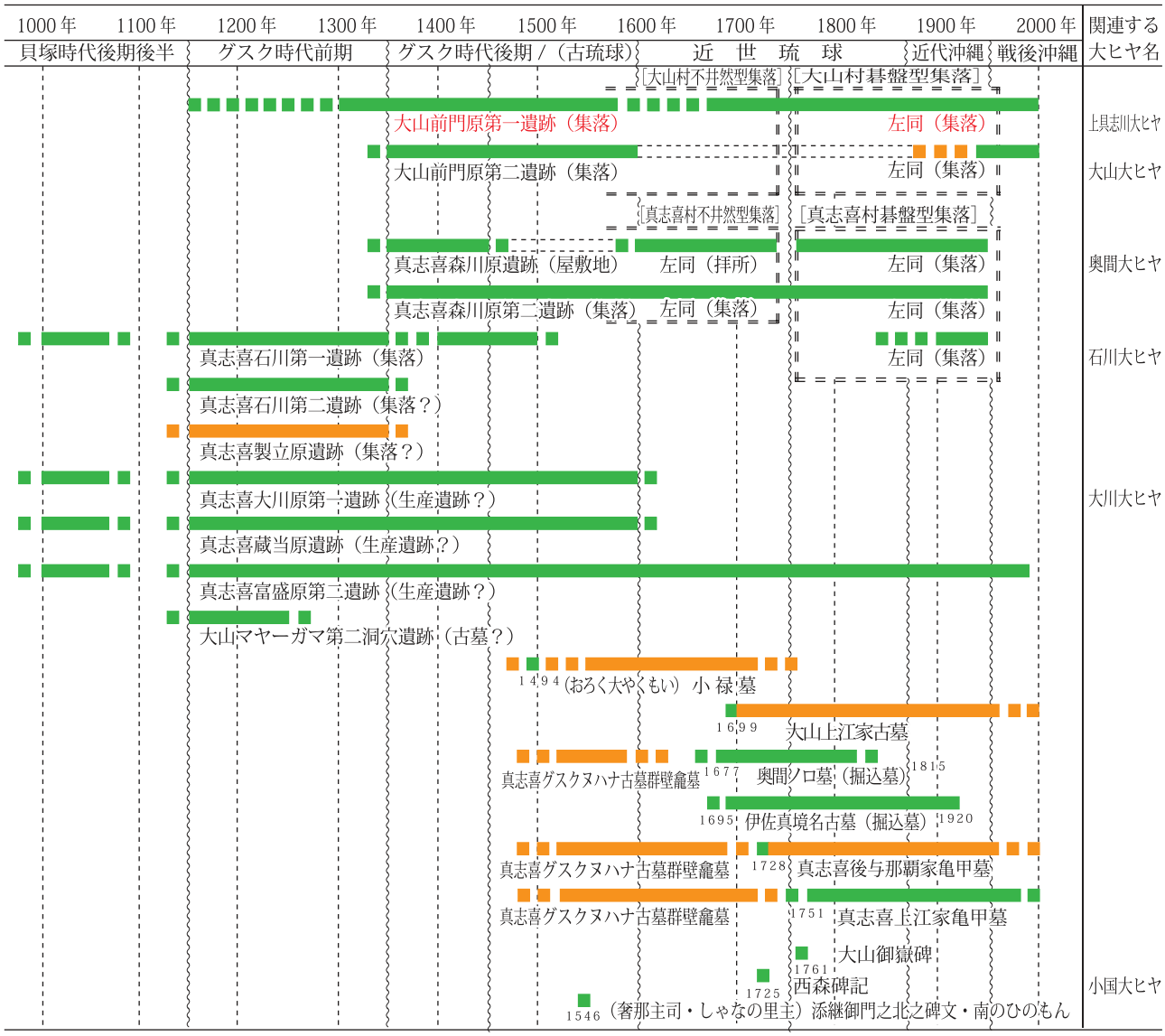
課題と展望　本遺跡は、同第二遺跡と共に大山集落の発生および展開を紐解く上で重要な遺跡である。しかしながら、戦後における米人用賃貸住宅の建設などの広域な造成によって、グスク時代～近世の包含層は概ね撹乱を受けており、その調査には限界が伴う。そのため、本報告で試みた遺構の分類試案や出土遺物の精査が重要となる。特に遺構については、時代の異なるものが一様に密集した状態で検出される。ハチの巣状に切り合う柱穴跡を、主観による平面的な位置関係のみで組めば、都合の良い建物プランを作ることはできるだろう。より正確な建物プランを考察するには、柱穴跡の客観的な分類が求められる。これによって、建物の位置や軸向きを推測できることはもちろん、遺構の時期的な前後関係を結び付けていくことができれば、建物の建て替えの変遷を辿ることも可能である。また、調査区ごとにこれらの統一的な整理を行うことができれば、自然集落から碁盤型集落への移行期を考古学的に推測できる可能性がある。そのために、各種の遺構の分類を立てることや、放射性炭素年代測定のための覆土試料の採取や選定について、今後も検討していかなければならない。なお、土坑や溝状遺構などの遺構については、建物跡と有機的に関連させながら報告することができず、今後の課題となった。また、当報告では付属施設及び母屋の一番座や屋敷地の門の位置を推測したが、これを裏付けるような証言を得ることはできなかった。今後、検証手段の一つとして、聞き取り調査の機会を持ちたい。

一方、当報告により示した大山前門原第一遺跡と同第二遺跡との遺物の出土傾向の違いは、自然集落の発生や碁盤型集落の展開などにおける土地利用の変化や転換期を示す可能性も考えられる。このことから、遺物の出土傾向を比較・分析することで、集落内における土地利用の画期を、ある程度推測できると思われる。そのため、各調査区で遺物の出土傾向をできる限り正確に把握することが重要であることを再認識した。なお、第Ⅳ－１図は時間の制約から、出土破片総数を基準値としている。そのため、今後は個体数に換算して、調査区間の地理的関係性・時間的重層性を継続して検討していきたい。

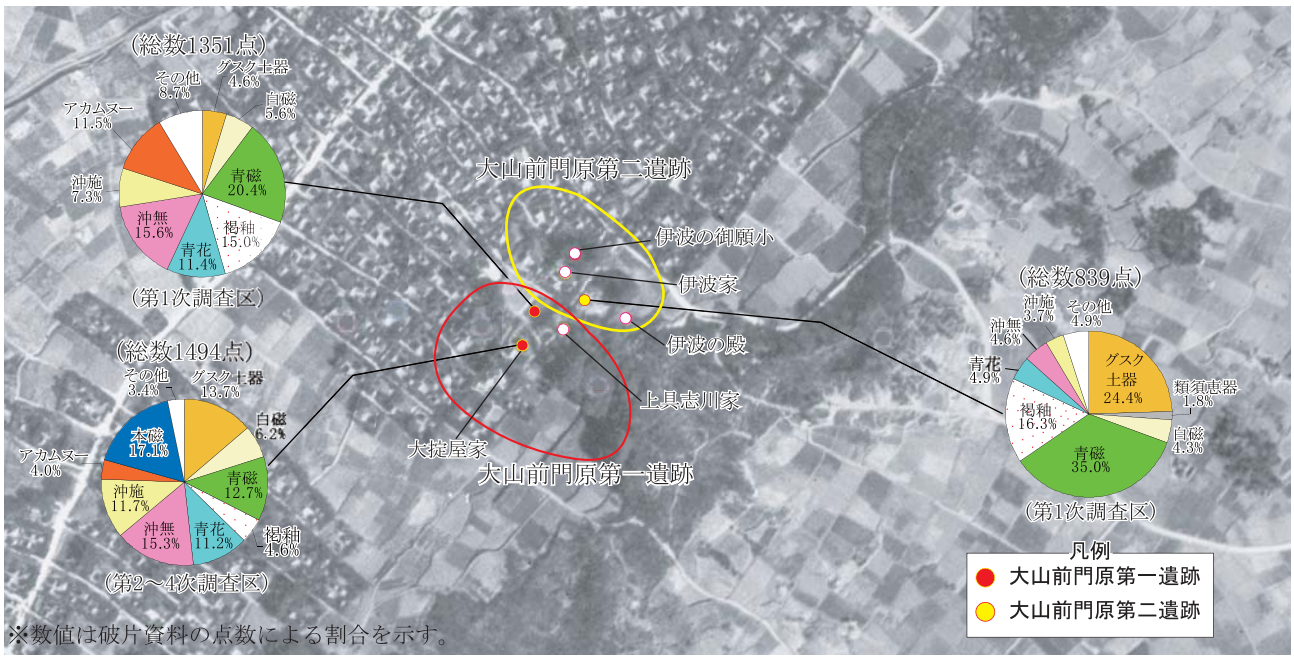
本調査地は根屋の隣地で、おもろ主取の旧家である安仁屋家の向かいに位置し、大掟屋家の屋敷地と考えられることは前述した通りである。そのため、近隣住民から調査の内容や進捗について聞かれることも少なからずあった。調査を行った約３ケ月の間、ご迷惑をおかけしたことも多々あったが、地主や近隣の方々のご理解・ご協力により、調査を全うすることができた。末尾ではあるが、感謝の意を記して結びとしたい。

本書が字大山における歴史解明の一助となり、地域住民の歴史理解のためになれば幸いである。

第Ⅳ－１表　遺跡などの年代相関表（宜野湾市教育委員会編 1999 を改変）



注.　は発掘調査や文献史料等による把握年代であり、　は概括調査による推定年代である。



第Ⅳ - １図　主要遺物の出土割合

【参考・引用文献】

Angela Von Den Driesch　1976.‘A Guide to the Measurement of Animal Bones from Archaeological Site’Peabody Museum Bulletin 1Peabody Museum of Archaeology and Ethnology Harvard University
安里進 1998『グスク・共同体・村 ―沖縄歴史考古学序説―』（琉球弧叢書６）榕樹書林
安里進・上原政昌・家田淳一 1987「擂鉢編年からみた近世琉球窯業の展開」『あじまぁ』３号　名護博物館
安里進・高良倉吉・田名真之はか 2004『沖縄県の歴史』（県史 47）㈱山川出版社
安良城盛昭 1980『新・沖縄史論』（タイムス選書９）沖縄タイムス社
池宮正治 1985「宜野湾とおもろ・おもろ主取」『宜野湾市史』第４巻 資料編３ 宜野湾市
石川茂雄 1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会
今岡照喜・中村徹也・早坂康隆・鈴木康之 2006「滑石製石鍋原材料の比較研究 - 長崎県ホゲット遺跡と山口県下請川南遺跡」『考古学と自然科学』第 52 号　日本文化財科学会
上原静 2007「琉球列島出土の有孔盤状製品、骨製箆等について」『南島考古』第 26 号　沖縄考古学会
上原静ほか編 2010「結語」『沖国大考古』第 14 号　沖縄国際大学総合文化学部考古学研究室
沖縄県立埋蔵文化財センター編 2006『新城下原第二遺跡』（沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 35 集）沖縄県立埋蔵文化財センター
沖縄県教育委員会編 1987『古我地原貝塚』（沖縄県文化財調査報告書第 84 集］沖縄県教育委員会
奥谷喬司 2006『日本の貝』１（フィールドベスト図鑑 18）株式会社学習研究社
奥谷喬司 2006『日本の貝』２（フィールドベスト図鑑 19）株式会社学習研究社
株式会社 国建編 2006『埋蔵文化財保護基本マニュアル導入調査重要遺跡保存整備基本構想作成業務報告書』（宜野湾市文化財保護資料第 63 集）宜野湾市教育委員会
河名俊男 1988『琉球列島の地形』沖縄新星図書出版
岸本竹美 2003「グスク時代及び近世出土の玉製品に関する考察」『沖縄埋文研究』１　沖縄県立埋蔵文化財センター
木下尚子 2003「遺物包含層における現代イネ混入の検討」『先史琉球の生業と交易』改訂版　熊本大学文学部木下研究室
宜野湾市史編集委員会編 1994『宜野湾市史』第１巻 通史編 宜野湾市教育委員会
宜野湾市史編集委員会編 1982『宜野湾市史』第３巻 資料編２ 宜野湾市
宜野湾市史編集委員会編 1985a『宜野湾市史』第４巻 資料編３ 宜野湾市
宜野湾市史編集委員会編 1985b『宜野湾市史』第５巻 資料編４ 宜野湾市
宜野湾市史編集委員会編 1991『写真集　ぎのわん』宜野湾市史別冊 宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会文化課編 2000『宜野湾市史』第９巻 資料編８ 自然 宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会文化課編 2005『読んで知る＊ぎのわんの綱引き』宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会文化課編 2007『ぎのわんの文化財』［第七版］（宜野湾市文化財保護資料第 67 集）宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会文化課編 2009『宜野湾市文化財情報図』（宜野湾市文化財保護資料第 68 集）宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会編 1989『土に埋もれた宜野湾』宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会編 1991『じゃなＩ〔本文編〕』（宜野湾市文化財調査報告書第 14 集）宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会編 1994『真志喜森川原遺跡』（宜野湾市文化財調査報告書第 18 集）宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会編 1999『大山前門原第二遺跡』（宜野湾市文化財調査報告書第 30 集）宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会編 2002『大山前門原第二遺跡　第二次緊急発掘調査記録』（宜野湾市文化財保護資料第 54 集）宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会編 2008『嘉数トゥンヤマ遺跡Ｉ』（宜野湾市文化財調査報告書第 43 集）宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会編 2009『嘉数トゥンヤマ遺跡Ⅱ』(宜野湾市文化財調査報告書第 45 集）宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会編 2010『市内埋蔵文化財発掘調査報告書』（宜野湾市文化財調査報告書第 46 集）宜野湾市教育委員会
宜野湾市教育委員会編 2011『大山前門原第一遺跡』（宜野湾市文化財保護資料第 69 集）宜野湾市教育委員会
具志堅亮 2007「今帰仁城跡周辺遺跡出土の焼土塊について」『今帰仁城跡周辺遺跡Ⅲ』（今帰仁村文化財調査報告書第 24 集）今帰仁村教育委員会
久保弘文・黒住耐二 1995『沖縄の海の貝・陸の貝』㈲沖縄出版
呉屋義勝 2002「 宜野湾市の埋蔵文化財 」『第 24 回南島文化市民講座 宜野湾市域の基層文化と自然環境』
坂本磐雄 1989『沖縄の集落景観』九州大学出版会
澤村　仁 1990「民家と町並（九州・沖縄）」『日本の美術』第 290 号　至宝堂
鈴木　尚 1975「沖縄に於ける洪積世人類の発見」『人類学雑誌』83 巻２号　日本人類学会
曽根真一 1983「アカムヌー」『沖縄大百科事典』上巻　沖縄タイムス社
高原三郎 1939「沖縄縣下の聚落」「沖縄縣下の聚落（二）」『地理学』第７巻第７・８号　古今書院
高宮廣衛・金武正紀・鈴木正男 1975「那覇山下町洞穴発掘経過報告」『人類学雑誌』83 巻２号　日本人類学会
高宮広土 2005『島の先史学』ボーダーインク
田中冨吉 1988「きせる」『きせる』たばこと塩の博物館
田名真之 1985「家譜史料にみる宜野湾」「宜野湾間切の村落変遷」『宜野湾市史』第４巻資料編３宜野湾市
坪谷幸六・片山信夫・兼子　勝・末野悌六・鈴木　醇・須藤俊男・渡辺武男編 1965『資源鉱物ハンドブック』朝倉書店
時津裕子 2000「南西諸島における箱式石棺墓の再検討」『高宮廣衛先生古稀記念論集　琉球・東アジアの人と文化』（上巻）高宮廣衛先生古稀記念論集刊行会
仲宗根求 2003「読谷村発見のグスク時代の掘立柱建物跡について」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 27 号　読谷村立歴史民俗資料館
仲松弥秀 1977『古層の村 - 沖縄民俗文化論 - 』（タイムス選書４）沖縄タイムス社
中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2000『日本植物種子図鑑』東北大学出版会
林徹 2000「土製品」『伊是名元島遺跡』（伊是名村文化財調査報告書第 10 集）伊是名村教育委員会
パリノ・サーヴェイ株式会社 2006「喜友名前原第二遺跡検出柱穴内覆土の自然科学分析」『基地内文化財 IV』（沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 38 集）　沖縄県立埋蔵文化財センター
松田順一郎・三輪若葉・別所秀高 1999「瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察―岩石学的・堆積学的による―」『日本文化財科学会第 16 回大会発表要旨集』日本文化財科学会
宮城弘樹・玉城靖・仲宗根求 2007「グスク時代の建物跡集成」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 31 号　読谷村立歴史民俗資料館

報告書抄録

ふりがな	おおやまめいじょうばるだいいちいせき
書名	大山前門原第一遺跡
副書名	平成21・22年度 個人住宅建設に係る第２次～第４次緊急発掘調査
巻次	宜野湾市文化財調査報告書
シリーズ名	―
シリーズ番号	第49集
編著者名	伊藤圭、山田浩久、長濱健起、 菅原広史、 パリノ・サーヴェイ(株)
編集機関	宜野湾市教育委員会
所在地	沖縄県宜野湾市野嵩1-1-2
発行年月日	平成24（2012）年３月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おおやまめいじょうばるだいいちいせき 大山前門原第一遺跡	宜野湾市 大山	4720	147	26° 16′ 11″	127° 44′ 40″	20091008～ 20091010	530 ㎡	個人住宅に係る試掘調査
						20100308～ 20100331	132 ㎡	個人住宅に係る緊急発掘調査
						20100707～ 20100731	132 ㎡	
						20100712～ 20100830	146 ㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大山前門原第一遺跡	集落遺跡	グスク時代～ 近世・近代	石畳 石敷遺構 石積遺構 溝状遺構 土坑 柱穴	青磁、白磁、褐釉陶器 青花、土器、類須恵器 沖縄産陶器、本土産陶器 石器、石製品、滑石、瓦 銭貨、煙管、獣骨、貝類	600基余りものピットを検出

要約	本報告は、平成21・22年度に周知の埋蔵文化財である大山前門原第一遺跡で実施した、個人住宅建設に係る緊急発掘調査の成果をまとめたものである。調査によって、グスク時代～近世までの掘立柱建物や溝状遺構、近代の屋敷の跡などが検出され、当該時期における土器や陶磁器などの遺物が出土した。字大山における集落の発生・展開を考察する上で重要な遺跡である。

文化財保護・教育普及・学術研究を目的とする場合は、著作権（発行）者の承諾なく、この報告書を複製して利用できます。
なお、利用にあたっては出典を明記してください。

宜野湾市文化財調査報告書　第49集

大山前門原第一遺跡

平成21・22年度
個人住宅建設に係る第2次～第4次緊急発掘調査

発行年　2012（平成24年）3月30日
編　集
発　行　沖縄県宜野湾市教育委員会
住　所　〒901-2203
沖縄県宜野湾市野嵩１丁目１番２号
TEL　098-893-4430
印　刷　株式会社　沖産業
TEL　098-898-2191